

第IV章 続縄文時代の調査

平成18年度の調査では、続縄文時代の遺構・遺物を多数検出した。これらはT₂南側段丘縁から段丘面内側に向けて約20mの範囲内に分布し、特にT₂南西端付近で高い密度で検出している。出土している土器は後北B～C₁式期が主体で、遺構は主として焼土と焼骨片集中及び片岩・黒曜石のフレイク・チップ集中が検出されている。これら遺構は単独に検出される事は少なく、土器と共にある程度のまとまりをもった位置関係にあることから、アイヌ文化期・擦文文化期と同様に集中区を設定した上で報告を行う。

表IV-1 続縄文時代 遺構群一覧表

遺構名	規模 (cm)		グリッド	層位	付属遺構					備考	
	長軸	短軸			焼土等	焼骨片 集中	炭化物 集中	土器集中	礫集中		剥片集中
集中区45	1,000	745	W・X- 33・34	IIIcM		III BB- 26・27・ 28・30		III PB- 36・44	III SB-46	III FCB- 06	
集中区46	1,025	765	W・X- 35・36	IIIcM		III BB- 38・43・44		III PB-55		III FCB- 14	
集中区47	1,200	765	Z・AA- 31・32	IIIcM				III PB- 37・43		III FCB- 05・07	
集中区48	990	640	Y・Z- 34・35	IIIcM	III F- 203・204・ 205・229	III BB-24				III FCB- 08・17・18	
集中区49	865	790	W～Y- 36・37	IIIcM	III F-230	III BB-42		III PB-53	III SB-48	III FCB- 10	
集中区50	815	700	W・X- 37・38	IIIcM	III F- 225・226	III BB-36	III CB-36			III FCB- 15・16	
集中区51	950	745	V・W- 39・40	IIIcM	III F- 221・223	III BB- 33・35・39	III CB-90			III FCB- 09・11・12	
集中区52	102	60	U-40	IIIcM					III SB-56		
集中区53	1,035	950	AC～AE- 21・22	IIIcM	III F-178	III BB-35		III PB-18		III FCB- 02	
集中区54	975	565	P・Q- 41・42	IIIcM			III CB-92		III SB- 54・58	III FCB-13	

第1節 竪穴様遺構

竪穴様遺構〔ⅢX-04〕 (図IV-2 図版 49-1~3)

位置：AF-16区 規模：236×188×(8) cm 平面形：楕円形

確認・調査：AF-16区のⅢc層において土器集中を検出した(ⅢPB-21)。出土状態の記録を行うため周囲を清掃したところ、土器集中の南東側で楕円形プランを呈するⅢbの落込みを確認した。遺構の可能性を想定し、ⅢPB-21の取上げ後に落込みの調査を行った。調査はプランに合わせて十字にベルトを設定した上で行った。当初ⅢPB-21と関連する落込みと考えていたため、土器片が落込み内部からも多数出土することを想定していた。しかし土器片の出土は落込み上位までに止まり、ⅢPB-21よりも古いものであることが確認できた。本遺跡ではⅢ層中での続縄文時代より古い遺構はほとんどなかったため、この段階で自然の落込みとして一度判断を下し、残っていたベルトの掘削を行った。しかしその際、ベルト下位から焼土を1ヵ所検出したことにより、改めて遺構としての可能性を想定し、調査を継続した。部分的に残っていたベルトを頼りに落込みプランの検出に努めた結果、南側で比較的明瞭にⅣ層が掘り込まれている状態を観察できたため、遺構として判断しⅢX-04として設定した。壁面の立ち上がりは北側では極めて不明瞭であったが、検出時のⅢc主体土範囲に合わせて平面形を確定した。残存したベルトと焼土、及び遺構全体の平面形を記録し、調査を終了した。

形態(図IV-2)：平面形は楕円形で、Ⅴ層を僅かに掘りこみ坑底面はほぼ水平に構築されている。壁面は明瞭に確認できた南側で約8cmの高さで、やや開きながら立ち上がっている。

堆積状態(図IV-2)：僅かに残ったベルトで観察できた堆積土はⅣ・Ⅴ層を僅かに含むⅢc主体土である。なお遺構検出時には上位にⅢbが浅く窪んで堆積していたが、断面図には記録できなかった。

焼土(図IV-2)：坑底面中央で検出した。色調はにぶい暗赤色で不明瞭な焼土層であったが、上面に炭化物が認められたため焼土として判断した。平面形は楕円で、焼土層の厚さは6cmである。

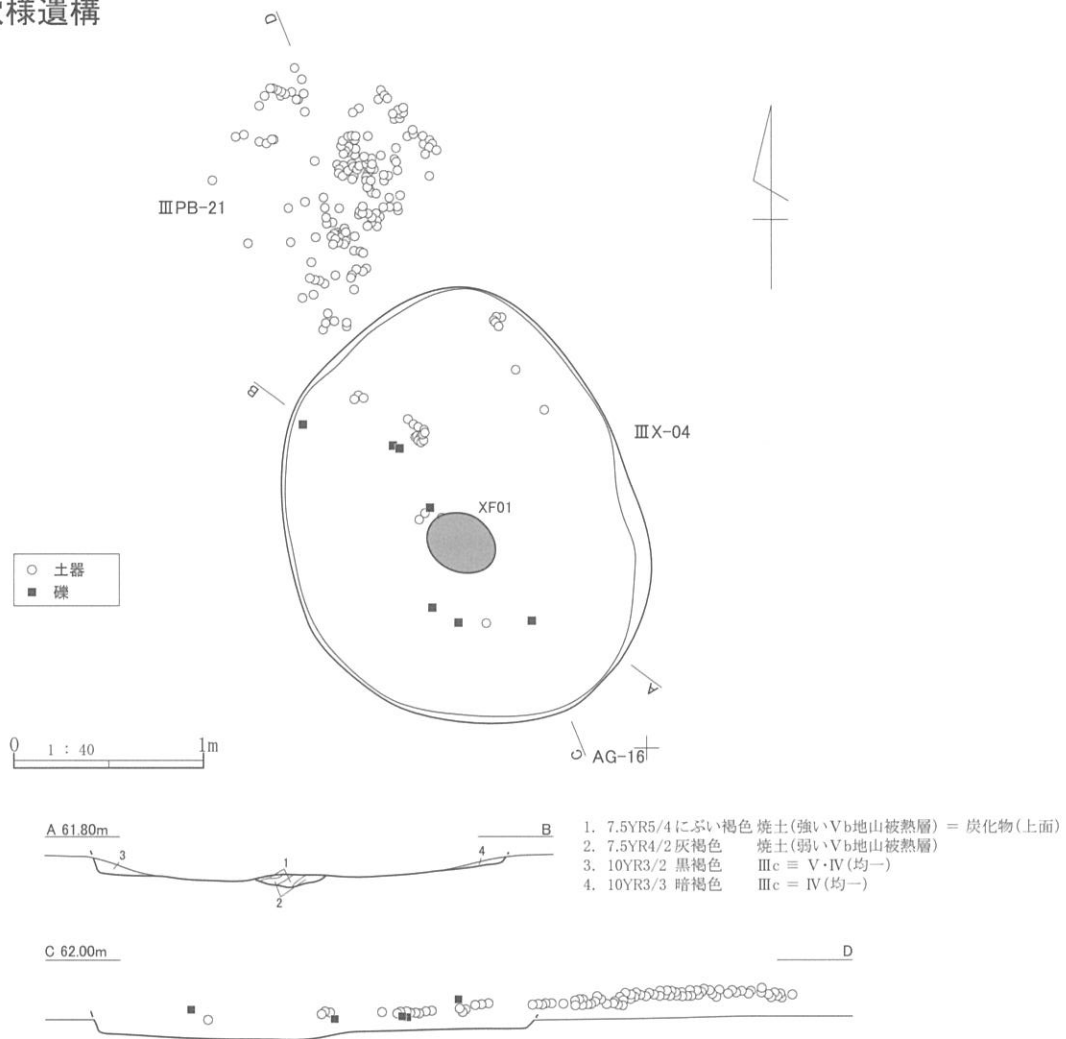
土器集中(図IV-3)：ⅢX-04の北西側で検出した。最もまとまって出土したブロックで150×130cmの規模を測り、総点数205点の土器片が出土している。一部のブロックは竪穴様遺構上位にも広がっているが、坑底面から10cm以上浮いた位置で出土している。

出土遺物：1・2はⅥ群B1類b種で甕形土器の同一個体片である。1は口縁部片である。口唇は平縁で、断面形は尖状である。口唇の文様は斜位に浅い刻みが施されている。口縁部と頸部境のくびれの直下に2条の浅く幅のやや広い沈線が廻る。また、このくびれの内面には明瞭な稜が見られる。2は頸部から胴部の破片で、頸部と胴部の境に明瞭な段等は見られない。頸部の文様は横走気味のRL帯縄文となっており、縄文間にナデ調整を施している。頸部と胴部の境には3条の浅い沈線が横走する。胴部の文様は縦走気味のRL縄文が施されている。部分的にナデ調整を行って無文としている。アヨロ2類bに相当するものである。



図IV-1 続縄文時代遺構配置図

竪穴様遺構



図IV-2 竪穴様遺構(ⅢX-04)

表IV-2 ⅢX-04属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
					調査面 /坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
IV-2	49-1	ⅢX-04	AF-16	Ⅲc	楕円形 /楕円形	236	188	228	180	(8)	N-16° W	1.26	1.27	—	

表IV-3 ⅢX-04焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-2	49-1~3	XF01	AF-16	Ⅲc	楕円形	38	28	6	—	



図IV-3 土器集中 21 出土状態及び出土遺物

表IV-4 竪穴様遺構出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号 /調査区 /層位	部位	器形等	文 様	胎土	備考
						口縁-口唇 /頸部 /胴部	口唇/口縁部-内面 /頸部-内面 /胴部-内面		
IV-3-1	131-1-1	ZP015B	VIB1a	57648他3点/ III PB-21/III c	口縁 ~ 頸部	平縁・外傾 -尖状/内傾	斜位刻み/RL横走縄 文/2条横走沈線文	砂粒 少量 混入	
IV-3-2	131-1-2	ZP015A	VIB1a	57798他18点 /III PB-21/III c・59146他2 点/III PB-21/	頸部 ~ 胴部	内傾/外傾	RL横走帯縄文・横走 沈線文/RL縦走縄文	砂粒 少量 混入	縄文施文後 ナデ調整

第2節 集中区

アイヌ文化期、擦文文化期と同様に、複数の遺構・遺物がそれぞれ関連をもつと考えられる配置で検出できた地点を集中区として設定し、報告を行う。アイヌ文化期、擦文文化期では焼土と遺物集中の組み合わせが多かったが、続縄文時代の集中区では焼土ではなく焼骨片集中との組み合わせが多い。また集中遺物の中にフレイク・チップ集中が多く含まれている。フレイク・チップ集中の調査は10mm以上のものについて出土地点を記録しながら取り上げ、他は範囲を記録し、土壌回収の後、水洗選別を行った。以下では設定した10カ所の集中区について順次記載していく。

集中区 45 (図IV-4~7 図版 50)

位置：W・X-33・34区 規模：1,000×745cm

関連遺構：焼骨片集中 III BB-26・27・28・29・30 土器集中 III PB-36・44 礫集中 III SB-46
フレイク・チップ集中 III FCB-06

確認・調査：III b層の擦文文化期遺構調査中、X-33・34区で焼骨片集中1カ所(III BB-27)と片岩と黒曜石のフレイク・チップが多数出土した(III FCB-06)。片岩が含まれていることと周囲で続縄文土器の土器集中(III PB-36)も出土していたことから、続縄文時代のフレイク・チップがIII b層中に上がったものと判断した。擦文文化期の遺構調査が終了し、III cMまで掘削を進めたところ、新たに焼骨片集中を4カ所(III BB-26・28~30)、土器集中1カ所(III PB-44)、礫集中1カ所(III SB-46)を確認した。現場段階で遺構間のある程度の関連性を想定したため、検出状態の撮影を行った上で、個々の記録を作成した。なおIII PB-36・44、III SB-46についてはデジタル写真実測による出土状態の図化を委託している。

焼骨片集中(図IV-4)：5カ所検出した焼骨片集中の規模は、最大でIII BB-27の172×120cm、最小でIII BB-26の62×45cmであった。III BB-27はIII bLで確認したが、III cM検出のIII BB-29と重なっていたことから、III BB-29焼骨片が浮遊し拡散したものと考えられる。土壌サンプルからはIII BB-28・30で僅かに魚骨を得たが、いずれも主体はシカの骨であった。

土器集中(図IV-5)：III PB-36は擦文文化期の遺構調査中、擦文土器集中III PB-35と共に検出した。検出は同時だが土器集中形成面はIII PB-35がIII bL、III PB-36がIII cMの形成である。60×39cmの範囲で110点の土器片が出土し、III PB-44との間で接合関係にある。III PB-44は30×14cmの範囲で82点の土器片が出土した。

礫集中(図IV-5)：III SB-46は70×40cmの範囲でIII BB-28を囲むように出土した礫集中である。欠損した大型の角柱状礫を主体に構成され、被熱礫を多く含んでいた。

フレイク・チップ集中：III FCB-06は310×230cmの範囲に広がるフレイク・チップ集中である。総点数1,838点中、材質登録したものは1,230点あり、内599点が片岩、568点が黒曜石であった。その他メノウ、頁岩の資料が少数含まれている。片岩と黒曜石が同量出土しているが、両者は出土時石材ごとにある程度のまとまりをもっていただけのため、本来は2つのフレイク・チップの集中であったと考えられる。

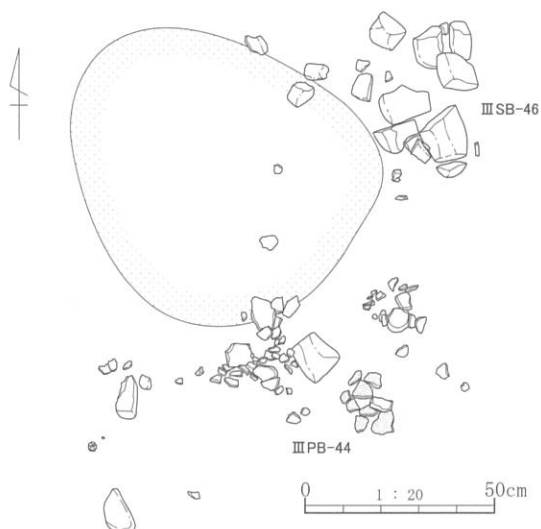
出土遺物(図IV-6・7)：1はVI群C2類の深鉢形土器である。突起は2個1組が2カ所、1個が2カ所ある。突起部は器壁が肥厚している。口唇断面形はやや尖状である。文様は口唇に棒状工具で縦位に刻みを施している。口唇直下に擬縄貼付文を2条施している(A)。突起下に4個とその間に

集中区 45

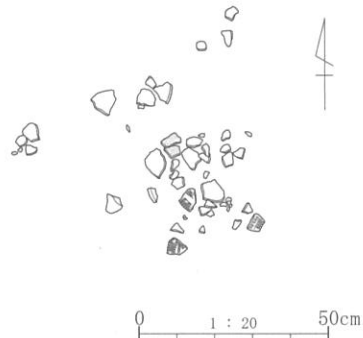


図IV-4 集中区 45 平面図

ⅢPB-44,ⅢSB-46



ⅢPB-36



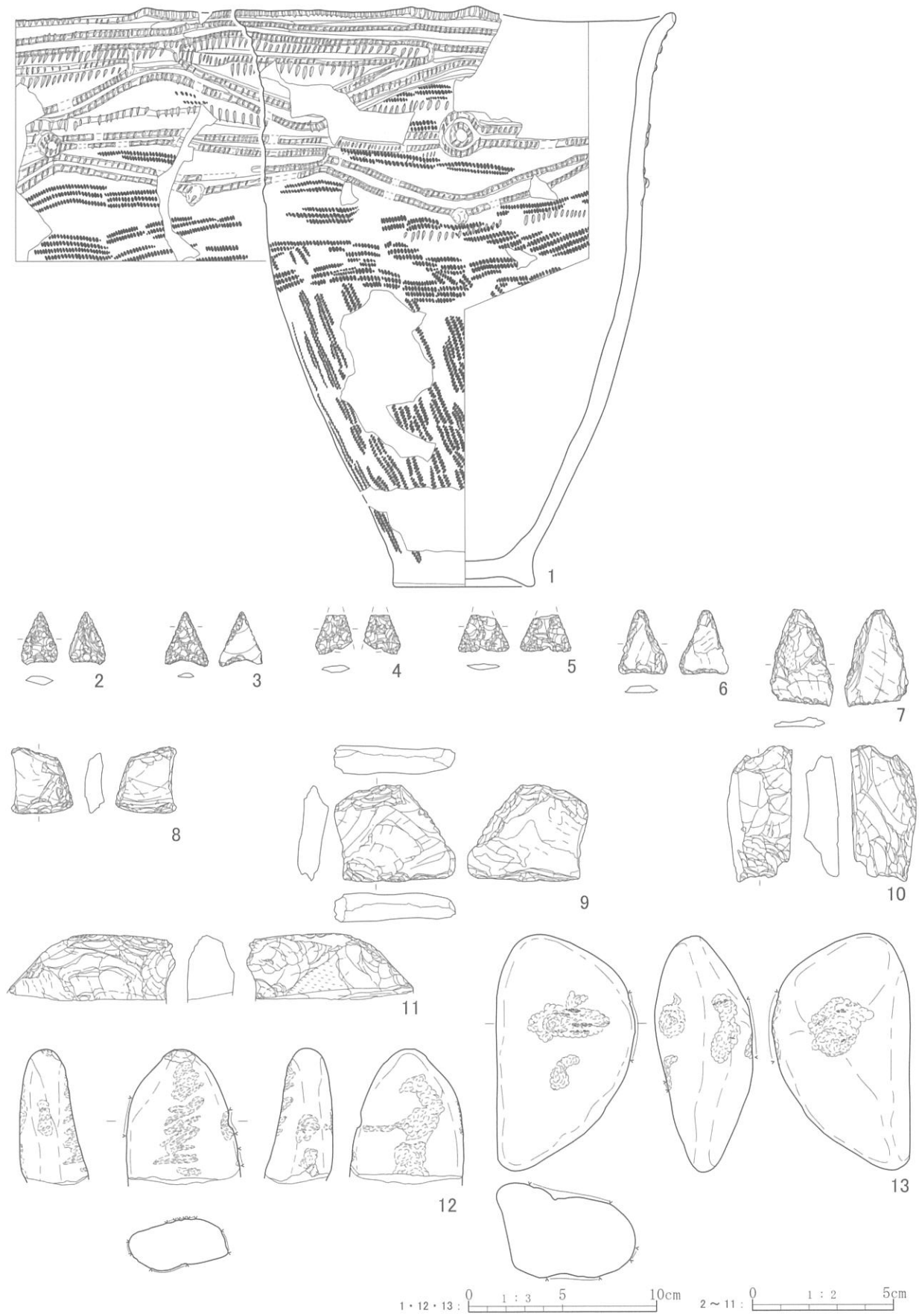
図IV-5 集中区 45 関連遺構

表IV-5 集中区45焼骨片集中属性表

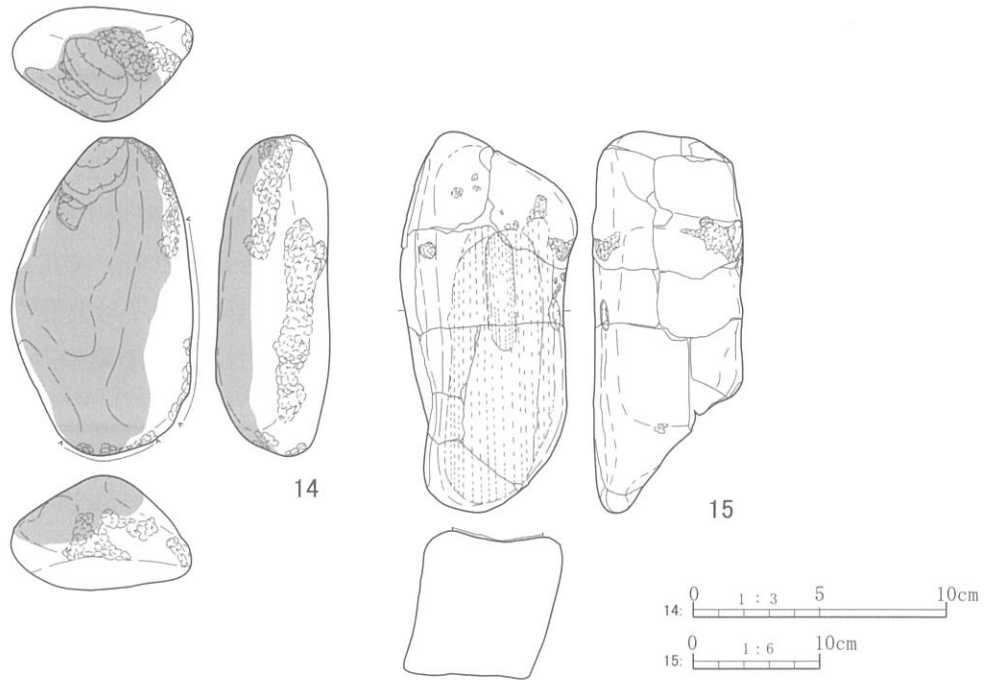
挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
IV-4	—	ⅢBB-26	W-34	ⅢcM	楕円形	62	45	—	被熱	—	
IV-4	—	ⅢBB-27	X-33・34	ⅢcM	不整形	172	120	—	被熱	ⅢPB-36・ ⅢFCB-06	
IV-4	—	ⅢBB-28	W-34	ⅢcM	楕円形	84	64	—	被熱	ⅢPB-44・ ⅢSB-46	
IV-4	—	ⅢBB-30	W-33・34	ⅢcM	楕円形	72	62	—	被熱	—	

表IV-6 集中区45出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号 /調査区 /層位	部位	器形等	文様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点 -底面	口唇 /文様帯-内面/胴部 -内面/底側面-底面 -内面		
IV-6-1	131-2-3	ZP019	VIC2	68989他36点/ⅢPB-44/Ⅲc・ 69399/ⅢBB-24/ Ⅲc・70908/ⅢFCB-06/Ⅲc・ 71083/ⅢPB-35/ ⅢbL・70323他 21点/ⅢPB-36/ ⅢcU・70562他5 点/ⅢPB-36/ⅢC・ 70318他1点/ ⅢPB-36/ⅢcU・ 69878/ⅢPB-45/ ⅢbL・63431/W- 34/ⅢbL・70373 他12点/X-34/Ⅲc	口縁 ~ 底部	小突起 (2個1 組2カ所、1個 2カ所)・外反- 尖状/直立(上 半)・外傾(下 半)/外反-隅丸 角状-上げ底	縦位刻み/RL横走帯 縄文・擬縄貼付文 (水平・鋸歯状・円 形構成)+沈線文・ 刺突文・貼り瘤・ 刺突文/RL縦走帯縄 文	砂粒 微量 混入	擬縄貼付文 剥落面でRL 縄文、口縁 部内面と底 側面ミガキ 調整で光沢 有



図IV-6 集中区45出土遺物(1)



図IV-7 集中区45出土遺物(2)

表IV-7 集中区45出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-6-2	131-4	—	67271	ポイント類	A2	IIIbU	III BB-28	W-34	18.8	12.3	3.4	0.6	Obs.	
IV-6-3	131-5	—	67270	ポイント類	A2	IIIbU	III BB-28	W-34	19.1	15.2	2.6	0.5	Obs.	
IV-6-4	131-6	—	68643	ポイント類	A2	IIIc	III SB-46	W-34	(13.6)	(13.2)	2.4	0.4	Obs.	
IV-6-5	131-7	—	71125	ポイント類	A2	IIIc	III FCB-06	X-33	(13.4)	18.0	2.0	0.5	Obs.	
IV-6-6	131-8	—	75650	ポイント類	A5	IIIbL	III FCB-06	X-33	22.1	16.8	2.7	1.0	Sch.	
IV-6-7	131-9	—	71304	ポイント類	A5	IIIc	III FCB-06	X-33	34.0	22.3	3.5	23.1	Sch.	
IV-6-8	131-10	—	71303	石核	—	IIIc	III FCB-06	X-33	24.4	21.3	6.0	41.8	Sch.	
IV-6-9	131-11	—	71326	石核	—	IIIc	III FCB-06	X-33	34.5	42.8	9.3	18.3	Sch.	
IV-6-10	132-1	—	75068	石核	—	IIIc	III FCB-06	X-33	49.5	21.6	12.8	17.5	Sch.	
IV-6-11	132-2	—	71327	石核	—	IIIc	III FCB-06	X-33	(21.7)	55.6	17.5	29.7	Sch.	
IV-6-12	132-3	—	70858	たたき石	IVb	IIIc	III FCB-06	X-33	(72.0)	60.0	34.0	150.0	Sa.	
IV-6-13	132-4	—	69990	たたき石	II b1B	IIIc	III SB-46	W-34	126.0	74.0	47.0	470.0	Sa.	
IV-7-14	132-5	—	70940	たたき石	II b2	IIIc	III FCB-06	X-33	128.0	72.0	45.0	470.0	Sa.	
IV-7-15	132-6	—	69964	砥石	—	IIIc	III SB-46	W-34	311.0	144.0	122.0	6400.0	Sa.	
—	—	—	71212	ポイント類	C	IIIc	III FCB-06	X-33	(19.8)	(5.8)	3.2	0.2	Obs.	
—	—	—	67851	ポイント類	A5	IIIcU	III FCB-06	X-33	(18.5)	15.6	2.8	1.0	Sch.	
—	—	—	79663	ポイント類	A5	IIIc	III FCB-06	X-33	(17.1)	(14.4)	2.5	0.7	Sch.	
—	—	—	94796	ポイント類	A5	III	III FCB-06	X-33	31.1	14.7	2.2	1.2	Sch.	FLT
—	—	—	67861	RF・UF	—	IIIc	III FCB-06	X-33	27.0	13.2	1.5	0.7	Sch.	
—	—	—	75066	RF・UF	—	IIIc	III FCB-06	X-33	(21.4)	15.3	1.3	0.5	Sch.	
—	—	—	68641	RF・UF	—	IIIc	III SB-46	W-34	(13.5)	15.4	2.7	0.6	Obs.	
—	—	—	71305	石核	—	IIIc	III FCB-06	X-33	22.2	38.1	8.8	8.4	Sch.	
—	—	—	71324	石核	—	IIIc	III FCB-06	X-33	25.7	22.9	5.2	3.5	Sch.	
—	—	—	94798	石核	—	III	III FCB-06	X-33	39.4	16.8	4.9	3.7	Sch.	FLT
—	—	—	94801	石核	—	III	III FCB-06	X-33	25.5	16.5	3.4	1.9	Sch.	FLT
—	—	—	71333	たたき石	IV	IIIc	III FCB-06	X-33	(56.0)	(60.5)	30.2	95.0	Sa.	
—	—	—	69987	たたき石	IVb	IIIc	III SB-46	W-34	116.9	(59.7)	50.2	400.0	Sa.	
—	—	—	71334	たたき石	IVb	IIIc	III FCB-06	X-33	(59.0)	(36.5)	43.7	80.0	Sa.	

各 1 個の計 8 個の円形を呈する擬縄貼付文があったと思われる (B)。この円形を連結する水平な 2 条 1 組の擬縄貼付文が施されている (C)。その上下に鋸歯状構成で擬縄貼付文を 2 条 1 組施す (D)。そして、突起下で一番下位に施された擬縄貼付文の上に円形の瘤を貼り付けている (E)。また、擬縄貼付文間に連続する刺突文を施す (F)。擬縄貼付文に伴う沈線文が施されている箇所がある (G)。文様帯の地文は横走する RL の帯縄文が施されている (H)。胴部は縦走する RL の帯縄文が施されている (I)。施文順序は I→H→A か B→C→D→E か G→F の順と思われる。後北 B 式土器である。

2~7 は石鏃である。2~5 は無茎鏃で、6・7 は片岩製石鏃である。7 は大形で、周縁の調整加工も粗く未成品の可能性が高い。8~11 は石材・出土状況等からも片岩製石鏃の石核と思われる。8~11 は上下両端等に階段状の剥離か、剥離が密集して潰れたところが見られるものである。11 は上端に剥離が密集した潰れが見られる。下端部は折れたものと思われる。両極剥離技法によって剥片剥離されたと思われる。6~11 は石質、色調等が非常に似るもので、同一母岩の可能性もある。12~14 はたたき石である。12・13 は線状の敲打痕が見られるもので、線状の敲打痕の単位が密集して溝状のくぼみを形成する。溝は礫長軸に直交しており、各溝は平行している。14 は使用後に被熱したものである。15 は砥石で、正面に幅が広く深い研磨面を持つものである。全面被熱により変色している。

集中区 46 (図IV-8・9 図版 51-1)

位置 : W・X-35・36 区 規模 : 1,025×765cm

関連遺構 : 焼骨片集中 III BB-38・43・44 土器集中 III PB-55

フレイク・チップ集中 III FCB-14

確認・調査 : W・X-35・36 区の III b 層調査中、焼骨片集中を 1 ヶ所検出した (III BB-38)。範囲を記録し土壌サンプルを採取した上で掘削を続けた。III c 層に達した際、この周囲において土器集中 (III PB-55)、フレイク・チップ集中 (III FCB-14) と共に比較的密度の高い焼骨片集中を新たに 2 ヶ所 (III BB-43・44) 検出した。調査段階においては遺構間の関連性について想定していなかったため、全体の検出状態撮影は行わず、遺物の取り上げを行った。2 ヶ所の焼骨片集中に関しては平面形の記録後土壌サンプルを採取している。

焼骨片集中 (図IV-8) : III BB-38・43・44 の 3 ヶ所を設定した。III BB-38 は III bL で確認した広範囲に及ぶ焼骨片集中である。下位に III BB-43 が位置し、III BB-44 とも近接するため、これら 2 ヶ所の焼骨片が浮遊し散逸した結果形成されたと考えられる。III BB-43・44 は共に 70cm 前後の規模を測る。土壌サンプル中の骨はシカを主体とするが、III BB-44 では若干のサケ属の骨も含まれていた。

土器集中 (図IV-8) : III PB-55 は 220×84cm の範囲で 125 点の土器片が出土した。出土状態はやや散漫で、III FCB-14 と一部分布が重なっている。

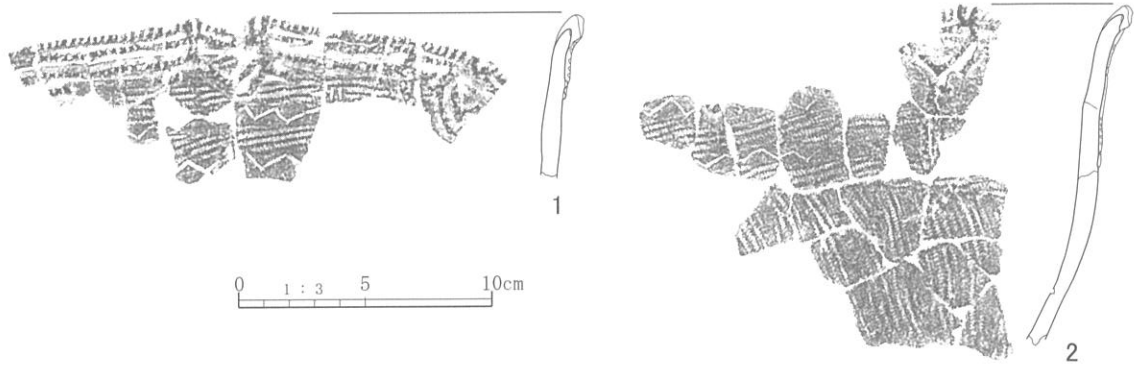
フレイク・チップ集中 (図IV-8) : III FCB-14 は総点数 291 点からなるフレイク・チップ集中である。III PB-55 の東側で最も高い密度で出土し、100×70cm のブロックを形成している。材質登録したものは 55 点のみであるが、内 53 点は片岩であった。

出土遺物 (図IV-9) : 1・2 は VIC2 類の深鉢形土器で同一個体である。器形は倒釣鐘形を呈すると思われる。突起は 2 個 1 組が 2 ヶ所、1 個が 2 ヶ所に施されると思われる。文様は口唇に細く鋭角なへら状の工具で縦位に刻みを施している。口唇直下に並行し、擬縄貼付文を施す (A)。突起下に

集中区 46



図IV-8 集中区 46 平面図



図IV-9 集中区 46 出土遺物

表IV-8 集中区46焼骨片集中属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備 考
						長軸	短軸				
IV-8	-	III BB-38	W-36	III bL	不整形	308	140	-	被熱	-	
IV-8	-	III BB-43	W-36	III c	楕円形	76	64	-	被熱	-	
IV-8	-	III BB-44	W-36	III c	楕円形	76	66	-	被熱	-	

表IV-9 集中区46出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号 /調査区 /層位	部位	器形等	文 様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点 -底面	口唇/文様帯-内面 /胴部-内面 /底側面-底面-内面		
IV-9-1	132-2-7	ZP006A	VIC2	77851他11点/ III PB-55 / III c ・74295/W-35 / III bL・77673 / V-36/ III bL	口縁 部	突起(2個1対)・ やや外反-尖状	刺突文・縦位刻み(突 起部)/擬縄貼付文 (水平・V字状構成+縦 位連結)・鋸歯状沈線 文・RL横走帯縄文	砂粒 少量 混入	
IV-9-2	132-2-8	ZP006B	VIC2	77839他13点/ III PB-55/ III c・ 77155他2点 /W-35/ III bL・ 83039/W-36/ III c	口縁 ~ 胴部 下半	突起(2個1対)・ やや外反-尖状/ 直立(上半)・外 傾(下半)	刺突文・縦位刻み(突 起部)/擬縄貼付文 (水平・V字状構成+縦 位連結)・鋸歯状沈線 文・RL横走帯縄文・RL 縦走帯縄文	砂粒 少量 混入	

表IV-10 集中区46出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
-	-	-	79957	たたき石	IV	III c	-	W-35	(35.4)	30.3	14.7	25.0	Sa.	
-	132-7	-	80502	たたき石	IVb	III c	-	W-35	(96.0)	(97.0)	29.0	360.0	Sa.	
-	132-8	-	80412	砥石	-	III c	-	W-35	(196.0)	159.0	59.0	2400.0	Sa.	

2条1組の擬縄貼付文をV字状に施し、さらに縦位に垂下させている (B)。また、このV字状の擬縄貼付文に、2条1組の擬縄貼付文を横位に施して連結させている (C)。擬縄貼付文に沿って、浅い沈線文が施されている部分がある (D)。文様帯の地文にRLの横走する帯縄文を施している (E)。この帯縄文間の無文部に鋸歯状の沈線文を施している (F)。胴部の地文は縦走する帯縄文が施されている (G)。施文順序はG→E→F→A→B→C→Dの順である。後北B式(古)土器と思われる。

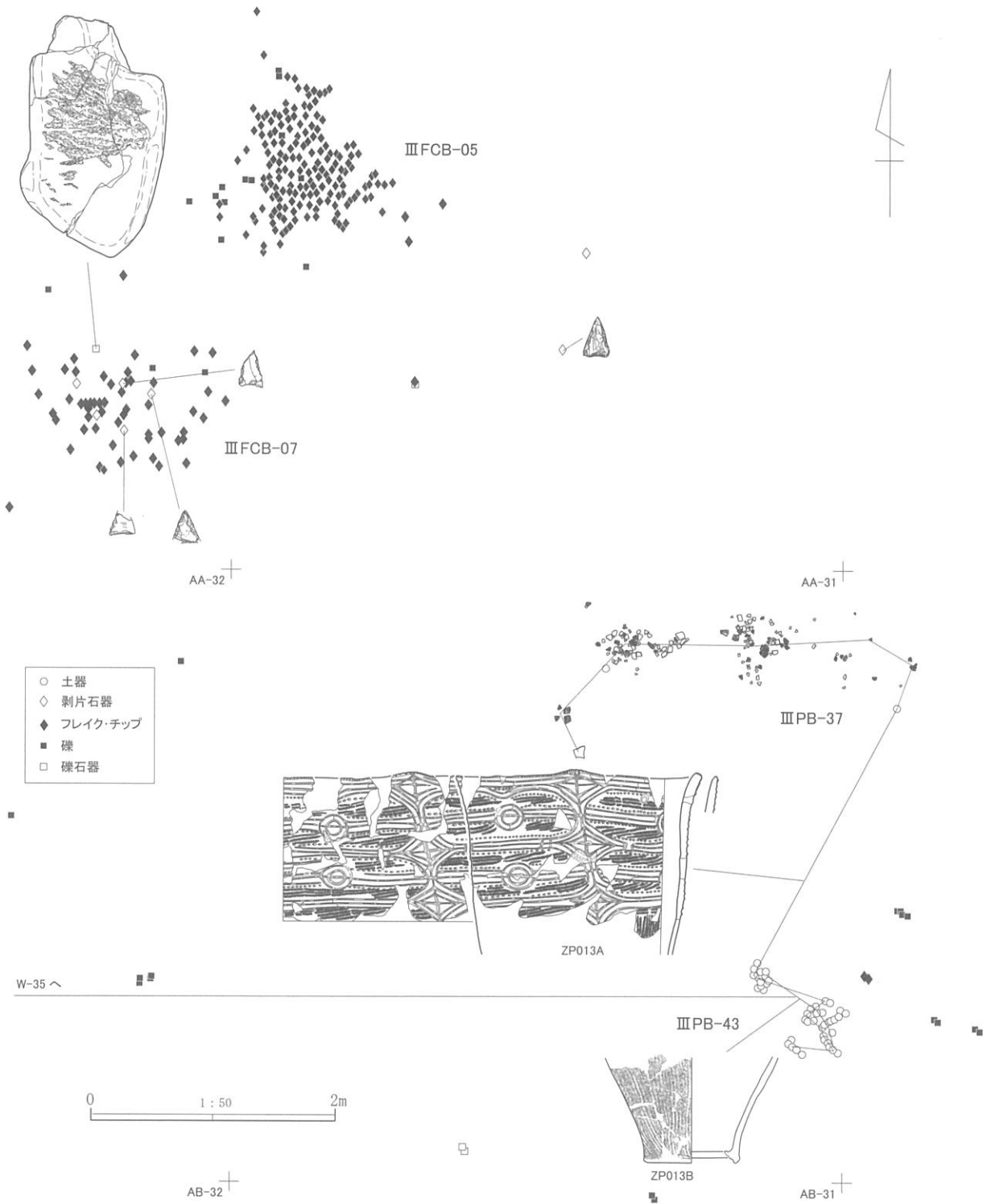
集中区 47 (図IV-10・11 図版 51-2~4)

位 置 : Z・AA-30~32 区 規 模 : 1,200×765cm

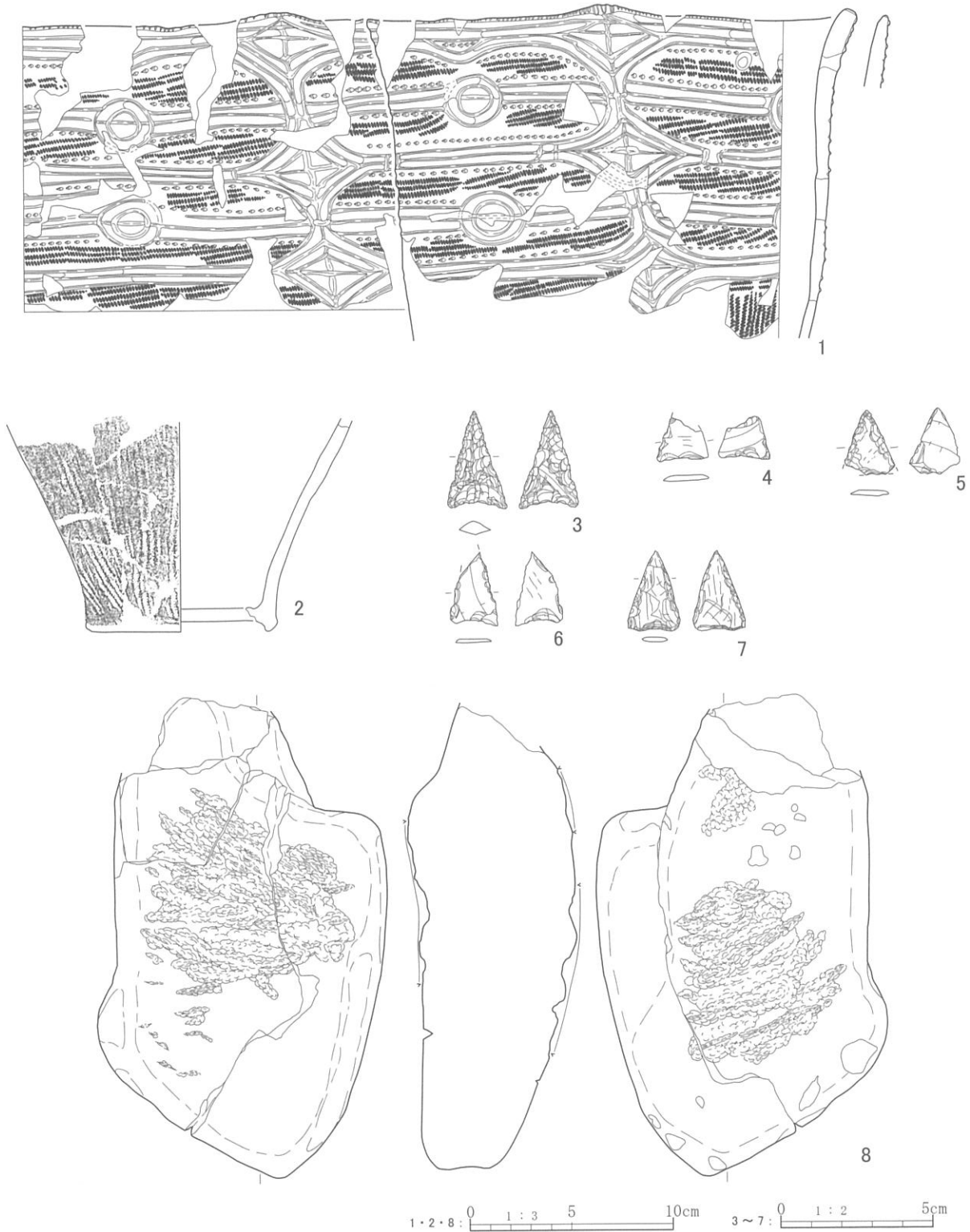
関連遺構 : 土器集中 III PB-37・43 フレイク・チップ集中 III FCB-05・07

確認・調査 : Z-32 区で検出したアイヌ文化期の炭化物集中 III CB-87(集中区 23)を調査中、周囲で黒

集中区 47



図IV-10 集中区 47 平面図



図IV-11 集中区 47 出土遺物

曜石フレイクの出土を確認した。III CB-87 に関連する可能性を考えたが、III CB-87 の炭化物が掘削を進めるにつれて出土量が減少していくのに対し、フレイク・チップの出土はより数を増していったため、形成時期が異なると判断した。フレイク・チップはIII c 層調査時に最も点数が多くなったため、この段階で遺物集中として捉えた。分布は片岩主体のブロックと黒曜石主体のブロックとに大きく

表IV-11 集中区47出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号 /調査区 /層位	部位	器形等	文 様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇/文様帯-内面 /胴部-内面 /底側面-底面-内面		
IV-11-1	133-1-1	ZP013A	VIC3	68228他89点 /ⅢPB-37 / Ⅲc・68150/ W-33/ⅢcM	口縁 ～ 胴部 下半	小突起(4ヶ所)・ 外反-隅丸角状/ 直立(上半)・ 外傾(下半)	縦位刻み(突起部) ・斜位刻み/RL横走 縄文・隆起線(垂直・ 水平・楕円・円・菱形 構成・縦位連結)・刺 突文/RL縦走帯縄文	砂粒 微量 混入	口縁部内面 横ナデ調整 痕有
IV-11-2	133-1-2	ZP013B	VIC3	63833/AA- 30/ⅢbL・ 69004他20点 /ⅢPB-43/Ⅲ cM	胴部 下半 ～ 底部	外傾/外反-隅丸角 状-上げ底	RL縦走帯縄文	砂粒 微量 混入	内面横ナデ 調整痕有

表IV-12 集中区47出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-11-3	133-3	-	不明	ポイント類	A2	-	ⅢFCB-05	Z-31	32.4	19.8	5.0	1.7	Sh.	
IV-11-4	133-4	-	68573	ポイント類	A5	ⅢcM	ⅢFCB-07	Z-32	14.1	17.0	1.8	0.5	Sch.	
IV-11-5	133-5	-	68577	ポイント類	A5	ⅢcM	ⅢFCB-07	Z-32	21.2	16.8	1.6	0.6	Sch.	
IV-11-6	133-6	-	68574	ポイント類	A5	ⅢcM	ⅢFCB-07	Z-32	24.3	15.0	1.4	0.7	Sch.	
IV-11-7	133-7	-	68518	ポイント類	A5	ⅢcM	ⅢFCB-05	Z-31	26.5	17.7	2.1	1.0	Sch.	
IV-11-8	133-8	-	68588	台石	II	ⅢcM	-	Z-32	237.0	142.0	81.0	3100.0	Sa.	
-	-	-	94803	ポイント類	A5	III	ⅢFCB-07	Z-32	26.7	(14.1)	2.0	0.7	Sch.	FLT
-	-	-	68519	RF・UF	B1	ⅢcM	ⅢFCB-05	Z-31	(13.1)	15.8	3.1	0.8	Obs.	
-	-	-	68543	RF・UF	B3b	ⅢcM	ⅢFCB-07	Z-32	(13.5)	14.9	3.9	0.6	Obs.	
-	-	-	68580	RF・UF	-	ⅢcM	ⅢFCB-07	Z-32	(30.0)	9.6	1.2	0.5	Sch.	

分かれていたことから、前者をⅢFCB-05、後者をⅢFCB-07として設定し取り上げを行った。またこの南東側において2ヶ所の土器集中(ⅢPB-37・43)を検出したことから、出土状態の良好なⅢPB-37について平面図を作成し取り上げを行った。集中区としての設定は報告書作成段階においてである。

土器集中(図IV-10)：ⅢPB-37は230×65cmの範囲に広がる土器集中で、177点の土器片が出土した。ⅢPB-43はⅢPB-37の南側に位置し、105×60cmの範囲で68点の土器片が出土している。両者はZP13の同一個体片により構成され、ⅢPB-43では主に底部の破片が含まれていた。

フレイク・チップ集中：ⅢFCB-05は140×110cmの範囲で1,715点が出土したフレイク・チップ集中である。材質登録したものは385点のみであるが、内316点が片岩であった。ⅢFCB-07は160×100cmの範囲で110点が出土した。材質登録した98点中78点が黒曜石である。

出土遺物(図IV-11)：1・2はVIC3類の深鉢形土器で同一個体である。器形は倒釣鐘形を呈すると思われる。4個の小突起がある。突起部の器壁は肥厚している。口唇断面形は隅丸角状である。文様は口唇に細い棒状工具で斜位に刻みを施し、突起部には太い棒状工具で縦位に3条施す。各突起下から隆起線が垂下しており(A)、それと直交して口唇直下に、口唇に並行する隆起線文が施されている(B)。この横位の隆起線文の下位に同じく横位の隆起線文を5条施している(C)。その内、上から1・3・5番目の十字に交差するところを中心に、隆起線文を2条並行して菱形状に施文し(D)、縦位に3段の菱形が構成される。突起間の中間付近に、上から2・4段目の隆起線文の上に2条の同心円の隆起線文が施されている(E)。縦位3段の菱形で区画された中に、楕円形状の隆起線文を施し(F)、これと同心円の隆起線を横位の隆起線文で連結している(G)。また、楕円形状の隆起線文

は短い2条1組の縦位の隆起線文で連結されている(H)。楕円形状の隆起線文内等に連続する刺突文を施す(I)。文様帯内の地文は0段多条と思われるRLの横走する帯縄文が施文されている(J)。節は非常に細くなっている。胴部には同原体の縦走する帯縄文が施されている。施文順序はJ→I→A→B・C→D・E→F→G→H→Iの順と思われる。

3~7は石鏟で、3は黒曜石製、4~7は片岩製のものである。8は台石で、両面に線状の敲打痕を残すものである。線状の敲打痕が密集して、深く幅の広い溝状となり、いくつかの単位を形成している。最も深い部分で10mm程である。

集中区 48 (図IV-12~14 図版 58-5~8)

位置: Y・Z-34・35区 規模: 990×640cm

関連遺構: 焼土 III F-203・204・205・229 焼骨片集中 III BB-24

フレイク・チップ集中 III FCB-08・17・18

確認・調査: Y・Z-34・35区のIIIc層調査時に、広範囲に広がる焼骨片の分布(III BB-24)とフレイク・チップの集中(III FCB-17・18)を検出した。III BB-24については範囲記録後に土壌サンプルを採取し、III FCB-17・18については撮影後取り上げを行った。さらにIIIc層掘削を続けたところ、III BB-24の下位で3カ所、III FCB-17の下位で1カ所の焼土を検出したため、それぞれ平面形、及び断面を記録し、土壌サンプルを採取して調査を終了した。

焼土(図IV-13): 検出した4カ所の焼土はいずれも根に攪乱され、平面、断面の形状に乱れが認められた。その中でもIII F-203は比較的遺存状態が良好で、厚さ4cmの焼土層が形成されている。それぞれ土壌サンプルを採取しているが、いずれもシカと考えられる哺乳綱の骨が多量に含まれており、魚骨はIII F-203で僅かに得られたのみである。

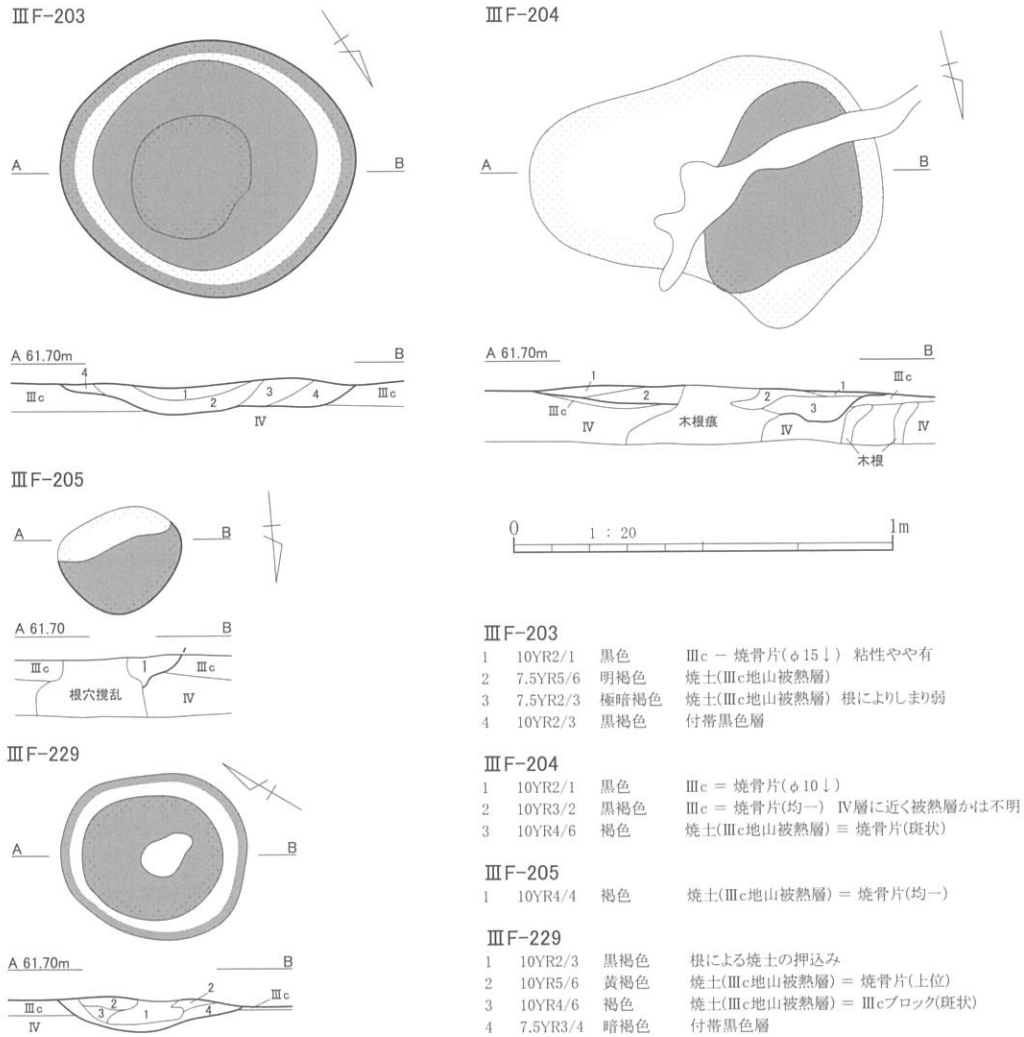
焼骨片集中(図IV-12): III BB-24は280×270cmの範囲で広がる。確認面はIII bMである。シカを主体とし、擦文・アイヌ文化期の焼土とは内容を異にしているため、下位のIII cMで検出した3カ所の焼土に伴う骨片が浮遊したものと考えられる。

フレイク・チップ集中(図IV-12): III FCB-08はIII BB-24周辺で出土したフレイク・チップに対して設定したもので、出土密度は比較的低い。総数371点中、材質登録したものは344点で、黒曜石が214点を占める。III FCB-17はIII F-229の周囲で出土した。170×130cmの範囲で214点が出土し、材質登録をした145点中128点が片岩であった。III FCB-18はZ-35区杭の南西で出土した。総点数117点全てについて材質登録しており、114点が黒曜石であった。

出土遺物(図IV-14): 1・2はVIC2類の同一個体片。口縁部・底部の径から小形の深鉢形土器と思われる。1は口縁部片で、突起が1個見られる。突起部は肥厚していない。口唇部断面形は尖状である。文様は、口唇に押し引き状の刺突文が施されている。口唇に並行する2条の隆起線文の上から、突起下ではV字状を呈すると思われる擬縄貼付文が施されている。この擬縄貼付文は、貼付文に平行して爪様の圧痕が連続して施されるものである。文様帯内に2条1組の刺突列が横位に施されている。文様帯の地文は縦位回転気味のRLの縄文が施されている。2は底部片で、やや上げ底となっている。地文はRLの縦走縄文である。3はVIC2類の口縁部片である。口唇の断面形は丸状で、棒状工具で縦位の刻みを施している。口唇に並行する擬縄貼付文が2条施されており、この上に擬縄貼付文が施されている。1~3は後北B式(古)土器と思われる。



図IV-12 集中区 48 平面図



図IV-13 集中区48 関連遺構断面図

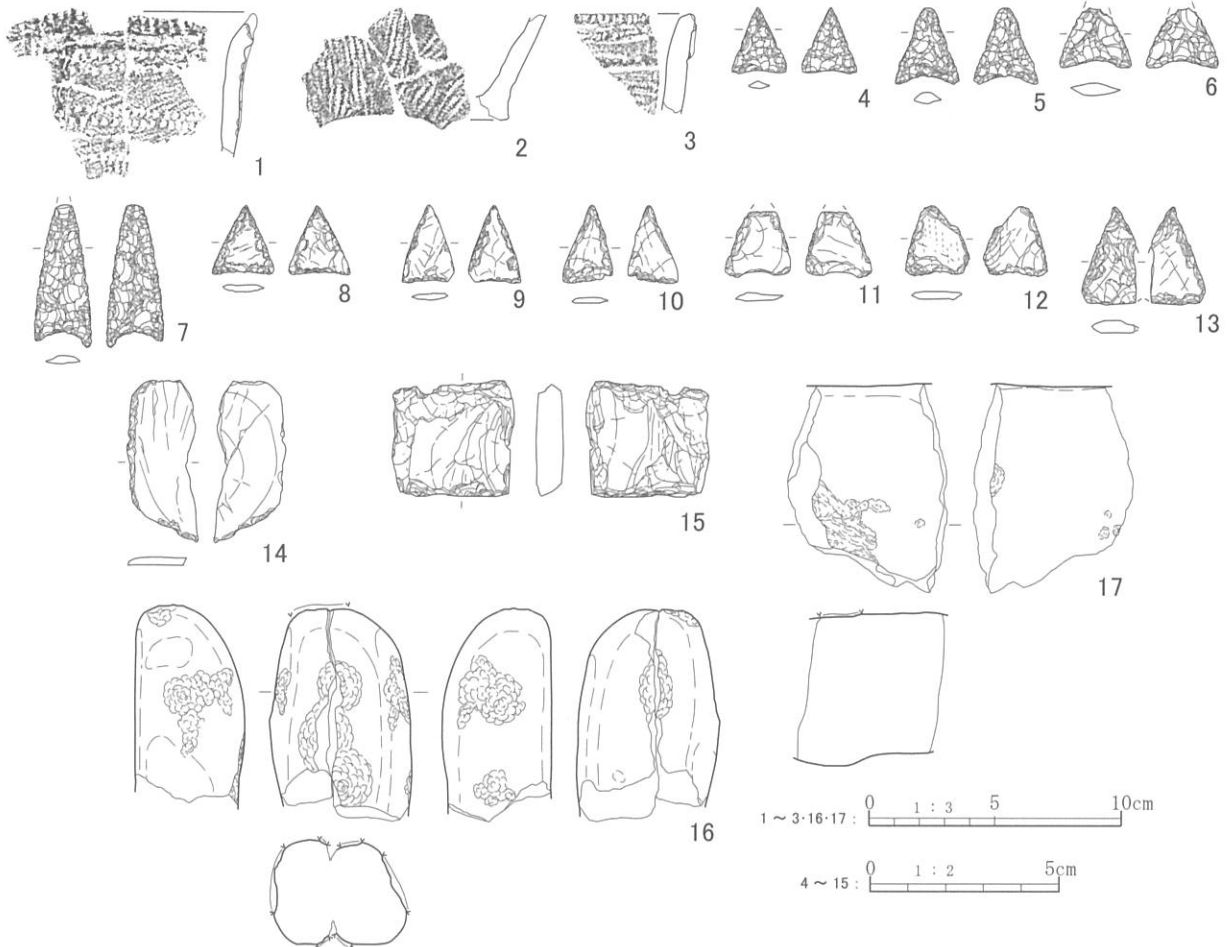
表IV-13 集中区48焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-12	51-5・6	III F-203	Z-34	IIIc	楕円形	78	68	8	骨	
IV-12	—	III F-204	Z-34	IIIc	不整形	94	72	8	骨	
IV-12	—	III F-205	Z-35	IIIc	—	(32)	29	8	骨	
IV-12	—	III F-229	Y-35	IIIc	楕円形	49	44	8	骨	

表IV-14 集中区48焼骨片集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
IV-12	51-8	III BB-24	Z-34	IIIbM	不整形	280	274	—	被熱	III F-203・204・205	

4~13は石鏃である。4~7はA2類の無茎鏃で、いずれも凹基である。6は先端部欠損後に被熱している。7は狭長なものである。8~13はA5類で片岩製の石鏃で、いずれも周縁にのみ調整加工を施している。8は正三角形を呈する。11・12は先端部、13は側縁が欠損している。14は剥片の一部に連続する剥離が見られることからRFと分類した。但し、石材は片岩で、材質から見て利器等に向



図IV-14 集中区 48 出土遺物

表IV-15 集中区48出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号 /調査区 /層位	部位	器形等	文様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇/文様帯-内面 /胴部-内面 /底側面-底面-内面		
IV-14-1	133-2-9	ZP024A	VIC2	70496他7点/ III PB-46/IIIc	口縁 ~ 胴部 上半	小突起・外反-尖状 /直立	刺突文/擬縄貼付文 (水平・V字状?構成+ 縦位連結)・刺突文・ RL斜行縄文(縦回 転)	砂粒 少量 混入	
IV-14-2	133-2- 10	ZP024B	VIC2	70510/III PB- 46/IIIc・ 68700/Z-34/ IIIbL	底部	張り出し-隅丸角状 -上げ底	RL縦走縄文	砂粒 少量 混入	
IV-14-3	133-2- 11	ZP030A	VIC2	70505/III PB- 46/IIIc	口縁 部	平縁・外傾-丸状	縦位刻み/擬縄貼付 文(水平構成+縦位 連結)・沈線文・RL横 走縄文	砂粒 少量 混入	

かず、片岩製石鏃の未製品の可能性がある。15 は片岩の石核である。上下両端に階段状の剥離と、剥離が非常に密集して潰れている。16 はたたき石で2点が接合したものである。断面隅丸角状の棒状礫を素材として、四面に窪み状の敲打痕をもつ。欠損後に正面右側の破片が全面被熱している。17 は台石片である。面には線状の敲打痕を残す。

表IV-16 集中区48出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-14-4	133-12	—	67462	ポイント類	A2	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	17.4	14.6	3.1	0.5	Obs.	
IV-14-5	133-13	—	68117	ポイント類	A2	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	19.9	17.0	3.2	0.8	Obs.	
IV-14-6	133-14	—	70580	ポイント類	A2	IIIc	IIIF-203	Z-34	(15.6)	18.5	3.4	0.8	Obs.	被熱
IV-14-7	133-15	—	81855	ポイント類	A2	IIIc	IIIFCB-18	Z-35	(37.4)	15.0	3.2	1.6	Obs.	
IV-14-8	133-16	—	69457	ポイント類	A5	IIIc	IIIBB-31	Z-34	18.1	16.4	2.1	0.5	Sch.	
IV-14-9	133-17	—	68062	ポイント類	A5	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	20.1	13.5	1.9	0.5	Sch.	
IV-14-10	133-18	—	81884	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-17	W-35	21.1	13.1	1.5	0.4	Sch.	
IV-14-11	133-19	—	67306	ポイント類	A5	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	16.9	17.0	2.5	0.9	Sch.	
IV-14-12	133-20	—	68052	ポイント類	A5	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	18.2	16.3	1.9	0.7	Sch.	
IV-14-13	133-21	—	81976	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-17	W-35	25.8	14.0	3.1	1.3	Sch.	
IV-14-14	133-22	—	67319	RF・UF	—	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	42.9	17.5	2.5	2.7	Sch.	
IV-14-15	133-23	—	82342	石核	—	IIIc	IIIFCB-17	W-35	30.0	31.6	8.4	11.3	Sch.	
IV-14-16	133-24	III ST0067	70966	たたき石	IV	IIIc	IIIBB-24	Z-34	84.0	56.0	41.0	265.0	Sa.	
IV-14-17	133-25	—	83011	台石	—	IIIc	IIIFCB-17	W-35	83.0	(63.0)	58.0	500.0	Sa.	
—	—	—	70419	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	(18.0)	15.8	2.0	0.7	Sch.	
—	—	—	67317	ポイント類	A5	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	(21.4)	18.1	2.0	0.9	Sch.	
—	—	—	68063	ポイント類	A5	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	22.3	17.2	1.5	0.7	Sch.	
—	—	—	68118	ポイント類	A5	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	(19.9)	14.7	3.0	0.7	Sch.	
—	—	—	81940	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-17	W-35	(17.3)	19.9	1.6	0.9	Sch.	
—	—	—	94773	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	17.7	(9.2)	1.2	0.3	Sch.	FLT
—	—	—	94774	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	22.0	15.2	2.0	0.7	Sch.	FLT
—	—	—	94775	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	(20.9)	(10.4)	2.2	0.7	Sch.	FLT
—	—	—	94776	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	21.4	(13.0)	2.0	0.7	Sch.	FLT
—	—	—	94778	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	(18.2)	13.0	2.3	0.4	Sch.	FLT
—	—	—	94780	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	(13.3)	11.8	1.4	0.2	Sch.	FLT
—	—	—	94782	ポイント類	A5	III	IIIF-203	Z-34	(22.3)	18.9	1.9	0.6	Sch.	FLT
—	—	—	97163	ポイント類	A5	III	IIIF-204	Z-34	22.7	17.0	1.2	0.5	Sch.	FLT
—	—	—	97155	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	26.1	20.3	3.4	1.7	Sch.	FLT
—	—	—	97156	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	(26.4)	18.1	2.7	1.1	Sch.	FLT
—	—	—	97158	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	31.0	(12.9)	1.7	0.9	Sch.	FLT
—	—	—	97160	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	19.9	13.0	2.4	0.4	Sch.	FLT
—	—	—	97161	ポイント類	A5	III	IIIBB-24	Z-34	20.4	14.9	3.2	0.8	Sch.	FLT
—	—	—	67487	ポイント類	C	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	(9.2)	4.3	2.5	0.1	Obs.	
—	—	—	68119	ポイント類	C	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	(19.0)	(8.9)	2.6	0.5	Obs.	
—	—	—	81914	ポイント類	C	IIIc	IIIFCB-17	W-35	1.7	1.1	1.4	0.3	Sch.	
—	—	—	68037	RF・UF	B1	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	(26.0)	17.8	8.3	3.5	Obs.	
—	—	—	81817	RF・UF	B3a	IIIc	IIIFCB-18	Z-35	20.6	(12.0)	2.2	0.6	Obs.	
—	—	—	67310	RF・UF	—	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	(15.8)	8.8	1.7	0.3	Sch.	
—	—	—	67320	RF・UF	—	IIIcU	IIIFCB-08	Z-34	42.6	14.3	3.1	2.3	Sch.	
—	—	—	82339	石核	—	IIIc	IIIFCB-17	W-35	30.2	100.9	11.5	31.8	Sch.	
—	—	—	70969	砥石	—	IIIc	IIIBB-24	Z-34	(84.9)	75.6	22.0	160.0	Sa.	

集中区 49 (図IV-15~18 図版 52-1~5)

位置: W~Y-36・37区 規模: 865×790cm

関連遺構: 焼土 III F-230 焼骨片集中 III BB-42 土器集中 III PB-53

礫集中 III SB-48 フレイク・チップ集中 III FCB-10

確認・調査: X-37区 III b層の擦文文化期の遺構・遺物を調査中、大型礫の上面を多数検出した。礫底面がまだ埋まっていたことから、全体の検出を行ったところ、III c層中に形成された続縄文土器を伴う礫集中であることを確認した(III SB-48)。さらに周囲を同一面まで掘削した結果、III SB-48の

南側でⅢF-230、南西側でⅢBB-42、ⅢPB-53、ⅢFCB-10を検出した。出土状態よりこれら遺構群を1つのまとまりとして判断したため、検出状態の撮影を行った後、個別に調査を行った。なおⅢPB-53とⅢSB-48に関しては出土状態のデジタル写真実測を委託している。

焼土(図IV-16)：ⅢF-230は長さ55cm、厚さ6cmの焼土層が形成された焼土である。中央部が根による攪乱を受けているが、燃烧面は部分的に残存し焼骨片が認められる。土壌サンプルからは多量の哺乳綱の骨と僅かにサケ属の骨が含まれていた。炭化種子ではクルミ属の破片が少量含まれており、このクルミ片に対してAMSによる年代測定を行ったところ、 1σ の暦年代較正範囲で20AD-85ADとする結果を得ている(第七章1節(1))。

焼骨片集中(図IV-15)：ⅢBB-42は68×54cmの範囲で楕円形に広がった焼骨片集中である。周囲からはⅢFCB-10として設定したフレイクチップが多数出土した。土壌サンプルからはⅢF-230と同様シカを主体とする骨と、僅かなサケ属の骨を得ている。

土器集中(図IV-16)：ⅢPB-53はⅢF-230の西側で出土した土器集中である。50×50cmの範囲から41点の土器片が出土した。ZP017個体の底部片で構成されている。

礫集中(図IV-16)：ⅢSB-48は260×160cmの規模を測る礫集中である。構成する礫は長さ150mm以上の比較的大型の礫を主体とする151点の遺物から成る。これらの中にはたたき石、線状の敲打痕が形成された台石を中心に多数の礫石器も含まれており、作業場の様相を呈していた。この礫集中の南東縁付近において23に図示した鉄片が出土している。礫と同一のⅢcMから出土し、この位置では擦文文化期に属する遺物の出土は希薄であったことから、続縄文時代の資料と判断した。

フレイク・チップ集中(図IV-15)：ⅢBB-42の周囲で出土した。160×84cmの範囲で1,350点が出土し、材質登録を行った1,134点中676点が片岩、309点が黒曜石であった。この中には剥片石器も33点含まれている。

出土遺物(図IV-17・18)：1はVIC2類で図IV-29-4と同一個体の底部片である。底面はやや上げ底で、底部の側面は磨かれている。地文に0段多条と思われるRLの縦走縄文を施している。部分的に帯縄文となっている部分がある。2~7は石鏃である。2は無形鏃である。3~7は片岩製である。4は鏃身部両側縁に調整加工は施されているが、基部とその周辺には調整加工が施されていないことから未製品と思われる。6は片岩製の中で最も大きいものである。右側縁の稜は潰れている部分があり、製作手法に関わるものと思われる。7は基部が稜をなさず、平坦な面であることから未製品と思われる。8は黒曜石製のナイフ状石器で、素材の剥片は非常に薄く、裏が透けて見える。上方はややくびれており、柄部と思われ、側縁の稜が潰れている。9・10はサイド・スクレイパーで10の石材はメノウ質頁岩である。11は片岩製のRFで片岩製石鏃の未製品の可能性がある。12・13は石核である。12は上面を打面として両面を作業面とし剥片剥離を行っている。13は片岩製の石核で上下両端に剥離が密集して潰れており、両極剥離技法によって剥片剥離を行ったと思われる。14~19はたたき石である。14・15は両面に窪み状の敲打痕をもつものである。16~19は線状の敲打痕をもつもので、線状の敲打痕が密集し、深くて幅の広い溝状を形成し、1つの単位となっている。16は破片資料で台石片の可能性もあるが、稜にも線状の敲打痕を残すことからたたき石と分類した。17は線状の敲打痕の1つの単位を確認でき、長さ5mm程で、幅は0.5mmに満たない。18は重量900gを超えるもので、台石の可能性もあるが、側面の緩やかな稜部分にも敲打痕をもつことからたたき石と分類した。その礫の形状も篋状で把握に適している。全面被熱により変色している。19も18同

集中区 49



図IV-15 集中区 49 平面図

表IV-17 集中区49焼土属性表

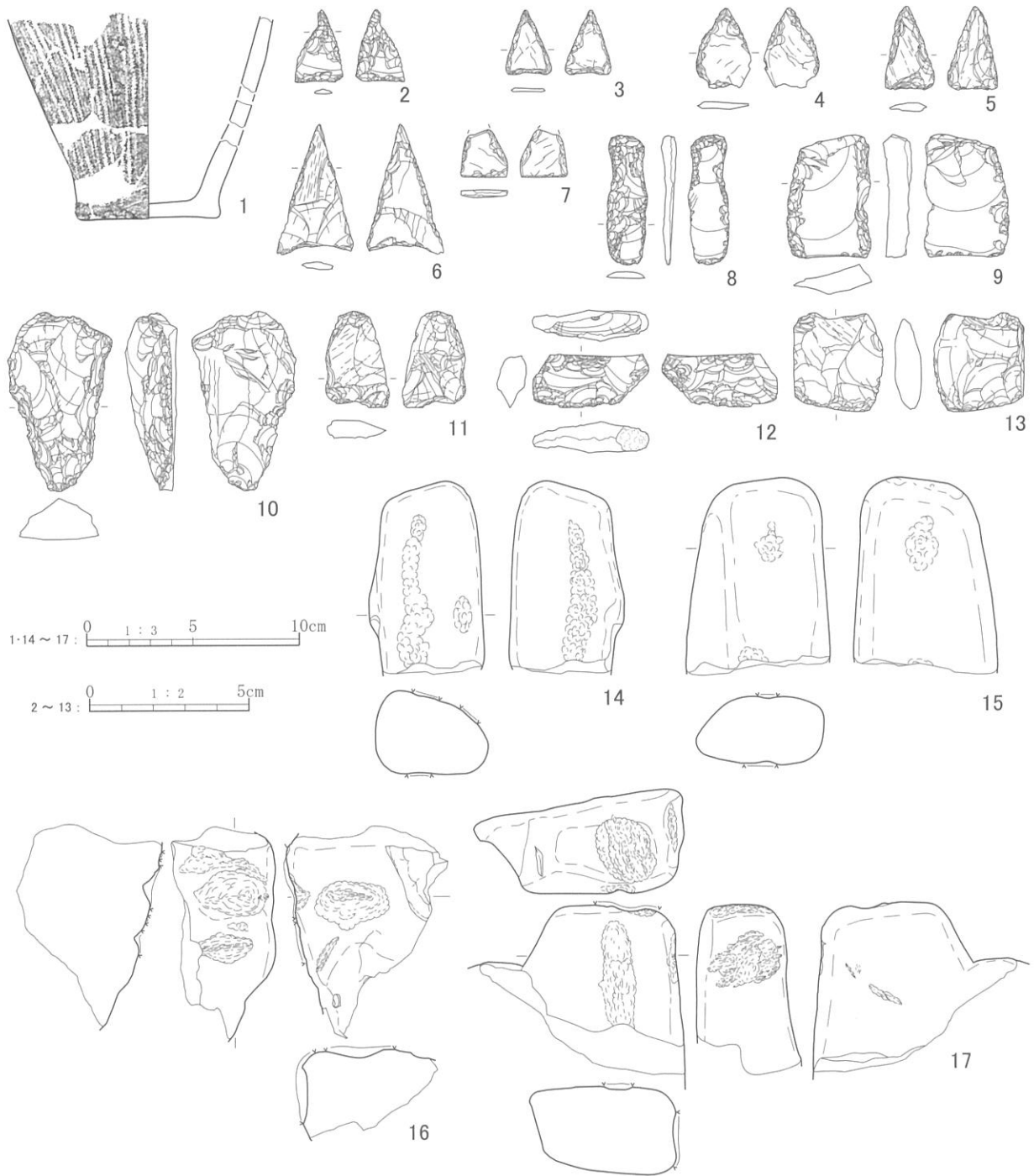
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	高さ		
IV-15	52-2	IIIF-230	X-36	IIIc	楕円形	55	44	8	骨	

表IV-18 集中区49焼骨片集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
IV-15	—	IIIBB-42	X-39	IIIc	楕円形	68	54	—	被熱	IIIFCB-10	



図IV-16 集中区 49 関連遺構



図IV-17 集中区49出土遺物(1)

表IV-19 集中区49出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号 /調査区 /層位	部位	器形等	文 様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇/文様帯-内面 /胴部-内面 /底側面-底面-内面		
IV-17-1	134-1	ZP017B	VIC2	84892他15点 /ⅢPB-53/Ⅲ cM	胴部 下半~ 底部	外傾/張り出し-隅丸 角状-やや上げ底	RL縦走帯縄文	砂粒 少量 混入	図IV-29-4と 同一個体



図IV-18 集中区 49 出土遺物 (2)

表IV-20 集中区49出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-17-2	134-2	-	75922	ポイント類	A2	IIIcM	IIIFCB-10	X-37	22.9	15.3	2.7	0.8	Obs.	
IV-17-3	134-3	-	79751	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-10	X-37	20.1	14.1	1.7	0.5	Sch.	
IV-17-4	134-4	-	82177	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-10	X-37	25.3	17.0	2.1	1.1	Sch.	
IV-17-5	134-5	-	79626	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-10	X-37	26.2	15.3	3.0	1.2	Sch.	
IV-17-6	134-6	-	83000	ポイント類	A5	IIIcM	IIISB-48	X-36	40.5	24.2	3.1	2.5	Sch.	
IV-17-7	134-7	-	78646	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-10	X-37	14.8	14.5	1.7	0.6	Sch.	
IV-17-8	134-8	-	79757	ナイフ・スクレイパー類	D	IIIc	IIIFCB-10	X-37	40.8	12.4	3.9	2.0	Obs.	
IV-17-9	134-9	-	79758	ナイフ・スクレイパー類	C1a	IIIc	IIIFCB-10	X-37	38.2	26.4	8.1	9.1	Obs.	
IV-17-10	134-10	-	79760	ナイフ・スクレイパー類	C1a	IIIc	IIIFCB-10	X-37	56.3	32.6	15.4	27.1	Age-Sh.	
IV-17-11	134-11	-	79575	RF・UF	-	IIIc	IIIFCB-10	X-37	30.2	19.1	5.6	3.6	Obs.	
IV-17-12	134-12	-	79759	石核	-	IIIc	IIIFCB-10	X-37	17.3	36.7	8.7	5.7	Obs.	
IV-17-13	134-13	-	79636	石核	-	IIIc	IIIFCB-10	X-37	30.8	27.8	7.9	8.5	Sch.	
IV-17-14	134-14	-	82996	たたき石	I A1	IIIcM	IIISB-48	X-36	(91.0)	54.0	39.0	250.0	Sa.	
IV-17-15	134-15	-	82995	たたき石	IV	IIIcM	IIISB-48	X-36	(93.0)	68.0	33.0	350.0	Sa.	
IV-17-16	134-16	-	79765	たたき石	IV	IIIc	IIIFCB-10	X-37	100.0	72.0	48.0	285.0	Sa.	
IV-17-17	134-17	-	82382	たたき石	IV	IIIc	IIIFCB-10	X-37	(79.0)	(96.0)	41.0	380.0	Sa.	
IV-18-18	135-22	-	82993	たたき石	I B1	IIIcM	IIISB-48	X-36	176.0	88.0	60.0	1150.0	Sa.	被熱
IV-18-19	135-23	-	82635	たたき石	I B3	IIIc	IIIFCB-10	X-37	171.0	106.0	44.0	1100.0	Sa.	
IV-18-20	135-24	-	82994	台石	II	IIIcM	IIISB-48	X-36	(190.0)	130.0	126.0	3700.0	Sa.	被熱
IV-18-21	135-25	-	82634	台石	II	IIIc	IIIFCB-10	X-37	234.0	143.0	23.0	1130.0	Sa.	
IV-18-22	135-29	-	82889	砥石	-	IIIcM	IIISB-48	X-36	315.0	164.0	33.0	2700.0	Sa.	被熱
IV-18-23	135-30	-	82395	棒状鉄片	-	IIIc	-	X-36	(36.0)	13.0	5.5	5.1	Iron.	
-	134-18	-	82997	たたき石	IV	IIIcM	IIISB-48	X-36	(102.0)	44.0	39.0	215.0	Sa.	
-	134-19	-	82888	たたき石	IV	IIIcM	IIISB-48	X-36	115.0	59.0	(25.0)	280.0	Sa.	
-	134-20	-	82951	たたき石	IV	IIIcM	IIISB-48	X-36	(117.0)	71.0	56.0	525.0	Sa.	
-	134-21	-	82998	台石	II	IIIcM	IIISB-48	X-36	(52.0)	(54.0)	(33.0)	80.0	Sa.	
-	135-26	-	82999	台石	II	IIIcM	IIISB-48	X-36	249.0	181.0	33.6	2000.0	Sa.	
-	135-27	-	82943	台石	II	IIIcM	IIISB-48	X-36	256.0	137.0	79.0	350.0	Sa.	
-	135-28	-	82906	砥石	-	IIIcM	IIISB-48	X-36	(95.0)	(122.0)	39.0	220.0	Sa.	
-	-	-	78732	ポイント類	A2	IIIc	IIIFCB-10	X-37	14.4	13.6	2.3	0.3	Obs.	
-	-	-	98391	ポイント類	A2	III	IIIFCB-10	X-37	(16.2)	7.1	1.6	0.1	Obs.	FLT
-	-	-	98392	ポイント類	A2	III	IIIFCB-10	X-37	(18.1)	16.1	2.2	0.6	Obs.	FLT
-	-	-	75709	ポイント類	A5	IIIbL	IIIFCB-10	X-37	24.4	13.8	4.0	1.2	Sch.	
-	-	-	75731	ポイント類	A5	IIIbL	IIIFCB-10	X-37	(28.2)	12.8	1.8	0.9	Sch.	
-	-	-	78643	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-10	X-37	18.4	(13.9)	1.7	0.6	Sch.	
-	-	-	79512	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-10	X-37	(22.5)	12.7	1.6	0.4	Sch.	
-	-	-	98381	ポイント類	A5	III	IIIFCB-10	X-37	(24.1)	14.6	2.3	0.8	Sch.	FLT
-	-	-	98382	ポイント類	A5	III	IIIFCB-10	X-37	24.6	14.2	2.4	0.9	Sch.	FLT
-	-	-	98383	ポイント類	A5	III	IIIFCB-10	X-37	(14.8)	16.1	1.3	0.5	Sch.	FLT
-	-	-	98384	ポイント類	A5	III	IIIFCB-10	X-37	(14.4)	(18.4)	1.4	0.4	Sch.	FLT
-	-	-	79761	RF・UF	B3a	IIIc	IIIFCB-10	X-37	(20.7)	17.2	6.3	1.9	Obs.	
-	-	-	75652	石核	-	IIIbL	IIIFCB-10	X-37	(20.5)	16.9	3.7	1.1	Sch.	
-	-	-	75783	石核	-	IIIbL	IIIFCB-10	X-37	28.0	19.3	6.1	3.2	Sch.	
-	-	-	82187	石核	-	IIIc	IIIFCB-10	X-37	21.7	5.5	3.8	3.8	Sch.	
-	-	-	82387	石核	-	IIIc	IIIFCB-10	X-37	43.6	18.6	4.1	3.6	Sch.	
-	-	-	79770	たたき石	I A1	IIIc	IIIFCB-10	X-37	13.0	46.7	24.5	190.0	Sa.	
-	-	-	82992	台石	-	IIIcM	IIISB-48	X-36	188.0	165.0	52.0	2800.0	Sa.	

表IV-21 III SB-48属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	82942	IIIcM	完形	25.5	-68.4	21.1	-38.6	12.9	-17.1	1.2	-0.6	8.9	-	Sa.	
-	-	III S1408	83050	IIIcM	完形	42.7	-51.2	31.9	-27.8	21.0	-9.0	1.3	-0.4	38.7	-	Sa.	他0点
-	-	-	82928	IIIcM	欠損	66.9	-27.0	46.9	-12.8	18.3	-11.7	1.4	-0.3	60.5	-	Sa.	
-	-	III S1138	82991	IIIcM	完形	75.1	-18.8	42.3	-17.4	20.7	-9.3	1.8	0.0	86.3	-	Sa.	他1点
-	-	-	82456	IIIcM	略完形	74.0	-19.9	38.5	-21.2	17.1	-12.9	1.9	0.2	73.9	-	Sa.	
-	-	III S1384	82983	IIIcM	完形	86.7	-7.2	76.4	16.7	24.9	-5.1	1.1	-0.6	194.3	-	Sa.	他1点
-	-	-	82990	IIIcM	完形	122.4	28.5	71.4	11.7	57.3	27.3	1.7	0.0	950.0	-	Sa.	
-	-	-	82920	IIIcM	略完形	164.0	70.1	89.4	29.7	38.1	8.1	1.8	0.1	10080.0	○	Sa.	
平均						93.9		59.7		30.0		1.76		1641.8			
														総点数	151点	※完形	7点

様に重量 900g を超えるものである。これも側縁の稜に敲打痕を持つものでたたき石とした。20・21 は台石である。共に線状の敲打痕をもつものである。線状の敲打痕が密集して形成される溝状の単位は、たたき石と異なり交差する部分が多い。20 は被熱によって部分的に変色している。22 は砥石である。表面に幅広の窪んだ研磨面がある。研磨面の周囲は被熱によるハジケで礫面が一部剥落している。裏面には礫素材面の形状を残す滑沢面がある。被熱後に破損している。23 は鉄片。出土状況等から続縄文時代の遺物として扱われている。破片のため、形態等からの類例との比較は難しい。

集中区 50 (図IV-19 図版 53-1~5)

位置 : W・X-37・38 区 規模 : 815×700cm

関連遺構 : 焼土 III F-225・226 焼骨片集中 III BB-36 炭化物集中 III CB-91
フレイク・チップ集中 III FCB-15・16

確認・調査 : W・X-37・38 区を調査中、フレイク・チップ集中 2 ヲ所(III FCB-15・16)と共に広範囲に広がる焼骨片の集中を確認した(III BB-36)。掘削を進めたところ、周囲でさらに 2 ヲ所の焼土を検出した(III F-225・226)。焼土とフレイク・チップ集中等を 1 つの遺構群と判断したため、出土状態の撮影を行った上で、個別の調査を行った。集中区としての設定は、現場段階で把握したまとまりに、III BB-36 の北側で検出した III CB-91 を報告書作成段階に加えた。

焼土(図IV-19) : III F-225 は根による攪乱で西側が壊されているが、長さ 76cm 以上、焼土層の厚さ 5cm の規模を測る。III F-226 は 30cm 程の長さで、厚さ 2cm 程の焼土層が形成されている。いずれも焼骨片が上位に堆積し、土壌サンプルからは多量の哺乳綱の骨を得ている。

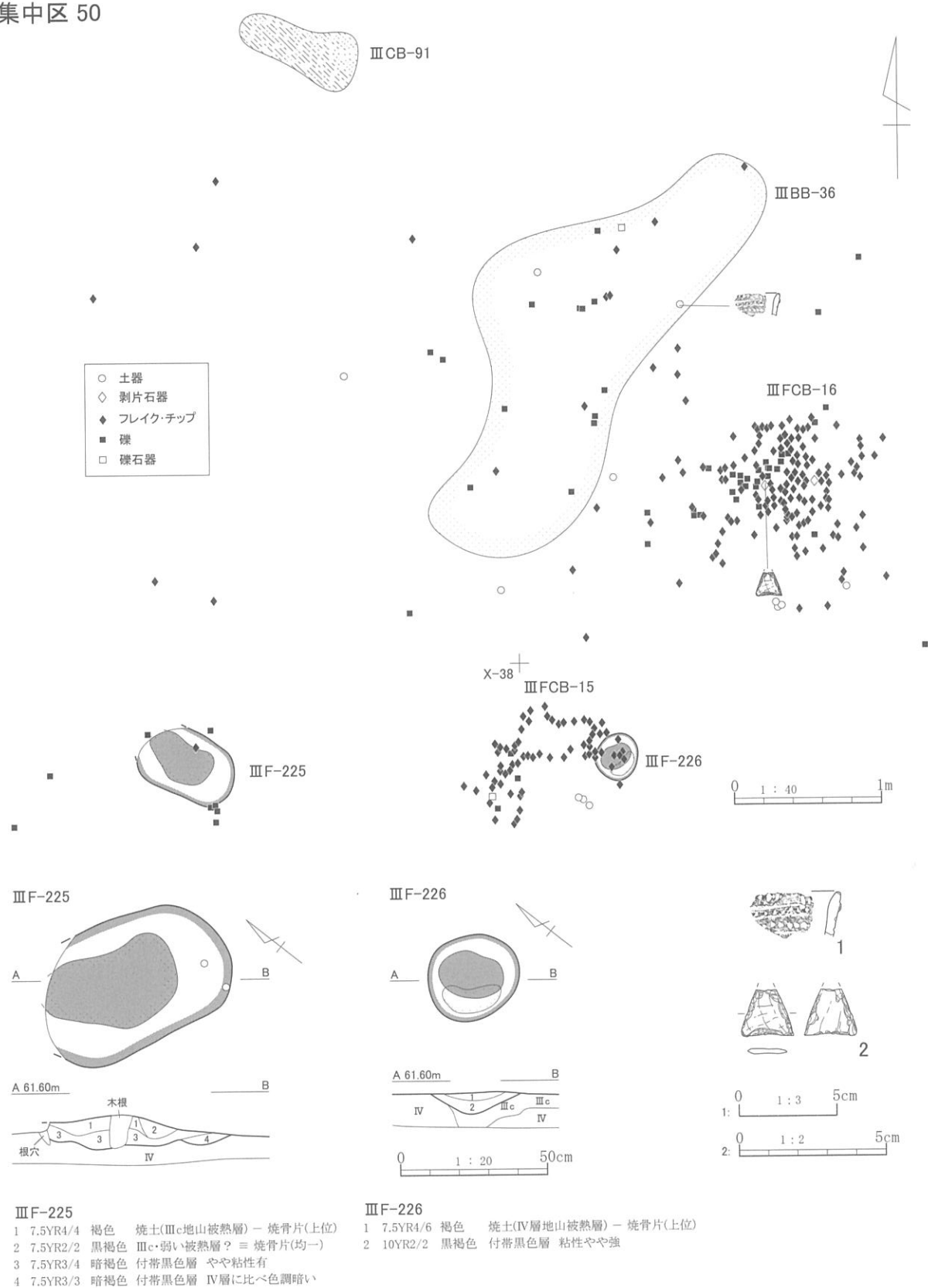
焼骨片集中(図IV-19) : III BB-36 は 328×126cm の範囲に広がる焼骨片集中である。III bL 調査中に検出したことや、平面形が細長く不整形であることから、本来 III c 層中に形成されたものが浮遊し拡散したのと考えられる。土壌サンプルからはシカと思われる哺乳綱の骨を多数得ている。

炭化物集中(図IV-19) : III CB-91 は III BB-36 の北西側で検出した 84×40cm の規模を測る。土壌サンプルからはクルミ属の炭化種子が少量得られたが、栽培植物の種子は含まれていない。

フレイク・チップ集中(図IV-19) : III FCB-15 は III F-226 の周囲で出土した。100×70cm の範囲から 302 点が出土し、半数の 167 点が片岩、88 点が黒曜石であった。III FCB-16 は III BB-36 の南東側で出土した。140×120cm の範囲で 318 点が出土しており、材質登録の 215 点中、167 点が片岩であった。

出土遺物(図IV-19) : 1 は VIC2 類の口縁部片である。口唇には横方向からの刺突文と、棒状工具で縦に刻みを施す 2 種類がある。擬縄貼付文の上端に沈線文を廻らしている。2 は片岩製の石鏃。

集中区 50



図IV-19 集中区 50 平面図及び出土遺物

表IV-22 集中区50焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-19	53-2・3	ⅢF-225	X-38	Ⅲc	楕円形	(76)	50	11	骨	
IV-19	53-4	ⅢF-226	X-37	Ⅲc	楕円形	32	30	8	骨	

表IV-23 集中区50焼骨片集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
IV-19	—	ⅢBB-36	W-37・38	ⅢbL	不整形	328	126	—	被熱	—	

表IV-24 集中区50炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
IV-19	—	ⅢCB-91	W-38	ⅢcM	長楕円形	84	40	

表IV-25 集中区50出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等	文様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口唇/文様帯-内面/胴部-内面/底側面-底面-内		
IV-19-1	136-1	ZP031A	VIC2	82579/ ⅢFCB-16/ Ⅲc	口縁部	平縁・外傾-尖状	刺突文/擬縄貼付文(水平構成)文・横走沈線文・刺突文	砂粒少量混入	

表IV-26 集中区50出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-19-2	136-1-1	—	82536	ポイント類	A5	Ⅲc	ⅢFCB-16	W-37	(16.0)	17.8	1.5	0.6	Sch.	
—	136-1-2	—	78528	たたき石	I a1	Ⅲc	ⅢFCB-15	X-37	14.0	48.0	31.0	280.0	Sa.	
—	—	—	82587	ポイント類	A5	Ⅲc	ⅢFCB-16	W-37	2.4	1.4	1.9	0.7	Sch.	
—	—	—	98397	ポイント類	A5	Ⅲ	ⅢFCB-15	X-37	(21.7)	19.9	2.9	1.1	Sch.	FLT
—	—	—	98398	ポイント類	A5	Ⅲ	ⅢFCB-15	X-37	17.9	15.7	3.3	0.9	Sch.	FLT
—	—	—	91630	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢFCB-15	X-37	(33.0)	60.0	50.0	100.0	Sa.	
—	—	—	80465	石核	—	Ⅲc	ⅢFCB-16	W-37	17.2	26.9	2.9	2.2	Sch.	

集中区 51 (図IV-20・21 図版 54-1~4)

位置：V・W-39・40区 規模：950×745cm

関連遺構：焼土 ⅢF-221・223 焼骨片集中 ⅢBB-33・35・39 炭化物集中 ⅢCB-90

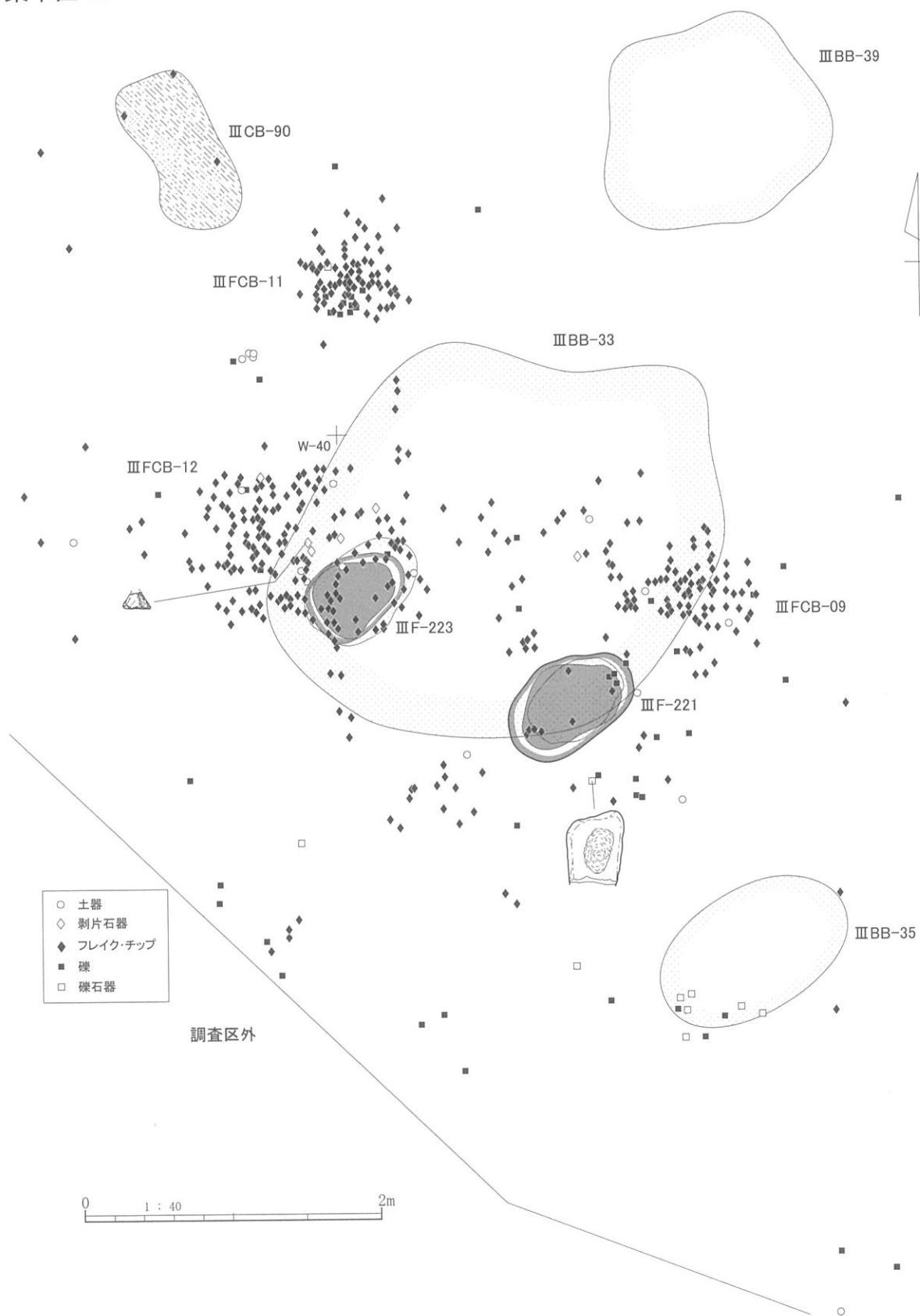
フレイク・チップ集中 ⅢFCB-09・11・12

確認・調査：V・W-39・40区のⅢb層調査中、焼骨片の集中3カ所(ⅢBB-33・35・39)と炭化物集中1カ所(ⅢCB-90)と共に、多数のフレイク・チップが出土した。焼骨片集中と炭化物集中は範囲を記録し、サンプルを採取した。さらに掘削を進めたところ、W-39区のⅢc層において焼土を2カ所検出し(ⅢF-221・223)、フレイク・チップが大きく3カ所にまとまって出土していることを確認した(ⅢFCB-09・11・12)。フレイク・チップの取上げ後、焼土の平面形、断面の記録を作成し、調査を終了した。集中区としての設定は報告書作成段階に行っている。

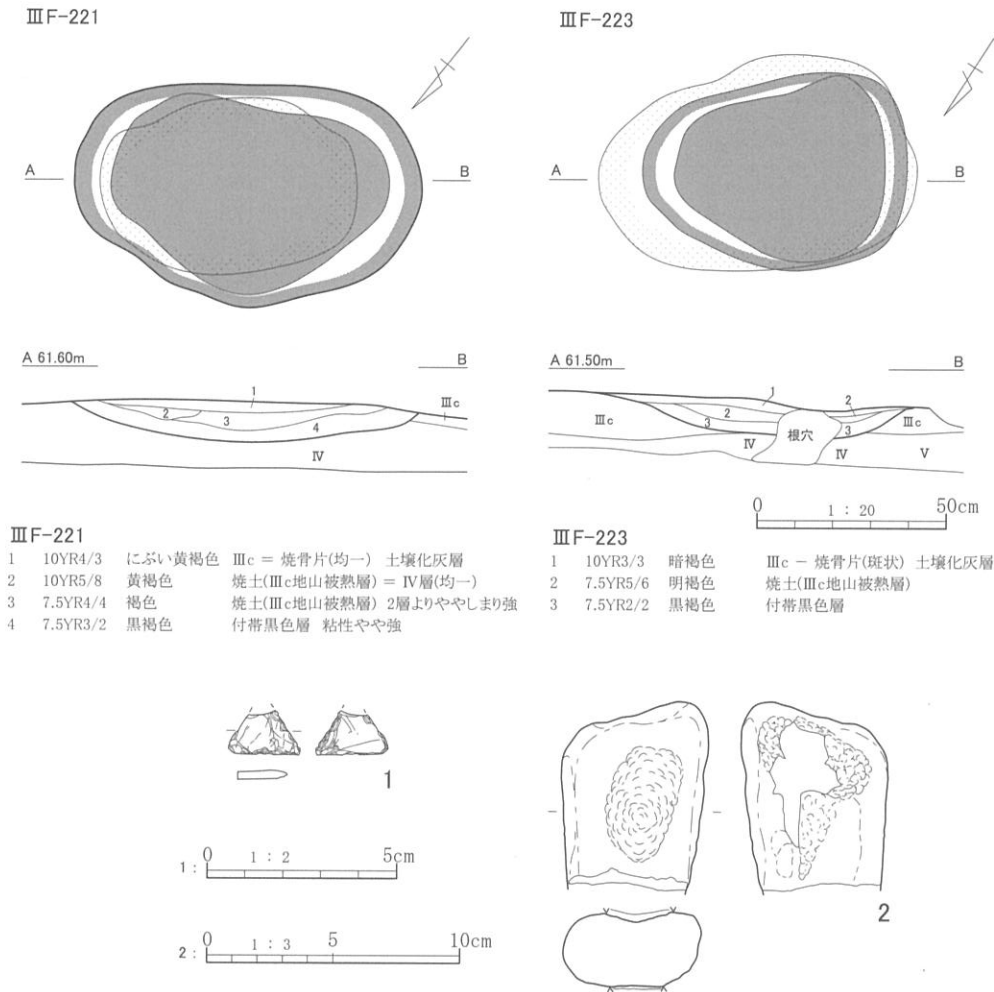
焼土(図IV-21)：ⅢF-221は長さ92cm、焼土層の厚さ5cmの規模を測る。ⅢF-223は長さ72cm、焼土層の厚さ4cmの規模を測る。共に燃焼面が浅く窪み、上位に焼骨片の混入したⅢcが堆積している。土壌サンプルからはシカを主体とする骨を多量に得ている。炭化種子はブドウ科やクルミ属の種子を得ることができた。

焼骨片集中(図IV-20)：ⅢBB-33は316×254cm、ⅢBB-35は136×84cm、ⅢBB-39は156×146cmの

集中区 51



図IV-20 集中区 51 平面図



III F-221
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 IIIc = 焼骨片(均一) 土壌化灰層
 2 10YR5/8 黄褐色 焼土(IIIc地山被熱層) = IV層(均一)
 3 7.5YR4/4 褐色 焼土(IIIc地山被熱層) 2層よりややしまり強
 4 7.5YR3/2 黒褐色 付帯黒色層 粘性やや強

III F-223
 1 10YR3/3 暗褐色 IIIc = 焼骨片(斑状) 土壌化灰層
 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土(IIIc地山被熱層)
 3 7.5YR2/2 黒褐色 付帯黒色層

図IV-21 集中区 51 関連遺構及び出土遺物

表IV-27 集中区51焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-20	54-1・2	III F-221	W-39	IIIc	楕円形	92	60	10	骨	
IV-20	54-3・4	III F-223	W-40	IIIc	楕円形	72	58	9	骨	

表IV-28 集中区51焼骨片集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
IV-20	—	III BB-33	V-39 W-39・40	IIIbL	不整形	316	254	—	被熱	III F-221・223	
IV-20	—	III BB-35	W-39	IIIbL	長楕円	136	84	—	被熱	—	
IV-20	—	III BB-39	W-39	IIIbL	不整形	156	146	—	被熱	—	

表IV-29 集中区51炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		備考
						長軸	短軸	
IV-20	—	III CB-90	V-40	IIIbL	不整形	112	56	

表IV-30 集中区51出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-21-1	136-2-3	—	74974	ポイント類	C	IIIc	IIIFCB-12	W-40	11.7	19.0	2.2	0.6	Sch.	
IV-21-2	136-2-4	—	73814	たたき石	IV	IIIbL	IIIFCB-09	W-39	(89.9)	75.1	47.1	170.0	Sa.	
—	—	—	98393	ポイント類	A2	III	IIIF-223	W-39	(15.0)	18.2	1.4	0.7	Obs.	FLT
—	—	—	78114	ポイント類	A2	IIIc	IIIFCB-09	W-39	(8.4)	17.5	3.9	0.4	Obs.	
—	—	—	74973	ポイント類	A5	IIIc	IIIFCB-12	W-40	(16.8)	14.4	3.5	0.7	Sch.	
—	—	—	74990	ポイント類	C	IIIc	IIIFCB-12	W-40	(14.3)	14.0	2.4	0.4	Sch.	
—	—	—	78084	ポイント類	C	IIIc	IIIFCB-12	W-40	(12.0)	18.2	2.8	0.6	Sch.	
—	—	—	75581	RF・UF	B1	IIIbL	IIIFCB-09	W-39	(8.5)	5.9	1.7	0.1	Obs.	
—	—	—	78069	RF・UF	B3b	IIIc	IIIFCB-12	W-40	(17.2)	13.0	5.7	1.4	Obs.	
—	—	—	73743	RF・UF	—	IIIbL	IIIFCB-09	W-39	(13.8)	11.2	1.3	0.4	Sch.	
—	—	—	73803	たたき石	IV	IIIbL	IIIFCB-09	W-40	(33.4)	60.1	50.1	440.0	Sa.	

規模を測る。いずれもIIIbLで検出しているが、本来IIIc層中に形成された焼骨片が浮遊し拡散したものと考えられる。またIIIbL-33はIIIF-221・223と重なることから、焼土に伴う焼骨片が浮遊したものと考えられる。土壌サンプルからはシカを主体とする骨が得られた。

炭化物集中(図IV-20)：IIIbL-90は112×56cmの規模を測る炭化物集中で、検出はIIIbLである。この場所は擦文文化期の集中区39と重なっているが、集中区39に関連する遺構群の中心からは外れていたため、続縄文時代の炭化物集中が浮遊したものと考えた。土壌サンプルからはクルミ属の種子を中心に炭化種子が僅かに得られた。

フレイク・チップ集中(図IV-20)：IIIbL-09はIIIF-221の北側に隣接して出土した。106×70cmの範囲から332点が出土し、この内309点が黒曜石であった。IIIbL-11はIIIbL-90の南東で出土した。80×70cmの範囲から1,088点が出土し、この内986点が黒曜石であった。IIIbL-12はIIIF-223の西側を中心に出土した。172×116cmの範囲から221点が出土し、この内134点が黒曜石だが、片岩も48点含まれていた。

出土遺物(図IV-21)：1は片岩製の石鏃。2はたたき石で敲打面が窪む。

集中区52 (図IV-22・23 カラー図版4-2)

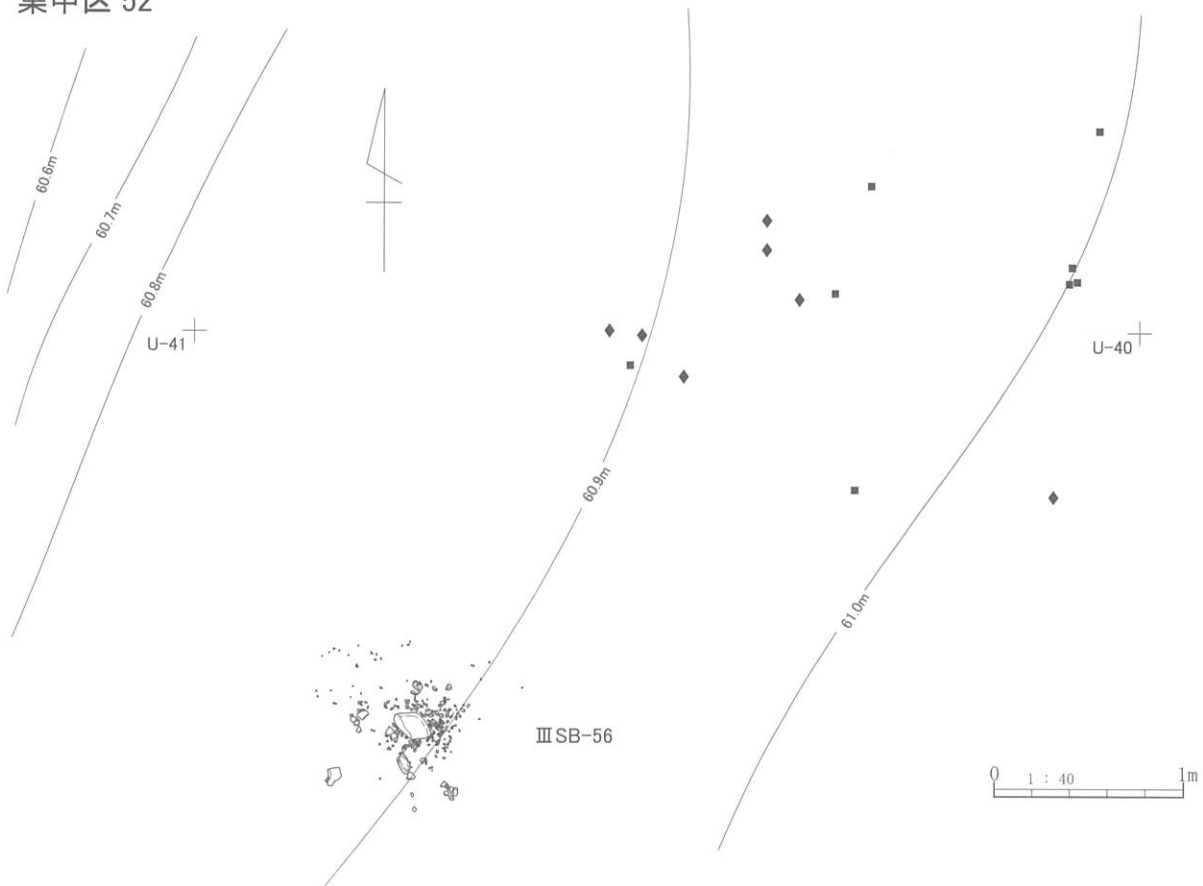
位置：U-40区 規模：102×60cm

関連遺構：礫集中 IIIbL-56

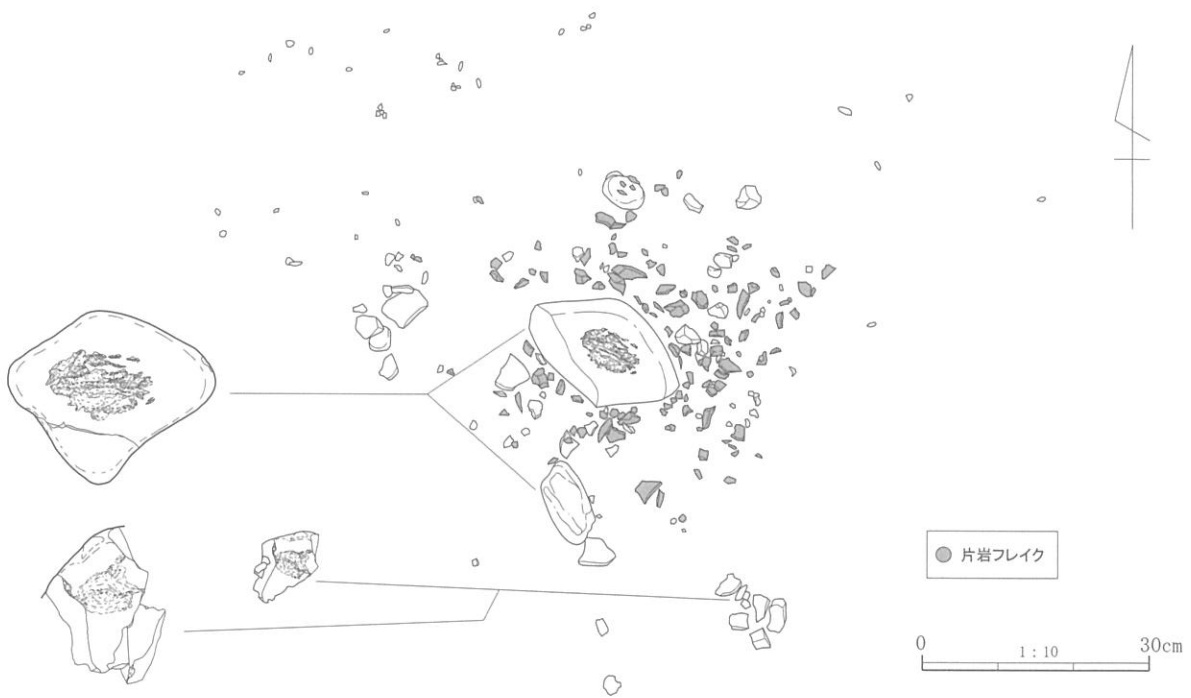
確認・調査：U-40区を調査中、下底面がIIIcMに位置する台石と共に、多数の片岩片が出土した。出土位置はT₂西側の段丘崖に近い場所にあたる。出土状態から石器製作に関わる遺構と想定したため、精査して全体を検出した上で撮影を行った。また平面図についてはデジタル写真実測を委託した。周囲からは焼土等他の遺構は検出できなかった。

礫集中(図IV-23)：IIIbL-56は2に図示した線状の敲打痕が形成された台石を中心に、その周囲に多数の片岩片が散乱して出土した礫集中である。台石の南側では同じく線状の敲打痕が形成されたたたき石も出土している。こうした出土状態から本礫集中は、片岩の棒状もしくは板状素材を2の台石の上に置き、1のたたき石を用いて両極打法による剥離で、片岩製石鏃製作のための剥片を採取した場所と想定した。

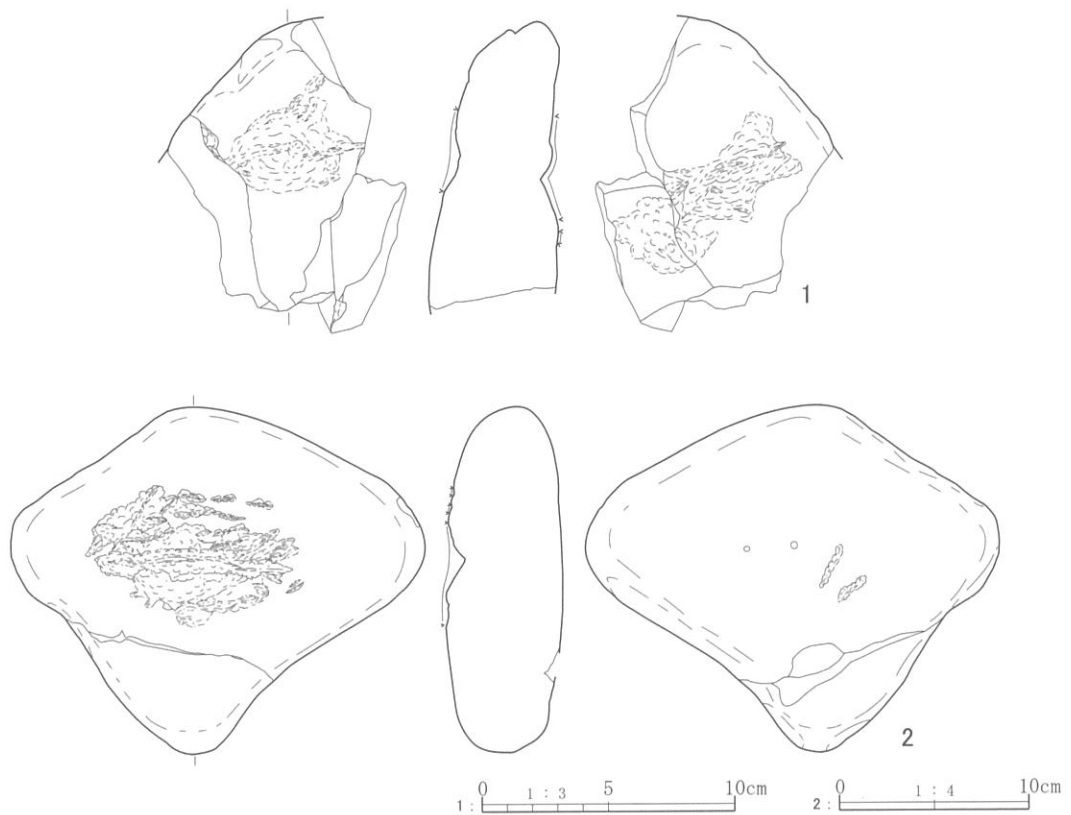
集中区 52



III SB-56



図IV-22 集中区 52 平面図及び関連遺構



図IV-23 集中区 52 出土遺物

表IV-31 集中区52出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-23-1	136-3-5	ⅢST0073	81577	たたき石	IV	ⅢcM	ⅢSB-56	U-40	(124.0)	(94.0)	51.0	600.0	Sa.	
IV-23-2	136-3-6	ⅢST0058	81565	台石	II	ⅢcM	ⅢSB-56	U-40	182.0	219.0	62.0	2600.0	Sa.	

集中区 53 (図IV-24・25 図版 54-5・6)

位置 : AC~AE-21・22 区 規模 : 1,035×950cm

関連遺構 : 焼土 ⅢF-178 焼骨片集中 ⅢBB-35 土器集中 ⅢPB-18

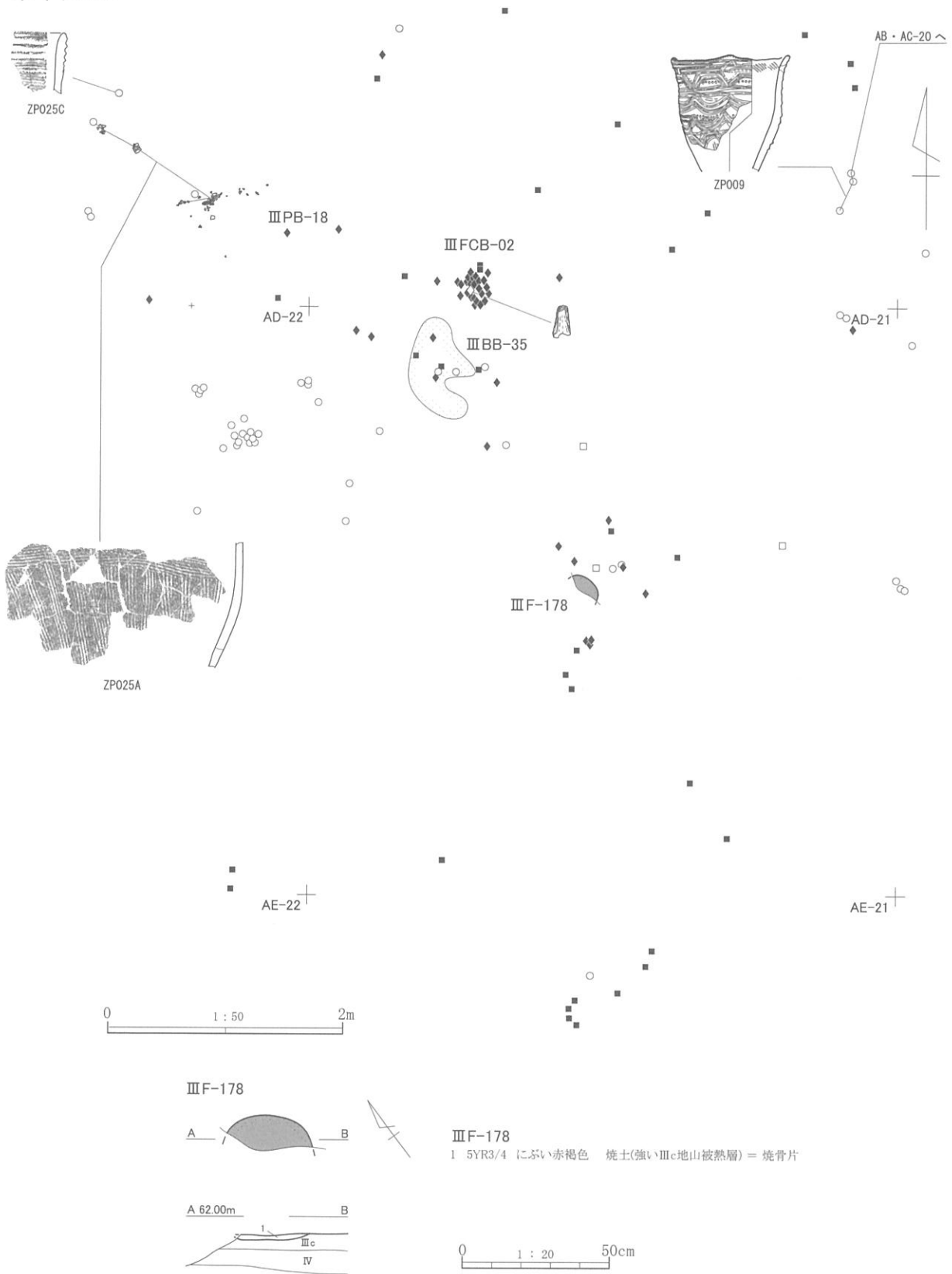
フレイク・チップ集中 ⅢFCB-02

確認・調査 : AC-22 区のⅢb 層において擦文文化期の土器集中ⅢPB-17 (須恵器) を検出した際、その下位から続縄文土器片がまとまって出土した。ⅢPB-18 として設定し、出土状態の記録を作成し調査を終了した。その後周囲のⅢc 層調査に着手した際、ⅢPB-18 検出位置の南側から焼土 1 ヶ所と焼骨片集中 1 ヶ所、フレイク・チップ集中 1 ヶ所を検出した。個別に記録を作成し、焼土、焼骨片集中に関しては土壤サンプルを回収して調査を終了した。集中区の設定は報告書作成時に行った。

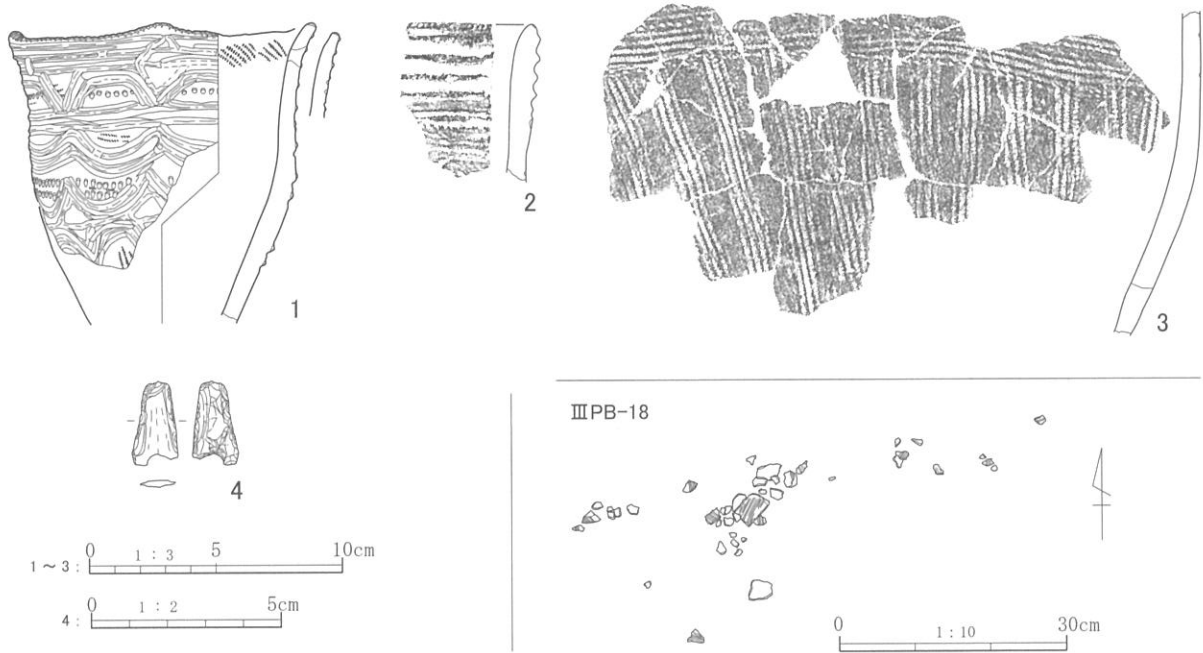
焼土(図IV-24) : ⅢF-178 は確認が遅れたため南西側半分を削平している。残存部分で長さ 30cm、焼土層の厚さは 2cm を測る。上位に焼骨片が少量認められ、土壤サンプルからは哺乳綱の骨が得られた。

焼骨片集中(図IV-24) : ⅢBB-35 は 90×55cm の範囲で不整形に広がった焼骨片集中である。土壤サンプル中の骨は哺乳綱を主体とし、僅かに魚骨を含んでいた。

集中区 53



図IV-24 集中区 53 平面図及び関連遺構



図IV-25 集中区 53 出土遺物

表IV-32 集中区53焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-24	54-5	III F-178	AD-21	III cM	楕円形?	(30)	12	2	骨	

表IV-33 集中区53焼骨片集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
IV-24	-	III BB-35	AD-22	III bU	不整形	90	55	-	被熱	III FCB-02	

表IV-34 集中区53出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等	文様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口唇/文様帯-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面		
IV-25-1	136-1-1	ZP009	VIC3	57087/AB-20/III c・55432,57100他6点/AC-20/III c・58998他2点/AC-21/III cM	口縁～胴部下半	小突起(4ヶ所)・外反-隅丸角状・やや外傾/直立(上半)・外傾(下半)	斜位刻み/RL横走縄文・隆起線文(水平・弧状・V字状構成)+沈線文・円形刺突文-RL斜行縄文/RL縦走帯縄文	砂粒微量混入	補修孔有、隆起線文剥落面でRL縄文
IV-25-2	136-1-2	ZP025C	VIC3	56857/III PB-18/III c・55072/AC-22/III c	口縁部	平縁・やや外反-尖状	刺突文/隆起線文(水平構成)・刺突文	砂粒少量混入	口縁部内面横ナデ調整痕有
IV-25-3	136-1-3	ZP025A	VIC3	56606他3点/III PB-18/III bM・56823他8点/III PB-18/III c・55073他3点/AC-22/III c・58992他1点/AC-22/III cM	胴部上半～下半	直立(上半)・外傾(下半)	RL横走帯縄文・刺突文/RL縦走帯縄文	砂粒少量混入	

表IV-35 集中区53出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-25-4	136-4-4	—	60757	ポイント類	C	IIIcM	IIIFCB-02	AC-21	22.4	11.9	1.8	0.5	Sch.	
—	136-4-5	—	58990	たたき石	IV	IIIcM	—	AC-21	(56.0)	(69.0)	43.0	180.0	Sa.	
—	136-4-6	—	60574	台石		IIIcM	—	AD-21	(168.0)	(97.0)	49.0	4700.0	Sa.	

土器集中(図IV-25) : IIIPB-18 は 63×20cm の範囲で 76 点の土器片が出土した土器集中である。ZP025 個体片で構成されていた。擦文文化期の土器集中III PB-17 (須恵器 図III-75-1・2 図版 48-1・2) の下位に黒色土の間層を挟んで出土した。

フレイク・チップ集中(図IV-24) : IIIFCB-02 はIII BB-35 の北側に隣接して出土した。40×33cm の範囲で 74 点が出土し、すべてが片岩であった。

出土遺物 (図IV-25) : 1 はVIC3 類の小型の深鉢形土器である。器形は倒釣鐘形である。4 個の小突起をもつもので、突起部の器壁は肥厚している。口唇の断面形は隅丸角状である。文様は突起部口唇には縦位に、その他は斜位に刻みを施す。口唇直下に 3 条、胴部上半のくびれに 2 条、胴部下半に 1 条横位の隆起線文を施している (A)。この横位に区画された中に V 字状、円弧状、菱形状に隆起線文を施している (B)。この中に、さらに先が細くて丸い工具で下から上方向への刺突列を施文している。文様帯内には RL の横走縄文が施されている (C)。胴部下半には RL の縦走帯縄文が施されている (D)。施文順序は D→C→A→B である。隆起線文の剥落部で縄文が確認できる。2・3 は VIC3 類の同一個体である。2 は口縁部片で、口唇断面形は尖り状である。器面が風化で摩耗しており不明瞭であるが、口唇に横からの刺突で刻みを施しているようだ。口縁部に隆起線文を 4 条施し、その下位に沈線文が施されている。更に下位に刺突列が 2 条施されているが、施文工具は異なり、上位は半截竹管状の工具で、下位は先端が細く丸い工具で横方向から施文している。3 は胴部片で、文様帯には横走する帯縄文が施され、間の無文帯に刺突列を施している。4 は片岩製石鏃で、尖頭部は作り出されていないことから未製品の可能性がある。

集中区 54 (図IV-26 図版 55-6・7)

位置 : P・Q-41・42 区 規模 : 975×565cm

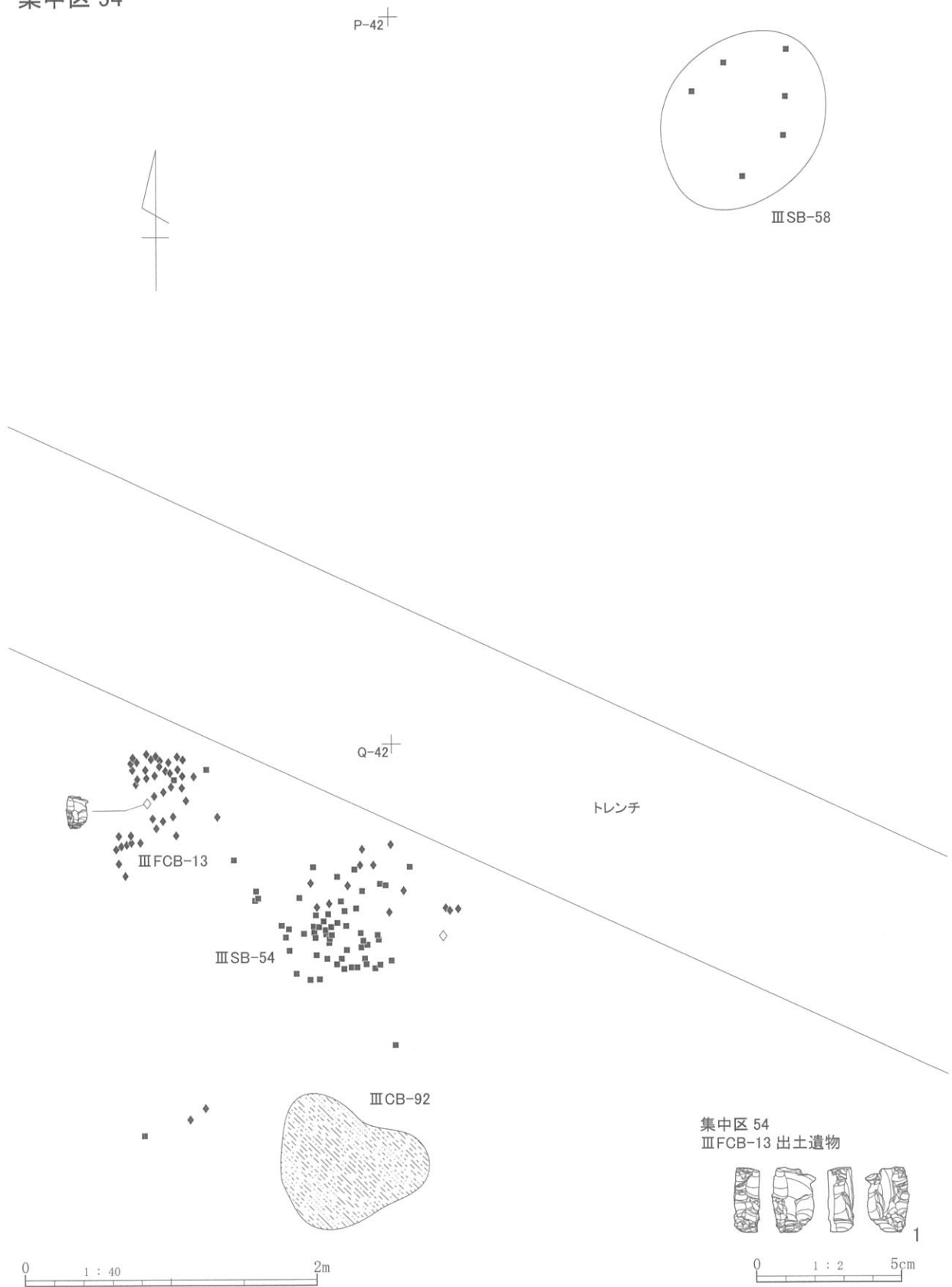
関連遺構 : 炭化物集中 III CB-92 礫集中 III SB-54・58 フレイク・チップ集中 III FCB-13

確認・調査 : T₁-T₂ 段丘崖裾にあたる P・Q-41・42 区の IIIc 層調査中、被熱した小礫の集中 1 ヲ所 (III SB-54)、フレイク・チップ集中 1 ヲ所 (III FCB-13)、炭化物集中 1 ヲ所 (III CB-92) を検出した。またこれら遺構の北側 5m の位置でも III SB-54 と同様の被熱小礫の集中が出土した (III SB-58)。周囲から土器は出土していないものの、近接する擦文文化期の鉄器生産関連遺物集中 III IPB-02 の検出層位より明らかに下位から出土し、層位が IIIcM にあたることから、続縄文時代の遺物群と判断した。なお III SB-58 については遺物の出土範囲のみを記録し、個々の礫の位置は記録せずに取り上げている。集中区としての設定は報告書作成段階に行った。

炭化物集中(図IV-26) : III CB-92 は 108×80cm の規模を測る不整形の炭化物集中である。含まれる炭化物は炭化材が主体で、土壌サンプルから炭化種子を得ることはできなかった。

礫集中(図IV-26) : III SB-54・58 共に長さ 20~30mm 前後の被熱した小礫で構成される礫集中である。III SB-54 では 120×84cm の範囲で 67 点、III SB-58 では 127×108cm の範囲で 536 点の小礫が出土し

集中区 54



図IV-26 集中区 54 平面図及び出土遺物

た。小礫と共に炭化物が僅かに出土しているが、周囲で同時期の焼土は形成されていないことから、これらは他の地点の焼土より廃棄されたと思われる。

フレイク・チップ集中(図IV-26)：ⅢFCB-13では90×60cmの範囲で67点が出土した。材質登録できたものはすべて黒曜石製であった。

出土遺物(図IV-26)：1は上下両面が平坦な面である。この面からそれぞれ階段状の剥離痕が残されており、両極剥離技法の石核と思われる。

表IV-36 集中区54炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
IV-26	-	ⅢCB-92	Q-41	ⅢcM	不整形	108	80	

表IV-37 ⅢFCB-13出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-26-1	136-5-1	-	77326	石核	-	ⅢcM	ⅢFCB-13	Q-41	22.2	14.1	8.2	2.9	Obs.	

表IV-38 ⅢSB-54属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	77350	ⅢbL	完形	24.4	-10.0	21.6	1.8	6.8	-2.1	1.1	-0.8	3.7	○	Sa.	
-	-	-	77438	ⅢbL	完形	26.5	-7.9	19.8	0.0	12.3	3.4	1.3	-0.6	5.4	○	Sa.	
-	-	-	77351	ⅢbL	完形	24.9	-9.5	17.2	-2.6	8.8	-0.1	1.4	-0.5	5.2	○	Sa.	
-	-	-	77360	ⅢbL	完形	24.9	-9.5	17.9	-1.9	5.3	-3.6	1.4	-0.5	3.4	○	Sa.	
-	-	-	77361	ⅢbL	完形	25.6	-8.8	15.7	-4.1	11.2	2.3	1.6	-0.3	5.3	○	Sa.	
-	-	-	77444	ⅢbL	完形	24.9	-9.5	12.8	-7.0	8.6	-0.3	1.9	0.0	4.2	-	Sa.	
-	-	-	77437	ⅢbL	完形	27.8	-6.6	17.0	-2.8	14.8	5.9	1.6	-0.3	9.9	○	Sa.	
-	-	-	77382	ⅢbL	完形	27.3	-7.1	19.5	-0.3	4.9	-4.0	1.4	-0.5	3.6	-	Sa.	
-	-	-	77384	ⅢbL	完形	27.8	-6.6	11.8	-8.0	4.7	-4.2	2.4	0.5	1.8	-	Sa.	
-	-	-	77356	ⅢbL	完形	28.4	-6.0	15.3	-4.5	8.1	-0.8	1.9	0.0	4.1	○	Sa.	
-	-	-	77368	ⅢbL	完形	30.4	-4.0	17.5	-2.3	6.5	-2.4	1.7	-0.2	4.8	○	Sa.	
-	-	-	77375	ⅢbL	完形	30.1	-4.3	22.0	2.2	9.2	0.3	1.4	-0.5	7.8	○	Sa.	
-	-	-	77385	ⅢbL	完形	30.0	-4.4	20.6	0.8	6.4	-2.5	1.5	-0.4	3.4	-	Sa.	
-	-	-	77433	ⅢbL	完形	29.9	-4.5	19.0	-0.8	4.9	-4.0	1.6	-0.3	3.1	○	Sa.	
-	-	-	77354	ⅢbL	完形	30.9	-3.5	23.1	3.3	5.9	-3.0	1.3	-0.6	5.7	○	Sa.	
-	-	-	77297	ⅢbL	完形	30.2	-4.2	18.5	-1.3	7.0	-1.9	1.6	-0.3	5.3	○	Sa.	
-	-	-	77360	ⅢbL	完形	31.2	-3.2	20.1	0.3	5.4	-3.5	1.6	-0.3	4.7	-	Sa.	
-	-	-	77380	ⅢbL	完形	31.7	-2.7	22.7	2.9	6.4	-2.5	1.4	-0.5	8.0	○	Sa.	
-	-	-	77435	ⅢbL	完形	33.8	-0.6	16.4	-3.4	11.2	2.3	2.1	0.2	8.4	○	Sa.	
-	-	-	77349	ⅢbL	完形	33.0	-1.4	21.9	2.1	4.4	-4.5	1.5	-0.4	5.3	○	Sa.	
-	-	-	77355	ⅢbL	完形	34.8	0.4	15.2	-4.6	6.7	-2.2	2.3	0.4	5.0	○	Sa.	
-	-	-	77376	ⅢbL	完形	36.7	2.3	20.3	0.5	11.4	2.5	1.8	-0.1	11.6	-	Sa.	他1点
-	-	-	77377	ⅢbL	完形	38.2	3.8	20.5	0.7	9.4	0.5	1.9	0.0	8.7	○	Sa.	
-	-	-	77440	ⅢbL	完形	37.5	3.1	13.0	-6.8	8.4	-0.5	2.9	1.0	3.8	-	Sa.	
-	-	-	77386	ⅢbL	完形	37.9	3.5	21.8	2.0	7.1	-1.8	1.7	-0.2	9.3	-	Mud.	
-	-	-	77358	ⅢbL	完形	38.0	3.6	14.7	-5.1	6.5	-2.4	2.6	0.7	5.1	-	Sa.	
-	-	-	77367	ⅢbL	完形	41.4	7.0	15.9	-3.9	10.7	1.8	2.6	0.7	7.4	-	Sa.	
-	-	-	77369	ⅢbL	完形	41.1	6.7	13.7	-6.1	13.3	4.4	3.0	1.1	11.7	○	Sa.	
-	-	-	77347	ⅢbL	完形	41.4	7.0	21.1	1.3	15.3	6.4	2.0	0.1	16.5	-	Sa.	
-	-	-	77371	ⅢbL	完形	42.6	8.2	22.5	2.7	15.3	6.4	1.9	0.0	20.8	-	Sa.	
-	-	-	77294	ⅢbL	完形	42.4	8.0	37.7	17.9	13.0	4.1	1.1	-0.8	19.1	-	Sa.	
-	-	-	77352	ⅢbL	完形	45.5	11.1	22.8	3.0	7.2	-1.7	2.0	0.1	8.6	-	Sa.	
-	-	-	77353	ⅢbL	完形	45.2	10.8	43.7	23.9	16.8	7.9	1.0	-0.9	44.1	○	Sa.	
-	-	-	77378	ⅢbL	完形	50.7	16.3	14.8	-5.0	5.3	-3.6	3.4	1.5	6.1	○	Sa.	
-	-	-	77436	ⅢbL	完形	55.5	21.1	12.3	-7.5	8.1	-0.8	4.5	2.6	6.3	○	Mud.	
-	-	-	77370	ⅢbL	完形	64.3	29.9	48.8	29.0	14.5	5.6	1.3	-0.6	65.0	-	Sa.	

平均 34.4 19.8 8.9 1.9 9.8
 総点数 67点 ※完形 36点

表IV-39 III SB-58属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
—	—	—	12534	IIIcM	完形	13.7	10.3	10.0	6.6	3.2	2.0	1.4	1.1	0.6	○	Sa.	
—	—	—	12535	IIIcM	完形	14.3	10.9	12.7	9.3	6.3	5.1	1.1	0.8	1.3	○	Sa.	
—	—	—	12536	IIIcM	完形	15.3	11.9	14.9	11.5	6.8	5.6	1.0	0.7	1.7	○	Sa.	
—	—	—	12537	IIIcM	完形	16.2	12.8	13.4	10.0	7.7	6.5	1.2	0.9	1.5	○	Sa.	
—	—	—	12538	IIIcM	完形	17.4	14.0	12.8	9.4	4.8	3.6	1.4	1.1	1.2	○	Sa.	
—	—	—	12539	IIIcM	完形	17.7	14.3	14.8	11.4	5.8	4.6	1.2	0.9	1.9	○	Sa.	
—	—	—	12540	IIIcM	完形	17.6	14.2	14.1	10.7	8.2	7.0	1.2	0.9	2.3	○	Sa.	
—	—	—	12541	IIIcM	完形	17.8	14.4	9.9	6.5	6.2	5.0	1.8	1.5	1.1	○	Sa.	
—	—	—	12542	IIIcM	完形	17.8	14.4	9.7	6.3	7.3	6.1	1.8	1.5	1.3	○	Sa.	
—	—	—	12543	IIIcM	完形	17.9	14.5	15.0	11.6	5.0	3.8	1.2	0.9	1.6	○	Sa.	
—	—	—	12544	IIIcM	完形	17.4	14.0	12.7	9.3	7.2	6.0	1.4	1.1	1.9	○	Sa.	
—	—	—	12545	IIIcM	完形	18.1	14.7	11.9	8.5	5.7	4.5	1.5	1.2	1.5	○	Sa.	
—	—	—	12546	IIIcM	完形	18.7	15.3	11.0	7.6	4.6	3.4	1.7	1.4	1.1	○	Sa.	
—	—	—	12547	IIIcM	完形	19.5	16.1	14.8	11.4	4.2	3.0	1.3	1.0	1.6	○	Sa.	
—	—	—	12548	IIIcM	完形	18.9	15.5	12.3	8.9	4.8	3.6	1.5	1.2	1.4	○	Sa.	
—	—	—	12549	IIIcM	完形	18.4	15.0	16.7	13.3	4.8	3.6	1.1	0.8	1.7	○	Sa.	
—	—	—	12550	IIIcM	完形	18.9	15.5	18.2	14.8	4.3	3.1	1.0	0.7	1.9	○	Sa.	
—	—	—	12551	IIIcM	完形	18.4	15.0	12.9	9.5	9.7	8.5	1.4	1.1	2.5	○	Sa.	
—	—	—	12552	IIIcM	完形	20.1	16.7	16.6	13.2	5.7	4.5	1.2	0.9	2.0	○	Sa.	
—	—	—	12553	IIIcM	完形	19.1	15.7	18.2	14.8	4.1	2.9	1.1	0.8	1.7	○	Sa.	
—	—	—	12554	IIIcM	完形	19.0	15.6	14.7	11.3	10.5	9.3	1.3	1.0	2.9	○	Sa.	
—	—	—	12555	IIIcM	完形	20.0	16.6	13.8	10.4	2.6	1.4	1.5	1.2	1.0	○	Sa.	
—	—	—	12556	IIIcM	完形	19.1	15.7	15.4	12.0	5.7	4.5	1.2	0.9	2.1	○	Sa.	
—	—	—	12557	IIIcM	完形	19.8	16.4	14.8	11.4	8.4	7.2	1.3	1.0	2.7	○	Sa.	
—	—	—	12558	IIIcM	完形	20.9	17.5	14.8	11.4	9.0	7.8	1.4	1.1	3.4	○	Sa.	
—	—	—	12559	IIIcM	完形	20.4	17.0	13.7	10.3	8.5	7.3	1.5	1.2	2.3	○	Sa.	
—	—	—	12560	IIIcM	完形	21.4	18.0	15.2	11.8	4.6	3.4	1.4	1.1	1.8	○	Sa.	
—	—	—	12561	IIIcM	完形	20.8	17.4	16.6	13.2	5.2	4.0	1.3	1.0	2.1	○	Sa.	
—	—	—	12562	IIIcM	完形	21.5	18.1	18.7	15.3	7.3	6.1	1.1	0.8	3.5	○	Sa.	
—	—	—	12563	IIIcM	完形	21.0	17.6	12.8	9.4	8.1	6.9	1.6	1.3	2.5	○	Sa.	
—	—	—	12564	IIIcM	完形	20.3	16.9	11.2	7.8	7.4	6.2	1.8	1.5	2.1	○	Sa.	
—	—	—	12565	IIIcM	完形	21.7	18.3	10.0	6.6	7.4	6.2	2.2	1.9	2.0	○	Sa.	
—	—	—	12566	IIIcM	完形	22.5	19.1	16.3	12.9	5.1	3.9	1.4	1.1	2.3	○	Sa.	
—	—	—	12567	IIIcM	完形	23.2	19.8	14.4	11.0	9.7	8.5	1.6	1.3	2.8	○	Sa.	
—	—	—	12568	IIIcM	完形	23.3	19.9	12.2	8.8	7.2	6.0	1.9	1.6	2.4	○	Sa.	
—	—	—	12569	IIIcM	完形	23.3	19.9	11.8	8.4	5.0	3.8	2.0	1.7	1.6	○	Sa.	
—	—	—	12570	IIIcM	完形	22.8	19.4	9.4	6.0	6.5	5.3	2.4	2.1	1.9	○	Sa.	
—	—	—	12571	IIIcM	完形	23.6	20.2	16.9	13.5	2.9	1.7	1.4	1.1	1.3	○	Sa.	
—	—	—	12572	IIIcM	完形	24.1	20.7	17.2	13.8	5.9	4.7	1.4	1.1	2.4	○	Sa.	
—	—	—	12573	IIIcM	完形	25.2	21.8	17.1	13.7	5.5	4.3	1.5	1.2	3.0	○	Sa.	
—	—	—	12574	IIIcM	完形	26.7	23.3	16.9	13.5	6.3	5.1	1.6	1.3	2.6	○	Mud.	
—	—	—	12575	IIIcM	完形	25.3	21.9	20.0	16.6	10.1	8.9	1.3	1.0	4.7	○	Sa.	
—	—	—	12576	IIIcM	完形	24.4	21.0	19.6	16.2	10.7	9.5	1.2	0.9	4.3	○	Sa.	
—	—	—	12577	IIIcM	完形	26.6	23.2	19.0	15.6	4.8	3.6	1.4	1.1	3.2	○	Sa.	
—	—	—	12578	IIIcM	完形	26.1	22.7	18.4	15.0	14.2	13.0	1.4	1.1	6.3	—	Sa.	
—	—	—	12579	IIIcM	完形	30.3	26.9	20.1	16.7	7.7	6.5	1.5	1.2	5.5	—	Sa.	
—	—	—	79417	IIIcM	完形	33.0	29.6	28.1	24.7	7.5	6.3	1.2	0.9	8.1	○	Sa.	
—	—	—	79414	IIIcM	完形	34.4	31.0	20.3	16.9	6.4	5.2	1.7	1.4	5.3	○	Mud.	
—	—	—	79418	IIIcM	完形	33.9	30.5	19.3	15.9	7.4	6.2	1.8	1.5	6.9	○	Sa.	
—	—	—	79413	IIIcM	完形	35.2	31.8	16.5	13.1	10.2	9.0	2.1	1.8	4.1	○	Mud.	

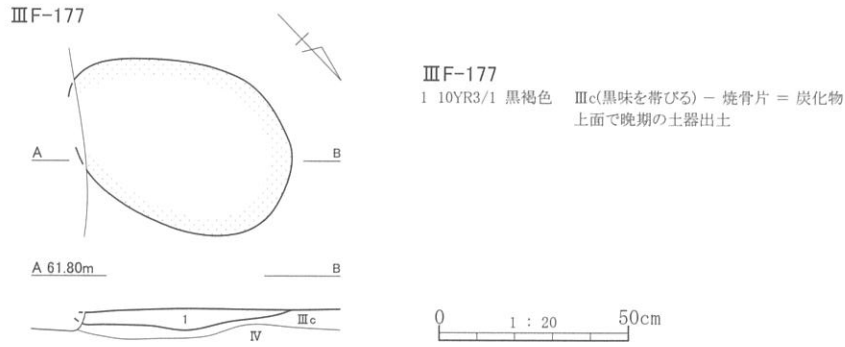
平均 19.6 13.8 6.9 1.7 2.9
 総点数 536点 ※完形 283点

第3節 焼土 (図IV-27 図版 54-7・8)

IIIcM~IIIcL で検出した焼土を本節で扱う。集中区を構成しない焼土は1カ所のみであった。

III F-177

AC-27 区で検出した。明瞭な焼土層は確認できなかったが、焼骨片がレンズ状に堆積していたこ



図IV-27 続縄文時代焼土

表IV-40 続縄文時代焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-27	54-7・8	III F-177	AC-27	III cL	楕円形	64	50	6	骨	縄文晩期？

とから、弱い焼土として判断した。検出層位はIII cLであるため、本章で扱ったが縄文時代晩期の遺構である可能性も高い。周囲で関連する遺物は出土しておらず、土壌サンプルには哺乳綱の骨が多く含まれていた。

第4節 集中遺物

土器集中 (図-28、図版 55-1~3)

土器集中 19 (III PB-19)

位置：AD-19 区 層位：III c 層中位

平面形：楕円形 規模：180×80 cm 出土点数：155 点 (内土器 155 点)

確認・調査：III c 層を調査中に、土器数点がまとまって出土し、それを残して全体的に掘り下げたところ、ほぼ1個体からなる土器のまとまりを確認した。口縁から胴部上半の破片は放射状に広がるような状態で出土しており、それ以外はやや散漫な状態であった。全体を検出したところで撮影を行っている。

出土遺物 (図IV-28)：1・2は同一個体でVI群 C2 類である。深鉢形土器で器形は倒釣鐘形である。4つの小突起をもつ。口唇の断面形は尖状で、底部は上げ底となっている。文様は、口唇に棒状工具で縦に刻みを施している。口縁に3条の擬縄貼付文が横位に施されている (A)。突起下では、3条の擬縄貼付文を挟んで上下にV字状の擬縄貼付文を施し、菱形構成となっている (B)。正面とそれと対向する突起下は、V字状の擬縄貼付文を上2条、下3条施し、もう2カ所は上に1条、下に2条となっている。そして一番下位のV字状の擬縄貼付文を横位の擬縄貼付文で連結している (C)。胴部上半はRLの横走縄文 (D) に沿って、5条の刺突列が並ぶ (E)。この横からの刺突列は押し引き状であるが、一部刺突の方向を変えているが、主に右下から上に施している。胴部下半はRL縦走縄文が隙間なく施されている (F)。施文順番はF→D→E→A→B→Cの順である。胎土は砂粒を少量含み、表面にはクラックが入る。同様の胎土・色調のものは図IV-29-2である。後北B式の古手と思われる。

土器集中 20 (III PB-20)

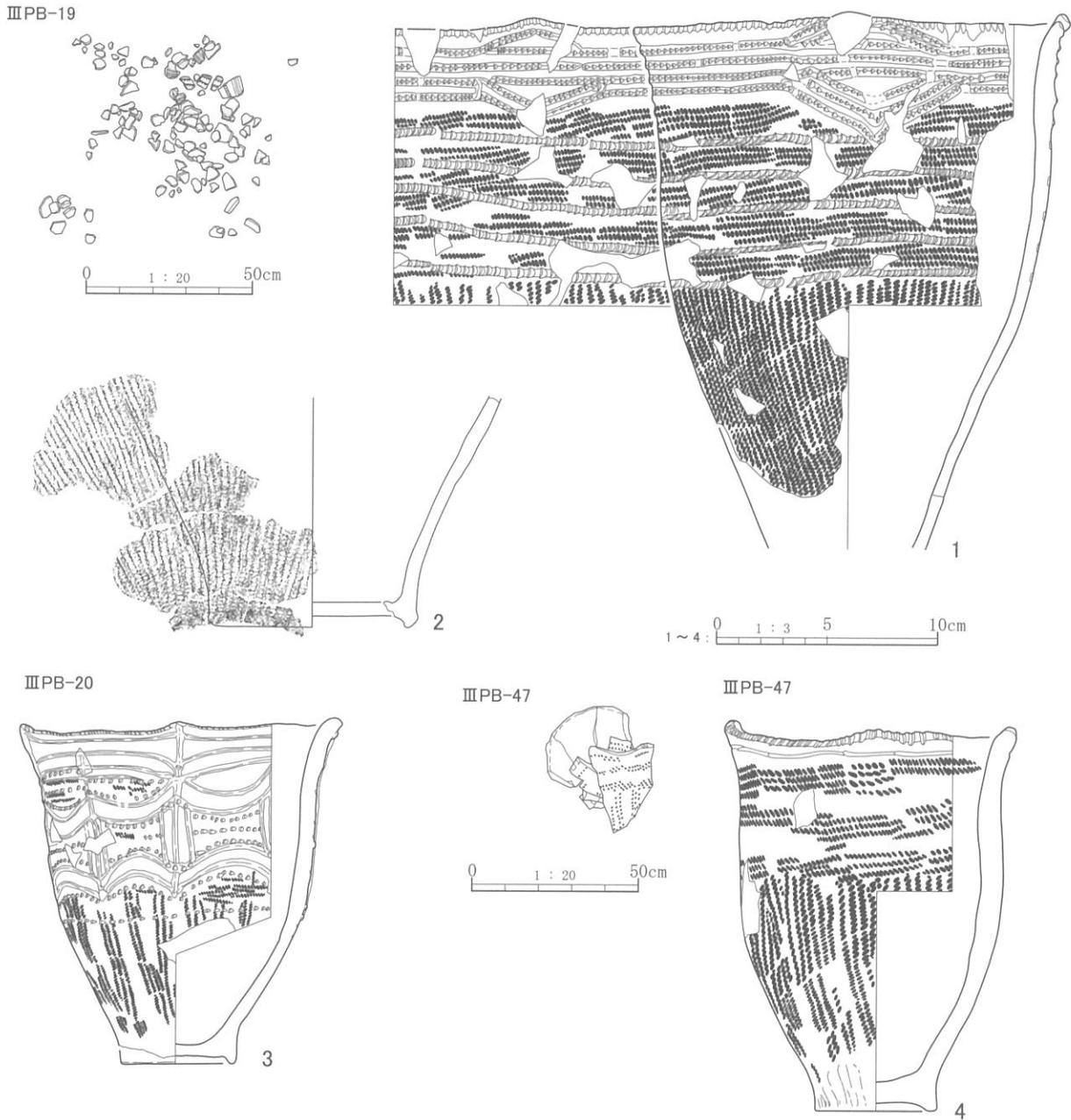
位置：AD-20 区 層位：III c 層
 平面形：不整形 規模：280×100 cm 出土点数：42 点 (内土器 40 点)

確認・調査：III c 層調査中、やや疎らながらも土器のまとまりを確認し、同一個体であることが判り、III PB を付けた。大きな破片毎に散逸し、細かく割れた状況である。

出土遺物 (図IV-28)：3 はVI群 C3 類である。やや小形の深鉢形土器で、器形は倒釣鐘形である。4 つの小突起をもつもので、突起部の器壁は肥厚している。口唇の断面形は尖り状で、底部は上げ底となっている。文様は、口唇部に細く鋭い工具で斜位に刻みを付けている。口唇直下に沿って 1 条隆起線文(A)が巡る。突起部から胴部下半に隆起線文が垂下(B)しており、この隆起線文を 2 条 1 対の隆起線文が弧状に連結する(C)。そしてこの弧状の隆起線文の中間から隆起線文が垂下する(D)。そして計 8 本の垂下する隆起線文間を 2 条 1 対の横位に弧状の隆起線文が 2 ヶ所で連結している(E)。8 本の垂下する隆起線文の両脇に縦位の短い隆起線文を施して、2 ヶ所の横位弧状の隆起線文間を連結している(F)。この文様帯の中に RL 横走縄文(G)と刺突列(H)が施されている。胴部下半に 3~4 条が 1 単位の縦走する帯縄文(I)が施される。施文順序は I→G→B→A・C→D→F→H の順である。後北 C₁ 式土器である。

表IV-41 続縄文時代土器集中出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号 /調査区 /層位	部位	器形等	文 様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇/文様帯-内面 /胴部-内面 /底側面-底面-内面		
IV-28-1	137-1	ZP016A	VIC2	57311他78点 /III PB-19/III cM・57431他6 点/III PB-19/ III c	口縁 ~ 胴部 下半	小突起(4ヶ所)・外反-尖状/直立(上半)・外傾(下半)	縦位刻み/RL横走縄文・押引状刺突文・擬縄貼付文(水平・菱形状構成)	砂粒少量・石英(1mm以上)微量混入	口縁部内面横ナデ調整痕有
IV-28-2	137-2	ZP016B	VIC2	57359他7点/ III PB-19/III cM	胴部 下半 ~ 底部	外傾/張り出し-角状-上げ底	RL縦走縄文	砂粒混入	
IV-28-3	137-3	ZP011	VIC3	56991他26点 /III PB-20 /III c	口縁 ~ 底部	小突起(4ヶ所)・外反-尖状/直立(上半)・外傾(下半)/外反-角状-上げ底	斜位刻み/RL横走縄文・擬縄貼付文(水平・垂直・弧状構成+縦位連結)/RL縦走帯縄文	砂粒微量混入	
IV-28-4	137-4	ZP010A	VIC2	71359他8点/ III PB-47/III c	口縁 ~ 底部	小突起(4ヶ所)・外反-丸状/直立(上半)・外傾(下半)/外反-角状-上げ底	斜位刻み/RL横走帯縄文・横走沈線/RL縦走帯縄文	砂粒微量混入	底側面縦ヘラナデ調整痕顕著



図IV-28 続縄文時代土器集中

土器集中 47 (III PB-47)

位置：AE-19 区

層位：IIIc 層

平面形：円形

規模：12×12 cm

出土点数：9 点 (内土器 9 点)

確認・調査 IIIc 層調査終了後、IV層 (Ta-c) 上面で風倒木痕を確認していた。この発掘区は下位のV層を 25%調査するために、先行して人力でIV層 (Ta-c) を除去していたが、その際風倒木痕のほぼ中央付近の窪みから、横に傾いた状態で完形の土器が出土した。風倒木形成直後の窪みに土器を廃棄した可能性がある。

出土遺物 (図IV-28)：4 はVI群 C2 類の土器である。深鉢形で、器形は倒釣鐘形である。4 つの小突起をもつもので、突起部の器壁は殆ど肥厚しておらず、全体的に厚手である。口唇の断面形は丸形で、底部は上げ底になっている。文様は、口唇に太めの棒状工具でほぼ縦位に刻みを施している。

胴部下半には縦走し、口縁から胴部上半は横走する帯縄文が施されている。原体は 0 段多条の RL である。部分的に節の幅が極端に狭くなる部分が等間隔で観察されるが、これは同一の原体で太さの異なる部分があるためと思われる。胴部下半の底部側面には、指頭による縦ナデの調整痕と、篋状工具による縦ナデの調整痕が顕著である。後北B式土器である。

剥片石器集中 (図IV-29、図版 55-5)

ⅢFTB-01

AH-14 区のⅢc 層中位で、130×70 cmの範囲から 21 点の黒曜石製石鏃が面的に広がって出土している。その内 19 と 20 が接合している。やや下位の面から、図IV-30-1 のVI群 A1 類 b 種土器が出土しているが、周辺からフレイク・チップ等の遺物は出土していない。

全て無茎である。1 は平基で、両側縁はやや外湾している。丁寧な調整加工が施されており、他のものと比較して薄手である。2~16 は平基で、両側縁は外湾している。一次剥離面を大きく残すものや、石鏃等の調整加工に見られる並列する剥離が見られないなど、調整加工は粗い。17~21 は円基で、両側縁は外湾している。20 は破断面に調整加工が施されている。2~21 は厚さや調整加工の粗さから未製品の可能性がある。類例に、距離は遠いが常呂川河口遺跡 (武田他 2007) のピット 1406 で副葬されていた石鏃があり、同じタイプのもが見られる。帰属時期はVIA1 b・VIC2~3・VID2 類土器のいずれかに伴うと思われるが、集中区等でVI群 C2~3 類と伴出しているものとは、同じ無茎であるが幅など形態が大きく異なる。

表IV-42 ⅢFTB-01出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-29-1	138-1	—	59102	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	30.6	17.8	2.4	1.3	Obs.	
IV-29-2	138-2	—	59117	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	27.7	19.0	3.3	1.4	Obs.	
IV-29-3	138-3	—	59118	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	(28.4)	21.2	3.3	1.9	Obs.	
IV-29-4	138-4	—	59120	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	30.8	22.2	3.6	2.2	Obs.	
IV-29-5	138-5	—	59110	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	31.3	21.0	3.0	2.1	Obs.	
IV-29-6	138-6	—	59113	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	(31.4)	21.2	3.3	2.1	Obs.	
IV-29-7	138-7	—	59104	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	32.4	24.9	3.4	3.1	Obs.	
IV-29-8	138-8	—	59107	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	32.6	22.3	3.4	2.3	Obs.	
IV-29-9	138-9	—	59114	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	32.8	21.5	3.7	2.2	Obs.	
IV-29-10	138-10	—	59112	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	33.4	22.9	3.7	2.5	Obs.	
IV-29-11	138-11	—	59105	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	33.7	21.9	3.0	2.3	Obs.	
IV-29-12	138-12	—	59108	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	35.1	23.0	3.7	2.7	Obs.	
IV-29-13	138-13	—	59109	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	36.0	23.7	3.9	3.4	Obs.	
IV-29-14	138-14	—	59106	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	36.4	24.1	3.4	3.1	Obs.	
IV-29-15	138-15	—	59126	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	37.9	23.8	4.0	4.5	Obs.	
IV-29-16	138-16	—	59111	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	38.3	23.8	3.3	3.1	Obs.	
IV-29-17	138-17	—	59103	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	30.7	22.2	4.1	2.5	Obs.	
IV-29-18	138-18	—	59119	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	38.0	26.8	4.7	4.6	Obs.	
IV-29-19	138-19	—	59115	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	(21.7)	23.5	3.6	1.6	Obs.	
IV-29-20	138-20	—	59116	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	(16.7)	24.2	4.1	2.0	Obs.	
IV-29-21	138-21	—	59127	ポイント類	A2	ⅢcM	ⅢFTB-01	AH-14	44.1	24.3	4.2	4.5	Obs.	

ⅢFTB-01



図IV-29 続縄文時代剥片石器集中

第5節 続縄文時代包含層出土遺物

土器 (図IV-30)

包含層、遺構含めて 1,197 点が出土している。内訳は、点数が多い順にVI群 C2 類 630 点、VI群 C3 類 232 点、VI群 B1 類 a 種 206 点、VI群 D2 類 10 点、VI群 C4 類 49 点、VI群 A1 類 b 種 7 点である。VI群 C 類として胴部破片等で細別が不明なもの 81 点、分類不明のもの 22 点である。この出土点数の多寡が土器の個体数を反映していないようなので、土器接合作業時に行った個体識別の個体数を記す。VI群 C2 類 20 個体、VI群 C3 類 3 個体、VI群 C 類 2 個体、VI群 A1 類 b 種・VI群 B1 類 a 種・VI群 C4 類・VI群 D2 類各 1 個体である。個体識別されていない破片の大半はVI群 C 類である。

VI群A1類b種土器 (1)

いわゆる汐見式に相当するもの。1 は口縁が直立するか、やや内湾するものである。口唇は隅丸角状で、R の捺糸を斜位に圧痕して刻みを施している。口縁部には同じく R の捺糸圧痕文を横位に 3 条施し、その下位に波状の捺糸圧痕文を施している。この捺糸圧痕文の間に竹管による円形刺突文を施している。胴部には縦走気味の RL の縄文が施される。

VI群 C2 類土器 (2~15)

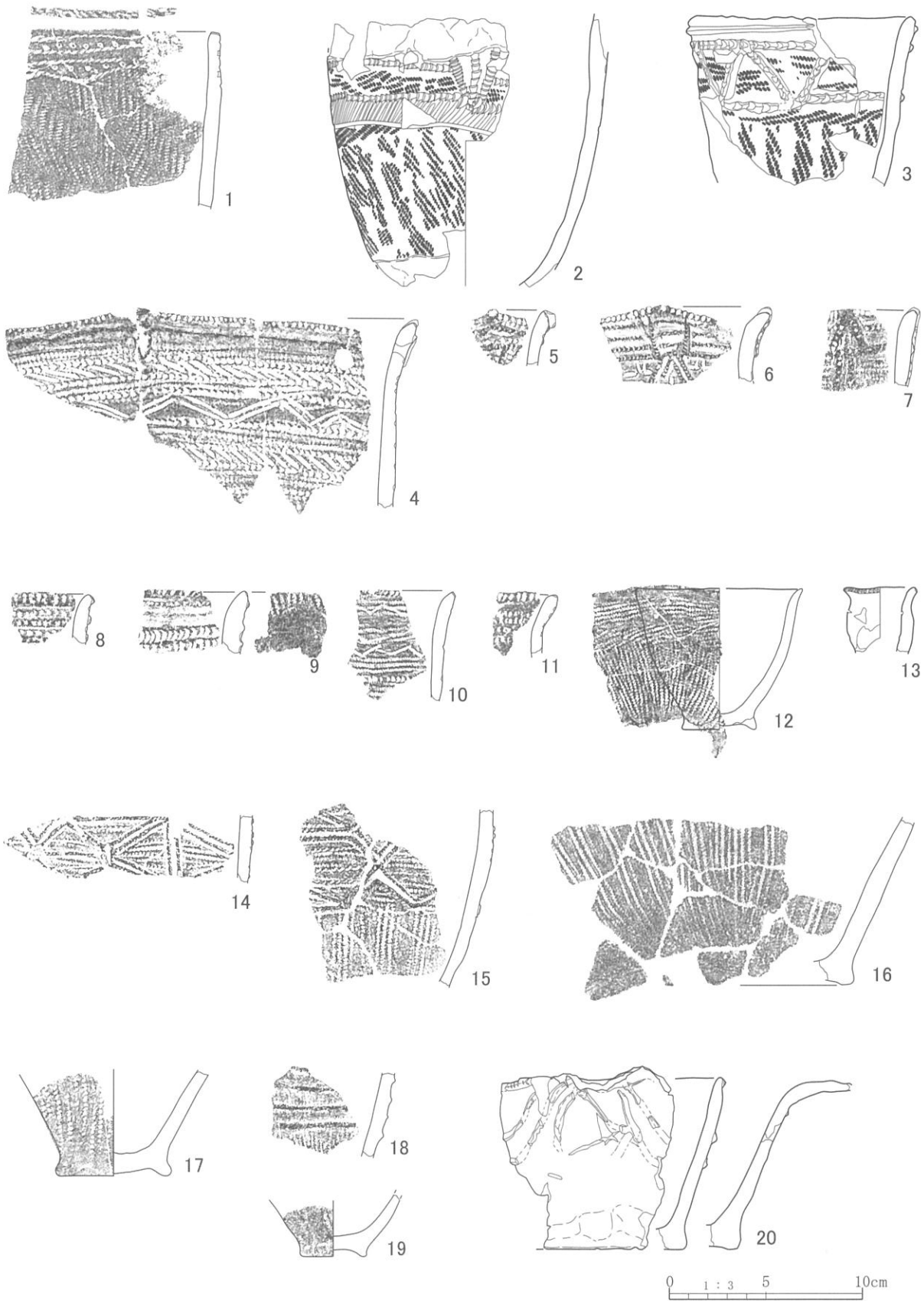
後北B式土器。2 は胴部上半~下半の破片である。押し引き状の刺突文を横位に 2 条、その下位に沈線文を廻らせ、この間に斜位の短刻線文を施している。横位押し引き状刺突文の上から縦位に 3 条の押し引き状に刺突し、その交点の上から横方向の刺突を 2 ヶ所施す。文様帯の地文に RL の横走気味の縄文、胴部下半には縦位の帯縄文が施されている。縄文の条は斜行している。上下部の破損面は粘土帯接合面で綺麗に剥がれている。3 は口縁~胴部上半の破片である。深鉢形土器と思われる。器形は口縁から直線的にすぼまるようである。口唇の断面形は丸形で、刻みや突起は見られない。口唇の直下に隆起線文が 1 条、その下位に擬縄貼付文が 2 条ある。この間に鋸歯状の擬縄貼付文を施している。これに沿って、ナデ調整様の幅の広い沈線文が施されている部分がある。この文様帯内の地文は横走気味の RL 縄文で、胴部には縦位の帯縄文が施されている。縄文の条は斜行している。隆起線文の剥落面で縄文が確認できる。4 は口縁から胴部上半の破片である。深鉢形土器で、器形は倒釣鐘形と思われる。口唇は突起が 1 ヶ所確認され、断面は尖状である。文様は口唇に斜位気味に棒状工具で刻みを施している。口唇直下には隆起線文があり、突起下に V 字状の隆起線文を施している。縄文施文後にナデ調整で無文帯を設けて、それを縁取る 2 条 1 組の列点文と、その間に並行する 2 条の鋸歯状沈線文が施されている。5~9 は擬縄貼付文のあるもので、5~7 は小突起が確認できる。9 は口縁部内面に縦走する RL の縄文が施されている。10・11 は擬縄貼付文が施されていないもの。12 は小形の土器で、口縁から胴部上半に横走する帯縄文、胴部下半に縦走縄文が施されているものである。13 は無文の袖珍土器である。14・15 は同一個体で細い擬縄貼付文を施すもので、多段の菱形構成である。この中に施される刺突文は下から上に刺突されている。2~9 は後北B式(古)土器と思われる。14・15 は後北B式(新)土器と思われる。

VI群 C 類土器 (16・17)

後北式土器の底部である。共に上げ底で、RL の帯縄文が施されている。17 は底部の角がやや強く張り出している。

VI群 D2 類土器 (18・19)

宇津内Ⅱ b 式土器に相当するもの。18・19 は同一個体である。18 は胴部上半の破片で、縦走する



図IV-30 続縄文時代包含層出土遺物 (1)

RL の縄文の上から隆起線文を 4 条施している。隆起線文間に僅かに縦走縄文の痕跡を残している。19 は底部片で、上げ底である。器面の風化が著しく文様等は不鮮明である。胎土は砂粒が多く、質感はザラザラしている。これらは、今回出土している後北式土器と胎土、器内外面の色調等が全く異なっているものであり、また出土点数などから客体的であり搬入品と思われる。

VI群 C4 類土器 (20)

後北C₂式土器の注口もしくは片口土器である。注口の上部は破損している。僅かに口唇部を確認できる部分があり、尖り状になっている。底部は平底か、やや上げ底になるかもしれない。文様は口唇に沿うと見られる隆起線文が施され、刻みが施されている。注口部周辺から広がる隆起線文は、断面が三角形を基調とするが、つぶれている部分もある。また、隆起線文は、器面から剥落している部分が目立つ。胴部下半から底部付近にかけて、指頭による調整痕が残る。器表面に種子様の圧痕、もしくは抜け落ちた跡が見られる。長軸 8 mm、短軸 2 mm程のものである。

剥片石器 (図IV-31)

包含層・遺構を含めてⅢ層から 264 点が出土している。その内の 82 点 (31%) はフレイク・チップ集中から出土した石鏃やその石核である。

ポイント類

石鏃 (1~16)

包含層から 25 点が出土している。細分の内訳は、A2 類 15 点、A3 類 1 点、A4 類 1 点、A5 類 8 点である。1~10 は A2 類である。1~3・8 は基部が直線的な平基であるが、形態や調整加工等にバリエーションがある。1 は非常に小形のもので、調整加工は粗い。2 は正三角形を呈する。3 は A5 類に見られるような二等辺三角形で、両面に大きく一次剥離面を残し、周縁のみに調整を行うものである。4~7・9・10 は凹基である。11 は A3 類である。12 は A4 類である。13~16 は A5 類で、片岩製の石鏃である。基部は平基か、凹基である。すべて周縁にのみ調整加工を施すものである。石材は図示した 5 がメノウ、13~16 は片岩、その他はすべて黒曜石である。

石錐 (17)

包含層からは図示した 1 点のみの出土である。17 は A 類で剥片の一部に機能部を作出したものである。機能部は摩滅が著しい。

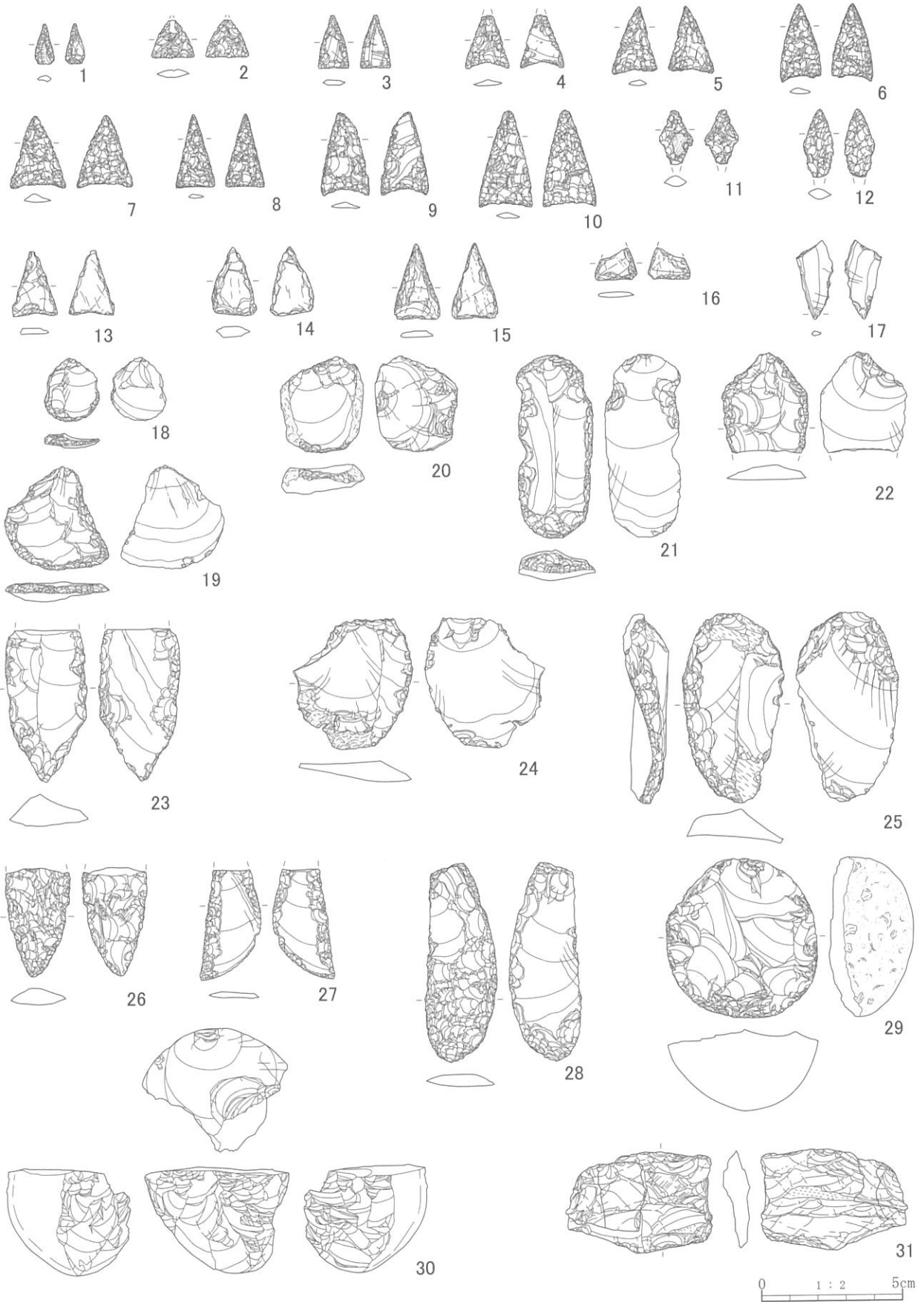
ナイフ・スクレイパー類

スクレイパー類 (18~25)

包含層から 30 点出土している。内訳は B1 類 7 点、B2 類 5 点、C1 類 18 点である。18・19 は B1 類ラウンド・スクレイパーである。周縁の半分以上に刃部を持つものをここに含めた。18 は小形のものである。20・21 は B2 類エンド・スクレイパーである。刃部の平面形は 20 が直線的で、21 は円状である。20 は円礫面を大きく残す。22~25 は C1 類サイド・スクレイパーである。25 は急角度な刃部を持つ。石材は図示した 21 が頁岩、23 がメノウ質頁岩で他に頁岩が 1 点ある他は、すべて黒曜石である。

ナイフ状石器 (26~28)

包含層から 3 点出土しており、すべて図示した。26・27 は上部が欠損している。27 は非常に薄く、石材が半透明の黒曜石であり、裏が透けて見える。刃部も両面から調整が施されており、非常に薄くなっている。28 は柄付きナイフで、柄部の正面右側縁は階段状の細かな剥離が密集し、潰れてい



図IV-31 続縄文時代包含層出土遺物(2)

る。石材はすべて黒曜石製である。

石核 (29~31)

包含層から 13 点出土している。その内の 9 点は 31 を含めた、片岩製石鏃の石核である。29 は円礫を半割し、その周縁を打面としている。30 は円礫を半割し、その面を打面として剥離を行っている。31 は 3 点が接合（転礫面）したものである。上下両端に微細な剥離が見られるものである。石材は片岩 9 点、黒曜石 4 点である。

礫石器 (図IV-32)

IIIc 層から出土したものをここで扱う。IIIb 層から明らかに続縄文時代のものと見なされるものが出土しているが、ここでは扱っていない。包含層・遺構等集中区出土のものを含めて 120 点が出土しており、接合後 98 点となった。

石斧 (1)

包含層から 3 点出土しているが、いずれも破片であり、刃部形状等わかるものはない。1 は全面に粗割り時の剥離を残す。両側面と刃部周辺にのみ研磨面を残す。欠損面角は加工が施されている。石材は緑色泥岩 2 点、青色片岩 1 点である。

たたき石 (2・3)

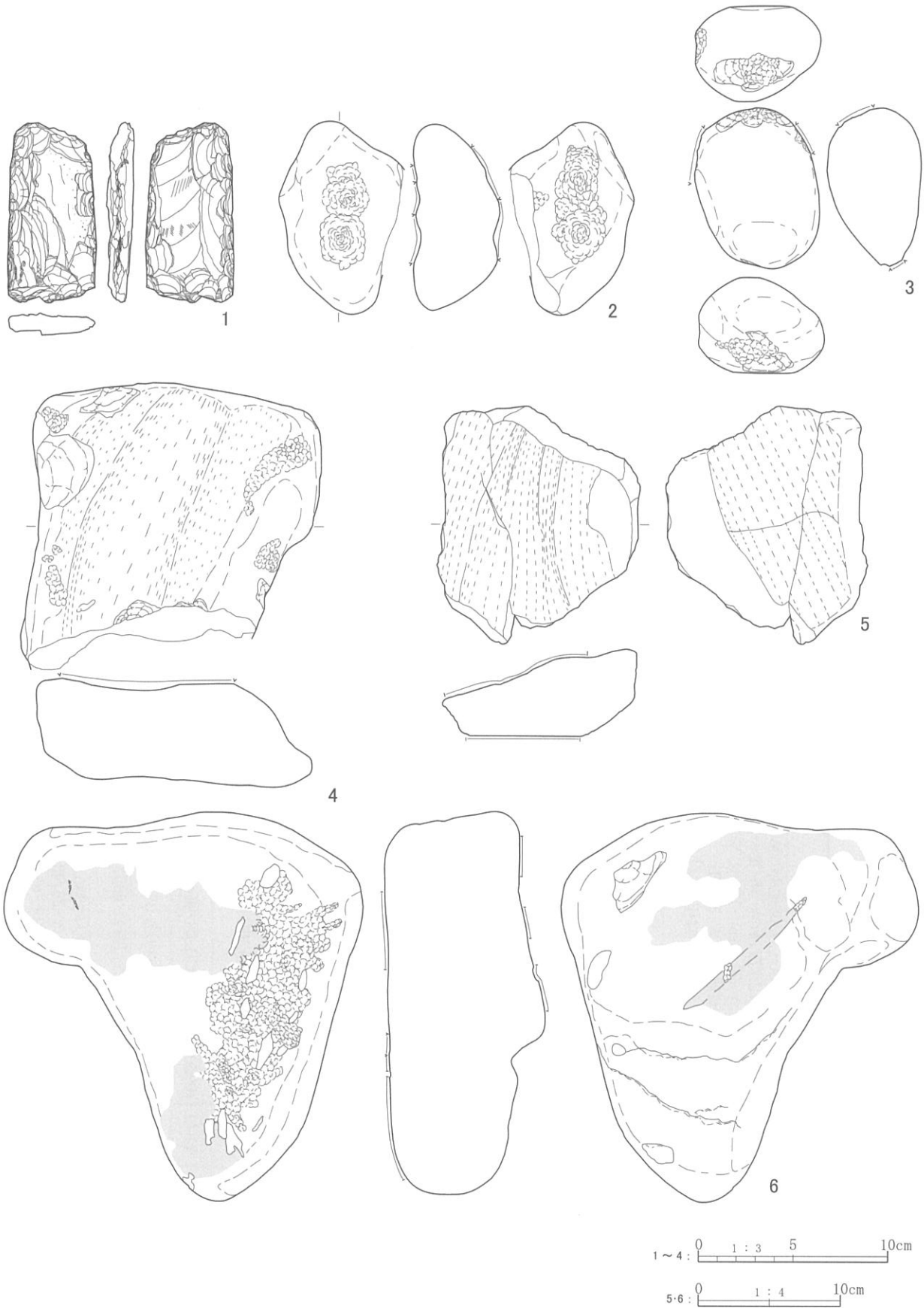
包含層から 24 点出土している。2 は両面に窪み状の深い敲打痕をもつもので、礫の中央付近に長軸に沿って敲打痕が並ぶ。3 は上下両端部と側縁に敲打痕が見られる。石材は泥岩が 1 点あるほかは、すべて砂岩である。

砥石 (4・5)

包含層から 13 点出土している。4 は表面に幅の広い研磨面が数条見られる。5 は表面に研磨面が段状に残っている。石材はすべて砂岩で、図示した 5 は凝灰質砂岩である。

台石 (6)

包含層から 8 点出土している。6 は表面に滑沢面と敲打痕をもち、裏面に滑沢面を持つものである。石材はすべて砂岩である。



図IV-32 続縄文時代包含層出土遺物 (3)

表IV-43 続縄文時代包舎層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等 口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点-底面	文様		胎土	備考
							口唇/文様帯-内面/ 胴部-内面/底側面-底面-内面	口唇/文様帯-内面/ 胴部-内面/底側面-底面-内面		
IV-30-1	139-1	ZP043A	VIA1b	59121他4点/III FTB-01/III cM	口縁~ 胴部上半	平縁・やや外傾・隅丸角 状/やや外傾	R燃系圧痕文/R燃系圧痕文・凹形刺 突文/RL縦走縄文	砂粒少量混入		
IV-30-2	139-2	ZP008A	VIC2	67502/V-34/III cU・74308他8点/W- 35/III bL・77772,77774/W-36/III c・ 63410他3点/V-34/III bL・77764/V- 35/III c・71094他2点/W-34/III c・ 64280/W-31/III bL・63272他2点/V- 33/III bL	胴部上半 ~下半	直立(上半)・外傾(下半)	RL横走縄文・斜位沈線文・横走沈線 文・押引状刺突文(垂直・水平・V字状 構成)-RL斜行帯縄文	砂粒微量混入	粘土帯接合面で 破損	
IV-30-3	139-3	ZP033A	VIC2	68135他10点/W-33/III cM	口縁~ 胴部上半	平縁・外傾-丸状/直立	隆起線文(水平構成)・擬縄貼付文(水 平・鋸歯状構成)+沈線文・RL横走縄 文/RL斜行帯縄文	砂粒少量混入	擬縄貼付文剥落 面にRL縄文観察	
IV-30-4	139-4	ZP017A	VIC2	85504/III SB-48/III cM・68144他5点 /W-33/III cM	口縁~ 胴部上半	小突起・外反-尖状/直 立	縦位刻み/隆起線文(水平・U字状構 成)・RL横走縄文・鋸歯状沈線(2本並 列)・刺突文+斜位沈線文	砂粒少量混入		
IV-30-5	139-5	ZP022A	VIC2	79855/Y-36/III c	口縁部	小突起・外反-尖状	縦位刻み/擬縄貼付文(水平・V字状? 構成)・刺突文・RL横走縄文	砂粒多量・石 英粒少量混入	外面やや風化	
IV-30-6	139-6	ZP012A	VIC2	77832,77833/W-36/III c	口縁部	小突起・外反-丸状	縦位刻み/擬縄貼付文(水平・V字状 構成+縦位連結)・沈線文	砂粒少量混入	内面横ナヲ調整 痕有	
IV-30-7	139-7	ZP034A	VIC2	68698/Z-35/III bL	口縁部	小突起・外傾-尖状	縦位刻み/擬縄貼付文(水平・L字状 構成+縦位連結?)・刺突文			
IV-30-8	139-8	ZP042A	VIC2	77831/W-36/III c	口縁部	平縁・外反-削切出し	刺突文/擬縄貼付文(水平構成)・刺突 文	砂粒少量混入	口縁部内面横ナ ヲ調整痕有	
IV-30-9	139-9	ZP028A	VIC2	79866/X-37/III c	口縁部	平縁・やや外反-尖状	斜位刻み/擬縄貼付文(水平構成)・刺 突文-RL斜行縄文	砂粒多量混入		
IV-30-10	139-10	ZP041A	VIC2	76030他1点/T-40/III bL	口縁部	平縁・外反-尖状	刺突文/RL横走縄文・鋸歯状沈線文・ 刺突文	砂粒少量混入	口縁部内面横ナ ヲ調整痕有	
IV-30-11	139-11	ZP023A	VIC2	81718/III BB-43/III c	口縁部	平縁・外反-丸状	縦位刻み/刺突文	砂粒少量混入		
IV-30-12	139-12	ZP007A	VIC2	70400他3点/AB-29/III cL	口縁 ~底部	平縁・やや外傾-尖状/ やや外傾(上半)・外傾(下 半)/外反-隅丸角状	RL横走帯縄文/RL縦走縄文	砂粒少量混入	口縁部内面横ナ ヲ調整痕有	
IV-30-13	139-13	ZP040A	VIC2	70900他3点/III FCB-06/III c	口縁~ 胴部上半	小突起・外反-尖状/直 立	縦位刻み/無文	砂粒少量混入	袖珍土器	
IV-30-14	139-14	ZP020B	VIC2	69037, 69038, 69039/Z-32/III cM	胴部上半	外傾	擬縄貼付文(水平・菱形構成+縦位連 結)・沈線文・刺突文・RL横走縄文	砂粒少量混入		
IV-30-15	139-15	ZP020A	VIC2	69032他4点/Y-32/III cM・69031/Z- 32/III cM	胴部下半	外傾	擬縄貼付文(菱形構成)・刺突文・RL 横走縄文/RL縦走帯縄文	砂粒少量混入		
IV-30-16	139-16	ZP035A	VIC	81201/III SB-52/III BL・82330/III SB- 52/III c・82348他13点/Y-35/III c	胴部下半 ~底部	やや外傾/張り出し-隅丸 角状-やや上げ底	RL縦走帯縄文	砂粒少量混入		
IV-30-17	139-17	ZP026A	VIC	68689他2点/AA-34/III bL・68692他3 点/Z-34/III bL	胴部下半 ~底部	外傾/張り出し-隅丸角状 -上げ底	RL縦走縄文	砂粒少量混入		

表IV-43 続縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等		文様		胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点-底面	外傾	口唇/文様帯-内面 /胴部-内面/底側面-底面-内面	隆起線文・RL縦走縄文		
IV-30-18	139-18	ZP027B	VID2	79859/X-36/IIIc	胴部上半	外傾	外傾	隆起線文・RL縦走縄文	砂粒多量混入		
IV-30-19	139-19	ZP027A	VID2	76346他3点/V-40/IIIc・73875/V-40/IIIbL	底部	外反-角状-上げ底	外反-角状-上げ底	RL縦走縄文?	砂粒多量混入	内外面風化著	
IV-30-20	139-20	ZP021A	VIC4	60499他6点/V-25/IIIbL	口縁 ~底部	外傾-尖状/外傾/張り出し-隅丸角状/上げ底	外傾-尖状/外傾/張り出し-隅丸角状/上げ底	隆起線文(口唇並行)+刺突文/隆起線文(弧状)	砂粒多量混入		

表IV-44 続縄文時代包含層出土剥片石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-31-1	140-1	-	70293	ポイント類	A2	IIIbL	-	Z-28	14.4	7.1	1.6	0.1	Obs.	
IV-31-2	140-2	-	60541	ポイント類	A2	IIIcM	-	AD-21	13.5	15.2	2.6	0.5	Obs.	
IV-31-3	140-3	-	60808	ポイント類	A2	IIIcM	-	AD-21	18.9	10.8	1.7	0.4	Obs.	
IV-31-4	140-4	-	65545	ポイント類	A2	IIIbL	-	T-30	(18.8)	15.3	2.3	0.5	Obs.	
IV-31-5	140-5	-	80065	ポイント類	A2	IIIbL	III PB-50	-	23.9	16.7	3.5	1.0	Aga.	
IV-31-6	140-6	-	62990	ポイント類	A2	IIIc	-	W-23	27.0	14.5	2.8	0.9	Obs.	
IV-31-7	140-7	-	57868	ポイント類	A2	IIIcM	-	AD-20	25.3	19.5	3.9	1.3	Obs.	
IV-31-8	140-8	-	60539	ポイント類	A2	IIIcM	-	AD-21	26.3	13.8	2.7	0.7	Obs.	
IV-31-9	140-9	-	56806	ポイント類	A2	IIIbL	-	Z-18	29.3	17.3	2.4	1.1	Obs.	
IV-31-10	140-10	-	58770	ポイント類	A2	IIIcM	-	AB-25	34.6	19.1	4.2	1.7	Obs.	
IV-31-11	140-11	-	115653	ポイント類	A3	IIIcU	-	D-36	19.3	12.0	3.6	0.7	Obs.	
IV-31-12	140-15	-	62477	ポイント類	A4	IIIc	-	T-21	24.0	10.4	4.1	1.0	Obs.	
IV-31-13	140-13	-	72967	ポイント類	A5	IIIcM	-	S-43	23.7	15.5	1.9	0.7	Sch.	
IV-31-14	140-14	-	82055	ポイント類	A5	IIIbL	III SB-57	-	24.1	15.6	4.2	1.4	Sch.	
IV-31-15	140-12	-	62985	ポイント類	A5	IIIc	-	X-24	27.0	16.3	1.1	0.8	Sch.	
IV-31-16	140-16	-	71078	ポイント類	A5	IIIc	III PB-44	-	11.4	14.7	1.8	0.4	Sch.	
IV-31-17	140-17	-	56932	石錐	A	IIIcM	-	AF-14	27.7	12.9	4.0	1.5	Aga.	
IV-31-18	140-18	-	70294	ナイフ・スクレイパー類	B1	IIIbL	-	Z-28	22.1	19.4	3.9	1.7	Obs.	
IV-31-19	140-19	-	65639	ナイフ・スクレイパー類	B1	IIIbL	-	V-31	36.9	37.3	5.6	6.5	Obs.	
IV-31-20	140-21	-	76866	ナイフ・スクレイパー類	B2	IIIbL	-	W-37	33.9	29.6	8.7	9.9	Obs.	
IV-31-21	140-22	-	71006	ナイフ・スクレイパー類	B2	IIIc	-	AB-30	64.8	27.9	9.4	17.7	Sh.	
IV-31-22	140-20	-	56999	ナイフ・スクレイパー類	C1a	IIIc	III PB-20	-	(35.6)	30.8	6.2	7.3	Obs.	
IV-31-23	140-23	-	82210	ナイフ・スクレイパー類	C1a	IIIc	-	X-36	(54.4)	29.2	13.3	23.6	Obs.	
IV-31-24	140-24	-	55031	ナイフ・スクレイパー類	C1b	IIIbU	-	AD-20	46.3	42.5	7.9	13.4	Obs.	
IV-31-25	140-25	-	57529	ナイフ・スクレイパー類	C1b	IIIc	III PB-20	-	67.3	36.7	12.7	29.4	Obs.	
IV-31-26	140-26	-	55064	ナイフ・スクレイパー類	E	IIIbU	-	AC-21	(38.7)	23.2	6.6	5.4	Obs.	
IV-31-27	141-1-27	-	60531	ナイフ・スクレイパー類	C1a	IIIcM	-	AD-21	(38.7)	21.3	2.2	2.2	Obs.	
IV-31-28	141-1-28	-	115550	ナイフ・スクレイパー類	E	IIIc	-	I-36	33.0	25.6	8.0	11.9	Obs.	
IV-31-29	141-1-29	-	59166	石核	-	IIIbL	III SB-28	-	57.1	54.9	29.3	98.2	Obs.	
IV-31-30	141-1-30	-	101010	石核	-	III	-	表採	38.4	51.2	42.7	70.2	Obs.	
IV-31-31	141-1-31	-	78870	石核	-	IIIc	-	Y-36	51.4	36.2	8.5	12.3	Sch.	

表IV-45 続縄文時代包含層出土礫石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-32-1	141-2-31	-	63677	石斧	A	IIIc	-	Z-30	(96.0)	47.0	132.0	89.0	Sch.	
IV-32-2	141-2-32	-	79245	たたき石	I B1	IIIc	-	W-38	101.0	65.0	43.0	310.0	Sa.	
IV-32-3	141-2-33	-	70625	たたき石	III B	IIIc	-	Y-34	84.0	65.0	50.0	330.0	Sa.	
IV-32-4	141-2-34	-	70623	砥石	-	IIIc	-	Y-34	(151.0)	151.0	53.0	1650.0	Sa.	
IV-32-5	141-2-35	-	72987	砥石	-	IIIcL	-	R-43	125.0	107.0	42.0	645.0	Tu-Sa.	
IV-32-6	141-2-35	-	68979	台石	II	IIIc	-	W-34	274.0	252.0	110.0	8500.0	Sa.	

第V章 縄文時代の調査

平成18・19年度に行ったV層の調査は、T₂では遺物の濃淡に応じ人力による掘削と、重機による遺構確認面までの掘削を併用し、T₁では一部を除き基本的に重機による遺構確認を行った。検出した主な遺構として、T₂において2軒の竪穴住居跡を検出した他、T₁・T₂両段丘面において合計129基のTピットを検出した。竪穴住居跡の内1軒(VH-07)は、Ⅲ層上面において窪みとして把握できたもので、竪穴周囲の掘り上げ土も確認できた。また129基のTピットの内94基はT₁で検出しており、遺跡内の空間利用について興味深い資料を得ることができた。遺物についてはほとんどがT₂での出土であるが、その主体は平成16・17年度と同様中期末～後期初頭に属する資料が中心であり、また「仮称富良野盆地系土器」の出土も一定量確認できた。今回報告資料中、土器集中5では余市式土器5個体以上がまとまって出土しており、一括資料の好例といえる。

表V-1 平成18・19年度V層段丘面別検出遺構・遺物一覧表

項目	T ₁	T ₂	合計	備考
発掘調査面積(m ²)	0	0	0	
遺構確認面積(m ²)	0	0	0	
調査面積合計(m ²)	0	0	0	
遺 構				
竪穴住居跡	0	2	2	早期:VH-06 中期末～後期初頭:VH-07
Tピット	94	35	129	T ₁ のTピットは斜面裾に集中。
土 坑	4	5	9	
焼 土	0	16	16	
土器集中	0	8	8	
礫集中	0	0	0	
剥片集中	0	7	7	
遺 物				
土 器	16	6,628	6,644	T ₁ の遺物は人力で調査した範囲のもの
剥片石器	6	630	636	
礫石器	1	411	412	
剥 片	112	5,890	6,002	
礫	31	6,309	6,340	
遺物総点数			20,034	

第1節 竪穴住居跡

平成 18・19 年度の調査では、新たに 2 基の竪穴住居跡を検出した。VH-06 は早期の住居跡で、平成 17 年度において窪みとして把握していたが、遺構としての判断に及ばなかったため報告を保留にしていた。平成 18 年度に全体の形状を把握したことはじめて住居跡として設定した。VH-07 は平成 18 年度にⅢ層上面で窪みとして把握し、平成 19 年度に調査を行った。後期初頭に属する住居跡である。

6号竪穴住居跡〔VH-06〕 (図V-3 図版56-2~4)

位置：R・S-21・22 区 検出層位：VI層上面 平面形：隅丸長方形

規模：543×405×(22)cm

確認・調査：調査は平成 17・18 年度の 2 ヶ年にわたって行われた。平成 17 年度はVI層上面においてV層の落込みとして確認した。しかし自然の沢状地形と重なっていたため、プラン、壁面の立上がり共に不明瞭で、住居跡としての判断には至らなかった。調査は竪穴様の窪みとして平面形、堆積状態の記録を行って終了した。平成 18 年度の調査では、VI層上面において明瞭なV層落込みのプランを確認したことから、ベルトを設定して掘削を行ったところ、底面が平坦でVI~VII層を掘り込む明瞭な壁面の立上がりが認められた。また坑底面から土器片も数点出土したことから、竪穴住居跡と判断し、VH-06 とした。

形態 (図V-3)：平面形は隅丸長方形を呈し、壁面の立上がりは南東側を除き比較的明瞭に確認できた。北側では幅 50cm 程のベンチ状の高まりが形成されている。床面は平成 17 年度調査区内において緩やかな凹凸が認められるが、全体としては平坦に形成されている。

堆積状態 (図V-3)：堆積土の観察では、Vc 主体土(2~6層)が竪穴全体に堆積していることが確認できた。この層は竪穴中央付近で 7cm、壁際では 20cm 程の厚さで堆積しており、Ta-d2.P、シルト岩を多く含むことから自然堆積のVcとは異なる。崩落した屋根の葺き土の可能性が考えられる。

他遺構との切り合い：平成 17 年度調査区では、TP-27、VP-12 がVH-06 を切って構築されていた。TP-27 はB1型のTピット、VP-12 は中茶路式の土器片を伴う長楕円形の土坑である。

表V-2 VH-06属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
V-3	56-1~4	VH-06	R・S-21・22	VI	N-60° E	543	405	505	325	22	TP-27より古い

表V-3 VH-06出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等	文様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面		
V-3-1	142-1-2	JP493A	I B3	86994/VH-06/1	胴部	直立	微隆起線文(水平構成)・絡条体回転文・絡条体圧痕文	砂粒混入	
V-3-2	142-1-1	JP493B	I B3	86990/VH-06/1	胴部	直立	微隆起線文(水平構成)・絡条体回転文・絡条体圧痕文	砂粒混入	

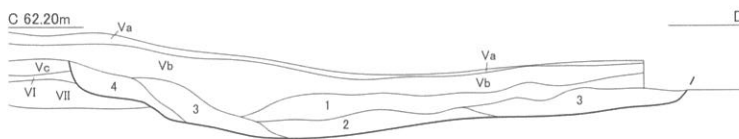
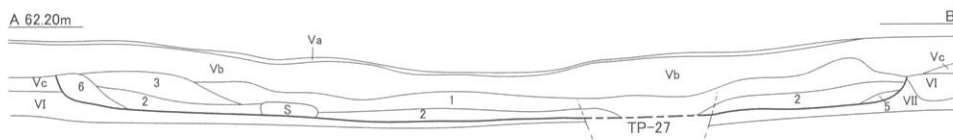
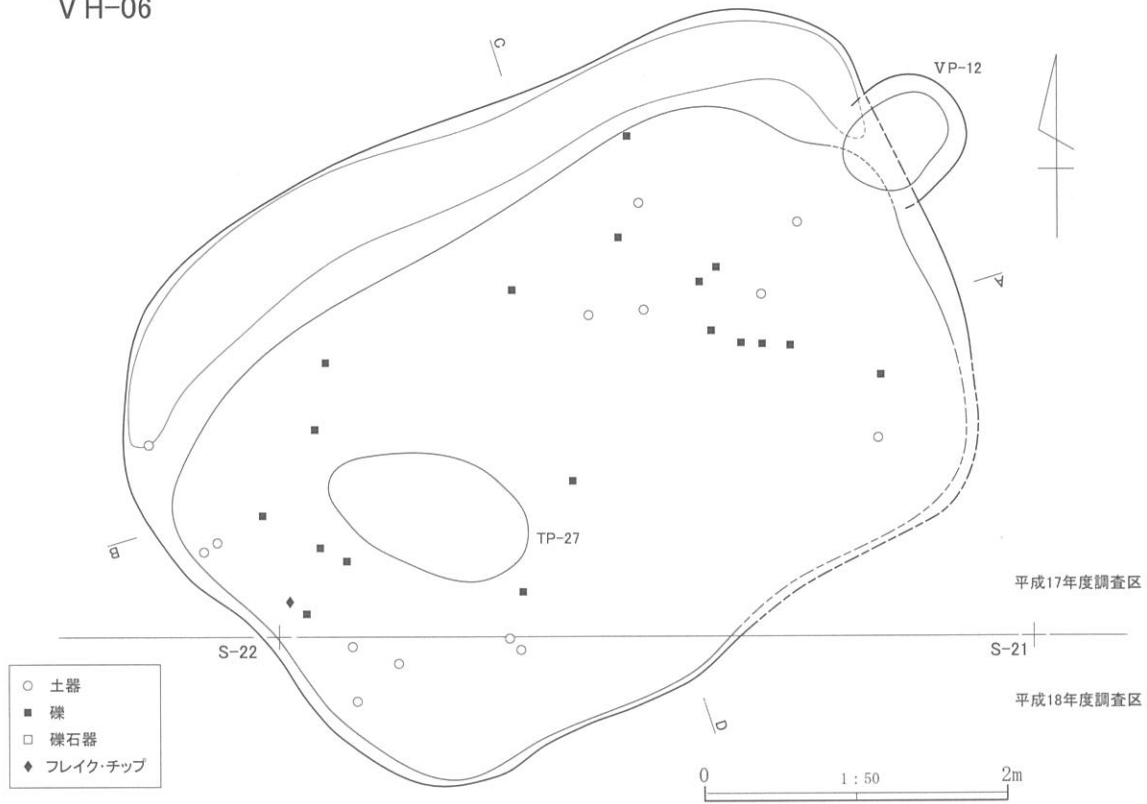


図V-1 T₂縄文時代遺構配置図

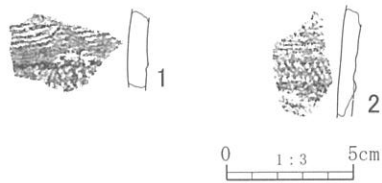


図V-2 T1縄文時代遺構配置図

VH-06



- | | |
|------------------|---|
| 1. 10YR1.7/1 黒色 | Vb - Ta-dL(斑状) = シルト岩($\phi 10 \downarrow$) \equiv 炭化物 |
| 2. 7.5YR2/3 極暗褐色 | Vc - Ta-dP($\phi 5 \downarrow$)・シルト岩($\phi 5 \downarrow$) |
| 3. 10YR2/3 黒褐色 | Vc - Ta-dP($\phi 5 \downarrow$)・シルト岩($\phi 5 \downarrow$) 粘性強 |
| 4. 10YR2/3 黒褐色 | Vc - Ta-dP($\phi 5 \downarrow$)・シルト岩($\phi 20 \downarrow$) |
| 5. 7.5YR1.7/1 黒色 | Vc \equiv Ta-dP($\phi 2 \downarrow$) |



図V-3 6号竪穴住居跡及び出土遺物

7号竪穴住居跡〔VH-07〕 (図V-4~6 図版57・58)

位置：Z・AA-32~34区 検出層位：Ⅲ層上面 平面形：楕円形

規模：竪穴本体 558×468cm×36cm 掘上土 1,164×972×9cm

確認・調査：平成18年度に行った火山灰除去中に、Z・AA-32~34区で約30cmの高低差をもつ円形の落込みを確認した。当初Ⅲ層の竪穴住居跡と想定したため、空撮と地形測量を委託した。調査開始後トレンチを設定し、堆積状態の観察を行った結果、V層中に形成された竪穴住居跡であると判断できた。V層の調査は平成19年度に行う計画であったため、一旦調査を終了した。平成19年度に調査を再開した際は、はじめに窪みのプランに合せ十字にベルトを設定し、Vaの掘削を行った。Vaを除去した段階でTa-dL、シルト岩を多く含む土が窪みの周囲に広がっていることを確認したことから掘上土と判断し、範囲記録を行った。Va掘削後、ベルトに沿わせてトレンチを設定し、床面及び壁面の検出に努めた。その結果Ⅵ層~Ⅶ層上面に平坦な床面が形成されていることを確認し、北西、及び北東側において明瞭な壁面の立上りを確認した。南西、南東側の壁面は風倒木の影響もありベルトの観察からは判断が難しかった。竪穴内部の調査は、十字ベルトで4つに区画された窪み内を、中央付近から掘削して床面を検出し、その後壁面の検出はⅥ~Ⅶ層の立上りをたよりに行った。床面検出中、東半部の壁際を中心に炭化材が数多く出土したことから、形状を崩さないよう慎重に調査を進めた。床面及び壁面の検出後、堆積状態を記録してベルトの掘削を行った。その際、西側のベルト下位において赤色顔料ブロックと考えられる塊(RM01)を検出したことから、その範囲確認に努めた。ベルト掘削後、床面で出土した台石を含む礫と、炭化材の平面図を作成し取上げを行った。また赤色顔料塊については範囲を記録した上で半截し、断面の記録を行った。その後、炉跡、及び柱穴確認のため床面を精査したところ、竪穴中央の根穴攪乱の脇で、周囲のTa-dL面よりもやや赤味の強い部分を確認した。範囲を記録し半截した結果、レンズ状の赤色化範囲を観察できたため、住居跡に伴う炉と判断しHF01として設定した。また竪穴東側では長軸長90cm程の楕円形のVb落込みを検出したため、半截して浅い土坑であると確認した(SP01)。柱穴の確認は、円形のVb落込みに対しトレンチを設定して半截し、断面を観察した上で行った。その結果壁際を中心に13本が検出できた。柱穴確認終了後完掘写真の撮影を行った。最後に、竪穴外部の十字ベルト延長上にトレンチを設定し、掘上土堆積状態を確認・記録して調査を終了した。

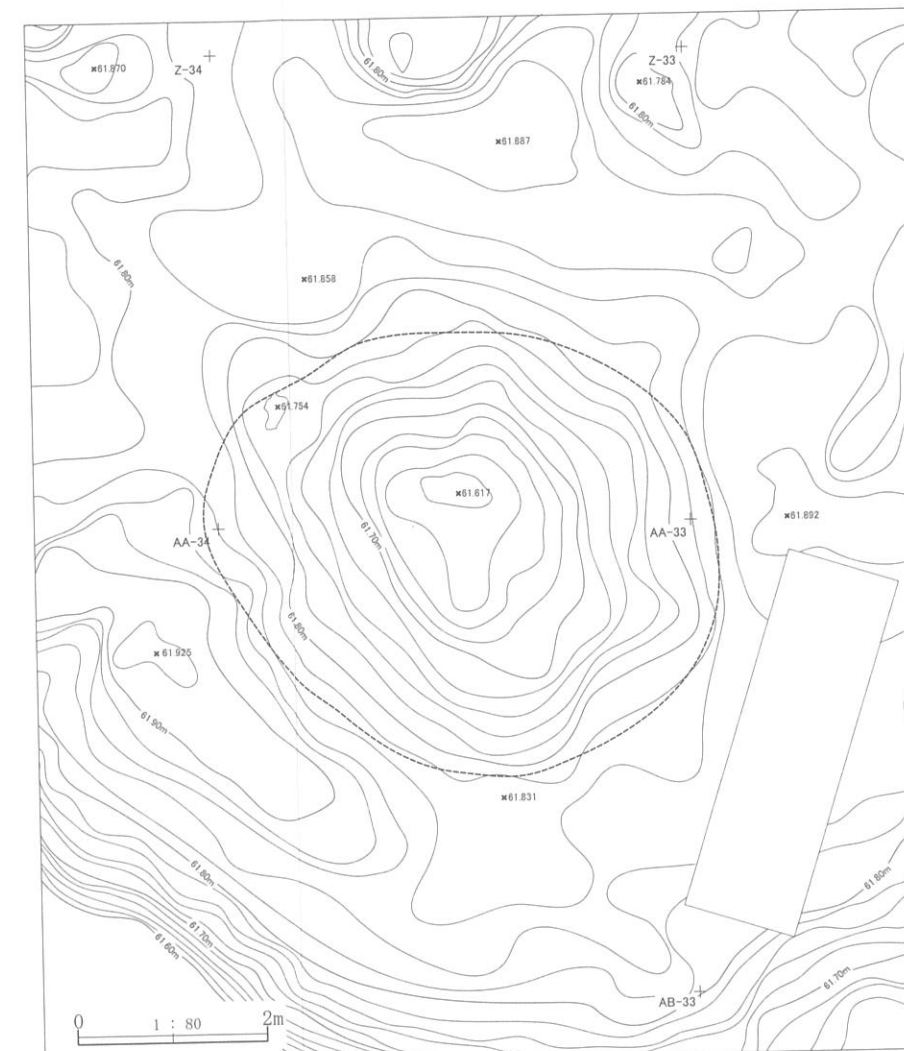
形態(図V-5)：竪穴の平面形は東側がやや広い卵形を呈する。床面はⅥ~Ⅶ層上面にほぼ水平に構築されているが、北側と東側の壁際にはそれぞれベンチ状の高まりが形成されている。壁面は明瞭に確認できた北側では急角度で立ち上がるが、南側及び西側では風倒木痕と重なり不明瞭であった。

炉跡(図V-5)：HF01は竪穴中央で検出した。根による攪乱を受けており、北側半分が壊されていたが、住居跡と同じ長軸方向を向く長楕円形の炉跡と考えられる。床面がⅦ層上面にあたるため、Ta-dLと色調が近似し判別に困難を要したが、レンズ状の堆積から炉跡と判断した。焼骨片、炭化物等は確認できなかった。

赤色顔料塊(図V-5)：RM01は55×26×19cmの規模を測る赤色顔料の塊である。北東-南西方向に長い不整形を呈しているが、この範囲すべてが赤色顔料で構成されているのではなく、5~10cm程のブロックがVc主体土中に混入した状態でまとまっている。

土坑及び柱穴(図V-5・6)：SP01は竪穴東側壁際で検出した土坑である。90×76cmの楕円形で、

VH-07



※Ⅲ層上面での地形図

A-Bラインセクション

1. 10YR3/2 黒褐色
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色
3. 10YR4/2 灰黄褐色
4. 10YR2/1 黒色
5. 10YR3/1 黒褐色
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色
7. 10YR3/1 黒褐色
8. 10YR2/2 黒褐色
9. 10YR2/1 黒色
10. 10YR3/2 黒褐色
11. 10YR3/2 黒褐色

- Vb = シルト岩(φ10↓) = Ta-dL(均一)
- Ta-dL = シルト岩(φ10↓) ≡ Vb(斑状)
- Vb = Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ10↓)
- Vb = 炭化物(下位) ≡ Ta-dL(斑状)
- Vb = シルト岩(φ50↓) ≡ Ta-dL(均一)
- Ta-dL = Vb(斑状)
- Vb = 炭化物 ≡ Ta-dL(斑状)
- Vb = Ta-dL(均一) ≡ シルト岩(φ10↓)
- Vb ≡ Ta-dL(斑状)
- Vb = Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓)
- Vb = Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓)
- Vb = Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓)

C-Dラインセクション

1. 10YR2/1 黒色
2. 10YR4/2 灰黄褐色
3. 10YR3/2 黒褐色
4. 10YR3/1 黒褐色
5. 10YR2/2 黒褐色
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色
7. 10YR3/1 黒褐色
8. 10YR3/1 黒褐色
9. 10YR3/1 黒褐色
10. 10YR2/1 黒色
11. 10YR2/2 黒褐色
12. 10YR3/2 黒褐色
13. 10YR3/2 黒褐色
14. 10YR3/2 黒褐色

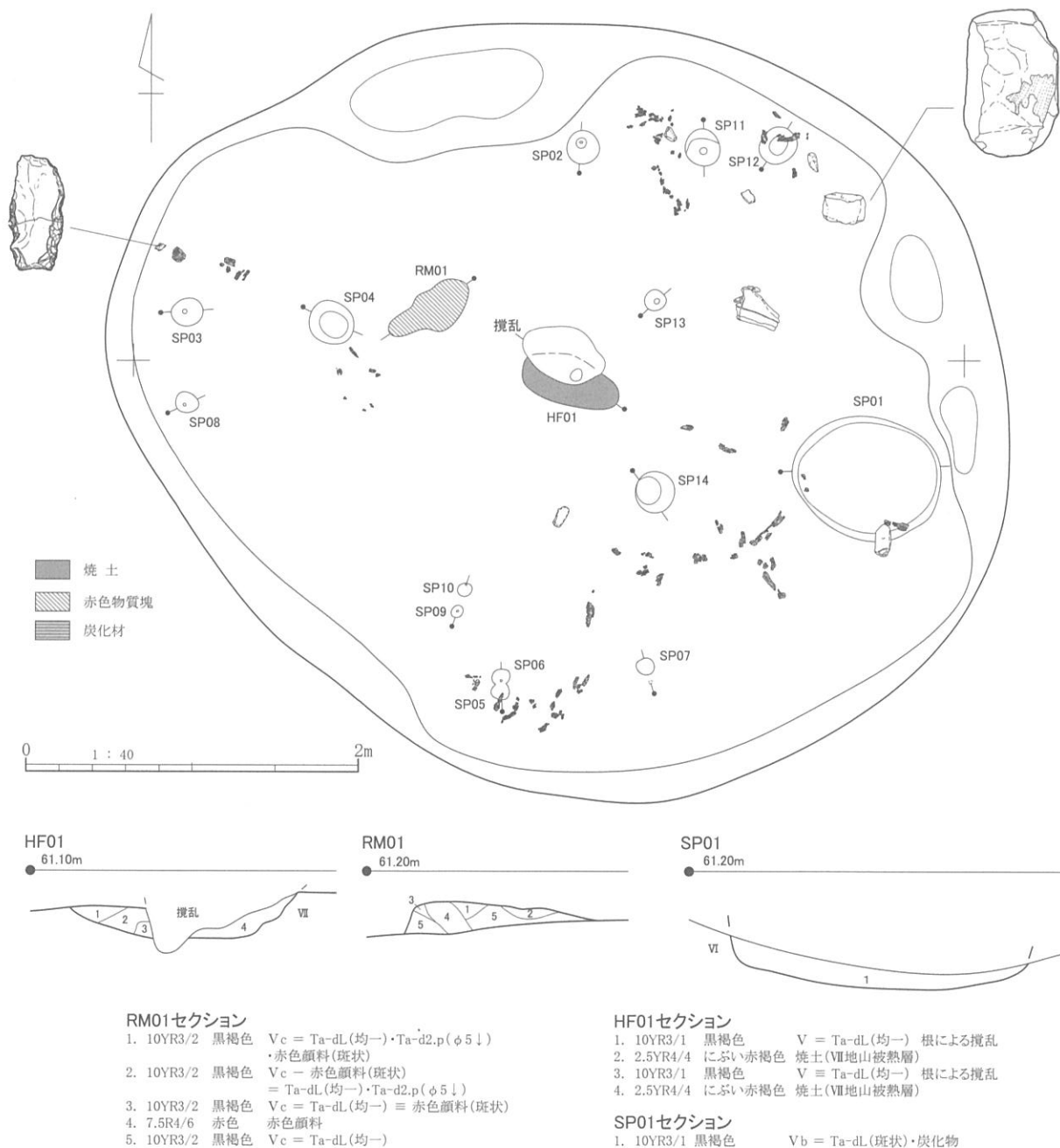
- Vb = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-dL(斑状)
- Vb = Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ10↓)
- Vb = シルト岩(φ10↓) = Ta-dL(斑状)
- Vb ≡ シルト岩(φ10↓)
- Vb ≡ Ta-dL(均一)
- Ta-dL = Vb(斑状)
- Vb = Ta-dL(斑状)
- Vb ≡ Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓)
- Vb = Ta-dL(斑状)
- Vb ≡ Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ10↓)
- Vb = Ta-dL(均一)
- Vb = Ta-dL(均一)
- Vb = Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓)
- Vb = Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓)

図V-4 7号竪穴住居跡平面図及び断面図

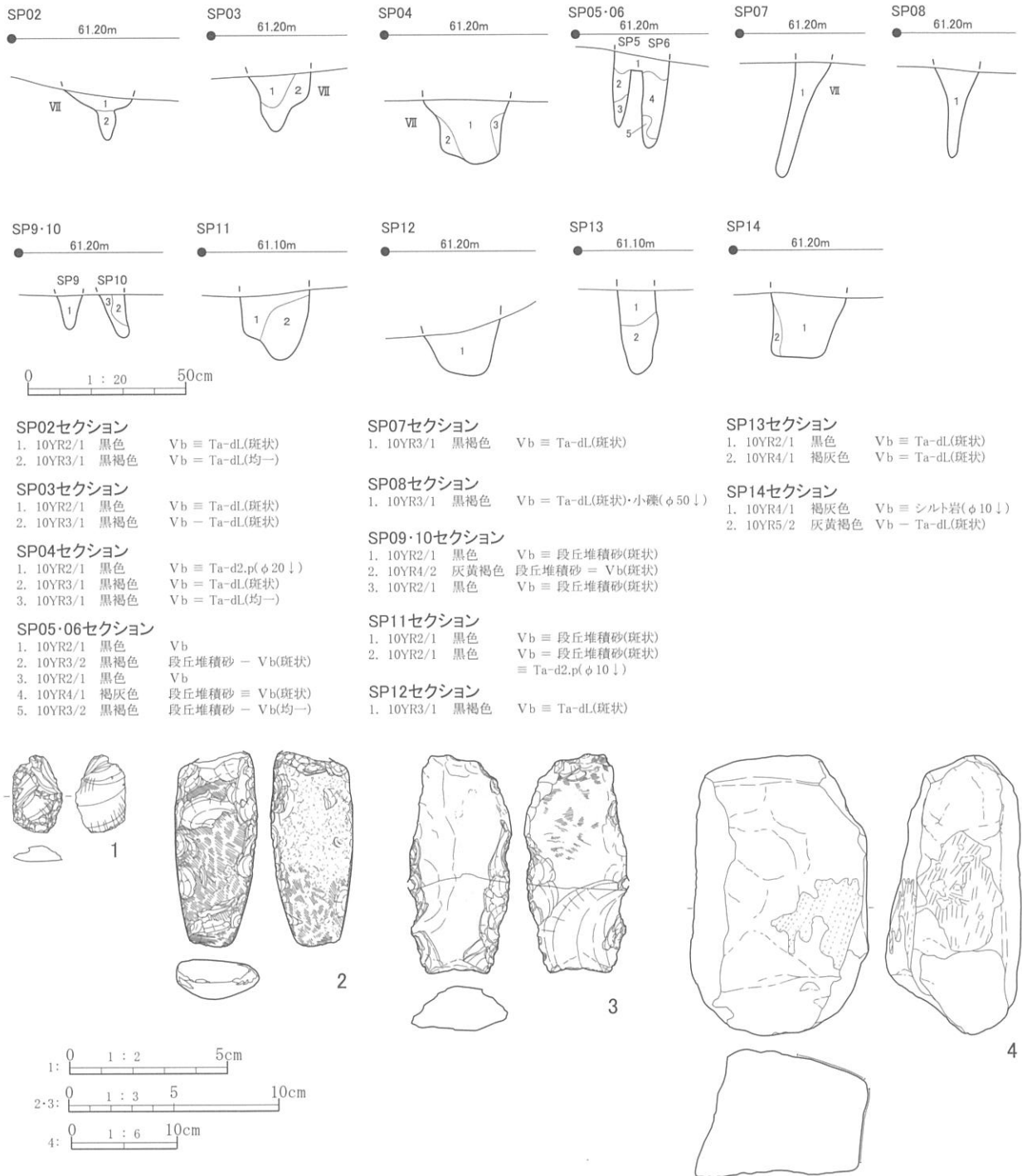
深さ 16cm の規模を測る。坑底面は緩やかに窪み、壁面はやや開きながら立ち上がっている。柱穴は 13 本検出しており、SP04・13・14 の 3 本を除きいずれも壁際に位置している。断面の形状は 2 種類に分けられ、SP02・03・05・06・07・08・09・10・11・13 は先端が尖り、打込みによる柱と考えられる。SP04・12・14 は先端が平らで、掘立による柱の可能性はある。

遺物出土状態 (図V-5) : 床面で出土した遺物は大型の礫と石斧で、土器は含まれていなかった。竪穴北側を中心に出土している。

掘上土 (図V-4) : 掘上土は竪穴の周囲に 1,164×972cm の範囲で広がっていた。厚さは北側では 3cm だが、南側では 9cm を測る。VI・VII層を掘り込んでいるため、掘上土中にシルト岩を多く含んで



図V-5 7号竪穴住居跡及び付属遺構



図V-6 7号竖穴住居跡柱穴断面図及び出土遺物

表V-4 VH-07属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
V-4・5	57・58	VH-07	Z-32~34 AA-32~34	Vb	N-68°W	558	468	532	438	36	Ⅲ層上面において窪みで確認
V-4		掘上土		Vb	—	1164	972	—	—	9	

表V-5 VH-07付属土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	備考
					長軸	短軸	長軸	短軸			
V-5	58-6	SP01	AA-33	床	90	76	83	67	16	N-97° E	

表V-6 VH-07付属炉・赤色顔料塊属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
V-5	57-4・5	HF-01	AA-33	床	楕円形	62	20	20	—	
V-5	58-9	RM-01	AA-33	床	不整形	55	26	19	—	

表V-7 VH-07柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	備考
			上端	下端	深さ		
V-6	58-1	SP02	22	3	16	9°	
V-6	—	SP03	20	3	18	5°	
V-6	58-2	SP04	27	18	21	5°	
V-6	—	SP05	6	2	24	4°	
V-6	—	SP06	8	2	28	4°	
V-6	—	SP07	12	2	36	16°	
V-6	58-3	SP08	14	3	28	5°	
V-6	—	SP09	8	2	10	2°	
V-6	—	SP10	8	2	14	17°	
V-6	58-4	SP11	22	4	22	5°	
V-6	—	SP12	23	13	18	1°	
V-6	—	SP13	12	5	27	1°	
V-6	—	SP14	24	18	20	8°	

表V-8 VH-07 出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
V-6-1	142-2-3	—	123233	ナイフ・スレイバー類	B1	3	VH-07	—	24	16	5	1.9	Obs.	
V-6-2	142-2-4	—	123232	石斧	A	3	VH-07	—	(93)	39	17	103	Gr-Mud.	
V-6-3	142-2-5	—	121664	石斧	D	3	VH-07	Z-33	104	48	21	124	Gr-Mud.	
V-6-4	142-2-6	—	121661	砥石	—	3	VH-07	Z-33	267	169	126	7000	Sa.	

いた。堅穴全周で確認でき、南東側でやや広範囲に広がっていた。

時期：土器を伴わないため明確な時期は定かでない。しかし堅穴住居跡南側の掘上土中より余市式の土器集中VPB-10(図V-64)が出土しているため、それと同時期か、より新しい時期の住居跡と考えられる。

第2節 Tピット

平成18・19年度の調査ではTP-42～175(TP-46・47・64・76・88は欠番)の合計129基を検出した。検出位置は調査区全体に及ぶが、2/3はT₁に形成されている。上幌内モイ遺跡での4年間の調査で検出したTピット数は169基を数える。これらは遺跡内の変化に富む地形の中で、一定の傾向をもって形成されている。ここでは形態、堆積状態、配列等について、全体的傾向に重点を置いて記載を行う。個別の記載は特筆すべき例を除き行わないため、個々の図と表を参照されたい。

検出および調査

Tピットの検出は、T₂ではVI層もしくはVII層上面において黒色土の落ち込みとして平面形を確認した。一方T₁では、重機により遺構確認層位まで掘削してTピットを検出したが、平成18年度と平成19年度とで検出層位を変えて確認を行った。平成18年度はVb層上面で重機による掘削を止め、黒色土中への水成シルトの落ち込みを頼りに確認を行った。平成19年度はVI～VII層上位の灰白色シルト層面まで重機で掘削し、シルト層中への黒色土の落ち込みとして検出を行った。調査は、検出

平面形長軸の中間付近で、長軸方向に対し直交する位置にセクションラインを設定し、半截後、堆積状態の撮影・実測を行った。実測終了後残り半分を調査し、完掘平面形の撮影・実測、およびエレベーションの実測を行った。

形態分類

Tピットの形態分類は、坑底面平面形の長短比および杭穴の有無を基準とする『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』（佐藤・宮夫他 1987）での分類案を基に、長短比数値に若干の変更を加えた厚幌 1 遺跡(乾・小野 2004)での分類に従い、細分を含め 7 タイプに分けた。

A 型：長短比が 8 以上で、長さに比べて幅が狭い溝状のタイプ。

A1 型 長軸が 2m 以上のもの A2 型 長軸が 2m 未満のもの

B 型：長短比が 4 以上、8 未満のもので、長楕円形のタイプ。

B1 型 杭穴がないもの B2 型 杭穴があるもの

C 型：長短比が 4 未満のもので、楕円形から円形に近いもの。

C1 型 杭穴がないもの C2 型 杭穴があるもの

D 型：長さ 1m、幅 0.2m 前後の小規模なタイプで、深さ 0.5m 以下のもの

分類毎の検出数は A1 型 37 基、A2 型 40 基、B1 型 24 基、B2 型 5 基、C1 型 7 基、C2 型 16 基である。平成 16・17 年度分と合わせると、A1 型 54 基、A2 型 43 基、B1 型 29 基、B2 型 7 基、C1 型 10 基、C2 型 24 基となる。

形態

Tピットの形態は T_2 と T_1 とで若干違いがある。 T_2 では河岸段丘堆積物である VII 層を掘り込んでいたため、VII 層の地盤の弱さに起因する崩落により Tピット壁面上部での開口が著しい。また壁面下部では基本土層 VIII a 層を境にオーバーハングする例が多い。規模も A1、C2 といった大きいタイプが多いだけでなく、同じ分類でも T_1 に比べ、より大きく深い傾向がある。 T_1 では壁面下部から直線的に開口するが、坑底部付近は構築時の幅を保持する例が多い。坑底面の形態をみると T_1 では幅 10cm 未満の極めて狭い例が認められる (TP-44・170)。

杭穴をもつ Tピットは B 型で 5 基、C 型で 16 基確認した。1 基あたりの本数は 1 本のものが 2 基、2 本が 8 基、3 本が 8 基、4 本が 2 基、5 本が 1 基である。

特筆すべき点として、TP-154・164 で確認した工具痕がある。坑底面において長さ 7cm 前後、幅 1.2cm 前後の柳葉形を呈する黒色土の落込みが多数認められた。詳細は個別記載の項にて行う。

堆積状態

Tピットの堆積状態は、基本的に覆土上位に V 層の自然堆積層、覆土中位～下位に Tピット壁面の崩落層が堆積しており、また多くの例で坑底部に厚さ 2cm 程の黒色土の堆積を確認した。

堆積状態で特筆すべき点は、 T_1 のシルト層を被覆する Tピットである。 T_1 では Vb 層堆積中に数回にわたる小規模な洪水によって堆積した「水成シルト」層と、縄文時代後期に起こった地震に起因する大規模な洪水による「洪水シルト」層の堆積が認められる。水成シルトは Vb 層の間に複数枚堆積し、やや粘性が強く粒度の細かいシルト層である。洪水シルトは Vb と Va の間に堆積し Ta-d2. P を含む砂質の強いシルト層である。これらシルト層の被覆の有無で Tピットの新旧を大まかに把握することができる。水成シルトを被覆する例は、 T_1 - T_2 段丘崖裾に位置する A2、B1 型の Tピットに多く認められ、洪水シルトを被覆するものは杭穴を伴う B2、C2 型の Tピットに多かった。また A1

型にはいずれのシルト層も確認できなかつた。こうした堆積状態から、A1型は小規模な洪水が起こる以前に埋没し、段丘崖裾のA2、B1型は頻繁に小規模な洪水が起きていた頃に埋没し、C2型は地震による大規模な洪水が起こった時点でまだ完全に埋没しきれていない窪みの状態であったと考えられる。以上よりA1型→A2・B1型→C2型の変遷を想定することができた。

堆積状態から把握できた T_2 と T_1 間の差異として、壁面崩落の違いがある。 T_2 では基本的に開口部が徐々に崩落して埋没したパターンがほとんどであった。一方 T_1 では壁面が地すべり状に塊のまま崩落した例が多数確認できた(例:TP-44ほか)。土質の粘性の違いによると考えられる。

分布と配列

平成18・19年度調査でのTピットの分布は T_1 、 T_2 の两段丘面に及ぶ。2カ年で129基を検出したが、このうちの7割が T_1 の中でも T_1A に集中している。遺跡全体でみても半数以上が T_1A に位置し、 T_2 と比べ極めて高い密度で形成されている。以下では、平成16・17年度検出分の遺構も含め、分類ごとの分布及び配列の傾向についてみていく。図V-57は遺跡全体で検出したTピットについて、分類と検出位置を基にグループ分けした図である。全部で以下の16のグループに分けた。

- ①: T_4 で検出した。TP-02とTP-03の2基で構成される。TP-02はA2型、TP-03はA1型である。
- ②: T_4 と T_3 - T_4 段丘崖で検出した。TP-05とTP-01の2基で構成される。TP-01はC2型、TP-05はC1型である。
- ③: T_3 で検出した。TP-06・08の2基で構成される。共にA1型である。
- ④: T_3 で検出した。TP-04・07・09の3基で構成される。すべてC1型である。
- ⑤: T_2 - T_3 段丘崖裾から南に向かって並ぶ配列。北からTP-20・13・12・17・95・43・98・99の順に計8基で構成される。すべてC2型である。
- ⑥: T_2 - T_3 段丘崖裾から南西に向かって並ぶ配置で検出した。北東からTP-18・19・10・93・91・96・125の順に計7基で構成される。すべてA1型である。
- ⑦: T_2 東側で⑥と交差する配置で検出した。北からTP-48・49・50・51・52・53・168の順に7基で構成される。TP-49・51・53・168はA1型、TP-48・50・52がA2型である。
- ⑧: T_2 中央で北東-南西の方向に並ぶ配置で検出した。北東からTP-27・97・113・117・116・166・165・172の順に計8基で構成される。すべてB1型である。
- ⑨: T_2 中央で東西に並ぶ配置で検出した。東からTP-14・21・40・38・39・23・37・24の順に計8基で構成される。TP-38・37はA2型、TP-21・39・23・24はB1型、TP-40はB2型である。
- ⑩: T_2 西側で南北方向に並ぶ配置で検出した。北からTP-35・28・29・26・30・31・25・32・112・115・167・174・171の順に計13基で構成される。TP-29のみA2型で、他はすべてA1型である。
- ⑪: T_2 南西端で検出した。配列は形成していないが、段丘縁辺に集中して形成されたグループである。TP-100・101がA1型、TP-105・173がA2型である。
- ⑫: T_2 北西端部で検出した。⑪と同様に段丘縁辺に形成されたグループである。TP-33・38の2基で構成され、共にC2型である。
- ⑬: T_1 - T_2 段丘崖裾で検出した。斜面の等高線と直交する方向に長軸を向ける状態で、南北に並んでいる。北からTP-118・119・121・122・123・124・126・129・130・131・132・133・134・135・102・57・58・59・60・61・62・103・63・66・65・67・68・69・70・71・72・73・75・77・79・80・104・81・83の順に計39基で構成される。TピットのタイプはA2型とB1型で構成されている。

⑭:T₁A 南側で検出した。T₁B-T₁A 段丘崖際に位置し、段丘縁辺付近に形成された明確な列を構成しないグループである。北側から TP-110・109・45・108・107・106・44・89・90・78・74・87・86・85・82・94 の計 16 基からなる。A1 型を主体とし、A2 型が少数含まれる。

⑮:T₁A 北側で検出した。⑭と同様 T₁B-T₁A 段丘崖際に位置し、段丘縁辺付近に形成された明確な列を構成しないグループである。北側から TP-162・141・144・154・155・145・156・170・159・160・157・111・114 の 13 基からなる。A1 型を主体とし、A2 型が少数含まれる。

⑯:T₁A 北側で東西方向に並ぶ配置で検出した。東側から TP-127・128・137・138・146・147・142・148・149・150・151・152・153 の順に計 13 基で構成される。すべて C2 型のタイプである。

これら各グループの傾向は、Tピット分類の組合せでは A1・A2 型で構成されるグループ (I 群)、A2・B1・B2 型で構成されるグループ (II 群)、C1・C2 型で構成されるグループ (III 群) の 3 種類が認められる。また立地については、段丘面上に列を成して形成されるグループ、段丘縁辺に列を成さずに形成されるグループ、段丘崖裾に列を成して形成されるグループの 3 種類が認められる。以上の傾向を整理したものが表 V-9 である。段丘面上に配列を構成するものは、I ~ III 群で共通して認められ、段丘縁辺に形成するグループは I 群と III 群、段丘崖裾に形成するグループは II 群のみで認められた。

Tピット間の切り合い

先に堆積状態の項にて Tピット分類の A1 型→A2・B1 型→C2 型という新旧関係について触れた。この他 Tピット同士の切り合いにより新旧が確認できた例は以下の 6 例がある。

- ・TP-02 (A1 型) 古 - 新 TP-03 (A1 型) 掘り上げ土の堆積状態から。
- ・TP-08 (A1 型) 古 - 新 TP-09 (C2 型) 遺構同士の切り合い関係から。
- ・TP-65 (B1 型) 古 - 新 TP-66 (B1 型) 覆土水成シルトの堆積状態から。
- ・TP-82 (A2 型) 古 - 新 TP-83 (A2 型) 遺構同士の切り合い関係から。
- ・TP-84 (A2 型) 古 - 新 TP-94 (B1 型) 遺構同士の切り合い関係から。
- ・TP-129 (B1 型) 古 - 新 TP-128 (C2 型) 遺構同士の切り合い関係から。

異なるタイプ間で切り合う例を基にまとめると、A1 型→A2 型→B1 型→C2 型の新旧関係をみることができ、堆積状態で把握できた傾向と矛盾しない。

個別記載

TP-44(A1 型) (図 V-9 図版 59-3・4)

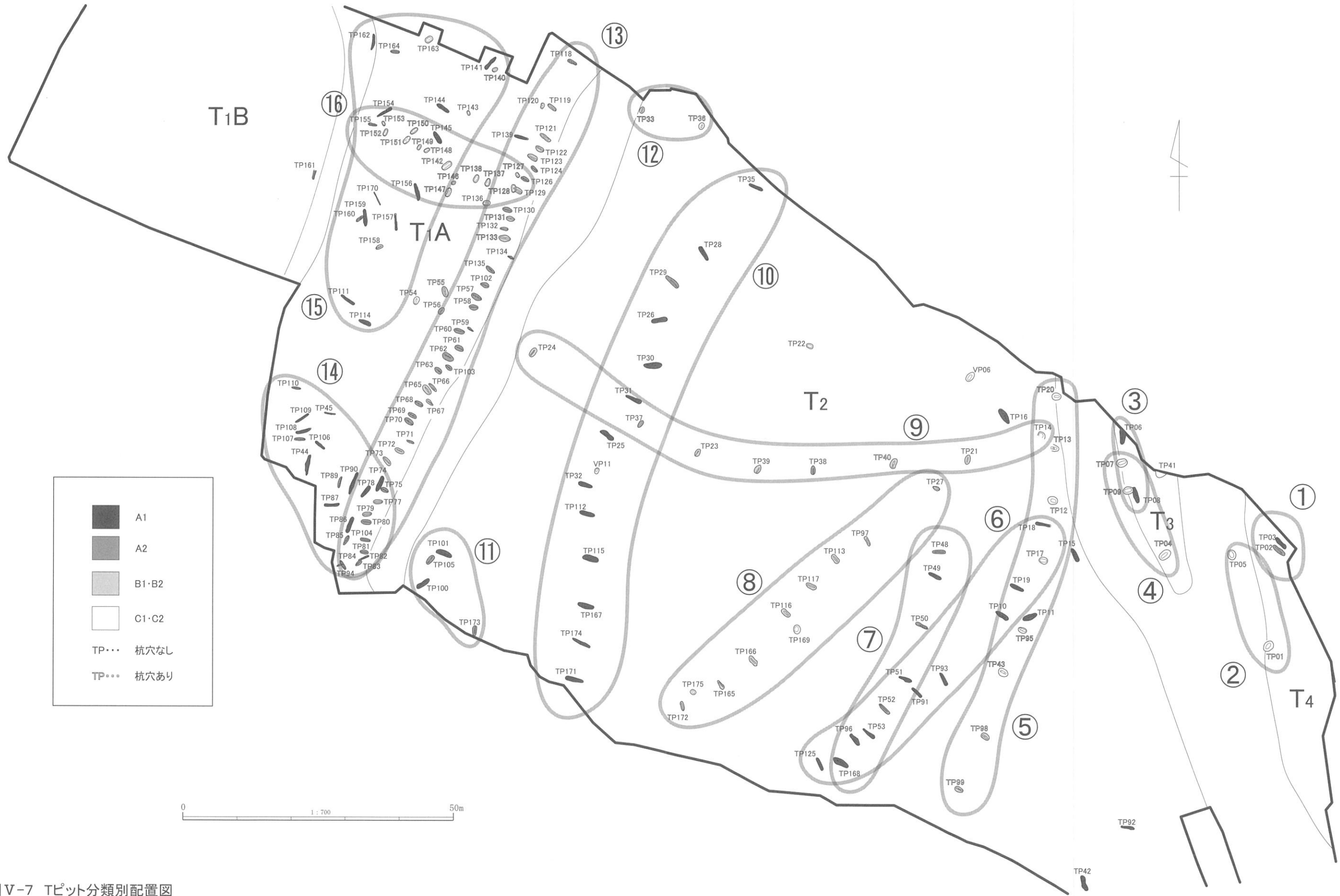
グリッド: Q・R-45 区 検出層位: VI 層上面 平面形: 溝状

確認面規模: 392×80cm 坑底面規模: 380×8cm 深さ: 108cm 長軸方向: N-12° E

T₁ の VI 層シルト層上面において溝状の V 層落込みを検出した。半截し堆積状態を観察した結果、セクション面左壁がブロック状に崩落し (9~13 層)、僅かな間隙に V 層が落込んでいることを確認できた (5~8 層)。坑底面での幅は 8cm しかないが、この Tピット本来の形を残した部分と考えられる。

表 V-9 Tピットグループ別傾向対応表

		Tピット組合せ		
		I 群(A1・A2型)	II 群(A2・B1・B2型)	III 群(C1・C2型)
立地傾向	段丘面配列	⑥⑦⑩	⑧⑨	⑤⑬
	段丘縁辺	①③⑪⑭⑮	—	②④⑫
	斜面裾	—	⑬	—



図V-7 Tピット分類別配置図

TP-51(A1 型) (図V-11 図版 60-5)

グリッド：Y・Z-22, Y-23 区 検出層位：VI層上面 平面形：溝状
 確認面規模：260×80cm 坑底面規模：240×20cm 深さ：116cm 長軸方向：N-71° W

T₂のVI層上面において溝状のV層落ち込みを検出した。半截し調査を進めた結果、セクションラインでの断面及びエレベーションラインでの断面共に大きくオーバーハングする形態を呈するTピットであることを確認した。オーバーハングはいずれも基本層VIIIaの下位に位置し、堆積土にもVIIIaの崩落土が確認できることから、地山の崩れ易さに起因する形態と考えられる。

TP-65・66(B1 型) (図V-17 図版 63-3~7)

グリッド：N・O-40 区 検出層位：VI層上面

TP-65

平面形：溝状 確認面規模：200×56cm 坑底面規模：130×18cm
 深さ：142cm 長軸方向：N-2° W

TP-66

平面形：長楕円 確認面規模：210×112cm 坑底面規模：152×24cm
 深さ：92cm 長軸方向：N-8° E

T₁-T₂段丘崖裾において近接した配置で2ヵ所の溝状落ち込みを検出した。水成シルトが2ヵ所の落ち込み上位に跨って堆積していたことから、通しのセクションラインを設定し、堆積状態の観察を行った。結果、TP-65では基本層から続く水成シルト25層が堆積しているのに対し、TP-66では確認できないことから、TP-65が古く、66が新しいことが把握できた。形態はTP-66では確認面の幅がやや広い長楕円形を呈しているが、坑底面形態は溝状であることから、本来は共に溝状のTピットであったと考えられる。壁面の形態は比較的直線的であった。

TP-85(A2 型) (図V-23 図版 68-3)

グリッド：T-43 区 検出層位：VI層上面 平面形：長楕円形
 確認面規模：196×68cm 坑底面規模：158×16cm 深さ：72cm 長軸方向：N-29° E

T₁において長楕円形のV層落ち込みを検出した。Tピットと判断し、半截を行ったところ、掘削途中で落ち込みの幅が急激に狭まっていることを確認した。遺構中の堆積土のみの掘削が困難であったため、トレンチを掘削し断面の観察を行った。断面形状は坑底面付近で幅16cmを測るが、中程では幅5cm前後まで狭まり、開口部付近で大きく広がっている。Tピット周囲の基本層が下方にやや下がっていたため、本来坑底面付近の幅で構築されたTピットが、廃絶後に壁面の押し出しにより狭まったと考えられる。

TP-94(B1 型) (図V-26 図版 69-7・8)

グリッド：U-43・44 区 検出層位：VI層上面 平面形：溝状
 確認面規模：108×24cm 坑底面規模：100×20cm 深さ：8cm 長軸方向：N-68° W

T₁-T₂段丘崖裾でTP-84と一部重なる溝状の落ち込みを検出した。Tピットと考え掘削を進めたところ、すぐに坑底に達した。確認のためにトレンチを掘削し、断面の観察を行ったが、坑底とした位置に問題は無く、浅い溝状の落ち込みと判断した。周囲に風倒木痕等は確認できないため、樹木根痕等自然の落ち込みとは考えにくいことから、人為的に掘削された穴と判断した。検出位置は段丘崖裾の最もV層が厚く堆積した場所にあたる。本来はV層のより高い位置から掘り込まれ、ある程度

の深さをもつTピットであった可能性がある。

TP-137(C2 型) (図V-43 図版 79-3・4)

グリッド：G-38 区 検出層位：VI層上面 平面形：楕円

確認面規模：156×92cm 坑底面規模：128×46cm 深さ：54cm 長軸方向：N-22° E

T₁において楕円形のV層落ち込みを検出した。検出時、プラン中央付近においてTa-d2.Pを含む洪水シルトの堆積が確認できた。半截したところ、セクション面に空洞状態となった2本の逆茂木痕が観察できたため、坑底にトレンチを掘削し、逆茂木痕先端部を含めた状態での堆積状態観察を行った。完掘した結果、坑底面において新たに逆茂木痕を3カ所確認し、合計5カ所の逆茂木痕を伴うTピットであることを確認した。

TP-154(A1 型) (図V-49 図版 83-7・84-1・2)

グリッド：D-42 区 検出層位：VI層上面 平面形：溝状

確認面規模：316×60cm 坑底面規模：268×24cm 深さ：88cm 長軸方向：N-61° E

T₁において溝状のV層落ち込みを検出した。半截し堆積状態の記録を行った上で完掘した際、坑底面において長さ7cm前後、幅1.2cm前後の柳葉形を呈する黒色土の落ち込みを多数確認した。落ち込みはTピット両壁際に沿って縦列するものと、それらと直交する向きで坑底面中程に位置するものの2種類があり、Tピット長軸方向に対し「H」字状の配置を呈していた。Tピット掘削時の工具痕と判断したため、完掘プランの記録後、工具痕断面を観察するためトレンチを掘削した。その結果、坑底面から1cm前後の深さで、「V」字状に黒色土が落ち込んでいることを確認できた。以上より、本Tピットは先端部断面形が「V」字形となるへら状工具によって掘削されたことが推定できた。

TP-164(A2 型) (図V-53 図版 86-7~9)

グリッド：B-41・42 区 検出層位：VI層上面 平面形：溝状

確認面規模：172×42cm 坑底面規模：154×12cm 深さ：104cm 長軸方向：N-87° W

T₁において溝状のV層落ち込みを検出した。各記録を行った上で完掘したところ、TP-154と同様の工具痕を坑底面にて確認した。本遺構では壁面に沿う配置の工具痕は認められず、直交方向の配置のもののみが把握できた。計7カ所認められた工具痕はTP-154と同様長さ7cm前後、幅1.2cm前後、深さ1cm前後であり、断面形は「V」字形であった。

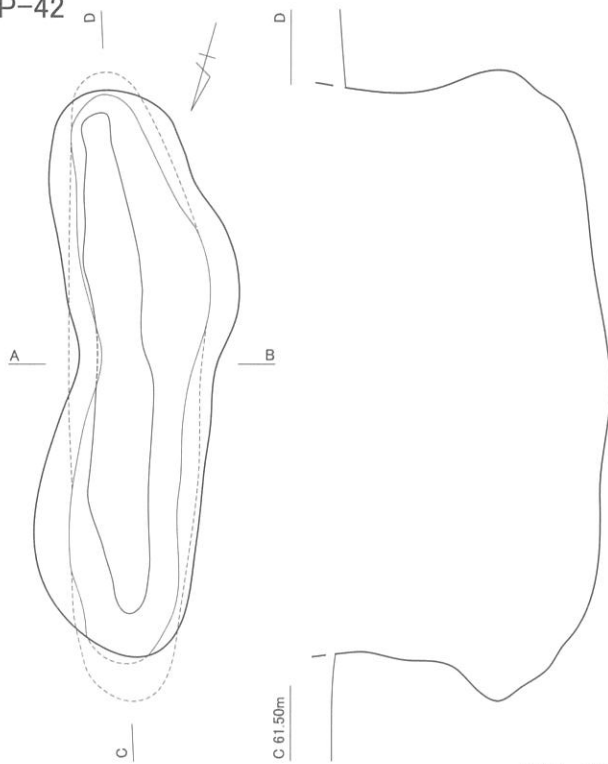
TP-170(A1 型) (図V-55 図版 88-3・4)

グリッド：G・H-42 区 検出層位：VI層上面 平面形：溝状

確認面規模：268×20cm 坑底面規模：254×8cm 深さ：96cm 長軸方向：N-26° W

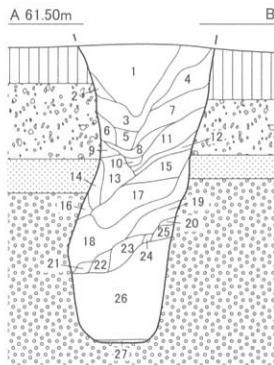
平成17年度に行ったT₁試掘トレンチの壁面にて、V層落ち込みを確認した。精査したところ落ち込み範囲がトレンチ内底面まで及ぶ溝状の形態を呈していたためTピットと判断し、調査を行った。トレンチ壁面をセクション面として設定し、トレンチ内の掘削を先行して行った。結果幅8cm程で壁面が確認面までほぼ垂直に立ち上がるTピットであることが確認できた。本例の確認面での幅は本遺跡で最も狭いものであるが、構築時に近い状態を保持していると考えられ、坑底面幅8cm程の他の遺構も、本来は同様の形態を呈していたものと思われる。

TP-42

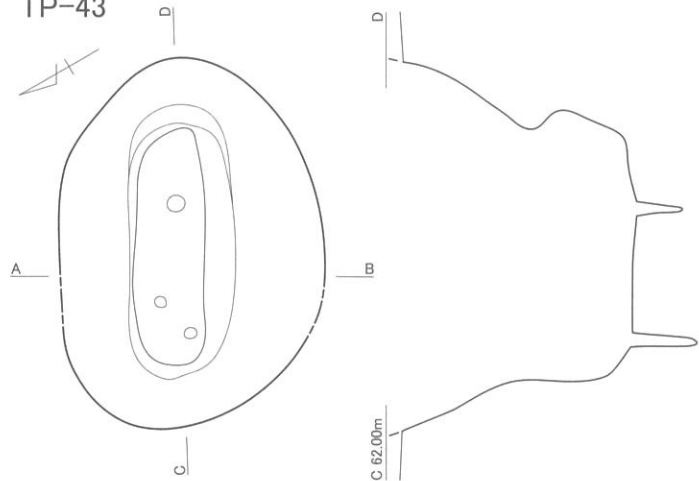


TP-42

- | | | | |
|----|-----------|--------|-------------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | V = VI(均一) しまり中 |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色 | VI ≡ Ta-dL(均一) しまり中 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色 | VI流れ込み しまり中 |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐色 | VI + Ta-dL・Ta-d1(均一) しまり中 |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-dL = VI(均一) しまり中 |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ta-dL + Ta-d1 - VI(均一) しまりやや強 |
| 7 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-dL + Ta-d1 しまり中 |
| 8 | 10YR1.7/1 | 黒色 | V ≡ Ta-dL・Ta-d1(均一) しまり中 |
| 9 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-dLの崩落土 しまり弱 |
| 10 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-dLの崩落土 しまり中 |
| 11 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-dL + Ta-d1 しまり中 |
| 12 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-dLの崩落土 しまり中 |
| 13 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V = VI(均一) しまり中 |
| 14 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-dL ≡ VI(均一) しまりやや強 |
| 15 | 7.5YR5/8 | 褐色 | Ta-dLの崩落土 しまり弱 |
| 16 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d1 = (均一) しまり弱 |
| 17 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d1 ≡ Ta-dL(均一) しまり弱 |
| 18 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-dLの崩落土 しまり弱 |
| 19 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-d2,pの崩落土 しまり弱 |
| 20 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ta-d1の崩落土 しまり弱 |
| 21 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ta-d1の崩落土 しまり強 |
| 22 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-dLの崩落土 しまり弱 |
| 23 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ta-d1の崩落土 しまり強 |
| 24 | 5YR5/8 | 明赤褐色 | Ta-dLの崩落土 しまり弱 |
| 25 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-dLの崩落土 しまり弱 |
| 26 | 7.5YR7/8 | 黄橙色 | Ta-d2,pの崩落土 しまり弱 |
| 27 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V しまり弱 |

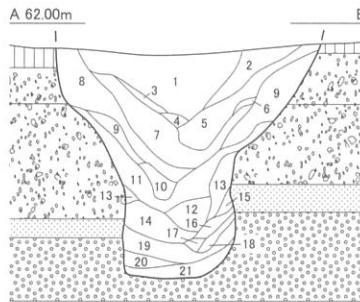


TP-43



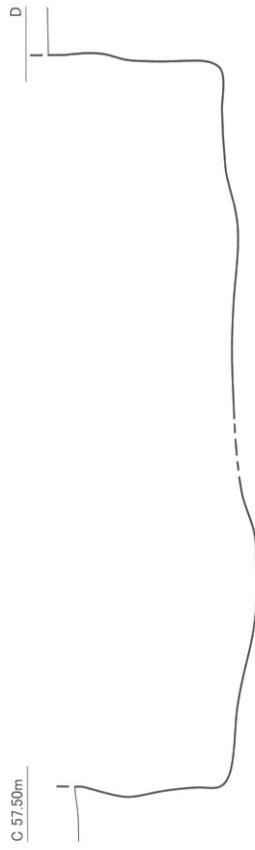
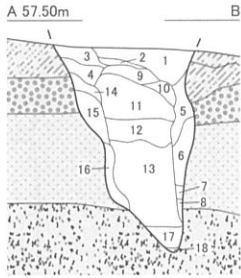
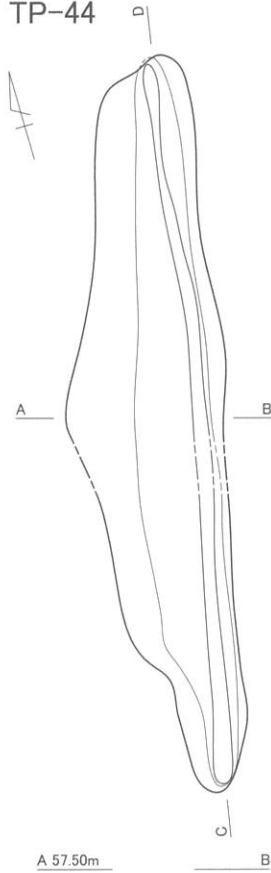
TP-43

- | | | | |
|----|-----------|--------|-------------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb流れ込み 粘性中 非常に硬くしまる |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb = シルト岩(φ3↓・均一)
粘性中 しまり強 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | V = V(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 4 | 5YR5/8 | 明赤褐色 | V = Vc(均一) 粘性弱 しまり中 |
| 5 | 7.5YR2/1 | 黒色 | V ≡ シルト岩(φ5↓・均一)
粘性強 しまり中 |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色 | V 粘性弱 しまり中 |
| 7 | 7.5YR2/1 | 黒色 | V ≡ Ta-d2,p(斑状)
粘性中 しまり中 |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vcの流れ込み 粘性中 しまり中 |
| 9 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ta-dL = VI(均一) 粘性なし しまりなし |
| 10 | 7.5YR4/6 | 褐色 | 段丘堆積砂 粘性なし 非常に硬くしまる |
| 11 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-dL 粘性中 しまり強 |
| 12 | 7.5YR2/1 | 黒色 | V ≡ Ta-dL(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 13 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-dL 粘性弱 しまり中 |
| 14 | 7.5YR4/4 | 褐色 | V = Ta-dL(均一) 粘性弱 しまり中 |
| 15 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-dLの崩落 粘性なし しまりなし |
| 16 | 7.5YR6/8 | 橙色 | Ta-d2,p = V(互層)
粘性強 しまり弱 |
| 17 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V + Ta-d1 粘性中 しまり強 |
| 18 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-d1 粘性なし しまり強 |
| 19 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-dL = V(均一) 粘性強 しまり強 |
| 20 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | Ta-d1の崩落 粘性なし しまり強 |
| 21 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | Ta-d2,p = V(互層)
粘性強 しまり弱 |



図V-8 TP-42・43

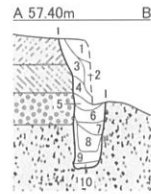
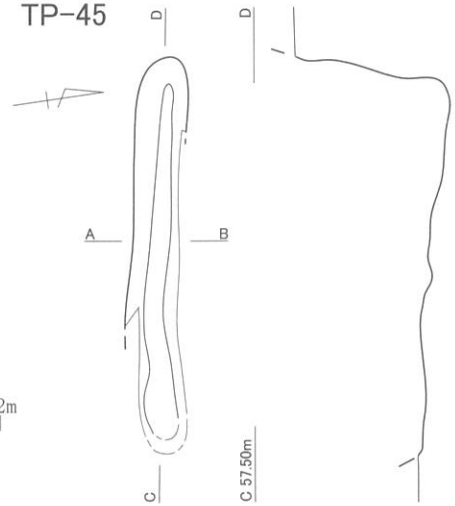
TP-44



TP-44

- | | | | |
|----|---------|--------|---------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb |
| 2 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | シルト |
| 3 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb ≡ シルト(均一) |
| 4 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | シルト = V (斑状) |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色 | V = シルト(均一) |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | シルト - 細粒砂(斑状)
≡ V (斑状) |
| 7 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 粘土 ≡ V (斑状) |
| 8 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 細粒砂 - シルト(均一) |
| 9 | 10YR4/1 | 褐灰色 | V ~ VI の崩落 |
| 10 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | シルト - V (斑状) |
| 11 | 2.5Y6/2 | 灰黄色 | シルト |
| 12 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 細粒砂 |
| 13 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 粘土 |
| 14 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | シルト ≡ V (斑状) |
| 15 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 細粒砂 ≡ V (斑状) |
| 16 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 粘土 ≡ V (斑状) |
| 17 | 10Y5/1 | 灰色 | 細粒砂 |
| 18 | 10YR3/1 | 黒褐色 | V |

TP-45

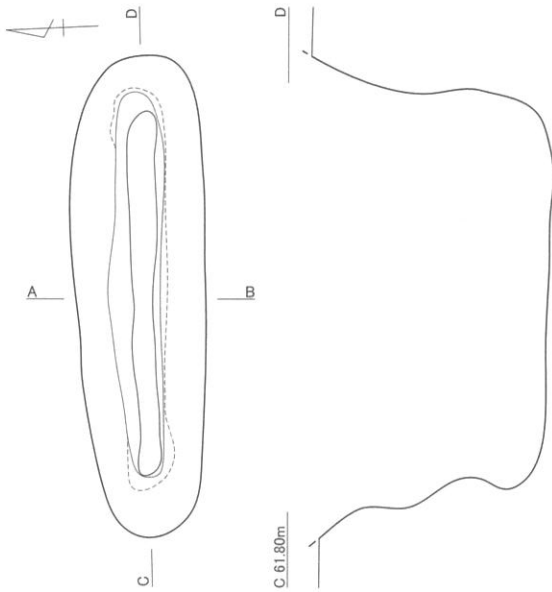


TP-45

- | | | | |
|----|---------|--------|------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(均一) |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト ≡ Vb(斑状) |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト質砂崩落 |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(斑状) |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト - Vb(斑状) |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルトブロック |
| 8 | 10YR4/4 | 褐色 | Vc = シルト質砂(均一) |
| 9 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | 粘土質シルト崩落 |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルトブロック(斑状) |

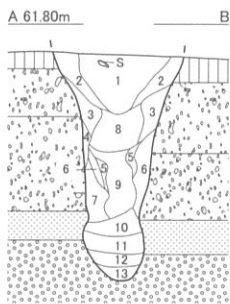
図 V-9 TP-44・45

TP-48

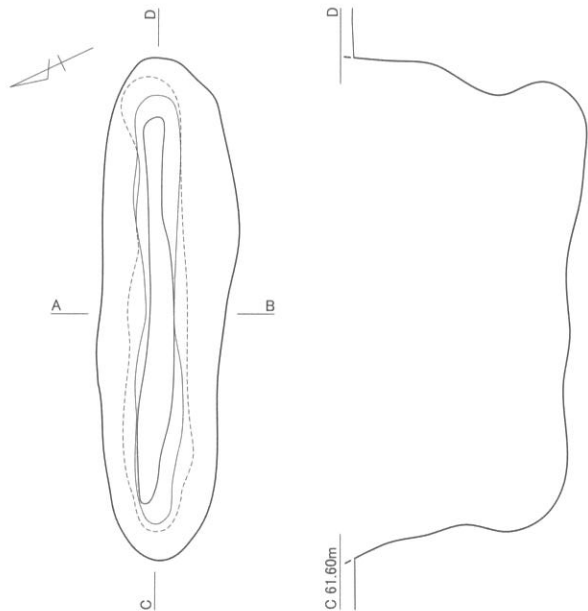


TP-48

1	10YR1.7/1	黒色	Vb - シルト岩(φ30↓・均一) ≡ Ta-d2.p(均一) 粘性有
2	10YR2/1	黒色	Vb - シルト岩(φ20↓・均一) = VI(斑状)
3	5Y5/8	明赤褐色	Ta-dL - シルト岩(φ50↓・斑状) = VI(均一)
4	7.5YR5/8	明褐色	Ta-dL ≡ Ta-d2.p(φ20↓)
5	5Y5/8	明褐色	Ta-dL 崩落
6	7.5YR5/4	にぶい褐色	汚れたTa-dL
7	7.5YR5/6	明褐色	Ta-dL = Ta-d2.p(φ5↓)
8	10YR2/1	黒色	V = Ta-dL・VIブロック(斑状)
9	10YR3/3	暗褐色	VI = Vb・Ta-dLブロック(斑状)
10	7.5YR4/6	褐色	Ta-dL = Vc(均一) ≡ Ta-d2.p(φ5↓)
11	5Y4/1	灰色	Ta-d1 ≡ Vb(均一)
12	10YR1.7/1	黒色	V = シルト岩(φ20↓・均一)
13	7.5YR3/1	黒褐色	Ta-d1 ≡ V(均一)



TP-49



TP-49

1	10YR1.7/1	黒色	V = シルト岩(φ3↓・均一) 粘性弱 しまり強
2	10YR2/3	黒褐色	V + VI(斑状) 粘性弱 しまり強
3	10YR3/4	暗褐色	V + VI(斑状) 粘性弱 しまり弱
4	10YR3/4	暗褐色	V + VI(斑状) 粘性弱 しまり弱
5	7.5YR4/6	褐色	Ta-dL = V(斑状) 粘性強 しまり強
6	10YR3/4	暗褐色	VI = V(均一) 粘性弱 しまりやや強
7	10YR3/4	暗褐色	VI = V(斑状) 粘性弱 しまり強
8	7.5YR4/6	褐色	Ta-dL 粘性強 しまりやや弱
9	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-dL = Ta-dL(斑状) 粘性強 しまりやや強
10	10YR2/3	黒褐色	V + VI 粘性弱 しまり弱
11	7.5YR4/6	褐色	V + Ta-dL(斑状) 粘性強 しまりやや弱
12	10YR4/1	褐灰色	Ta-dL(均一) 粘性なし しまり弱
13	10YR4/6	褐色	Ta-dL ≡ Ta-d1(均一) 粘性強 しまりやや弱
14	10YR2/1	黒色	V ≡ Ta-dL(均一) 粘性弱 しまり弱
15	7.5YR4/6	褐色	Ta-dL ≡ Ta-d1(均一) 粘性強 しまりやや弱
16	10YR2/1	黒色	V + Ta-d1(均一) 粘性なし しまり弱
17	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1 - Ta-dL(均一) 粘性なし しまりなし

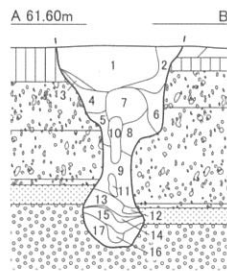
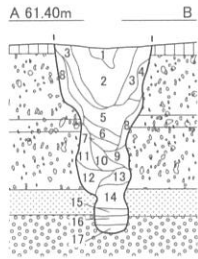
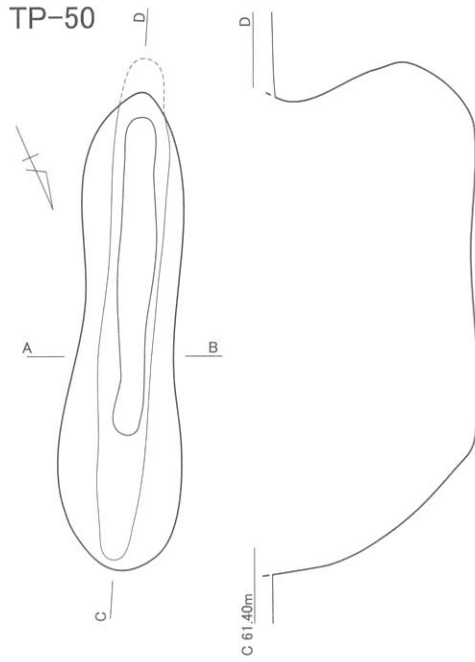


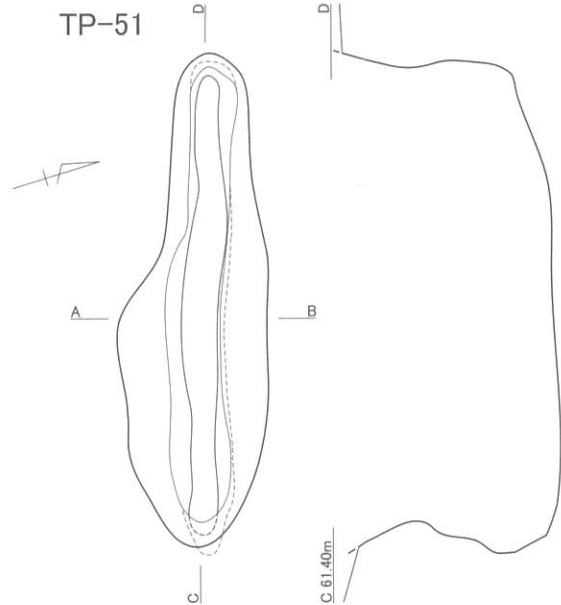
図 V-10 TP-48・49



TP-50

1	10YR4/4	褐色	Ta-dL = Vc(斑状) 倒木等による流れ込み 粘性強
2	10YR2/1	黒色	V = シルト岩(φ20↓・均一) ≡ Ta-d2.p(斑状) 粘性中 しまり強
3	10YR3/3	暗褐色	VI = V(斑状) 粘性中 しまり強
4	7.5YR4/6	褐色	Ta-dL = V(均一) 粘性強 しまり中
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-dL = V(均一) ≡ シルト岩(均一) 粘性強
6	10YR2/1	黒色	V = VI(斑状) ≡ シルト岩(斑状) 粘性強
7	7.5YR5/8	明褐色	Ta-dL ≡ Ta-d風化L(斑状) 粘性強
8	7.5YR5/6	明褐色	Ta-dL ≡ V(均一) 粘性強 しまり中
9	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d風化L = VIIb(斑状) 粘性強
10	10YR3/3	暗褐色	VI + Ta-dL = Vbブロック状 粘性強
11	10YR5/6	黄褐色	Ta-dL = V(均一) ≡ VIIc(斑状) 粘性強
12	10YR6/6	明黄褐色	Ta-d風化L崩落 粘性強
13	10YR4/6	褐色	Ta-dL = Ta-d風化L(斑状) = VI(均一) 粘性強
14	10YR5/6	黄褐色	Ta-d風化L = V(均一) ≡ シルト岩(斑状) 粘性強
15	10YR1.7/1	黒色	V ≡ シルト岩(均一) 粘性強
16	10YR4/4	褐色	Ta-dL = V(均一) ≡ Ta-d1(斑状) 粘性強
17	10YR4/1	褐灰色	Ta-d1 ≡ V(斑状) 粘性強

TP-51



TP-51

1	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-dL(斑状)
2	10YR3/2	黒褐色	Vc = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-dL(均一)
3	10YR4/2	灰黄褐色	Vc - Ta-dL(斑状)
4	10YR6/6	明黄褐色	Ta-dL = Vc(斑状)
5	10YR6/6	明黄褐色	Ta-dL = Vc(斑状)・シルト岩(φ20↓)
6	10YR3/1	黒褐色	Vb = Vc(斑状)・Ta-dL(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ5↓)
7	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dL ≡ Ta-d2.p(φ5↓)
8	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)・Ta-d2.p(φ10↓)
9	7.5YR4/1	褐灰色	Vc - Ta-dL(均一) = Ta-d2.p(φ10↓)
10	10YR6/3	にぶい褐色	Ta-d風化L ≡ Ta-d2.p(φ10↓)
11	10YR5/2	灰黄褐色	Vc - Ta-d風化L = Ta-d2.p(φ10↓)
12	7.5YR5/3	にぶい褐色	Ta-dL ≡ Ta-d2.p(φ10↓)
13	10YR2/1	黒色	Vb
14	10YR7/3	にぶい黄褐色	Ta-d風化L ≡ Vb(斑状)
15	10BG6/1	青灰色	Ta-d1 = Ta-d風化L(斑状)

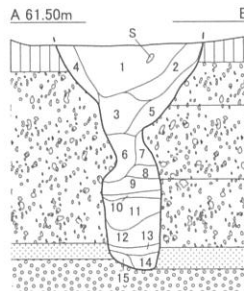
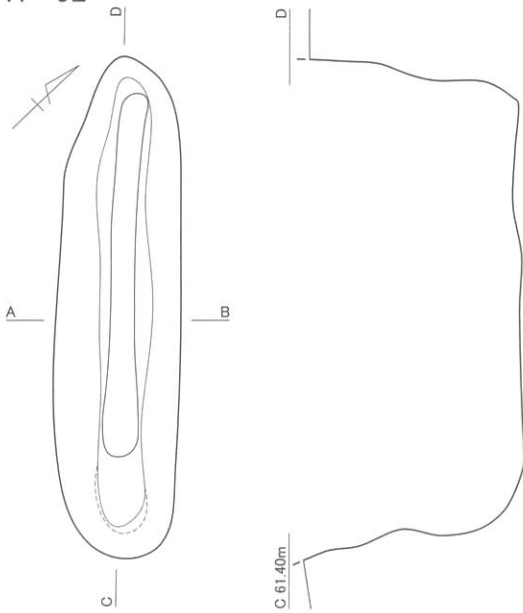


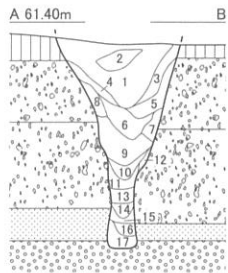
図 V-11 TP-50・51

TP-52

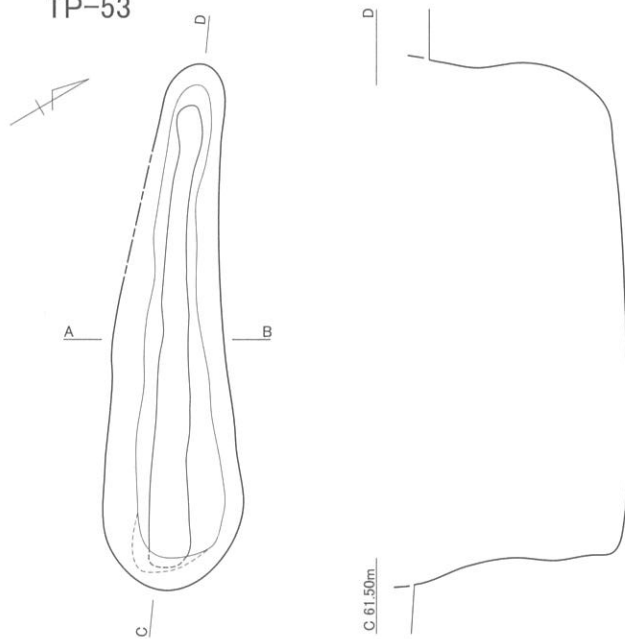


TP-52

1	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩 (φ 10 ↓)
2	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩 (φ 10 ↓) = Ta-d2.p (φ 20)
3	10YR3/1	黒褐色	Vc = シルト岩 (φ 10 ↓) = Ta-dL (均一)
4	10YR4/2	灰黄褐色	Vc = Ta-dL (均一) ≡ Vb (斑状)
5	10YR6/4	にぶい黄橙色	Ta-dL = Vc (斑状)
6	10YR4/1	褐灰色	Vc = Vb・Ta-dL (斑状)
7	10YR6/4	にぶい黄橙色	Ta-dL ≡ Vc (斑状)
8	10YR6/4	にぶい黄橙色	Ta-dL ≡ Vc (斑状)
9	10YR5/2	灰黄褐色	Ta-dL = Vc (均一) ≡ Ta-d2.p (φ 20 ↓)
10	10YR3/2	黒褐色	Vb = Vc (斑状) ≡ Ta-dL (斑状)・Ta-d2.p (φ 20 ↓)
11	10YR6/3	にぶい黄褐色	Ta-d風化L = Ta-d2.p (φ 10 ↓) ≡ Vc (斑状)
12	7.5YR6/3	にぶい褐色	Ta-d風化L = Ta-d2.p (φ 10 ↓)
13	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-d風化L (斑状) ≡ Ta-d2.p (φ 10 ↓)
14	7.5YR5/2	灰褐色	Ta-dL ≡ Vc (均一)
15	7.5YR6/4	にぶい橙色	Ta-dL ≡ Vc (斑状)
16	10BG4/1	暗青灰色	Ta-d1 = Vc (均一)・Ta-d2.p (φ 10 ↓)
17	10BG5/1	青灰色	Ta-d1 しまり極弱



TP-53



TP-53

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-d2.p (φ 5 ↓) ≡ シルト岩 (φ 10 ↓)
2	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ Ta-dL (斑状) ≡ Ta-d2.p (φ 5 ↓)
3	10YR3/2	黒褐色	Vc = Ta-dL (斑状)
4	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dL ≡ Vc (斑状)
5	10YR3/2	黒褐色	Vc = Ta-dL (斑状)
6	10YR6/3	にぶい黄褐色	Ta-dL ≡ Vc (斑状)
7	10YR5/2	灰黄褐色	Ta-dL = Vc (均一) ≡ Ta-d2.p (φ 10 ↓)
8	7.5YR6/2	灰褐色	Ta-dL ≡ Vc (均一)
9	7.5YR7/4	にぶい橙色	Ta-dL ≡ Ta-d2.p (φ 10 ↓)
10	7.5YR7/4	にぶい橙色	Ta-dL ≡ Ta-d2.p (φ 10 ↓)
11	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-dL (斑状)
12	7.5YR6/3	にぶい褐色	Ta-dL = Ta-d2.p (φ 10 ↓) ≡ Vc (均一)
13	10YR2/1	黒色	Vb
14	10BG5/1	青灰色	段丘堆積砂 ≡ Vc (均一)

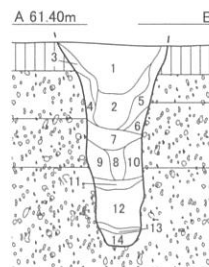


図 V-12 TP-52・53

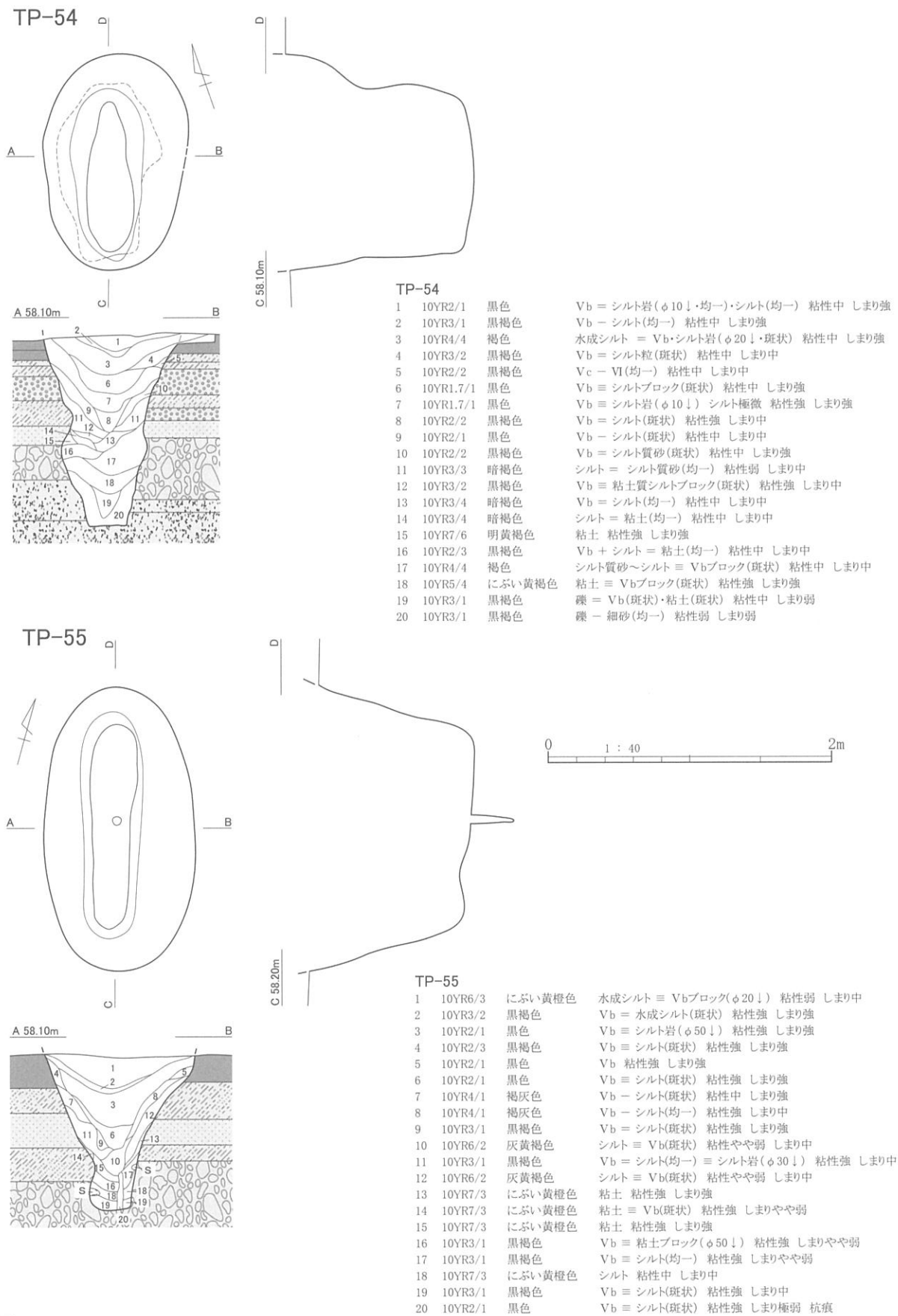
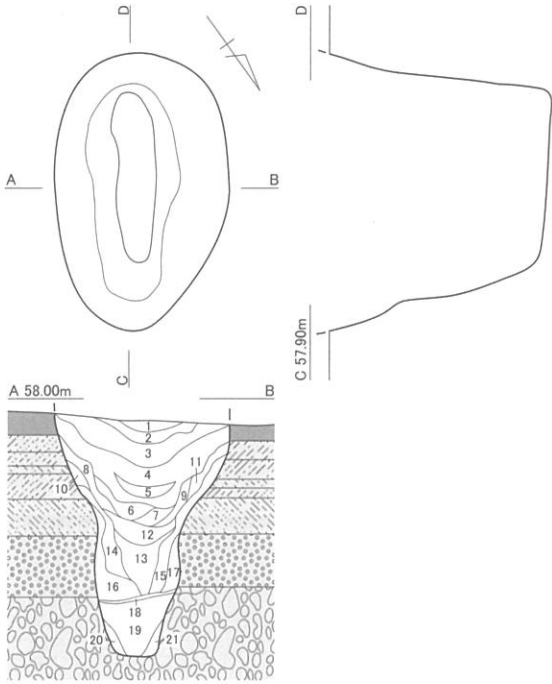


図 V-13 TP-54・55

TP-56



TP-56

1	10YR3/1	黒褐色	Va 粘性強 しまり強
2	10YR4/1	褐灰色	Va - 水成シルト(斑状) 粘性強 しまり強
3	10YR6/2	灰黄褐色	水成シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり強
4	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)・シルト岩(φ30↓) 粘性強 しまり強
5	10YR4/1	褐灰色	Vb = シルト(均一) 粘性強 しまり強
6	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状) 粘性強 しまり強
7	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状) 粘性強 しまり強
8	10YR5/2	灰黄褐色	シルト - Vb(斑状) 粘性やや弱 しまり強
9	10YR5/2	灰黄褐色	シルト - Vb(斑状) 粘性やや弱 しまり強
10	10YR5/2	灰黄褐色	シルト ≡ Vb(斑状) 粘性やや弱 しまり強
11	10YR5/2	灰黄褐色	シルト = Vb(斑状) 粘性やや弱 しまり強
12	10YR4/1	褐灰色	Vb - シルト(斑状) 粘性強 しまり中
13	10YR 5/3	黄褐色	シルト = Vb(均一) 粘性中 しまり中
14	10YR6/2	灰黄褐色	シルト ≡ Vb(斑状) 粘性やや弱 しまりやや弱
15	10YR6/2	灰黄褐色	シルト ≡ Vb(斑状) 粘性やや弱 しまりやや弱
16	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト 粘性弱 しまりやや弱
17	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト 粘性弱 しまりやや弱
18	10YR3/1	黒褐色	Vb 粘性強 しまり中
19	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト質粘土 粘性強 しまり中
20	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂 - 礫(φ50↓) 粘性弱 しまりやや弱
21	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂 - 礫(φ50↓) 粘性弱 しまりやや弱

TP-57

1	10YR3/1	黒褐色	Va ≡ 水成シルト(斑状) 粘性やや強 しまり強
2	10YR5/2	灰黄褐色	水成シルト - Vb(均一) 粘性やや弱 しまり強
3	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ 洪水シルト(斑状) 粘性強 しまり強
4	10YR4/1	褐灰色	Vb - 洪水シルト(均一) 粘性中 しまり中
5	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状) 粘性強 しまり強
6	10YR5/1	褐灰色	シルト - Vb(斑状) 粘性弱 しまり中
7	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(斑状) 粘性強 しまり強
8	10YR2/1	黒色	Vb 粘性強 しまり強
9	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト = Vb(斑状) 粘性やや弱 しまり強
10	10YR5/1	褐灰色	Vb - シルトブロック(φ30↓) 粘性弱 しまり中
11	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり強
12	10YR2/1	黒色	Vb 粘性強 しまり強
13	10YR4/1	褐灰色	Vb - シルト 粘性中 しまり強
14	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり強
15	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状) 粘性強 しまり中
16	10YR6/2	灰黄褐色	シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり中
17	10YR5/1	褐灰色	シルト - Vb(斑状) 粘性やや弱 しまり中
18	10YR6/2	灰黄褐色	シルト = Vb(斑状) 粘性弱 しまり中
19	10YR6/2	灰黄褐色	シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり中
20	10YR6/1	褐灰色	シルト 粘性弱 しまり中
21	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト質粘土 粘性やや強 しまりやや強
22	10YR6/1	褐灰色	シルト 粘性弱 しまりやや弱
23	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂 粘性弱 しまり弱
24	10YR3/1	黒褐色	Vb



TP-57

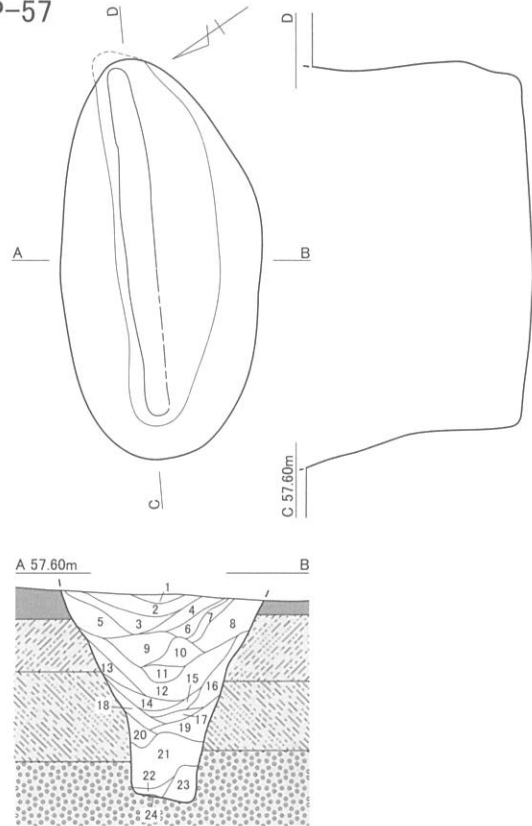
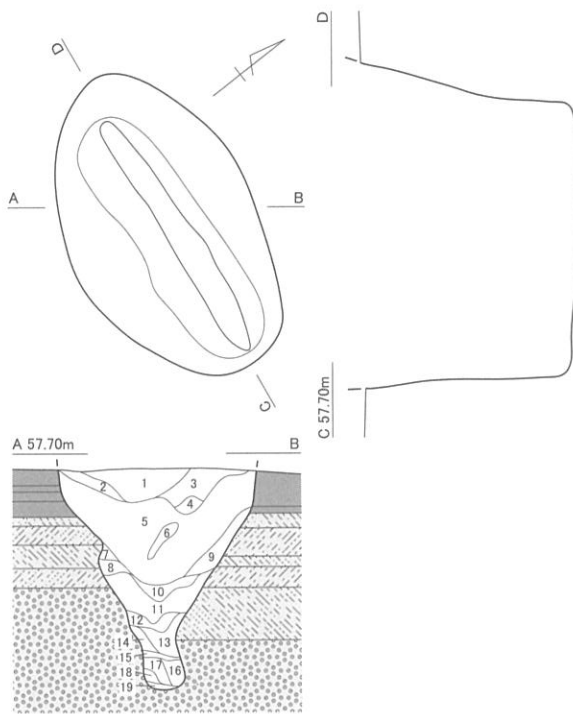


図 V-14 TP-56・57

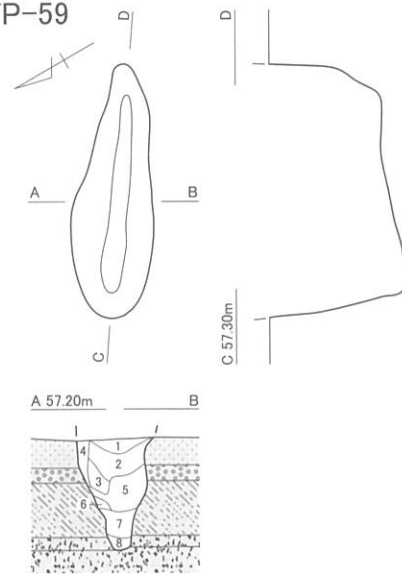
TP-58



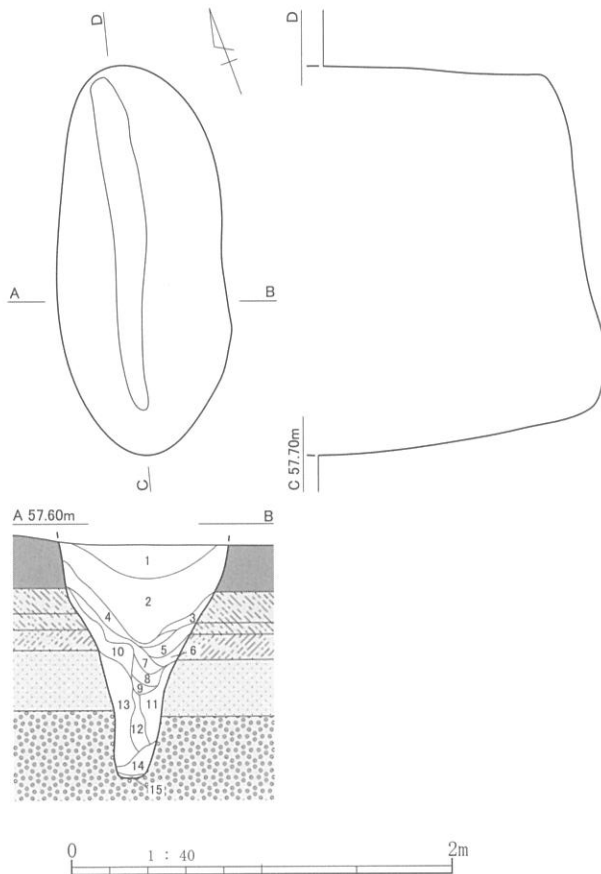
TP-58

1	10YR6/2	灰黄褐色	水成シルト ≡ Vb(均一)	粘性弱	しまり強
2	10YR4/1	褐灰色	Vb = 水成シルト(均一)	粘性やや強	しまり強
3	10YR4/1	褐灰色	Vb = 水成シルト(均一)	粘性やや強	しまり強
4	10YR7/2	にぶい黄橙色	水成シルト(斑状)	粘性弱	しまり強
5	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)・シルト岩(φ20↓)	粘性強	しまり強
6	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状)	粘性強	しまり中
7	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(均一)	粘性強	しまり強
8	10YR6/2	灰黄褐色	シルト質粘土 ≡ Vb(斑状)	粘性強	しまり強
9	10YR6/2	灰黄褐色	シルト質粘土 ≡ Vb(斑状)	粘性強	しまり強
10	10YR6/2	灰黄褐色	シルト質粘土 = Vb(斑状)	粘性強	しまり強
11	10YR6/2	灰黄褐色	シルト質粘土	粘性強	しまり強
12	10YR5/1	褐灰色	Vb = シルト質粘土	粘性強	しまり強
13	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまり中
14	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト質粘土	粘性強	しまり中
15	10YR3/1	黒褐色	Vb	粘性強	しまり中
16	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまり中
17	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト質粘土	粘性強	しまり中
18	10YR6/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまり中
19	10YR4/1	褐灰色	Vb	粘性強	しまり中

TP-59



TP-60



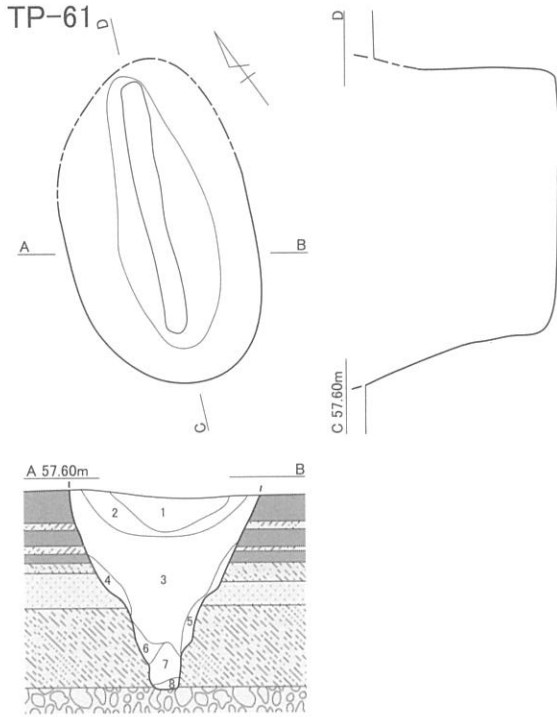
TP-59

1	10YR1.7/1	黒色	Vb = シルト・シルト岩(φ10↓)・Ta-d2.p(斑状)	粘性強	しまり弱	
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト - Vb(斑状)	粘性強	しまり強	
3	10YR3/2	黒褐色	粘土 + シルト質砂 + Vbブロック(斑状)	粘性中	しまり中	
4	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土崩落	粘性弱	しまり強	
5	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩(φ50↓・斑状)	粘性中	しまり中	
6	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト質砂 = Vb(斑状)	グライ化	粘性中	しまり強
7	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト質粘土 ≡ Vb・シルト質砂(斑状)	粘性強	しまり強	
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト質粘土 = 細砂(斑状)	≡ Vb・シルト質砂(斑状)	粘性強	しまり中

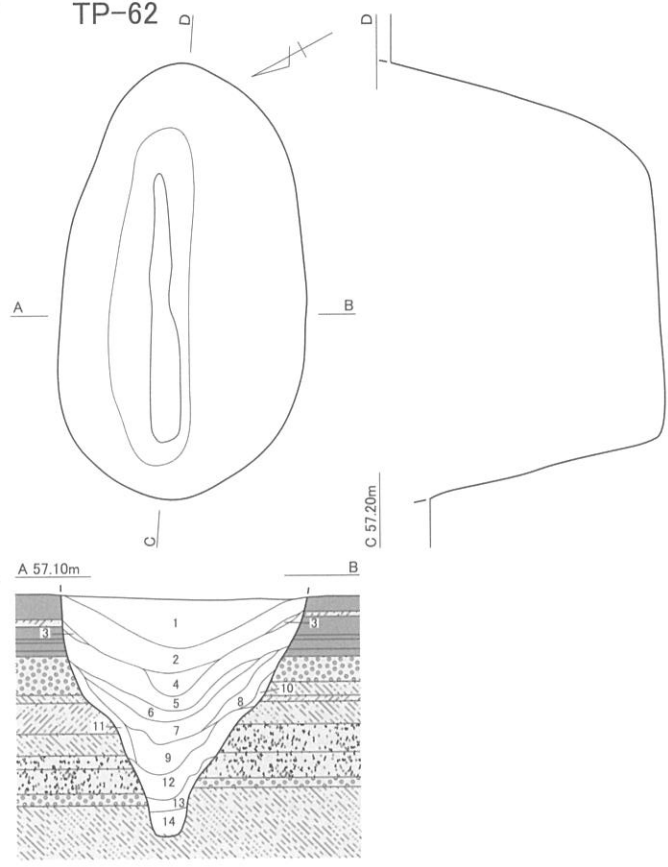
TP-60

1	10YR6/3	にぶい黄橙色	水成シルト ≡ Vbブロック(φ20↓)	粘性弱	しまり中
2	10YR2/1	黒色	Vb ≡ 水成シルトブロック(φ10↓)	粘性強	しまり強
3	10YR6/2	灰黄褐色	シルト質粘土 ≡ Vb(斑状)	粘性中	しまり中
4	10YR3/1	黒褐色	Vb = シルト(均一)	粘性強	しまり強
5	10YR7/3	にぶい黄橙色	水性粘土質シルト ≡ Vb(斑状)	粘性中	しまり中
6	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	粘性やや弱	しまり中
7	10YR6/2	灰黄褐色	シルト質粘土 - Vb(斑状)	粘性中	しまり強
8	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状)	粘性強	しまり中
9	10YR4/2	灰黄褐色	シルト - Vb(斑状)	粘性強	しまり中
10	10YR6/2	灰黄褐色	シルト質粘土 ≡ Vb(斑状)	粘性やや強	しまり強
11	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト	粘性やや強	しまり強
12	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト質粘土 ≡ Vb(斑状)	粘性強	しまり中
13	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト	粘性やや強	しまり強
14	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	粘性弱	しまり弱
15	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状)	粘性強	しまり中

図 V-15 TP-58 ~ 60



- TP-61**
- | | | | | | |
|---|---------|-------|---------------------------|-----|--------|
| 1 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 水成シルト ≡ Vb(斑状) | 粘性弱 | しまりやや弱 |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb ≡ 水成シルト(斑状)・シルト岩(φ20↓) | 粘性強 | しまり強 |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ20↓) | 粘性強 | しまり強 |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb | 粘性強 | しまり中 |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vb = シルト(斑状) | 粘性強 | しまり中 |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) | 粘性強 | しまりやや強 |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb ≡ シルト(斑状) | 粘性強 | しまり中 |
| 8 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb | 粘性強 | しまり中 |



- TP-62**
- | | | | | | |
|----|---------|--------|-------------------------------|-----|------|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色 | 水成シルト + 細砂 ≡ Vbブロック(斑状) | | |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb = シルト岩(φ15↓) ≡ シルト(斑状) | | |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト ≡ シルト岩(φ10↓) | | |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルトブロック ≡ Vb(斑状) | | |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルトブロック(斑状) ≡ シルト岩(φ30↓) | | |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルトブロック(斑状)・シルト岩(φ30↓) | | |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | VI = シルト岩(φ10↓)・斑状 | | |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 = 粘土ブロック(斑状) | | |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまり強 |
| 10 | 10YR4/4 | 褐色 | VI = シルト質砂(均一) | | |
| 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 = 粘土シルト(斑状) | | |
| 12 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト ≡ 細砂(均一) | | |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 細砂 = 粘土ブロック(斑状) | | |
| 14 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) | | |

- TP-63**
- | | | | | | |
|----|-----------|--------|--------------------------------|-----|------|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色 | 水成シルト ≡ Vbブロック(斑状) | | |
| 2 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩(φ50↓) | | |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb + シルト = シルト質粘土(斑状) | | |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) ≡ シルト岩(斑状) | | |
| 5 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト | 粘性弱 | しまり中 |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルトブロック(斑状)・Ta-d2.p(φ20↓) | 粘性中 | しまり中 |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト = シルト岩(φ50↓) | 粘性強 | しまり中 |
| 8 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩(φ50↓)・シルト質砂(斑状) | 粘性強 | しまり中 |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト質砂 = Vb(均一) | 粘性弱 | しまり中 |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト質砂ブロック(φ50↓) | 粘性強 | しまり強 |
| 11 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 - シルト質粘土(斑状) | 粘性中 | しまり強 |
| 12 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 | 粘性弱 | しまり中 |
| 13 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 ≡ Vbブロック(斑状) | 粘性強 | しまり強 |
| 14 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 壁面粘土の崩落 ≡ 細砂ブロック(斑状) | 粘性強 | しまり中 |
| 15 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 細砂 | 粘性中 | しまり中 |

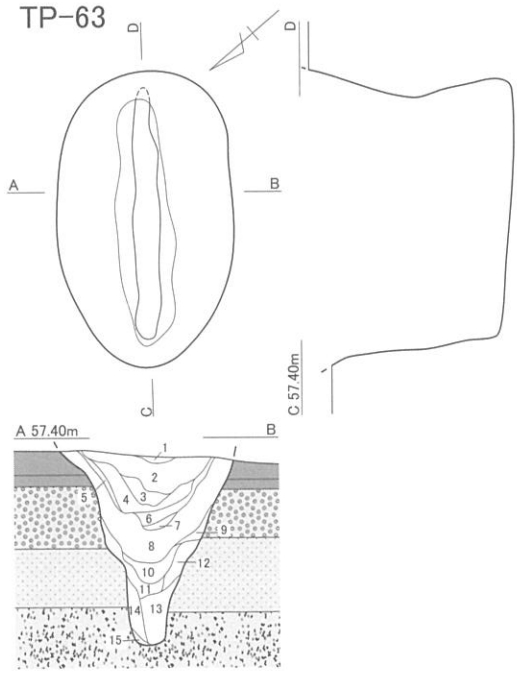
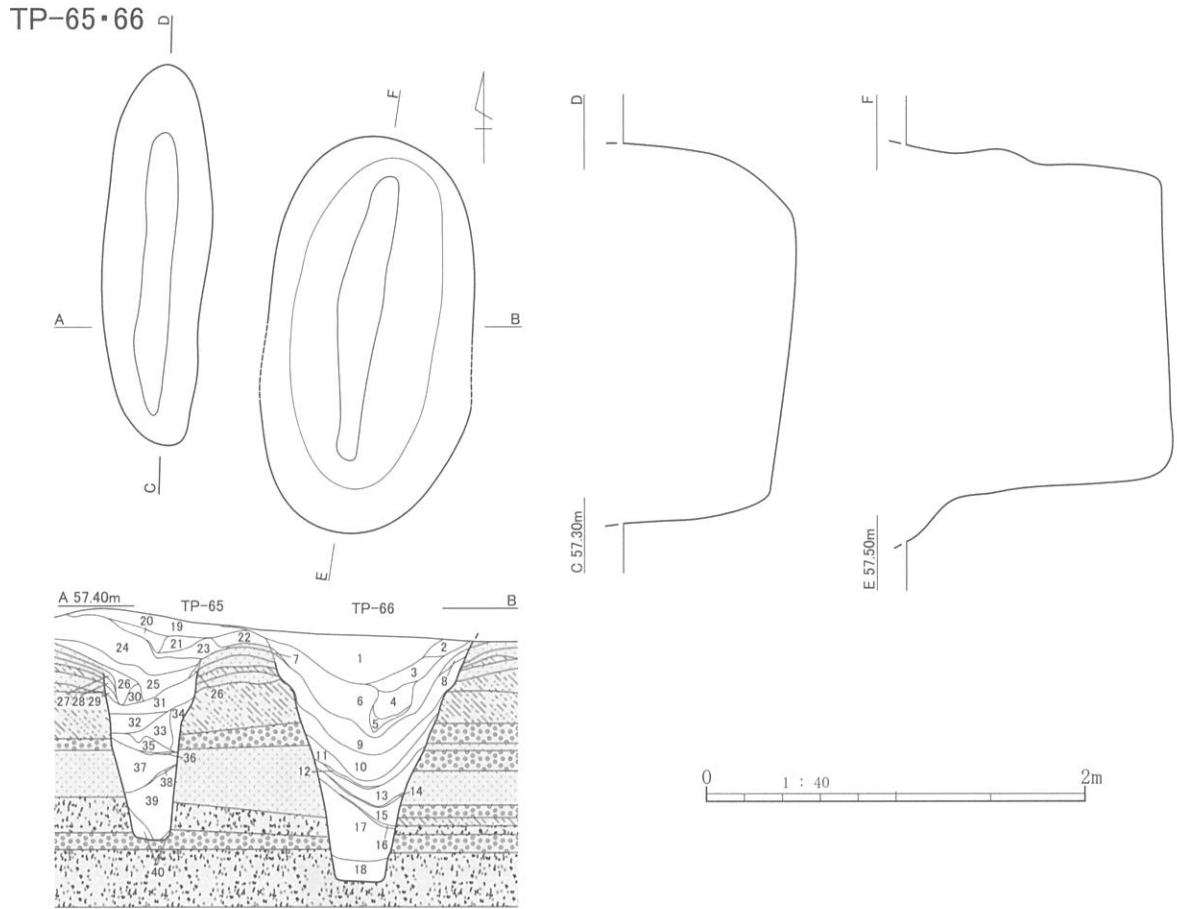


図 V-16 TP-61 ~ 63



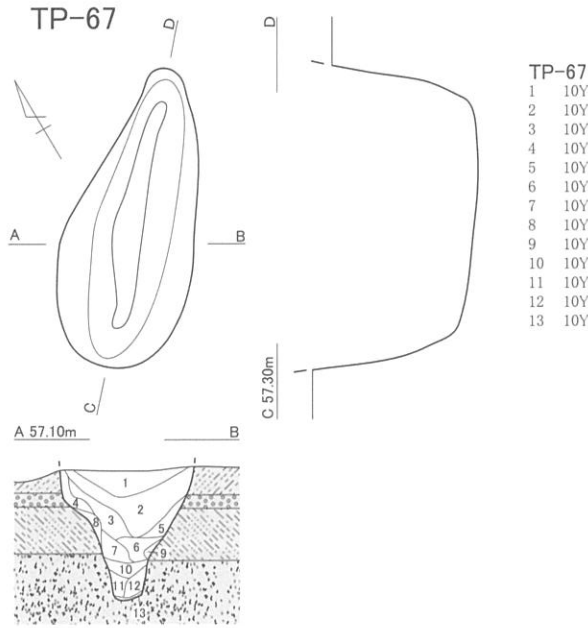
TP-65

19	10YR3/2	黒褐色	水成シルト = Vbシルト(斑状) = シルト岩(φ10↓) 粘性弱 しまり中
20	10YR3/1	黒褐色	Vb = シルト(斑状) 粘性やや中 しまり中
21	10YR4/2	灰黄褐色	Vbシルト ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
22	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(ブロック状) 粘性中 しまりやや中
23	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中
24	10YR1.7/1	黒色	Vb ≡ シルト・シルト岩(φ20↓・斑状) 粘性中 しまりやや中
25	10YR4/4	褐色	水成シルト ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
26	10YR2/1	黒色	Vb
27	10YR3/1	黒褐色	Vb = シルト(均一) TP-65掘り上げ土の可能性あり 粘性中 しまり弱 シルト質粘土
28	10YR3/3	暗褐色	Vb
29	10YR3/1	黒褐色	Vb
30	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状) 粘性やや中 しまりやや中
31	10YR3/2	黒褐色	Vb + シルト(ブロック状) 粘性中 しまり中
32	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(ブロック状) 粘性中 しまり中
33	10YR3/1	黒褐色	Vb = 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまり中
34	10YR4/3	にぶい褐色	粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
35	10YR4/4	褐色	粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
36	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ 砂質シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中
37	10YR4/4	褐色	粘土質シルト~粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
38	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ 粘土(斑状) 粘性中 しまりやや中
39	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性中 しまり中
40	10YR3/2	黒褐色	細砂 粘性弱 しまり中

TP-66

1	10YR4/2	灰黄褐色	水成シルト 粘性弱 しまりやや中
2	10YR3/2	黒褐色	Vb + シルト(斑状) 粘性やや中 しまり中
3	10YR3/1	黒褐色	Vb = シルト(均一) ≡ シルト岩(φ10↓) 粘性中 しまりやや中
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト = Vb(斑状) 粘性やや中 しまりやや中
5	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状) 粘性やや中 しまり中
6	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)・シルト岩(φ10↓) ・Ta-d2.p(φ20↓) 粘性中 しまりやや中 Vb 粘性やや中 しまり中
7	10YR3/1	黒褐色	Vbシルト ≡ Vb(斑状) 粘性中 しまり中
8	10YR4/3	にぶい黄褐色	Vb = シルト岩(φ2↓) ≡ シルト(斑状) 粘性中 しまり弱
9	10YR2/1	黒色	Vb = 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中
10	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト = Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
11	10YR5/3	にぶい黄褐色	Vb = 砂質シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中
12	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト + 粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまりやや中
13	10YR4/4	褐色	Vb = 砂質シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中
14	10YR3/1	黒褐色	粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
15	10YR5/4	にぶい黄褐色	Vb ≡ 砂質シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中
16	10YR3/1	黒褐色	粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
17	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
18	2.5GY6/1	オリーブ灰色	粘土 = 細砂(斑状) ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中

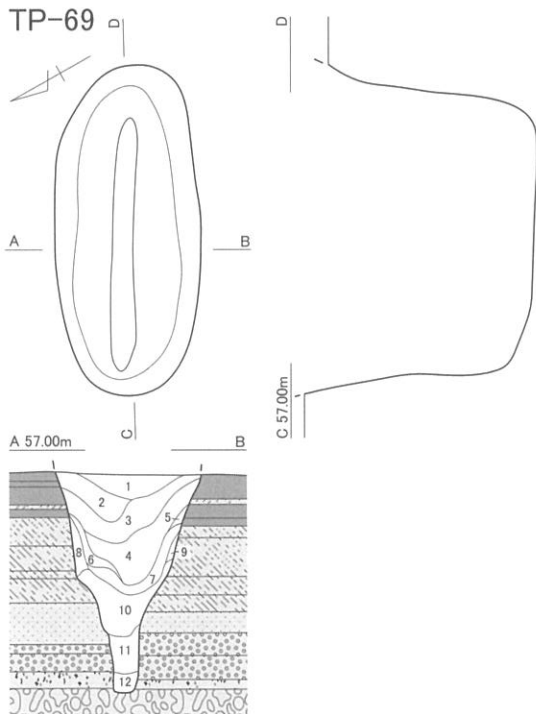
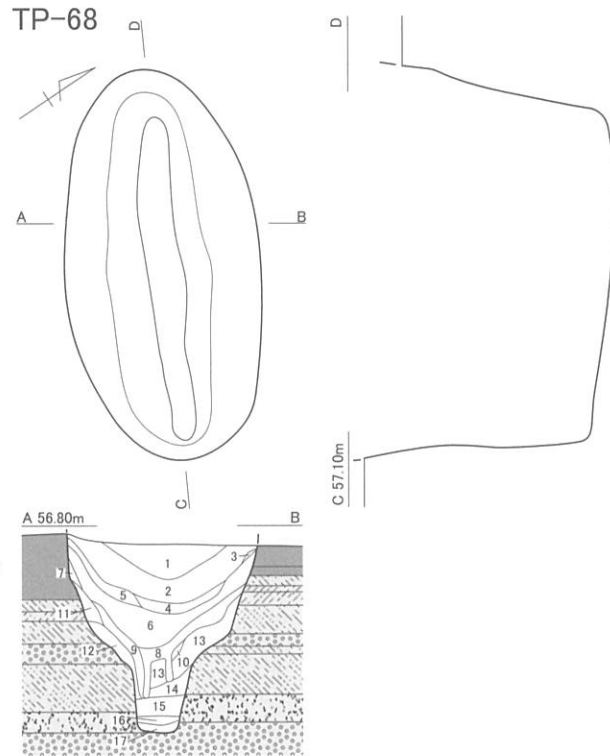
図 V-17 TP-65・66



TP-67

- | | | | |
|----|-----------|--------|--|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ20↓) ≡ シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 2 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩・Ta-d2.p(φ20↓) = シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 3 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb + シルト ≡ Ta-d2.p(φ20↓) 粘性中 しまり中 |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト ≡ Vb(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルト質砂(互層状) 粘性中 しまり強 |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルトブロック(斑状) 粘性強 しまり弱 |
| 7 | 10YR4/4 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 + 粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり強 |
| 8 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 ≡ 粘土ブロック(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 9 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性中 しまり強 |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩(φ10↓) 粘性中 しまり中 |
| 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト ≡ Vb(斑状) グライ化 粘性強 しまり強 |
| 12 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト質砂 = Vb(斑状) グライ化 粘性強 しまり強 |
| 13 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ 細砂(斑状) 粘性中 しまり中 |

- TP-68
- | | | | |
|----|-----------|--------|--|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 水成シルト 粘性弱 しまり中 |
| 2 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルトブロック(斑状) = シルト岩(φ20↓) 粘性強 しまり中 |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト = Vb(均一) 粘性中 しまり中 |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト - Vb(均一) 粘性強 しまり中 |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(均一) 粘性強 しまり中 |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘土 粘性中 しまり中 |
| 8 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vb = シルト(均一) 粘性強 しまり強 |
| 9 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vb = シルト(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 10 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト - 粘土質シルト(均一) 粘性強 しまり中 |
| 12 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性中 しまり強 |
| 13 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 = シルト(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 14 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性中 しまり強 |
| 15 | 10YR5/6 | 黄褐色 | Vb + シルト質粘土(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 16 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 粘性中 しまり中 |
| 17 | 10YR4/6 | 褐色 | シルト質粘土 ≡ Vb・細砂(斑状) 粘性強 しまり中 |



TP-69

- | | | | |
|----|---------|--------|-------------------------------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 水成シルト 粘性弱 しまり中 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) 粘性やや中 しまり中 |
| 3 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb ≡ シルト岩(φ20↓) 粘性中 しまり中 |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中 |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb 粘性中 しまりやや中 |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルト質粘土(斑状) 粘性中 しまりやや中 |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb ≡ シルト質粘土(斑状) 粘性中 しまりやや中 |
| 8 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまりやや強 |
| 9 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまりやや強 |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質粘土 + 粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中 |
| 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 粘性中 しまり中 |
| 12 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ 粘土ブロック(斑状) 粘性中 しまり中 |

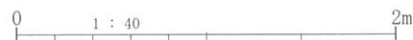
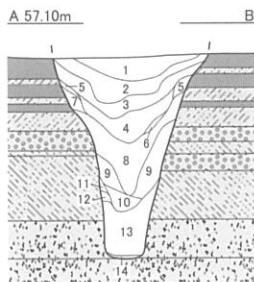
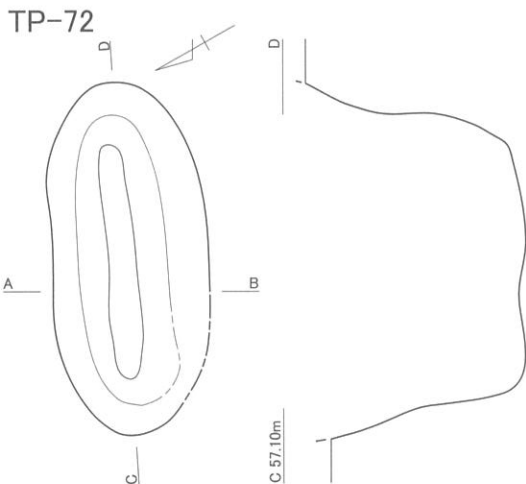
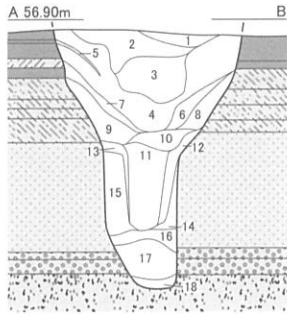
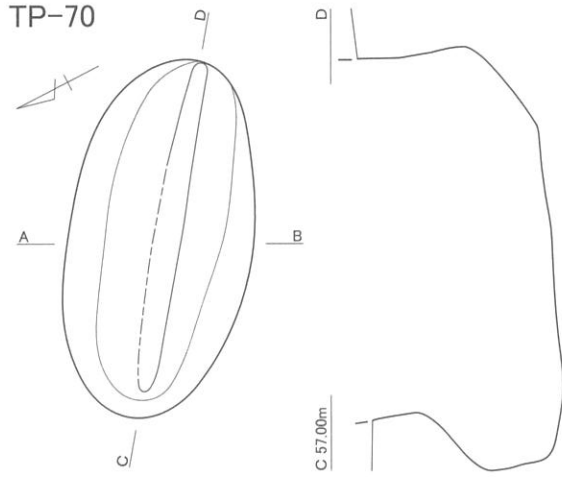
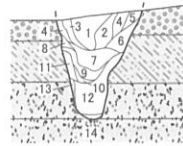
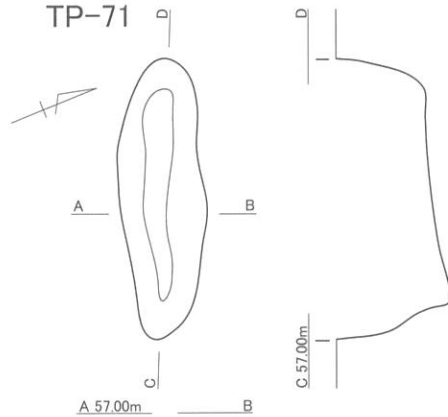


図 V-18 TP-67 ~ 69



☒ V-19 TP-70 ~ 72



TP-70

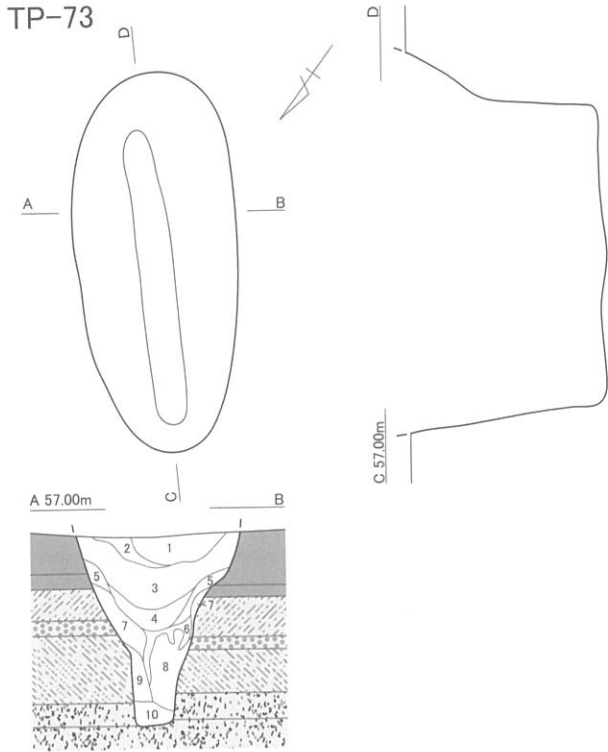
- | | | | |
|----|-----------|--------|------------------------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 水成シルト 粘性弱 しまり中 |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = 水成シルト(均一) 粘性やや中 しまり中 |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シルト = Vb(斑状) 粘性中 しまりやや強 |
| 4 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ20↓) 粘性中 しまり中 |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 粘土 粘性やや中 しまり中 |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(均一) 粘性中 しまり弱 |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = 粘土(均一) ≡ シルトブロック(斑状) |
| 8 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シルト質粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまりやや中 |
| 9 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 粘性やや中 しまりやや中 |
| 10 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = 粘土(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = 粘土(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 12 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 13 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまりやや中 |
| 14 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 粘性やや中 しまりやや強 |
| 15 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 粘性やや中 しまり中 |
| 16 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト ≡ Vb(均一) 粘性弱 しまりやや中 |
| 17 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 粘性中 しまり中 |
| 18 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | シルト質粘土 = 粘土ブロック(斑状) 粘性弱 しまり中 |

TP-71

- | | | | |
|----|-----------|--------|-------------------------------|
| 1 | 10YR1.2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ50↓)・Ta-d2.p(φ20↓) |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = シルト岩(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 3 | 10YR4/1 | 黒色 | VI = シルト(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性弱 しまり強 |
| 5 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性中 しまり強 |
| 6 | 10YR5/6 | 黄褐色 | シルト質砂 = 粘土(均一) 粘性中 しまり強 |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) ≡ シルト質砂(斑状) |
| 8 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり中 |
| 9 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ20↓) 粘性中 しまり弱 |
| 10 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vb = 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性中 しまり中 |
| 12 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = 粘土質シルトブロック(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 13 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト - 細砂(均一) 粘性弱 しまり中 |
| 14 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vb = 細砂 + シルト(斑状) 粘性弱 しまり中 |

TP-72

- | | | | |
|----|-----------|--------|-------------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ30↓) 粘性中 しまり中 |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ30↓)・Ta-d2.p(φ5↓) |
| 3 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ20↓斑状) 粘性強 しまり中 |
| 4 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ20↓) |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト = Vb(均一) 粘性中 しまり強 |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - 粘土質シルト 粘性強 しまり中 |
| 8 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルトブロック(斑状)・シルト岩(10↓) |
| 9 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb 粘性中 しまり中 |
| 10 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 粘土質シルト = シルト粒(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 11 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 砂質シルト 粘性弱 しまり中 |
| 12 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb - 粘土質シルト(互層状) 粘性強 しまり中 |
| 13 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性強 しまり強 |
| 14 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 = 粘土質シルトブロック(斑状) |
| 15 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) 粘性強 しまり強 |



- TP-73
- | | | | | | |
|----|-----------|--------|---------------------------------------|---------------|----------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト = Vb(斑状) | 粘性弱 | しまり中 |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) | 粘性中 | しまり強 |
| 3 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ40↓) | ≡ 洪水堆積シルト(斑状) | |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状)・シルト岩(φ40↓)・Ta-d2.p(φ20↓) | | |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - シルト(均一) | 粘性中 | しまり強 |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) | 木根によるもの | 粘性強 しまり弱 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト = Vb(斑状) | 粘性中 | しまり中 |
| 8 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト = シルト質砂(斑状) | | |
| 9 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘土質シルト = シルト質砂(均一) | | |
| 10 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) | 粘性中 | しまり強 |

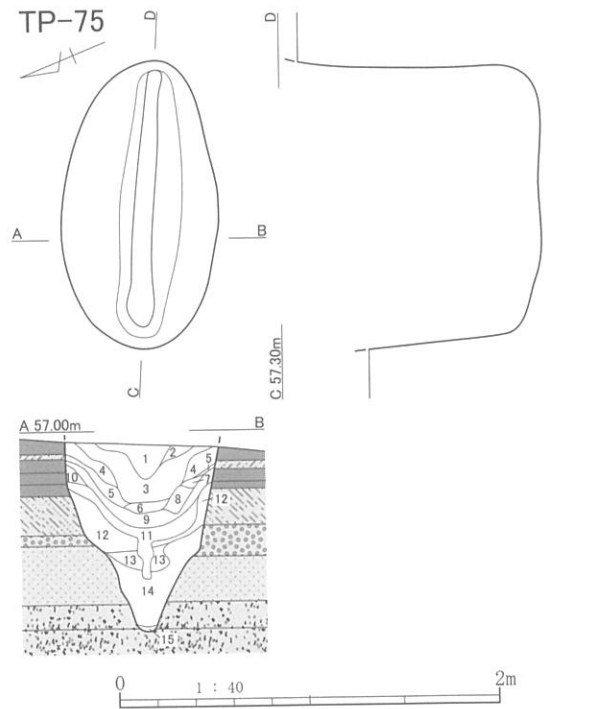
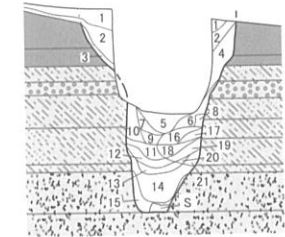
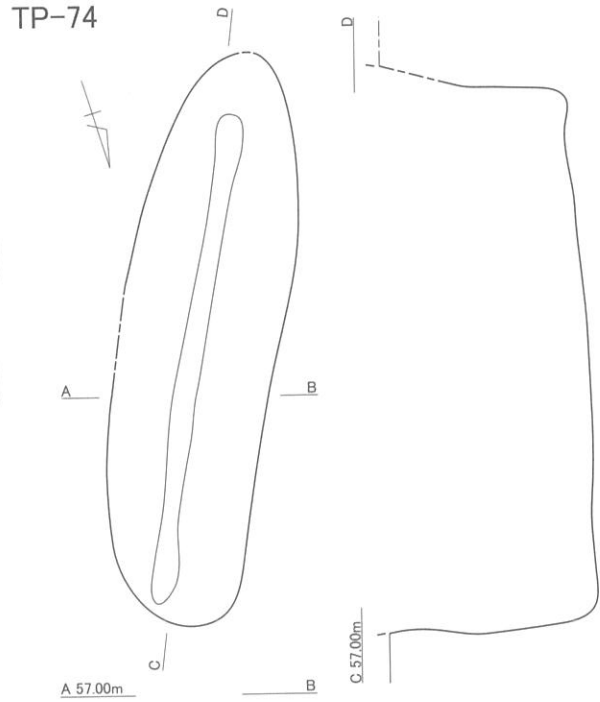
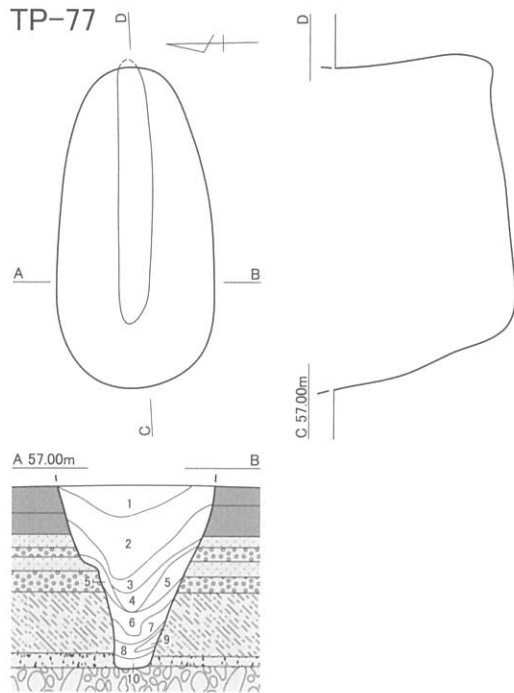


図 V-20 TP-73 ~ 75

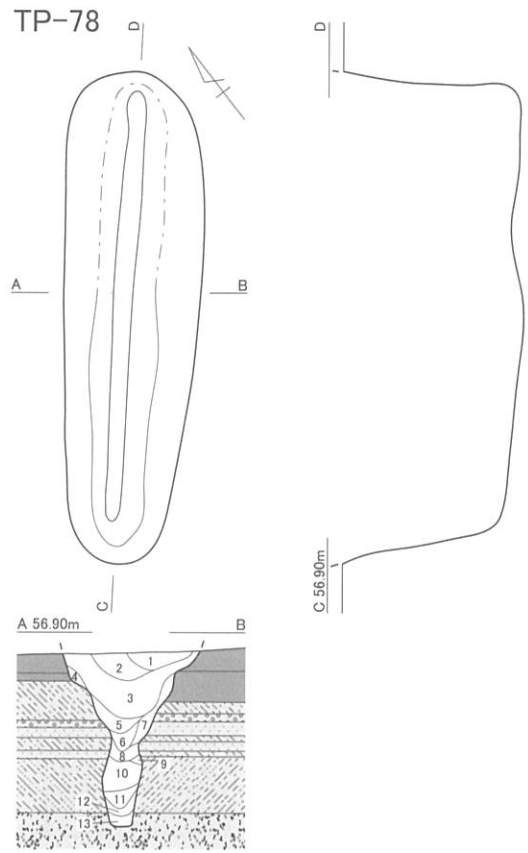


- TP-74
- | | | | | | |
|----|-----------|--------|-------------------------------|------|----------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 水成シルト | 粘性弱 | しまり中 |
| 2 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb - シルトブロック(斑状) | 粘性強 | しまり中 |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb + 砂質シルト | 粘性強 | しまり強 |
| 4 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ20↓)・Ta-d2.p(φ20↓) | | |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 粘土質シルト - Vb(斑状) | 粘性強 | しまり強 |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂質シルト = Vb(斑状) | 粘性中 | しまり強 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂質シルト = Vb(斑状) | 粘性中 | しまり中 |
| 8 | 10YR2/1 | 黒色 | 木根痕へのVb落ち込み | | |
| 9 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - 砂質シルト(斑状) | 粘性強 | しまり中 |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性弱 | しまり中 |
| 11 | 10YR4/4 | 褐色 | Vb = 粘土質シルト(五層状) | 粘性強 | しまり中 |
| 12 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb = 粘土質シルト(均一) | 粘性中 | しまり中 |
| 13 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vb = 粘土質シルト(斑状) | 粘性中 | しまり強 |
| 14 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト = 粘土(斑状) | 粘性強 | しまり中 |
| 15 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 細砂 = 粘土(均一) | 粘性中 | しまり強 |
| 16 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 9と同質 | グライ化 | 粘性強 しまり中 |
| 17 | 5YR6/2 | 灰オリーブ色 | シルト質粘土 | グライ化 | 粘性強 しまり強 |
| 18 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 11と同質 | グライ化 | 粘性強 しまり強 |
| 19 | 5YR6/2 | 灰オリーブ色 | 12と同質 | グライ化 | 粘性弱 しまり中 |
| 20 | 5YR6/2 | 灰オリーブ色 | 13と同質 | グライ化 | 粘性中 しまり強 |
| 21 | 5YR6/3 | 灰オリーブ色 | 14と同質 | グライ化 | 粘性中 しまり強 |

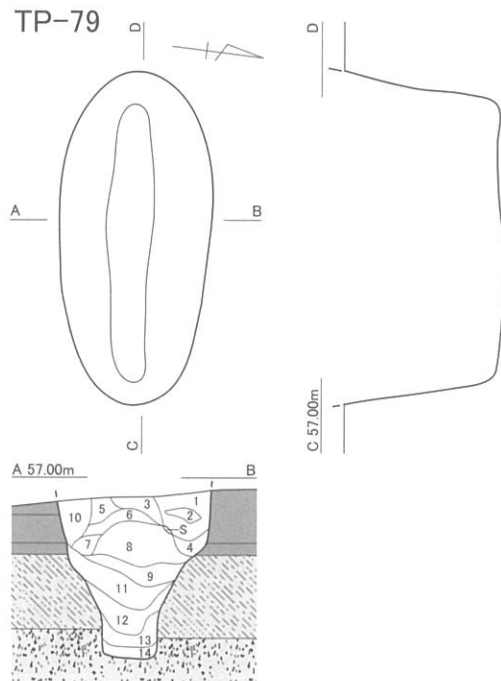
- TP-75
- | | | | | | |
|----|---------|--------|-------------------------------|-----|------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルトブロック(斑状) = シルト岩(φ10↓) | | |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vb - シルト(斑状) | 粘性弱 | しまり中 |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト = Vb(斑状) = シルト岩(斑状) | | |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルト岩(φ20↓) | 粘性強 | しまり中 |
| 5 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | シルト = Vb(斑状) | 粘性中 | しまり中 |
| 6 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト = Vb(斑状) | 粘性弱 | しまり中 |
| 7 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vb = シルト(均一) | 粘性強 | しまり中 |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb = シルト(斑状) | 粘性中 | しまり中 |
| 9 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) | 粘性中 | しまり中 |
| 10 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vb = シルト(均一) | 粘性強 | しまり中 |
| 11 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルトブロック(斑状) | 粘性強 | しまり中 |
| 12 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 粘性中 | しまり中 |
| 13 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 砂質シルト = 粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 |
| 14 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色 | シルト砂質粘土 | 粘性強 | しまり強 |
| 15 | 10YR3/1 | 褐色 | Vb | 粘性強 | しまり強 |



- TP-77**
- | | | | |
|----|-----------|--------|--|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 水成シルト 粘性弱 しまり中 |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩 (φ20 ↓)・Ta-d2.p (φ30 ↓) 粘性強 しまり中 |
| 3 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト粒 (φ50 ↓) 粘性強 しまり弱 |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = 粘土(斑状) ≡ シルト岩 (φ20 ↓) 粘性強 しまり中 |
| 5 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性強 粘性強 しまり強 |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb ≡ 粘土(互層状) 粘性強 しまり中 |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト質砂 = シルト質粘土(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 8 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = 粘土(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 9 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり中 |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質粘土 - 細砂(均一) = Vb(均一) 粘性弱 しまり中 |



- TP-78**
- | | | | |
|----|-----------|--------|--|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩 (φ50 ↓)・シルトブロック(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 2 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | Vb - 水成シルト(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 3 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) ≡ Ta-d(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | VbL(Vc)起源流れ込み 粘性強 しまり強 |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) ≡ シルト岩(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト質砂(斑状) ≡ シルト岩(斑状) 粘性中 しまり弱 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb - 粘土質シルト(均一) 粘性強 しまり強 |
| 8 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト質砂 ≡ Vb(斑状) 粘性中 しまり弱 |
| 9 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト ≡ 粘土(斑状) 粘性中 しまり弱 |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb - 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 11 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vb - 粘土(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 12 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性強 しまり強 |
| 13 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = 粘土(均一) 粘性強 しまり中 |



- TP-79**
- | | | | |
|----|-----------|--------|-----------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ 水成シルト(斑状)・シルト岩 (φ10 ↓) |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 水成シルト |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = 水成シルト(斑状) ≡ シルト岩 (φ10 ↓) |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb ≡ シルト質砂(斑状) |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb = 水成シルト(斑状) |
| 6 | 10YR4/4 | 褐色 | 水成シルト |
| 7 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 水成シルト = Vb(斑状) |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 水成シルト やや粘性有 |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = 粘土質シルト(斑状) |
| 10 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb ≡ シルト質砂(斑状) |
| 11 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩 (φ30 ↓) 粘性強 しまり中 |
| 12 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb - 粘土質シルト(斑状) 粘性強 しまり弱 |
| 13 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト - 細砂(均一) ≡ Vb(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 14 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb - 粘土質シルト(均一) ≡ 細砂(均一) 粘性中 しまり中 |

図 V-21 TP-77 ~ 79

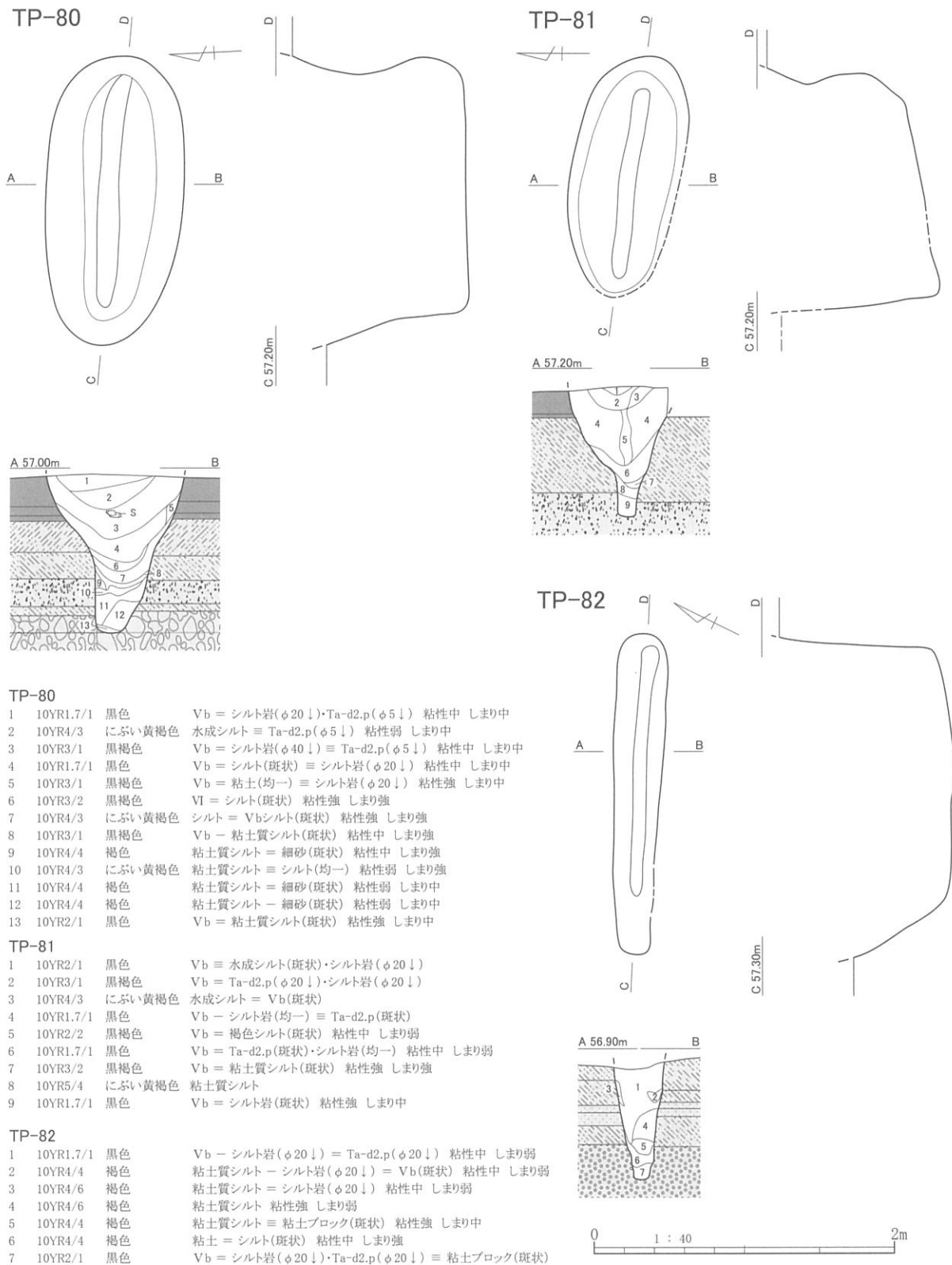
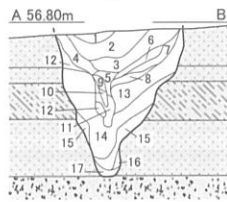
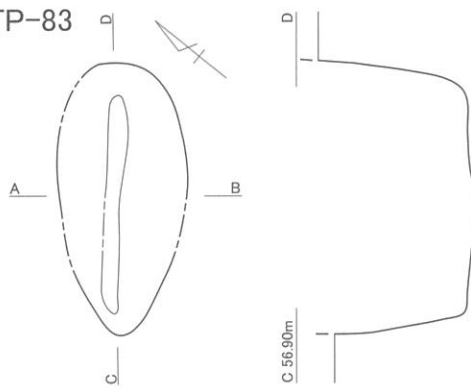


図 V-22 TP-80 ~ 82

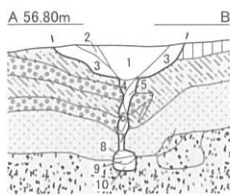
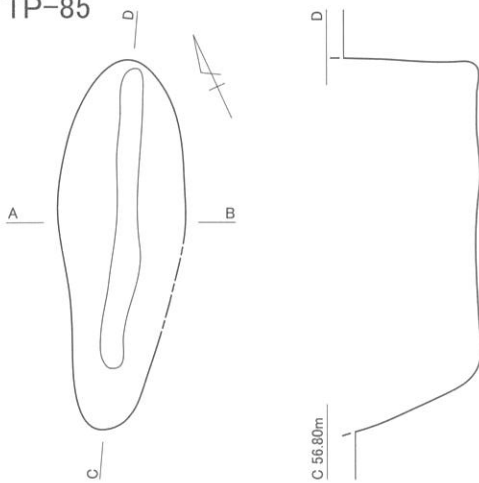
TP-83



TP-83

1	2.5Y3/1	黒褐色	水成シルト 粘性やや中 しまり中
2	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩(φ20↓) ≡ Ta-d2.p(φ20↓)
3	10YR1.7/1	黒色	Vb ≡ シルト岩(φ20↓) 粘性やや強 しまり弱
4	10YR3/1	黒褐色	VI = 粘土(均一) 粘性中 しまり弱
5	2.5Y3/1	黒褐色	Vb = 粘土質シルト(斑状) 粘性やや強 しまり弱
6	2.5Y3/2	黒褐色	Vb ≡ 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中
7	2.5Y3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト岩(φ50↓)・Ta-d2.p(φ20↓)
8	10YR3/1	黒褐色	Vb = 粘土(均一) 粘性中 しまり弱
9	10YR1.7/1	黒色	Vb ≡ シルト岩(φ30↓) 粘性強 しまりやや中
10	2.5Y2/1	黒色	Vb = 粘土(均一)・シルト岩(φ50↓) 粘性やや強 しまり弱
11	2.5Y3/1	黒褐色	Vb = 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまり弱
12	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土ブロック 粘性中 しまりやや強
13	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土 ≡ Vb(斑状) 粘性やや中 しまり中
14	10YR4/4	褐色	粘土質砂
15	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
16	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質砂 粘性弱 しまり弱
17	10YR4/2	灰黄褐色	Vb = 粘土(斑状)

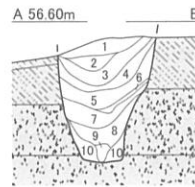
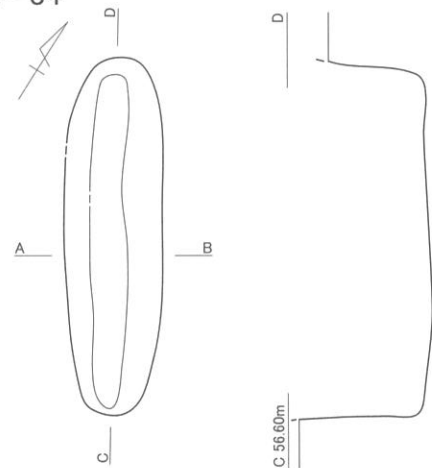
TP-85



TP-85

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト岩(φ20↓) 粘性強 しまり強
2	10YR4/2	灰黄褐色	Vb ≡ シルト(斑状) 粘性弱 しまり中
3	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(斑状) 粘性中 しまり中
4	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト岩(φ20↓) 粘性強 しまり中
5	10YR5/3	にぶい黄褐色	Vb = 粘土質シルト(斑状) しまり強 粘性中
6	10YR3/2	黒褐色	Vb = 粘土質シルト(均一) 粘性強 しまり弱
7	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土 = 粘土質シルト(均一)
8	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト ≡ Vb(斑状)
9	10YR2/1	黒色	Vb ≡ 粘土質シルト(斑状)
10	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト ≡ Vb(斑状)

TP-84

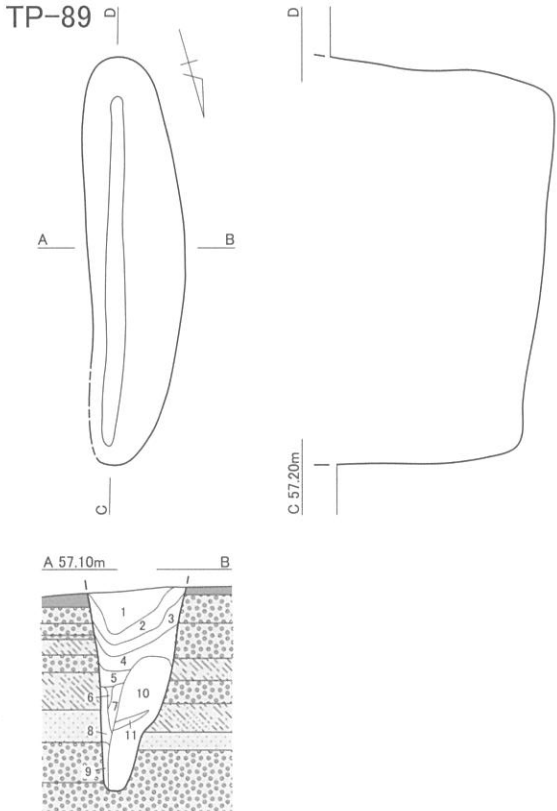
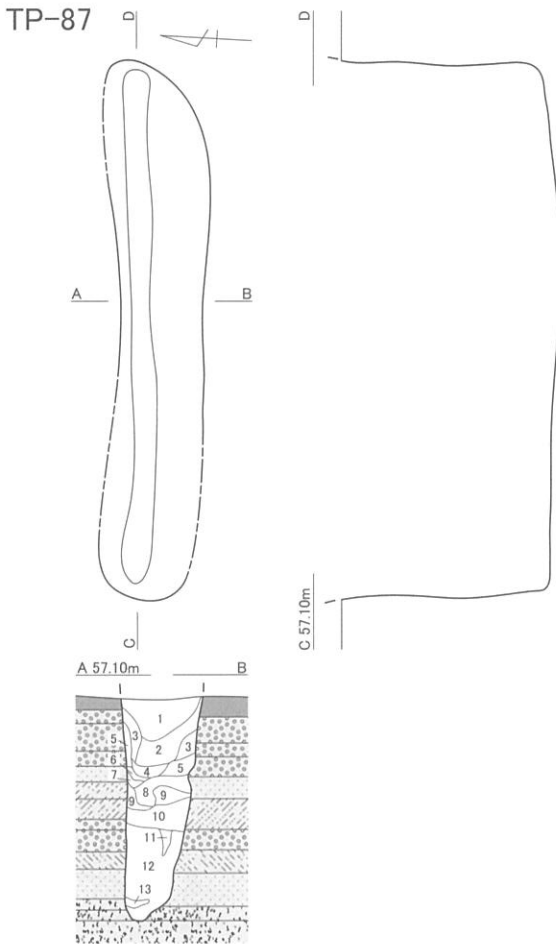
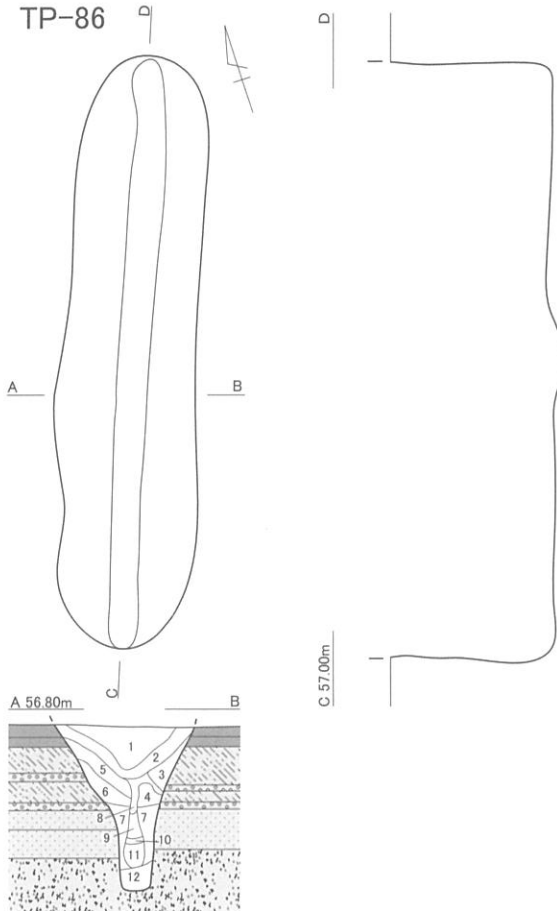


TP-84

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状) 粘性強 しまり強
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト = Vb(斑状) 粘性中 しまり強
3	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト岩(φ20↓)
4	10YR3/2	黒褐色	VI = 粘土質シルト(斑状)
5	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト = 細砂(斑状)
6	2.5Y3/1	黒褐色	シルト ≡ シルト岩(φ30↓)
7	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト = 細砂(斑状)
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト + 細砂(均一) 粘性強 しまり強
9	10YR4/3	にぶい黄褐色	細砂 = 粘土ブロック(斑状)
10	10YR4/4	褐色	細砂



図 V-23 TP-83 ~ 85



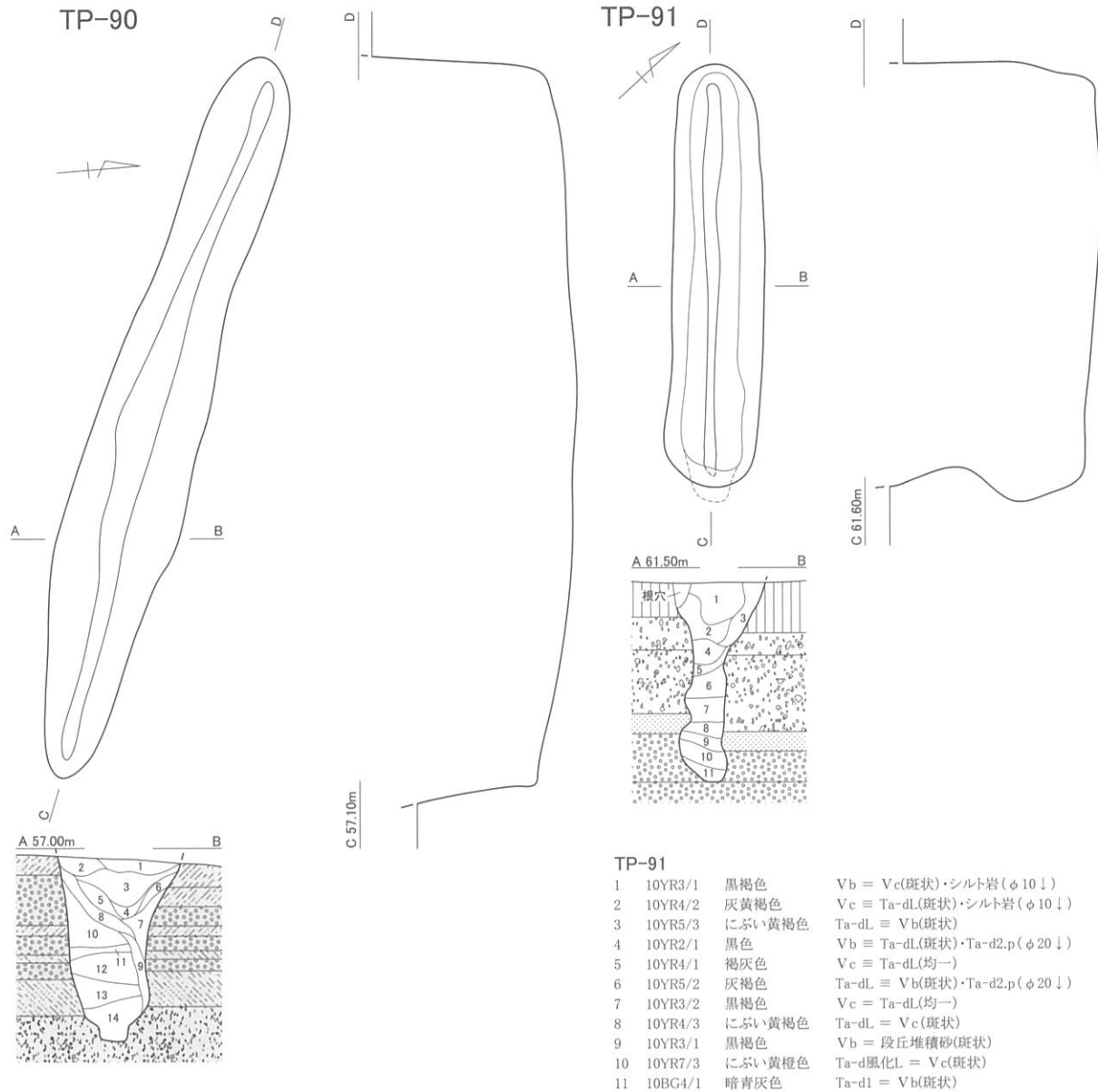
- TP-86**
- | | | | |
|----|---------|--------|-------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb - シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 3 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 5 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Vb = シルト質(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 = 粘土ブロック(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 7 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 + 粘土崩落 粘性中 しまり強 |
| 8 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = 粘土質シルト(斑状) |
| 9 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) |
| 10 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルトブロック(斑状) ≡ 粘土質シルト(斑状) |
| 11 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト - Vb(斑状) |
| 12 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb ≡ 粘土ブロック(斑状) 粘性強 しまり中 |

- TP-87**
- | | | | |
|----|-----------|--------|-------------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト質砂(斑状)・シルト岩(φ20↓) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト質砂(斑状) ≡ シルト岩(φ20↓) |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルト質砂(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 = 粘土(均一) 粘性中 しまり中 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト質砂 = Vbブロック(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - シルト質砂(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 7 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり中 |
| 8 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト質砂 = Vb(均一) 粘性強 しまり中 |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト質砂 = Ta-d2.p(φ4↓) 粘性中 しまり弱 |
| 10 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性強 しまり強 |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり中 |
| 12 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 + 粘土質シルト 粘性中 しまり強 |
| 13 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘土 = 細砂(斑状) 粘性中 しまり中 |

- TP-89**
- | | | | |
|----|-----------|--------|------------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb ≡ シルトブロック(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 = Vb(均一) 粘性強 しまり中 |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト質砂 = Ta-d2.p(均一) 粘性弱 しまり中 |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト質砂 ≡ VI(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 6 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 粘土質シルトブロック 粘性強 しまり中 |
| 7 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト質砂 = 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト ≡ V(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = 粘土(均一) 粘性強 しまり中 |
| 10 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 = シルト質砂(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 11 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり中 |

☒ V-24 TP-86 ~ 89

0 1 : 40 2m



TP-90

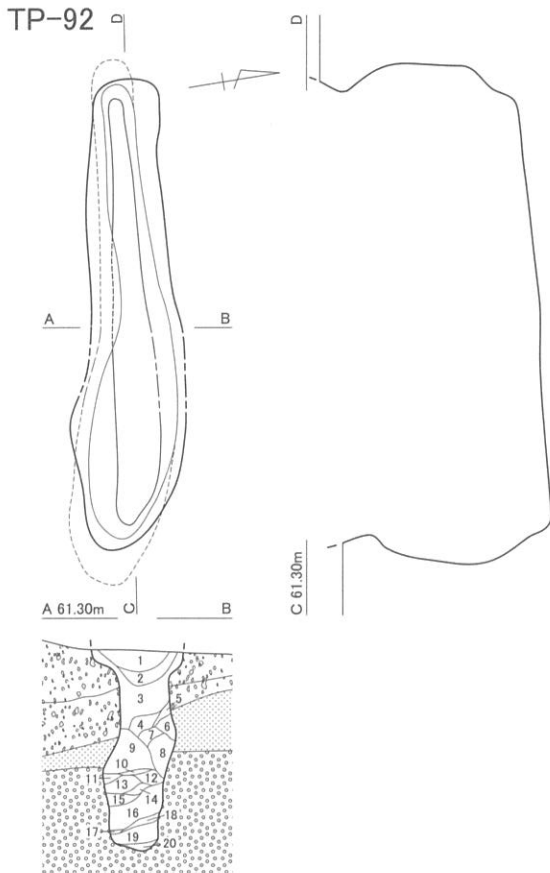
- 1 10YR3/2 黒褐色 Vb = シルト岩(φ10↓) 粘性中 しまり強
 2 10YR2/2 黒褐色 Vb ≡ シルト岩(φ30↓) 粘性中 しまり強
 3 10YR1.7/1 黒色 Vb = シルトブロック(斑状) ≡ シルト岩(φ20↓) 粘性中 しまり強
 4 10YR2/2 黒褐色 Vb = シルトブロック(斑状) 粘性中 しまり中
 5 10YR2/3 黒褐色 Vb = シルト(斑状) 粘性中 しまり弱
 6 10YR3/2 黒褐色 Vb 粘性中 しまり中
 7 10YR3/2 黒褐色 Vb 粘性強 しまり中
 8 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト = シルト質砂(斑状) 粘性弱 しまり中
 9 10YR3/3 暗褐色 シルト質砂 - Vb(斑状) = シルト(斑状)
 10 10YR3/3 暗褐色 シルト質砂
 11 10YR4/4 褐色 シルト
 12 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質砂
 13 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト質粘土 + シルト質砂
 14 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト質粘土

TP-91

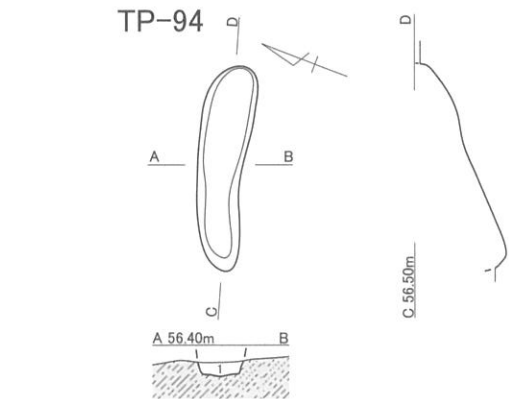
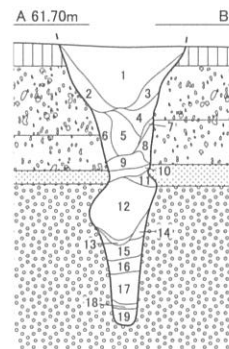
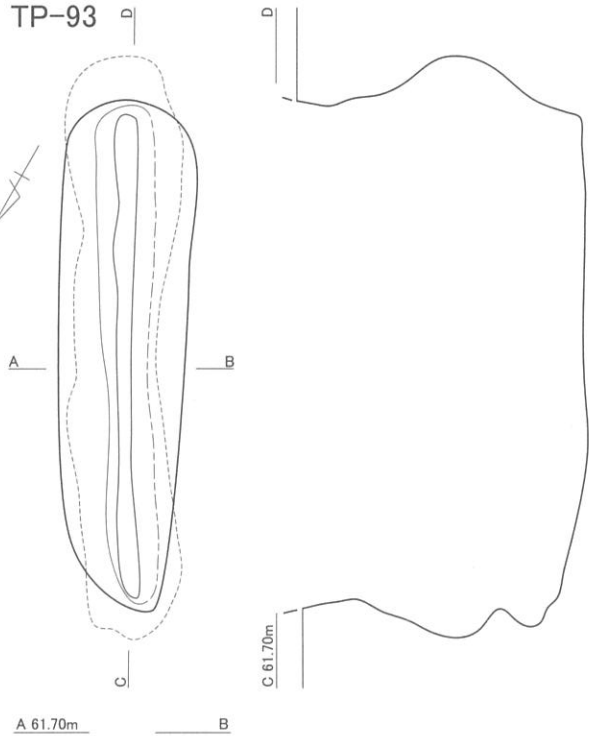
- 1 10YR3/1 黒褐色 Vb = Vc(斑状)・シルト岩(φ10↓)
 2 10YR4/2 灰黄褐色 Vc ≡ Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ10↓)
 3 10YR5/3 にぶい黄褐色 Ta-dL ≡ Vb(斑状)
 4 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-dL(斑状)・Ta-d2,p(φ20↓)
 5 10YR4/1 褐灰色 Vc ≡ Ta-dL(均一)
 6 10YR5/2 灰褐色 Ta-dL ≡ Vb(斑状)・Ta-d2,p(φ20↓)
 7 10YR3/2 黒褐色 Vc = Ta-dL(均一)
 8 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ta-dL = Vc(斑状)
 9 10YR3/1 黒褐色 Vb = 段丘堆積砂(斑状)
 10 10YR7/3 にぶい黄褐色 Ta-d風化L = Vc(斑状)
 11 10BG4/1 暗青灰色 Ta-d1 = Vb(斑状)



図 V-25 TP-90・91



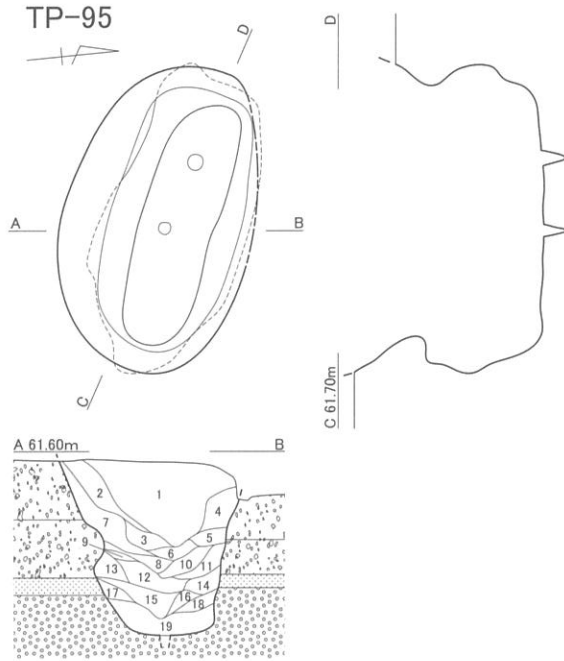
- TP-92**
- | | | | |
|----|----------|--------|-----------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 2 | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ta-dL ≡ Vc(均一) |
| 3 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | Ta-dL ≡ 段丘堆積砂(斑状) |
| 4 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-dL ≡ Vc(斑状) |
| 5 | 10BG5/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 ≡ Ta-d風化L(斑状) |
| 6 | 2.5YR4/4 | 褐色 | Ta-dL ≡ Ta-d2.p(φ 5 ↓) |
| 7 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | Ta-d風化L |
| 8 | 10BG6/1 | 青灰色 | Ta-d1 |
| 9 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ta-dL ≡ 段丘堆積砂(均一) |
| 10 | 10BG5/1 | 青灰色 | ・Ta-d2.p(φ 10 ↓) ≡ Vc(斑状) |
| 11 | 10BG5/1 | 青灰色 | Ta-d1 ≡ Vb(斑状) |
| 12 | 10BG5/1 | 青灰色 | Ta-d1 |
| 13 | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ta-d1 ≡ Ta-dL(均一) |
| 14 | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ta-dL ≡ Ta-d1(斑状)・Ta-d2.p(φ 10 ↓) |
| 15 | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | Ta-dL ≡ Vb(斑状) |
| 16 | 10BG6/1 | 青灰色 | Ta-d風化L ≡ Ta-d1(斑状) |
| 17 | 10BG6/1 | 青灰色 | Ta-d1 ≡ Ta-dL(均一) |
| 18 | 10YR2/1 | 黒色 | Ta-d1 |
| 19 | 10YR7/4 | にぶい黄橙色 | Vb ≡ Ta-dL(斑状) |
| 20 | 10YR2/1 | 黒色 | Ta-d風化L |
| | | | Vb ≡ Ta-dL(斑状) |



- TP-94**
- | | | | |
|---|---------|----|-------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(斑状) 粘性中 しまりやや中 |
|---|---------|----|-------------------------|



図 V-26 TP-92 ~ 94



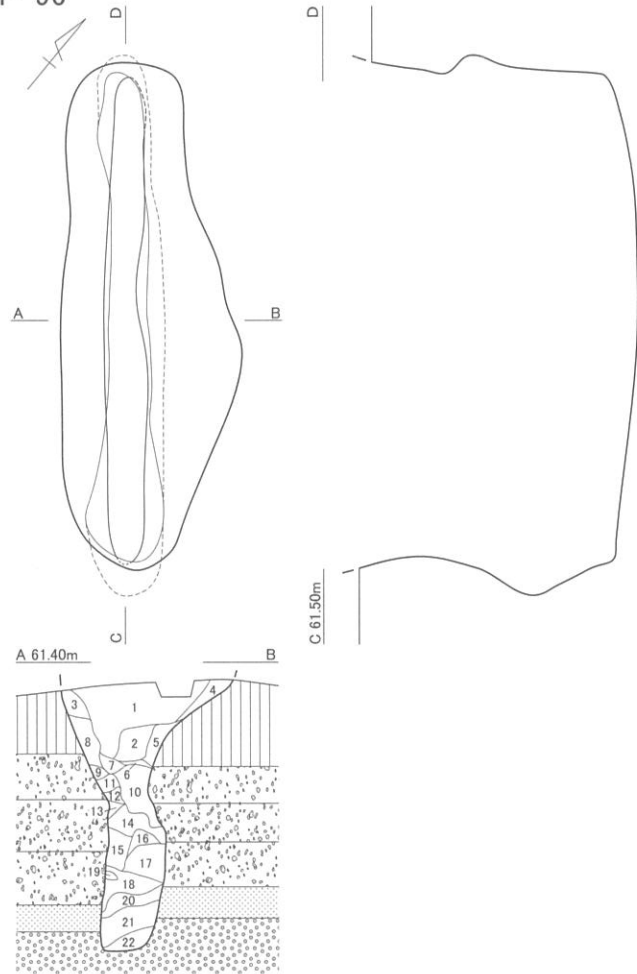
TP-95

1	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-d2.p(φ20↓)
2	10YR5/1	褐灰色	Vc = Ta-dL(斑状)
3	10YR6/3	にぶい黄橙色	Ta-dL = シルト岩(φ10↓)・Ta-d2.p(φ10↓)
4	10YR7/3	にぶい黄橙色	Ta-dL = 段丘堆積砂(均一) ≡ Vc(斑状)
5	10YR4/1	褐灰色	Vc = Ta-dL(均一) ≡ Ta-d2.p(φ5↓)
6	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-dL(斑状)
7	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状)・Ta-d2.p(φ5↓)
8	10GY5/1	褐灰色	段丘堆積砂 ≡ Ta-dL(斑状)
9	10YR2/1	黒色	Vb
10	10YR3/1	黒褐色	Vb = Ta-dL(均一) ≡ Tap-dP(φ5↓)
11	10YR7/4	にぶい黄橙色	Ta-d風化L
12	7.5YR5/6	明褐色	Ta-dL - Ta-d2.p(φ5↓) ≡ Vb(斑状)
13	10YR7/4	にぶい黄褐色	Ta-d風化L ≡ Ta-d2.p(φ5↓)
14	10YR4/1	褐灰色	Vb ≡ Ta-dL(均一)
15	7.5YR5/3	にぶい褐色	Ta-dL - Ta-d2.p(φ5↓) ≡ 段丘堆積砂(斑状)
16	10BG5/1	青灰色	Ta-d1 = Vc(均一)
17	10BG5/1	青灰色	Ta-d1 ≡ Ta-d2.p(φ20↓)
18	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-d2.p(φ10↓) - Ta-d1(均一)
19	10BG5/1	青灰色	Ta-d1 - Vb(均一)

TP-96

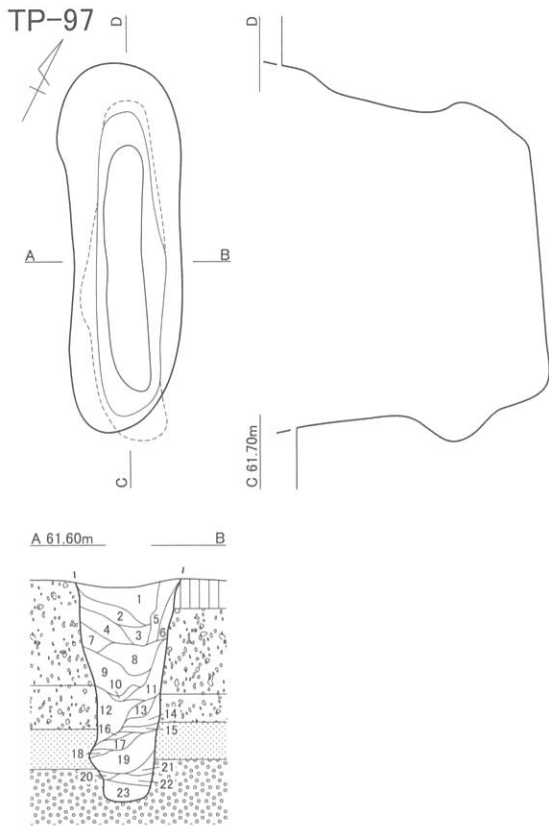
1	10YR1.7/1	黒色	Vb = シルト岩(φ20↓) ≡ Ta-d2.p(φ20↓)
2	10YR2/2	黒褐色	Vb = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-d2.p(φ20↓)
3	10YR2/2	黒褐色	Vb = VI(斑状) = シルト岩(φ10↓)
4	10YR2/2	黒褐色	Vb = VI(斑状)
5	10YR4/6	褐色	VI ≡ Vb(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ10↓)
6	7.5YR3/4	暗褐色	Ta-dL = VI(斑状)
7	10YR2/2	黒褐色	V ≡ VI(斑状)
8	7.5YR4/4	褐色	VI ≡ V(斑状)
9	7.5YR3/2	黒褐色	VI ≡ Ta-dL(斑状)
10	10YR2/2	黒褐色	V = VI(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ20↓)
11	5YR4/6	赤褐色	Ta-dL ≡ VI(斑状)
12	7.5YR3/4	暗褐色	VI ≡ Ta-dL(斑状)
13	7.5YR4/6	褐色	Ta-dL
14	10YR1.7/1	黒色	Vb ≡ VI(斑状)・Ta-d2.p(φ20↓)
15	7.5YR3/4	暗褐色	Ta-dL - VI(斑状)
16	5YR4/6	赤褐色	Ta-dL - VI(斑状)
17	10YR5/8	黄褐色	Ta-dL ≡ 段丘堆積砂(斑状)
18	10YR3/2	黒褐色	Vb = 段丘堆積砂(斑状)
19	5YR3/6	暗赤褐色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)
20	7.5YR5/6	明褐色	Ta-dL = シルト岩(φ20↓)
21	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ta-dL ≡ シルト岩(φ20↓)
22	7.5Y4/1	褐灰色	Ta-dL

TP-96



0 1 : 40 2m

図 V-27 TP-95・96



TP-97

- | | | | |
|----|----------|--------|--|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ10↓) |
| 2 | 10YR6/4 | にぶい黄橙色 | Ta-dL ≡ Vc(斑状) |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 4 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vc = Ta-dL(斑状) |
| 5 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | Ta-dL = Vc(斑状) |
| 6 | 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ10↓) |
| 7 | 10YR7/4 | にぶい黄橙色 | Ta-dL ≡ Vc(斑状)・Ta-d2.p(φ10↓) |
| 8 | 10YR5/1 | 褐灰色 | Vc = Ta-dL(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ10↓) |
| 9 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL ≡ Vc(斑状)・Ta-d2.p(φ5↓) |
| 10 | 10YR6/1 | 褐灰色 | Ta-dL = Vb(斑状) ≡ Vc(均一) |
| 11 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ10↓) |
| 12 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL = Vc(均一) ≡ Ta-d2.p(φ10↓) |
| 13 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vc = Ta-dL(均一) ≡ Ta-d2.p(φ10↓) |
| 14 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ10↓) |
| 15 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 16 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL = Vc(均一) ≡ Vb(斑状) |
| 17 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vc = Vb(斑状)・Ta-d2.p(φ10↓)
・シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-dL(均一) |
| 18 | 10GY7/1 | 明緑灰色 | Ta-d1 |
| 19 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vc = Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓)
≡ Ta-d2.p(φ10↓) |
| 20 | 10GY7/1 | 明緑灰色 | Ta-d1 |
| 21 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL = Ta-d1(斑状) ≡ Vc(斑状) |
| 22 | 10YR6/4 | にぶい黄橙色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ10↓) |
| 23 | 10BG5/1 | 青灰色 | Ta-d1 ≡ Ta-d2.p(φ5↓) |

TP-98

- | | | | |
|----|----------|--------|----------------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - Ta-dL(ブロック状) = シルト岩(φ10↓) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb - シルト岩(φ30↓) = Ta-dL(斑状) |
| 3 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ta-dL ≡ Vb(斑状) |
| 4 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 段丘堆積砂 ≡ Vb(斑状) |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ta-dL ≡ Vb(斑状) |
| 7 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 段丘堆積砂 = Ta-dL(均一) ≡ Vb(斑状) |
| 8 | 10YR6/4 | にぶい黄橙色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ5↓) |
| 9 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-dL - Vb(斑状) |
| 10 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ10↓) |
| 11 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ta-dL = Vc(均一)・段丘堆積砂(均一) |
| 12 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ5↓) ≡ 段丘堆積砂(斑状) |
| 13 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ta-d風化L = Ta-d1(ブロック状) |
| 14 | 10BG5/1 | 青灰色 | Ta-d1 ≡ Ta-d2.p(φ5↓) |
| 15 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = Ta-d2.p(φ10↓) しまり弱 |

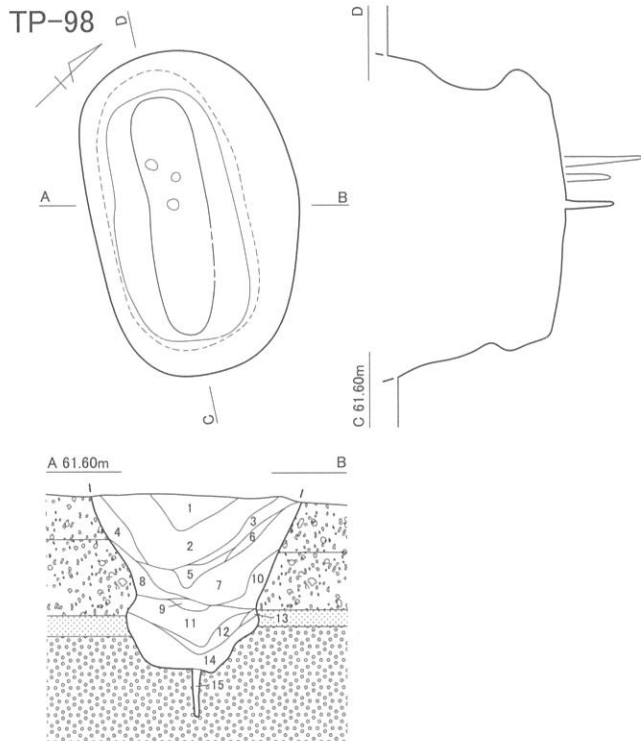
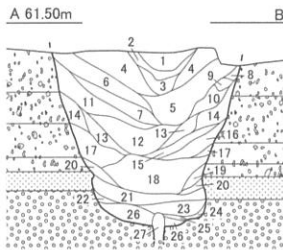
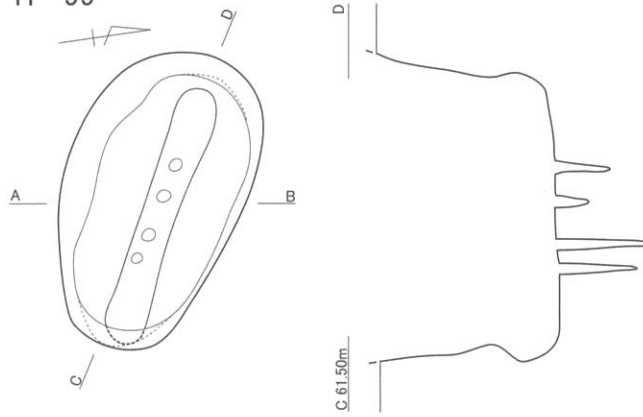


図 V-28 TP-97・98

TP-99



TP-99

1	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-dL - V(斑状) しまり有
2	10YR1.7/1	黒色	Vb しまり弱
3	10YR4/4	褐色	段丘堆積砂 ≡ Vc(斑状)
4	10YR2/2	黒褐色	V ≡ Ta-dL(均一)
5	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-d2.p(φ3↓)
6	10YR2/3	黒褐色	Vb = Ta-dL(均一)
7	10YR2/2	黒褐色	Vb ≡ Ta-dL(均一)
8	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-dL ≡ V(斑状)
9	10YR2/1	黒色	Vbブロック
10	10YR3/3	暗褐色	Vb - Ta-dL(斑状)
11	10YR4/4	褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状)
12	10YR3/2	黒褐色	Vb = Ta-dL(均一) = Ta-d2.p(φ5↓)
13	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂(均一)
14	10YR4/6	褐色	Ta-dL - 段丘堆積砂(斑状)
15	10YR3/2	黒褐色	Vb = Ta-dL(均一) = Ta-d2.p(φ5↓)
16	7.5YR4/3	にぶい褐色	Ta-dL = V・段丘堆積砂(斑状)
17	7.5YR5/8	明褐色	Ta-dLブロック しまり有
18	7.5YR4/4	褐色	Ta-dL ≡ Vブロック しまり無し
19	7.5YR4/6	褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状)
20	10YR6/6	明黄褐色	Ta-d風化L
21	10YR3/3	暗褐色	Ta-dL - V(層状)
22	2.5Y6/2	灰黄色	Ta-d2.p
23	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dL ≡ V(均一) しまり無し
24	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-dL ≡ V(均一) しまり無し
25	2.5Y6/4	にぶい黄色	Ta-d風化L しまり無し
26	7.5YR4/2	灰褐色	Ta-dL = V(斑状) しまり無し
27	7.5YR3/2	黒褐色	V = Ta-dL(均一) しまり無し



TP-100

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト岩(φ20↓)
2	10YR3/1	黒褐色	Vc = 円礫(φ20↓)
3	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩(φ20↓)
4	10YR3/2	黒褐色	Vc = 円礫(φ20↓) ≡ Vb(斑状)
5	10YR4/1	褐灰色	段丘堆積砂 = Ta-dL(ブロック状)
6	10YR6/2	灰黄褐色	Ta-dL ≡ 段丘堆積砂(斑状)
7	10YR4/1	褐灰色	Vc = Ta-dL(斑状)
8	10YR6/2	灰黄褐色	Ta-dL
9	10YR4/1	褐灰色	段丘堆積砂 = 円礫(φ20↓) ≡ Ta-dL(斑状)
10	10YR6/2	灰黄褐色	Ta-dL - 段丘堆積砂(斑状)

TP-100

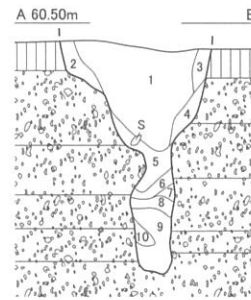
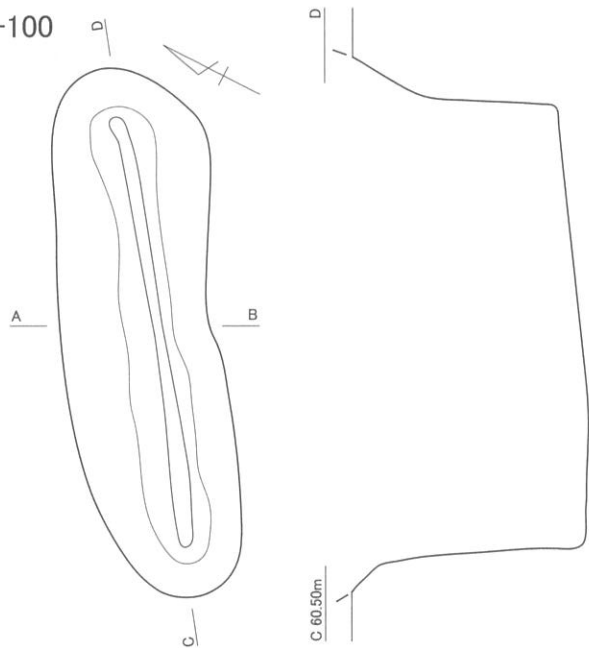
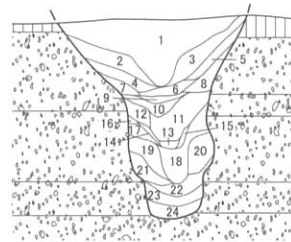
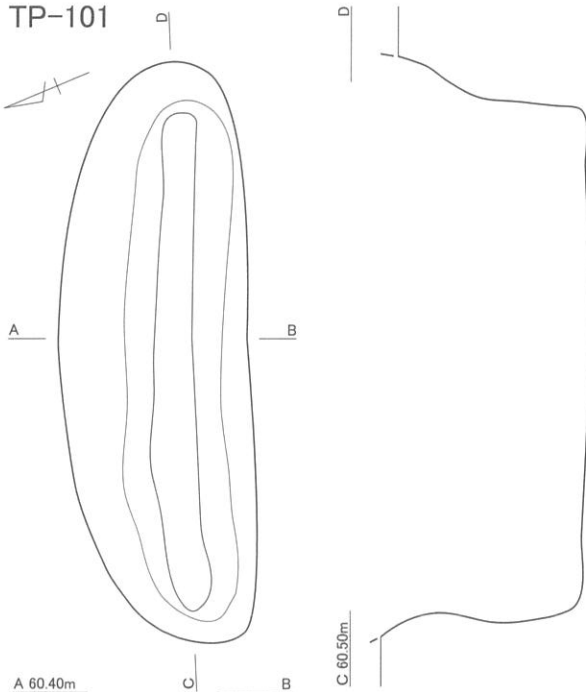


図 V-29 TP-99・100



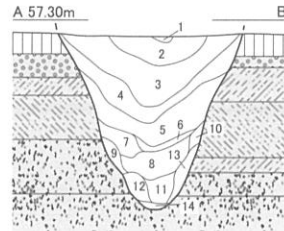
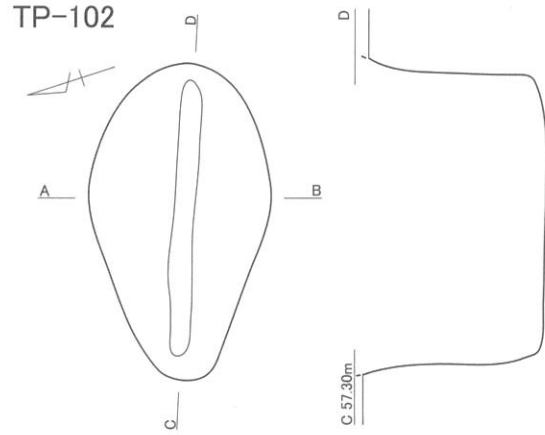
TP-101

1	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩 (φ20 ↓)
2	10YR3/2	黒褐色	Vc = シルト岩 (φ20 ↓)
3	10YR2/2	黒褐色	Vb = Vc(斑状) シルト岩 (φ20 ↓)
4	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-dL = Vc(斑状)
5	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-dL = Vc(斑状)
6	10YR3/1	黒褐色	Vc = Ta-dL(斑状) シルト岩 (φ20 ↓)
7	10YR5/2	灰黄褐色	段丘堆積砂 ≡ Vc(斑状)
8	10YR3/3	暗褐色	Ta-dL = Ta-d2.p(φ5 ↓)
9	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-dL = シルト岩 (φ30 ↓)
10	10YR3/1	黒褐色	Vc = Ta-dL(斑状) ≡ シルト岩 (φ30 ↓)
11	10YR3/3	暗褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂 (均一) ≡ Vc(斑状)
12	10YR6/1	褐灰色	段丘堆積砂 ≡ Vc(斑状)
13	10YR4/1	褐灰色	段丘堆積砂 = シルト岩 (φ10 ↓)
14	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-dL(斑状)
15	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-dL(斑状)
16	10YR7/4	にぶい黄褐色	Ta-d風化L = 段丘堆積砂 (斑状)
17	10YR5/1	褐灰色	Vc = Ta-dL(斑状)
18	10YR4/1	褐灰色	段丘堆積砂 = Ta-dL(斑状)
19	10GY6/1	緑灰色	段丘堆積砂
20	10GY6/1	緑灰色	段丘堆積砂
21	7.5YR6/6	橙色	Ta-dL ≡ Ta-d2.p(φ10 ↓)
22	10YR8/4	浅黄褐色	Ta-d風化L ≡ Vc(斑状)
23	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-d2.p ≡ Ta-d風化L
24	7.5YR4/1	褐灰色	Ta-d2.p - Vc(均一)

TP-103

1	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩 (φ20 ↓)・Ta-d2.p(φ2 ↓) ≡ シルト(斑状) 粘性強 しまり中
2	10YR5/6	黄褐色	Vbシルト - Vb = シルト岩 (φ20 ↓) 粘性中 しまり中
3	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト岩 (φ5~10 ↓) ≡ Ta-d2.p(斑状) 粘性中 しまり中
4	10YR4/2	灰黄褐色	Vbシルト = Vb(斑状) 粘性中 しまり中
5	10YR2/1	黒色	Vb - シルト(互層状) 粘性強 しまり強
6	10YR1.7/1	黒色	Vb = シルトブロック(斑状) 粘性強 しまり中
7	10YR1.7/1	黒色	Vb = シルト岩 (φ20 ↓) 粘性中 しまり強
8	10YR3/2	黒褐色	VI ≡ 粘土質シルト(均一) 粘性強 しまり強
9	10YR3/2	黒褐色	Vb - 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまり強
10	10YR3/3	暗褐色	Vb + 粘土質シルト(互層状) 粘性強 しまり強
11	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト - Vb(ブロック状) 粘性強 しまり強
12	10YR5/6	黄褐色	粘土 ≡ シルト(均一) 粘性中 しまり強
13	10YR2/2	黒褐色	Vb = 細砂(斑状) 粘性弱 しまり強

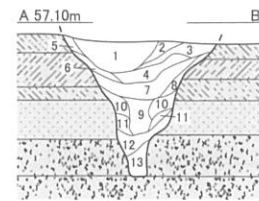
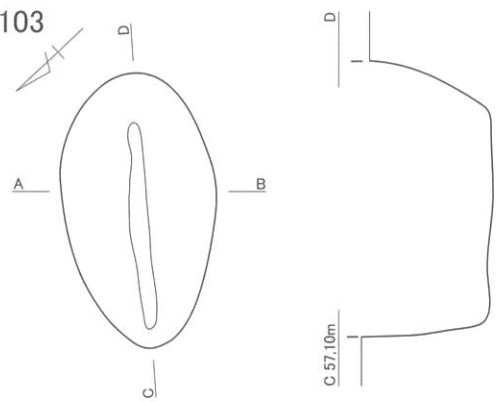
☒ V-30 TP-101 ~ 103

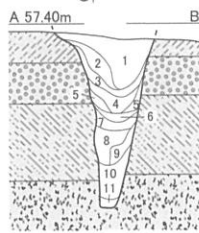
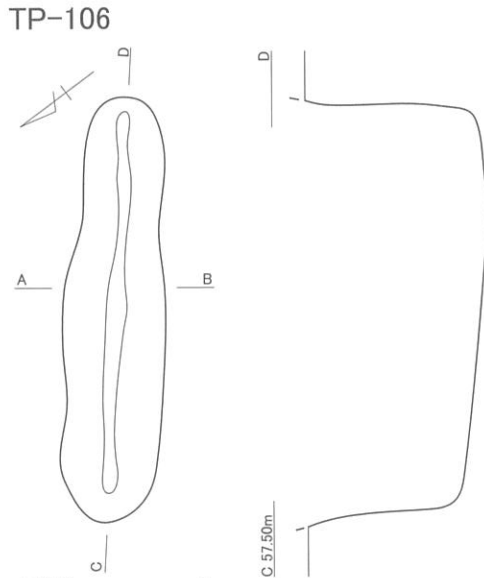
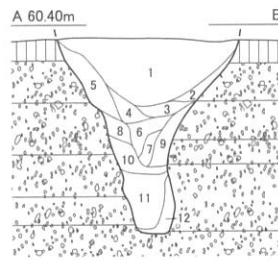
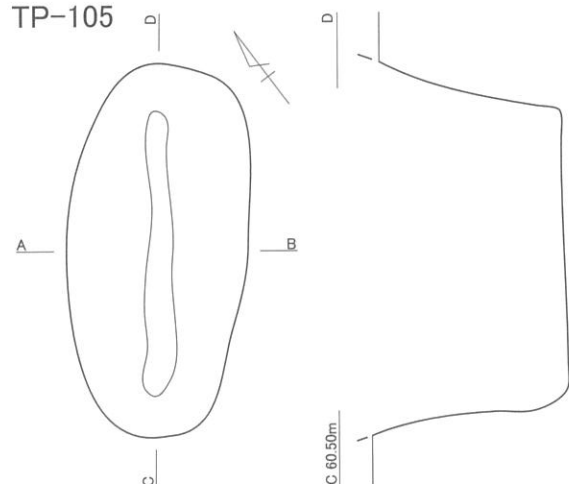
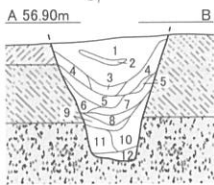
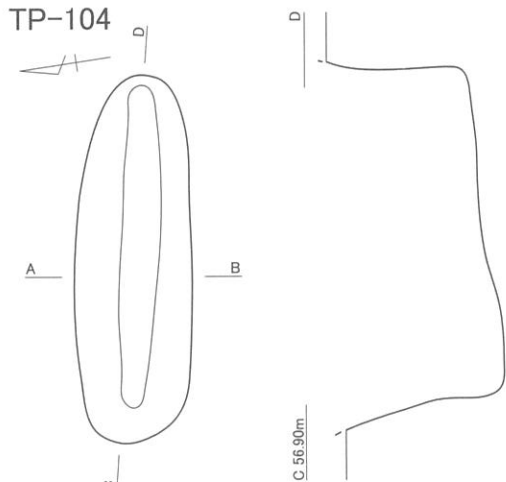


TP-102

1	10YR4/3	にぶい黄褐色	水成シルト ≡ Vb(斑状) 粘性中 しまり弱
2	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト岩 (φ50 ↓) 粘性強 しまり中
3	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト岩・Ta-d2.p(φ20 ↓) 粘性強 しまり中
4	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ 粘土ブロック・シルト質砂(斑状) 粘性中 しまり強
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり強
6	10YR2/1	黒色	Vb 粘性中 しまり中
7	10YR4/4	褐色	粘土質シルト = Vb(互層状) 粘性強 しまり強
8	10YR3/3	暗褐色	Vb = シルトブロック(斑状) 粘性中 しまり強
9	10YR4/4	褐色	粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性中 しまり強
10	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト 粘性弱 しまり強
11	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト ≡ Vb(斑状) 粘性中 しまり中
12	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト ≡ 細砂(斑状) 粘性中 しまり強
13	10YR4/4	褐色	粘土質シルト ≡ Vb(斑状)
14	10YR3/2	黒褐色	Vb = 粘土(均一) 粘性強 しまり強

TP-103





TP-104

- | | | | |
|----|-----------|--------|--|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ 20 ↓)・Ta-d2.p(φ 20 ↓)
≡ 小円礫(φ 50 ↓) |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト ≡ シルト岩・Ta-d2.p(φ 20 ↓) |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト = シルトブロック(斑状) |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト ≡ Vb(斑状) |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩・Ta-d2.p(φ 10 ↓) |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb + 粘土質シルト(斑状) |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘土質シルト = Vb(均一) |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb + 粘土質シルト(斑状) |
| 9 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb ≡ シルトブロック(斑状) |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) ≡ 細砂(斑状) |
| 11 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト - 細砂(斑状) ≡ Vb(斑状) |
| 12 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩(φ 20 ↓) |

TP-105

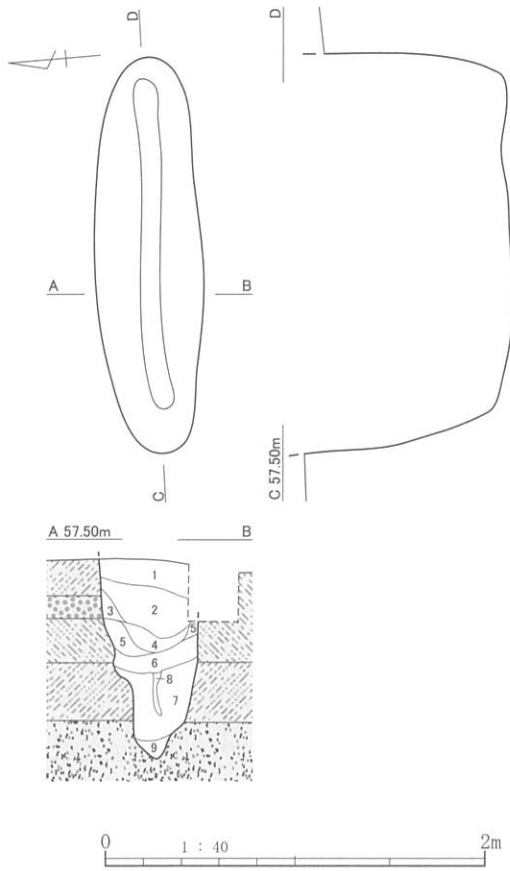
- | | | | |
|----|----------|-------|---|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩(φ 20 ↓) |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vc = Ta-dL(斑状) |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩(φ 20 ↓)・Ta-d2.p(φ 10 ↓) |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 5 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vc = Ta-dL(均一) ≡ シルト岩(φ 10 ↓) |
| 6 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL - 段丘堆積砂(均一) |
| 7 | 10YR4/1 | 褐色 | Vc = Ta-dL(均一) |
| 8 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ta-dL - 段丘堆積砂(斑状) |
| 9 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL = 段丘堆積砂(均一) ≡ シルト岩(φ 20 ↓) |
| 10 | 10YR4/1 | 褐色 | Vc = Ta-dL(斑状) |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Ta-dL = 段丘堆積砂(均一) ≡ シルト岩(φ 20 ↓)
- Ta-d2.p(φ 10 ↓) |
| 12 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL = Vb(斑状)・Ta-d風化L(斑状)
・Ta-d2.p(φ 10 ↓) |

TP-106

- | | | | |
|----|---------|--------|---|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(斑状) ≡ シルト岩(φ 10 ↓) 粘性中 しまり中 |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = シルト(均一) 粘性中 しまり中 |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト = Vb(斑状)・シルト質砂(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルトブロック・シルト質砂(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト + シルト質砂 ≡ Vb(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) ≡ シルト岩(φ 10 ↓) 粘性強 しまり中 |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb ≡ 粘土質シルト + シルト + シルト質砂(斑状)
粘性強 しまり弱 |
| 8 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり中 |
| 9 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 - シルト(均一) 粘性中 しまり中 |
| 10 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 粘土質シルト 粘性強 しまり強 |
| 11 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘土質シルト = 細砂礫(斑状) ≡ Vb(斑状)
粘性中 しまり弱 |

図 V-31 TP-104 ~ 106

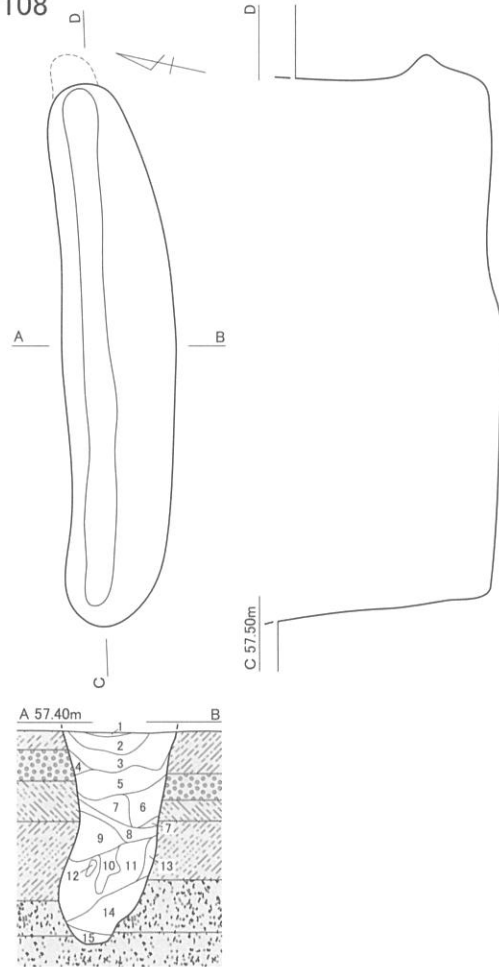
TP-107



TP-107

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状) 粘性中 しまり強
2	10YR3/1	黒褐色	Vb = シルト(斑状) 粘性中 しまり強
3	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂 = シルト(斑状) 粘性弱 しまり中
4	10YR4/4	褐色	シルト ≡ Vb(斑状)・粘土ブロック(斑状) 粘性中 しまり中
5	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂 = シルト(斑状) 粘性中 しまり強
6	10YR4/4	褐色	シルト質砂 = Vb(斑状) 粘性弱 しまり中
7	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂 + 粘土質シルト(均一) 粘性強 しまり弱
8	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト 粘性強 しまり強
9	10YR4/4	褐色	シルト質砂 = Vb(斑状) 粘性中 しまり中

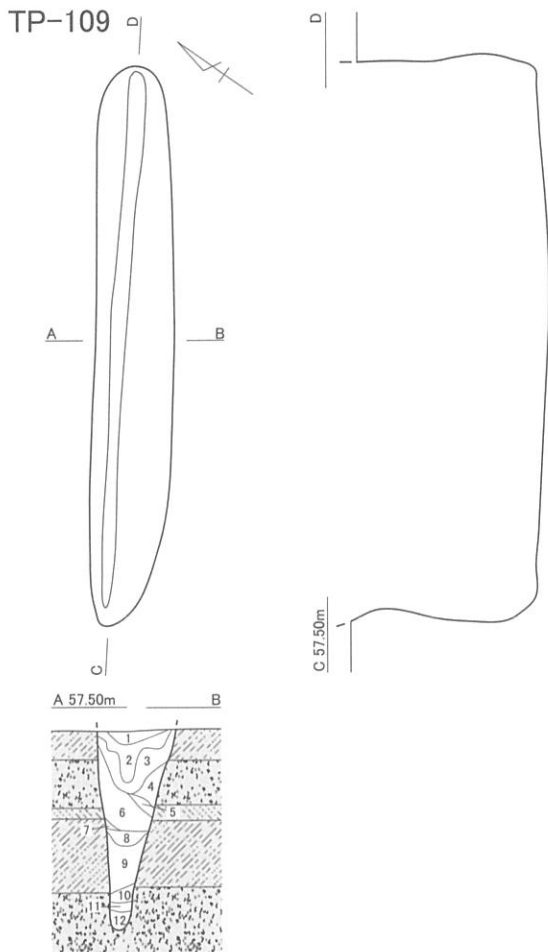
TP-108



TP-108

1	10YR1.7/1	黒色	Vb = シルト(均一) 粘性弱 しまり中
2	10YR2/1	黒色	Vb = シルトブロック(斑状) 粘性弱 しまり強
3	10YR3/1	黒褐色	Vb = シルト(斑状) 粘性中 しまり強
4	10YR3/4	暗褐色	シルト質砂 粘性弱 しまり中
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト = Vb(斑状) = シルト質砂(斑状) 粘性中 しまり中
6	10YR4/6	褐色	シルト質砂 粘性弱 しまり中
7	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト = シルト質砂(均一) 粘性中 しまり中
8	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト質砂(斑状) ≡ 粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまり中
9	10YR4/6	褐色	シルト質砂 ≡ Vb(層状)・粘土質シルト(斑状) 粘性中 しまり強
10	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂 ≡ Vb(斑状)・粘土質シルト(斑状) 粘性弱 しまり弱
11	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト = Vc(斑状) 粘性強 しまり強
12	10YR4/4	褐色	シルト質砂 木根痕? 粘性弱 しまり弱
13	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト 粘性強 しまり強
14	10YR4/4	褐色	細砂 粘性弱 しまり中
15	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト = Vb(斑状) 粘性強 しまり中

図 V-32 TP-107・108



TP-109

- | | | | |
|----|-----------|--------|----------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩(φ10↓) 粘性中 しまり中 |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = シルト(均一) 粘性弱 しまり中 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト ≡ Ta-d2.p(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 4 | 10YR4/6 | 褐色 | 砂 粘性弱 しまり中 |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vc = シルト質砂(均一) 粘性中 しまり弱 |
| 6 | 10YR4/6 | 褐色 | 砂 ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 = 粘土(均一) 粘性中 しまり強 |
| 8 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト = 粘土質シルト(均一) 粘性強 しまり中 |
| 9 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性強 しまり強 |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 11 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 粘土質シルト 粘性強 しまり中 |
| 12 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb + 砂 ≡ 細砂(均一) 粘性中 しまり弱 |

TP-110

- | | | | |
|----|---------|--------|------------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルトブロック(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb + シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 3 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb ≡ シルト(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb + シルト質砂 粘性弱 しまり中 |
| 6 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vc = シルト(均一) 粘性中 しまり中 |
| 7 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト = シルト質砂(均一) 粘性強 しまり強 |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり中 |
| 9 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘土質シルト = シルト質砂(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 10 | 10YR4/4 | 褐色 | 粘土質シルト - シルト(均一) 粘性中 しまり強 |
| 11 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = シルト(均一) ≡ シルト岩(φ10↓) 粘性中 しまり中 |

TP-111

- | | | | |
|----|---------|--------|--------------------------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト ≡ シルト岩(φ10↓) 粘性中 しまり強 |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) ≡ シルト岩(φ30↓) 粘性中 しまり強 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト = Vb(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト - Vb(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 5 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 細砂 = 粘土(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト = Vb・粘土ブロック(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト質砂 ≡ Vb(斑状)・Ta-d2.p(φ3↓) 粘性中 しまり中 |
| 8 | 10YR4/6 | 褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり強 |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルト質砂(斑状) 粘性中 しまり弱 |
| 10 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 粘性強 しまり極強 |
| 11 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト質砂 - Ta-d2.p(斑状) = 粘土ブロック(斑状) |

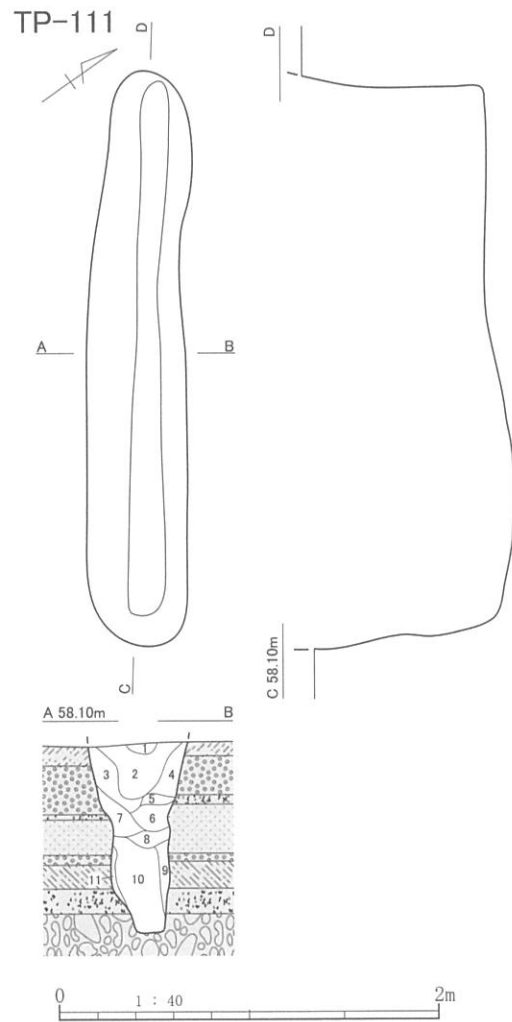
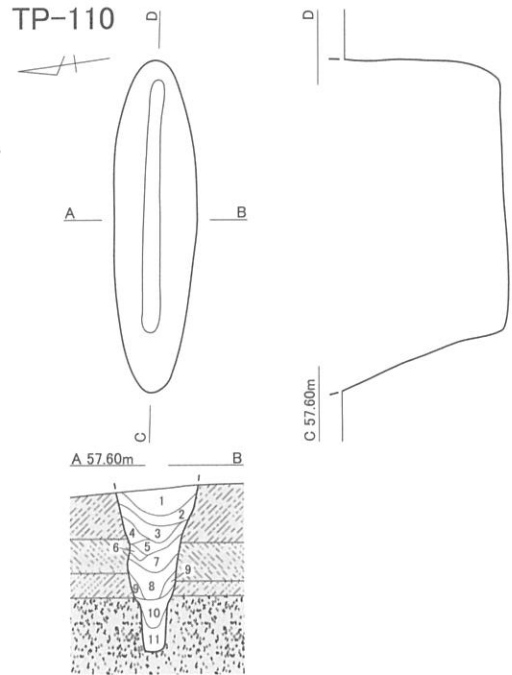
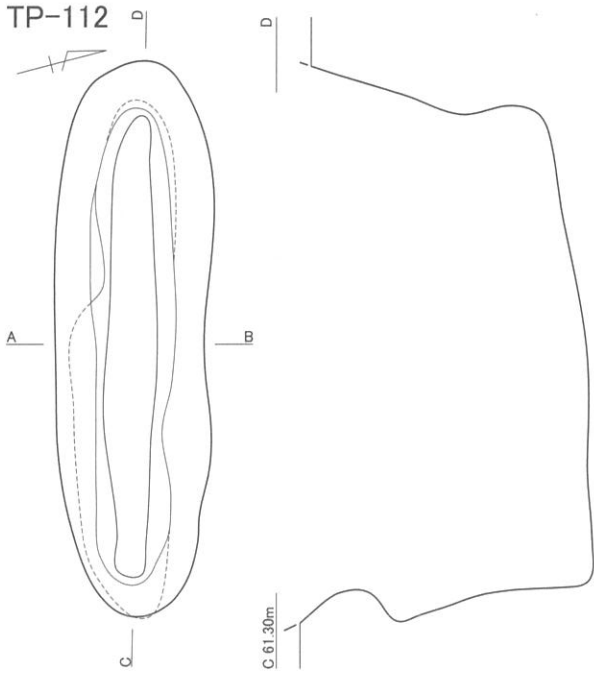
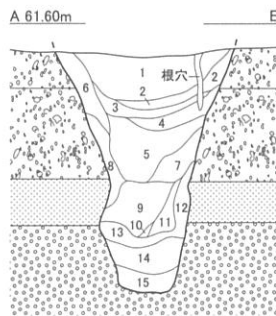
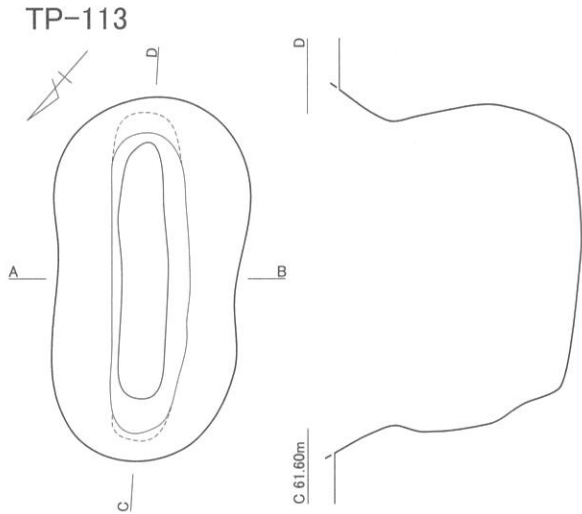
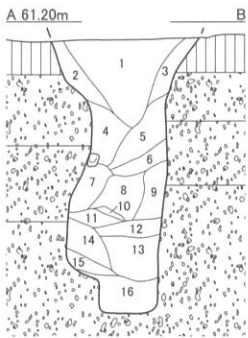


図 V-33 TP-109 ~ 111



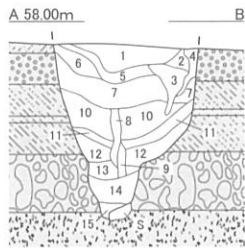
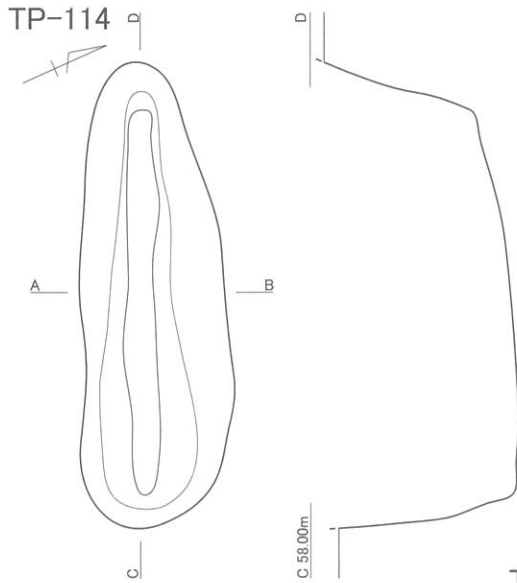
- TP-112
- | | | | |
|----|----------|--------|------------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-dL(斑状) |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vc = Ta-dL(斑状) ≡ シルト岩(φ10↓) |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vc - Ta-dL(斑状) ≡ シルト岩(φ10↓) |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vc - Ta-dL(均一) = シルト岩(φ30↓) |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vc - Ta-dL(斑状) = Vb(斑状)・シルト岩(φ30↓) |
| 6 | 10YR7/4 | にぶい黄褐色 | Ta-dL |
| 7 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状) |
| 8 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL = Vb(斑状)・Vc(均一)・シルト岩(φ30↓) |
| 9 | 10BG6/1 | 青灰色 | Ta-d1 ≡ Ta-dL(斑状) |
| 10 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb |
| 11 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL ≡ Vc(斑状) |
| 12 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 13 | 10BG7/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 |
| 14 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | Ta-dL |
| 15 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-dL(均一) |
| 16 | 7.5YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-d風化L = Vc(斑状)・段丘堆積砂(斑状) |



- TP-113
- | | | | |
|----|----------|--------|-----------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb - シルト岩(φ20↓) ≡ Ta-dL(斑状) |
| 2 | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Vb - Ta-dL(斑状) ≡ シルト岩(φ10↓) |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-dL(斑状) |
| 4 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | Ta-dL = Vc(斑状)・Ta-d2.p(φ5↓) |
| 5 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Vc = Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ30↓) |
| | | | ・Ta-d2.p(φ10↓) |
| 6 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL - Vc(斑状) = シルト岩(φ30↓) |
| 7 | 10YR7/6 | 明黄褐色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ10↓) |
| 8 | 10YR8/4 | 浅黄褐色 | Ta-dL ≡ Vb(斑状) |
| 9 | 5YR5/4 | にぶい赤褐色 | Ta-dL |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 11 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ta-dL ≡ Ta-d2.p(φ10↓) |
| 12 | 10YR8/3 | 浅黄褐色 | Ta-d風化L ≡ Ta-d1(斑状) |
| 13 | 10BG6/1 | 青灰色 | Ta-d1 ≡ Ta-d2.p(φ5↓) |
| 14 | 10YR7/4 | にぶい黄橙色 | Ta-d2.p - Ta-d1(斑状) |
| 15 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色 | Ta-d2.p = Ta-d1(均一) |



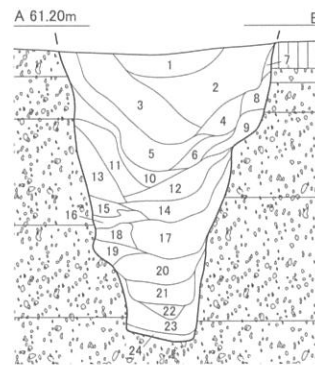
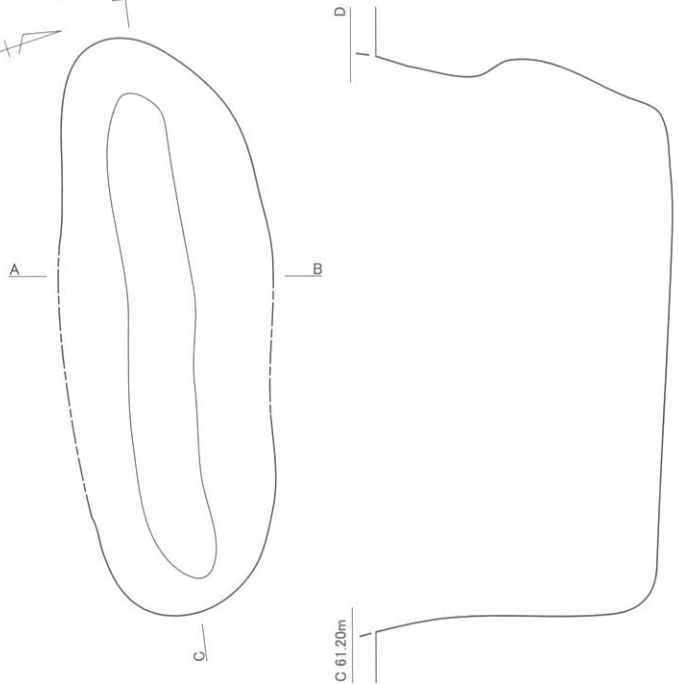
☒ V-34 TP-112・113



TP-114

- | | | | |
|----|-----------|--------|-----------------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト岩(φ10↓) 粘性弱 しまり強 |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト質砂 = Vb(斑状) 粘性中 しまり強 |
| 3 | 10YR2/3 | 暗褐色 | シルト質砂 - Vb(斑状) 根痕 粘性弱 しまり弱 |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質砂 粘性弱 しまり中 |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐色 | VI = Vb(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト - シルト質砂(均一) = Vb(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 7 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト質砂 ≡ Vc(斑状) 粘性弱 しまり強 |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト質砂 ≡ Vb(斑状) 粘性弱 しまり弱 |
| 9 | 10YR4/6 | 褐色 | 粘土質シルト = Vb(斑状) 粘土強 しまり弱 |
| 10 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土質シルト 粘性中 しまり強 |
| 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 粘性強 しまり強 |
| 12 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 細砂 + 礫 粘性強 しまり強 |
| 13 | 10YR4/6 | 褐色 | 細砂 + 礫 = 粘土質シルト(斑状) 粘性強 しまり強 |
| 14 | 10YR4/4 | 褐色 | 細砂 + 礫 ≡ Vb(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 15 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - 小円礫(φ30) 粘性強 しまり中 |

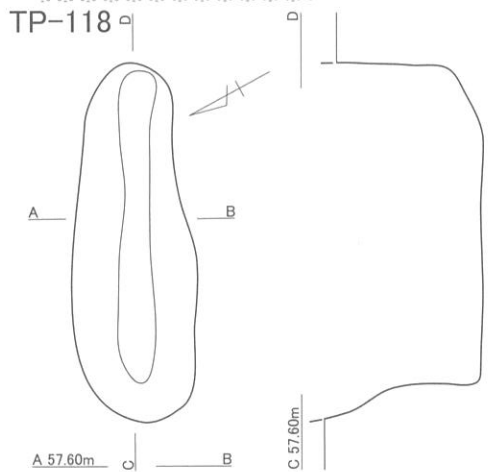
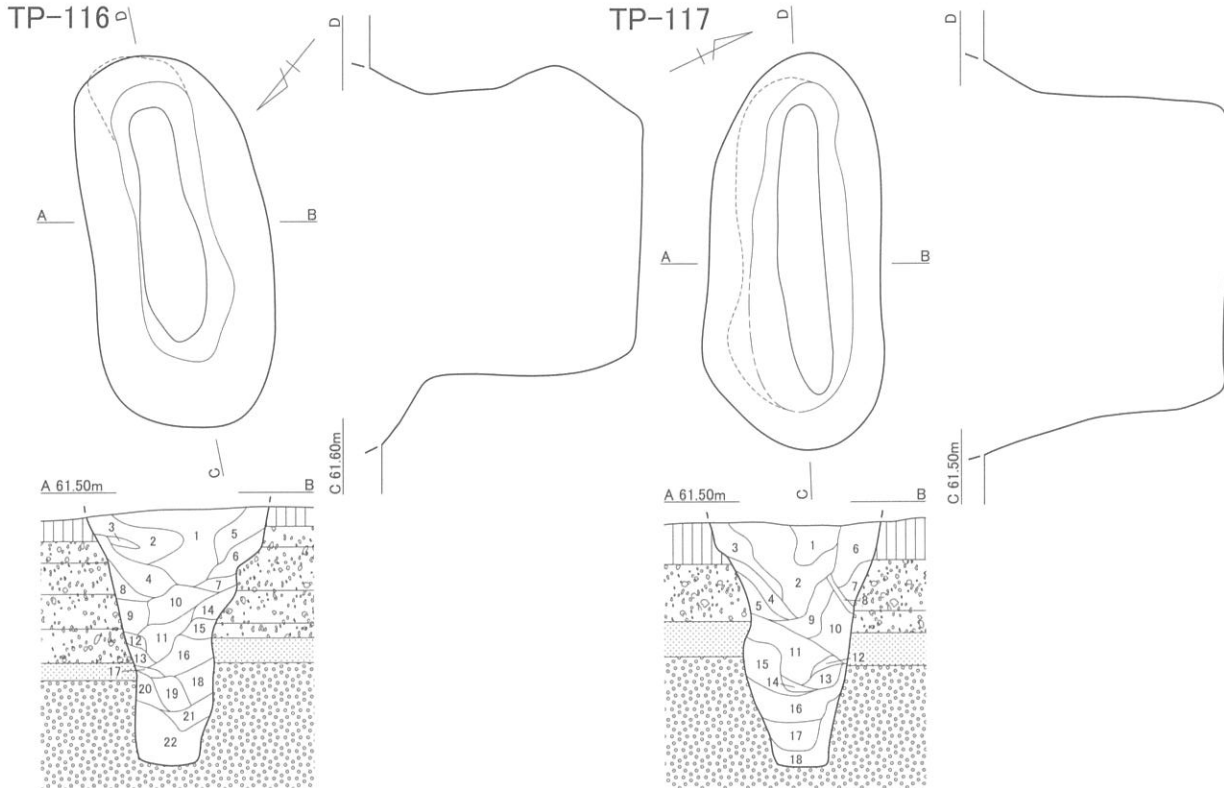
TP-115



TP-115

- | | | | |
|----|----------|--------|--|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vc ≡ シルト岩(φ10↓)・Ta-d2.p(斑状) 粘性中 しまり中 |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vc = Ta-dL(斑状)・Ta-d2.p(φ3↓) 粘性中 しまり中 |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-d2.p(φ3↓) 粘性中 しまり中 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vc = Ta-d2.p(φ3↓) ≡ VI 粘性中 しまり中 |
| 5 | 7.5YR4/4 | 褐色 | Vc + Ta-dL(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 6 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-dL 粘性中 しまり中 |
| 7 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-dL 攪乱により上位に上がったもの 粘性中 粘性強 |
| 8 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d風化L + Vb ≡ Ta-d2.p(φ5↓) 粘性強 しまり弱 |
| 9 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | Ta-d風化L = Ta-d2.p(φ5↓) 粘性強 しまり中 |
| 10 | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ta-dL ≡ Vc(斑状) 粘性強 しまり弱 |
| 11 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ta-dL = Ta-dL(均一) 粘性中 しまり中 |
| 12 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | VI - Vb(斑状)・Ta-d2.p(φ5↓) 粘性中 しまり中 |
| 13 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-d2.p(φ5↓) = Ta-dL(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 14 | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ta-dL = Vc(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ5↓) 粘性中 しまり弱 |
| 15 | 7.5YR5/2 | 灰褐色 | Ta-d2.p(φ5↓) ≡ Ta-dL(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 16 | 7.5YR6/6 | 橙色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ5↓) 粘性強 しまり中 |
| 17 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ta-d2.p(φ5↓) 粘性弱 しまり中 |
| 18 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | Ta-d2.p(φ5↓) = Ta-dL(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 19 | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ta-dL 粘性強 しまり中 |
| 20 | 10YR7/2 | にぶい黄褐色 | Ta-d2.p(φ10↓) = Ta-dL(斑状) 粘性弱 しまり中 |
| 21 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d2.p(φ10↓) ≡ Vc(斑状) 粘性強 しまり中 |
| 22 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ta-dL - Ta-d2.p(φ10↓) 粘性強 しまり弱 |
| 23 | 10YR7/6 | 明黄褐色 | Ta-dL 粘性強 しまり中 |
| 24 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ta-d2.p(φ10↓) ≡ Vb(斑状) 粘性強 しまり中 |

図 V-35 TP-114・115



TP-116

1	10YR3/1	黒褐色	Vb = シルト岩 (φ10 ↓) ≡ Ta-dL(斑状)
2	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩 (φ10 ↓)
3	10YR3/2	黒褐色	Vb = Ta-dL(斑状)
4	10YR4/2	灰黄褐色	Vb - Ta-dL(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ10 ↓)
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	Vc = Ta-dL(均一)
6	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dL - Vc(均一)
7	10YR3/2	黒褐色	Vb = Ta-dL(斑状)
8	7.5YR5/6	明褐色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)
9	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dL = Vb(斑状)
10	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-dL(斑状)
11	7.5YR4/1	褐色	Ta-dL - Vb(均一) = Ta-d2.p(φ10 ↓)
12	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-dL(斑状)
13	7.5YR7/4	にぶい橙色	Ta-dL ≡ 段丘堆積砂(斑状)
14	10YR7/3	にぶい黄褐色	Ta-d風化L - 段丘堆積砂(斑状)
15	10YR7/4	にぶい黄褐色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)
16	10BG5/1	青灰色	段丘堆積砂 - Ta-dL(斑状)
17	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-dL(斑状)
18	10YR6/2	灰黄褐色	Ta-d風化Lブロック
19	10YR5/2	灰黄褐色	Ta-dL - 段丘堆積砂(均一)
20	10YR6/1	褐色	Ta-d風化L ≡ Vb(斑状)
21	10GY7/1	明緑灰色	Ta-d1
22	10YR8/3	浅黄褐色	Ta-d風化L - Ta-dL(斑状) = Ta-d1

TP-117

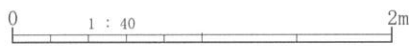
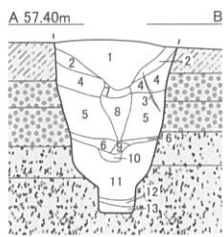
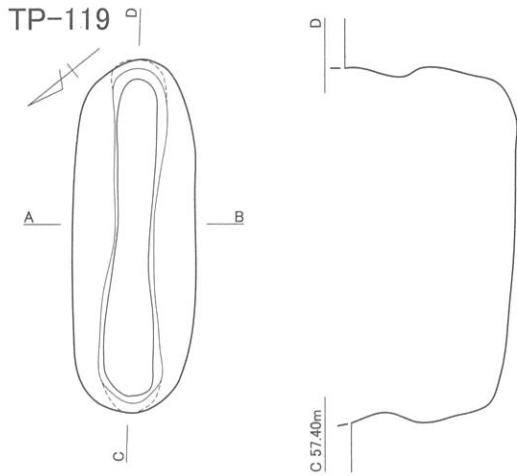
1	10YR4/2	灰黄褐色	Vb - Ta-dL(斑状)	10	7.5YR6/4	にぶい橙色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)
2	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-dL(斑状)	11	7.5YR3/2	灰褐色	Ta-dL - 段丘堆積砂(均一) ≡ Vc(斑状)
3	10YR3/3	暗褐色	Vc - Ta-dL(斑状)	12	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-dL(斑状)
4	10YR5/4	にぶい黄褐色	段丘堆積砂 = Ta-dL(斑状)	13	7.5YR7/3	にぶい橙色	Ta-dL
5	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)	14	10YR3/1	黒褐色	Vb = Ta-dL(斑状)
6	10YR3/3	暗褐色	Vc = Ta-dL(均一)	15	7.5YR7/3	にぶい橙色	Vb = Ta-dL
7	5YR5/4	にぶい赤褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状)	16	10BG5/1	青灰色	Ta-d1 = Ta-d風化L(斑状)
8	7.5YR3/1	黒褐色	Vb - Ta-dL(斑状) 根による攪乱?	17	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ta-d2.p(φ10 ↓) - Ta-d1(斑状)
9	7.5YR4/1	褐色	Vc = Ta-dL(均一)	18	5YR4/4	にぶい赤褐色	Ta-d2.p(φ10 ↓) ≡ Ta-d1(斑状)

TP-118

1	10YR3/2	黒褐色	Vb - 粘土ブロック + 礫(φ30~50 ↓)	11	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = 粘土ブロック
2	10YR2/1	黒色	Vb = 粘土ブロック(斑状)	12	10YR5/6	黄褐色	粘土 + しまり強
3	10YR5/6	黄褐色	粘土 + 礫(φ30~50)	13	10YR2/1	黒色	Vb = シルトブロック(斑状)
4	10YR5/6	黄褐色	粘土ブロック = Vb(斑状)	14	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト = Vb(均一)
5	10YR2/1	黒色	Vb	15	10YR5/6	黄褐色	粘土 = シルト(斑状) ややしまり有
6	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(均一)	16	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(均一)・砂(斑状)
7	10YR1.7/1	黒色	Vb				≡ シルト岩(φ10 ↓)
8	2.5Y3/3	暗褐色	シルト	17	7.5YR4/6	褐色	シルト岩(φ10 ↓) = 砂利 + 砂(斑状)
9	10YR3/4	暗褐色	シルト = Ta-d2.p(均一)	18	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト質粘土ブロック 粘性やや有 しまり無
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	19	7.5YR4/6	褐色	シルト岩(φ10 ↓) + 砂利
				20	10YR3/4	暗褐色	砂



図 V-36 TP-116 ~ 118

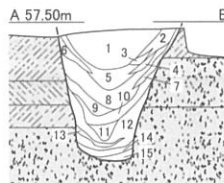
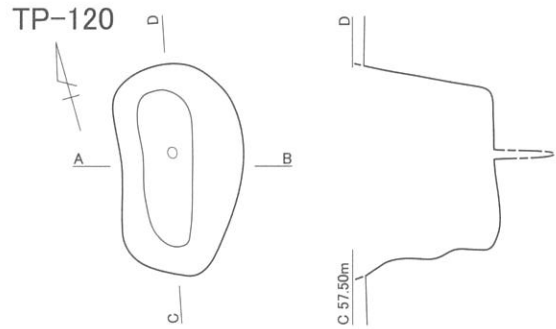


TP-119

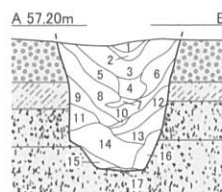
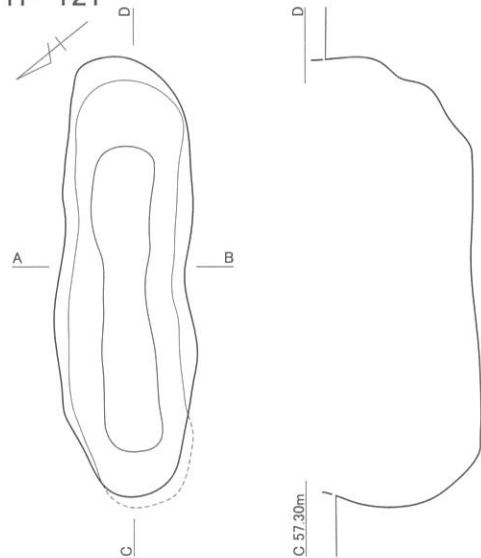
1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルトブロック(斑状)
2	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状)
3	10YR2/1	黒色	Vb クラックへの流れ込み
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
5	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = 粘土ブロック(φ 30~50 ↓)
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = Vbブロック(斑状)
8	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルトブロック(φ 30~50 ↓)
9	10YR3/1	黒褐色	Vb
10	2.5Y3/4	黄褐色	粘土 = シルト(斑状)
11	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂 + 砂質シルト = 礫(φ 30~50 ↓)
12	2.5Y5/4	黄褐色	粘土 = 砂(斑状)
13	10YR3/1	黒褐色	Vb 粘性有

TP-120

1	10YR3/4	暗褐色	シルト = Vb(均一) = Ta-d2.p(φ 10 ↓)
2	10YR2/1	黒色	Vb
3	10YR3/4	暗褐色	シルト = Ta-d2.p(φ 5 ↓)
4	10YR3/4	暗褐色	シルト = Ta-d2.p(φ 3 ↓)
5	10YR2/3	黒褐色	Vb + シルト(均一) = Ta-d2.p(φ 5 ↓)
6	10YR3/4	暗褐色	シルト = Vb(均一)
7	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト
8	10YR2/3	黒褐色	Vb = シルトブロック(均一) ≡ Ta-d2.p(φ 5 ↓)
9	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト ≡ Ta-d2.p(φ 5 ↓)
10	10YR2/1	黒色	Vb
11	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(斑状)
12	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘土質シルト
13	10YR3/2	褐色	Vb = シルト(斑状)
14	10YR2/1	黒色	Vb
15	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト + 砂



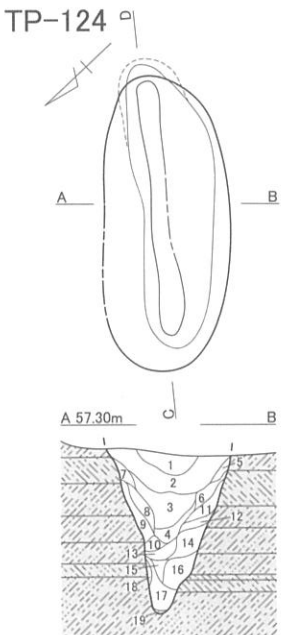
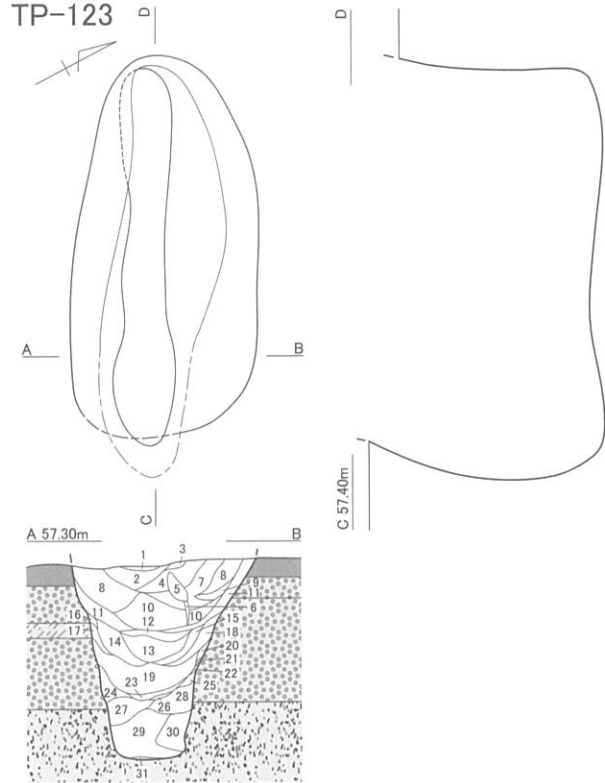
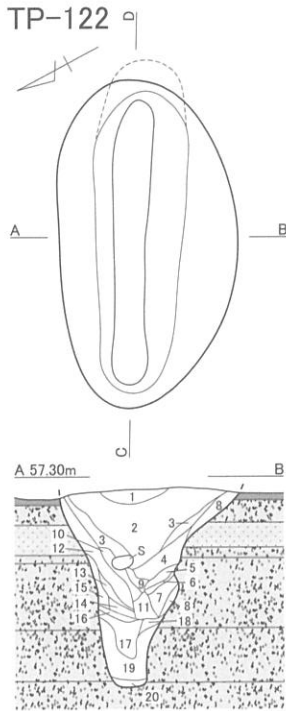
TP-121



TP-121

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
2	2.5Y7/2	灰黄色	シルト ≡ Vb(斑状)
3	2.5Y2/1	黒色	Vb
4	2.5Y2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
5	2.5Y3/1	黒褐色	Vb = シルト(斑状)
6	2.5Y3/1	黒褐色	Vb - シルト(斑状)
7	2.5Y3/1	黒褐色	Vb = シルト(斑状)
8	2.5Y5/1	黄灰色	シルト = Vb(斑状)
9	2.5Y8/3	淡黄色	シルト ≡ Vb(斑状)
10	2.5Y4/1	黄灰色	Vb = シルト(斑状) ≡ Vb(斑状)
11	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂
12	2.5Y8/3	淡黄色	シルト ≡ Vb(斑状)
13	2.5Y6/2	灰黄色	砂 = シルト(斑状)
14	10Y8/5	浅黄橙色	シルト ≡ 砂・Vb(斑状)
15	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂
16	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂
17	2.5Y4/1	黄灰色	Vb

図 V-37 TP-119 ~ 121



TP-122

1	2.5Y5/3	黄褐色	水成シルト 粘性有
2	10YR2/1	黒色	Vb
3	10YR2/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状)
4	2.5Y3/1	黒褐色	粘土 + Vb(斑状)
5	2.5Y6/3	にぶい黄色	粘土ブロック
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂 = 粘土(斑状)
7	2.5Y5/3	黄褐色	粘土 = 砂(斑状)
8	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂 = 粘土(斑状)
9	2.5Y3/1	黒褐色	砂 = Vb(斑状)
10	2.5Y3/1	黒褐色	粘土 + Vb(斑状)
11	2.5Y3/2	黒褐色	Vb - 粘土(均一)
12	2.5Y4/2	暗灰黄色	VI = 砂(斑状) ≡ Vb(斑状)
13	2.5Y2/1	黒色	Vb = 粘土ブロック
14	2.5Y6/3	にぶい黄色	粘土ブロック
15	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂 ≡ 粘土ブロック(斑状)
16	2.5Y3/2	黒褐色	Vb + 粘土(斑状)
17	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土 = 砂(斑状) ≡ Vb(均一)・粘土(斑状)
18	2.5Y4/1	黄灰色	砂 = 粘土(斑状) しまり無
19	2.5Y3/2	黒褐色	砂 = 粘土(斑状) しまり無
20	2.5Y3/1	黒褐色	砂 = Vb(斑状)

TP-124

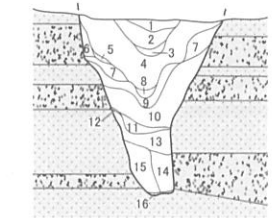
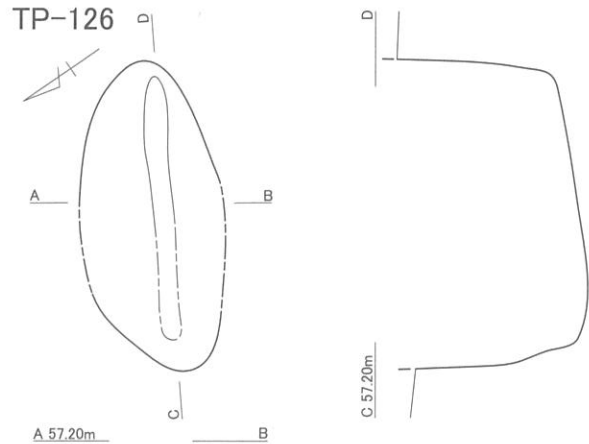
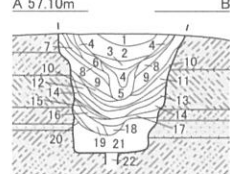
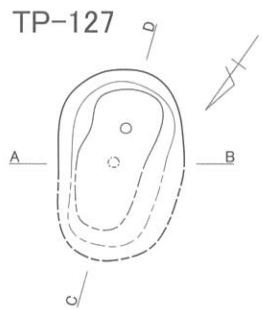
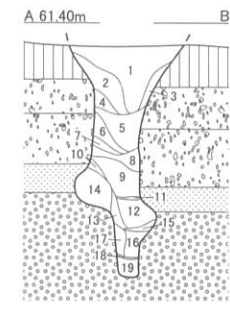
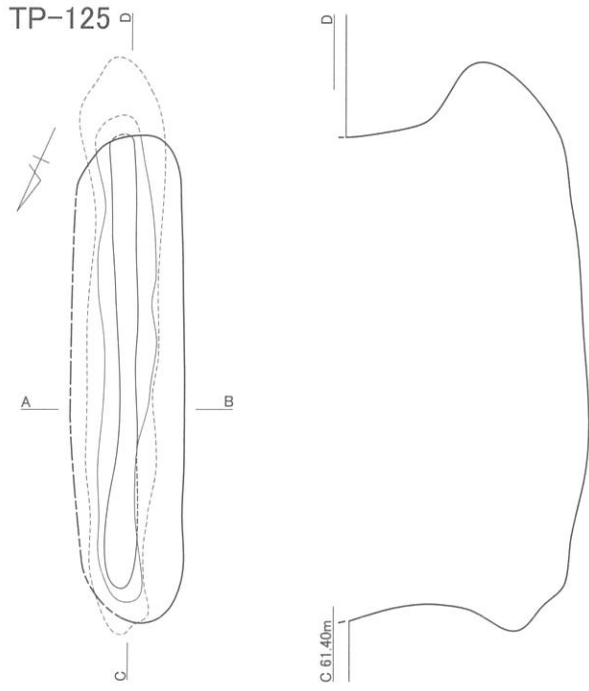
1	10YR3/1	黒褐色	Vb = Ta-d2.p(φ 10 ↓)
2	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-d2.p(φ 10 ↓)
3	10YR2/1	黒色	Vb = シルトブロック(斑状)
4	10YR3/2	黒褐色	Vb ≡ シルト(均一) 粘性有
5	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(均一)
6	10YR3/2	黒褐色	Vb - シルト(均一)
7	2.5Y5/4	黄褐色	Ta-dL ≡ Vb(均一)
8	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルトブロック(斑状)
9	2.5Y5/4	黄褐色	Ta-dL = Vb(斑状)
10	2.5Y5/4	黄褐色	Ta-dL + Vb(斑状)
11	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(均一)
12	2.5Y5/4	黄褐色	Ta-dL
13	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Ta-dL(斑状)
14	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
15	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
16	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
17	10YR2/1	黒色	Vb = シルトブロック
18	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
19	10YR2/1	黒色	Vb

TP-123

1	2.5Y7/3	浅黄色	シルト
2	2.5Y3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状)
3	2.5Y6/2	灰黄色	シルト = Vb(斑状)
4	2.5Y4/1	黄灰色	Vb ≡ シルト(均一)
5	2.5Y7/3	浅黄色	シルト = Vb(均一)
6	2.5Y5/4	黄褐色	シルト = Vb(均一)
7	2.5Y5/1	黄褐色	Vb = シルト(斑状)
8	2.5Y2/1	黒色	Vb
9	2.5Y2/1	黒色	Vb ≡ シルトブロック
10	2.5Y5/1	黄灰色	Vb - シルトブロック
11	2.5Y2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
12	2.5Y5/2	暗灰黄色	Vb - シルト(均一)
13	2.5Y7/3	浅黄色	シルト ≡ Vb(斑状)
14	2.5Y2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
15	2.5Y2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
16	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト ≡ Vb(斑状)
17	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト
18	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト ≡ (Vb(斑状))
19	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト = Vb(斑状)
20	2.5Y7/2	灰黄色	シルト
21	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト ≡ Vb(斑状)
22	2.5Y7/2	灰黄色	シルト
23	2.5Y7/2	灰黄色	シルト = Vb(斑状)
24	2.5Y7/2	灰黄色	シルト
25	2.5Y7/2	灰黄色	シルト
26	2.5Y2/1	黒色	Vb
27	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト - Vb(斑状)
28	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト
29	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
30	2.5Y6/1	黄灰色	砂
31	2.5Y3/1	黒褐色	Vb



図 V-38 TP-122 ~ 124



TP-125

1	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-dL(斑状)
2	10YR4/1	褐灰色	Vc = Ta-dL(斑状)
3	5YR5/6	明赤褐色	Ta-dL - Vb(斑状)
4	5YR5/6	明赤褐色	Ta-dL - Vb(斑状)
5	10YR3/1	黒褐色	Vb = Ta-dL(斑状)
6	10YR6/4	にぶい黄褐色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)
7	5YR5/4	にぶい赤褐色	Ta-dL
8	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-dL = Vb(斑状)
9	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)
10	10YR7/4	にぶい黄褐色	Ta-d風化L
11	10YR2/1	黒色	Vb
12	10YR7/3	にぶい黄褐色	Ta-d風化L = Ta-dL(斑状)
13	10YR8/3	浅黄褐色	Ta-d風化L
14	10BG4/1	暗青灰色	Ta-d1
15	10YR3/1	黒褐色	Vb = Ta-dL(斑状)
16	10YR5/1	褐灰色	Ta-dL - Ta-d1(均一) = Vb(斑状)
17	10BG6/1	青灰色	Ta-d1
18	10YR2/1	黒色	Vb
19	10YR5/2	灰黄褐色	Ta-dL - Ta-d2.p(均一)

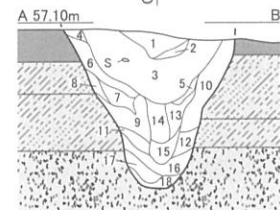
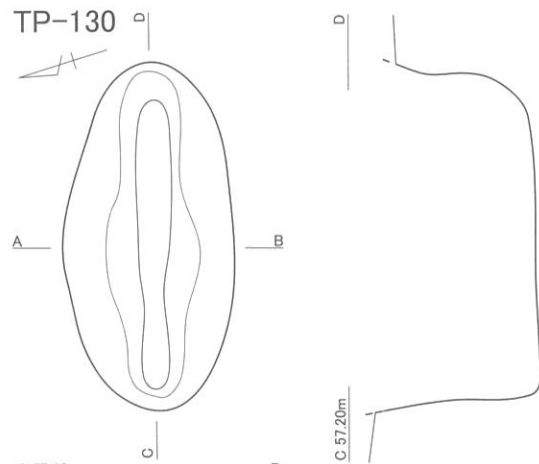
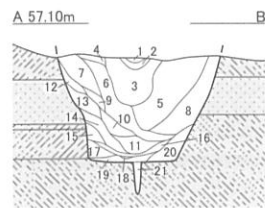
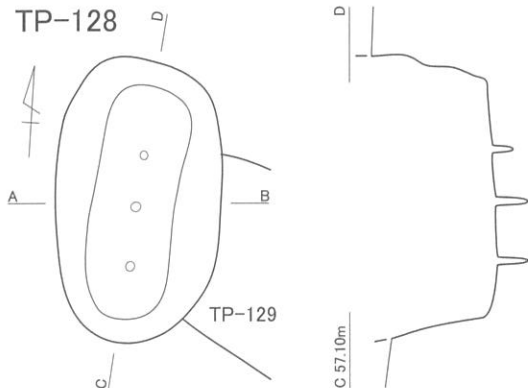
TP-126

1	10YR4/4	褐色	シルト ≡ シルト岩(φ5↓) ・Ta-d2.p(φ5↓) ≡ Vb(均一)
2	10YR2/2	黒褐色	Vb - シルト(均一) ≡ Ta-d2.p・シルト岩(φ10↓)
3	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状)
4	10YR1.7/1	黒色	Vb
5	10YR5/2	灰黄褐色	粘土 = 砂(斑状)
6	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土 ≡ Vb(斑状)
7	10YR2/1	黒色	Vb ≡ 粘土(斑状)
8	10YR2/1	黒色	Vb ≡ 粘土(斑状)
9	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土 = Vb(斑状)
10	10YR5/2	灰黄褐色	砂 = 粘土(斑状) ≡ Vb(斑状)
11	10YR3/1	黒褐色	Vb = 粘土(斑状)
12	10YR4/6	黄褐色	粘土 = Vb(斑状)
13	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土 = 砂(斑状) ≡ Vb(斑状)
14	10YR5/2	灰黄褐色	砂 = 粘土(斑状) ≡ Vb(斑状)
15	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土
16	10YR2/1	黒色	Vb ≡ 粘土(斑状)

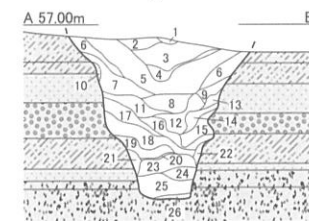
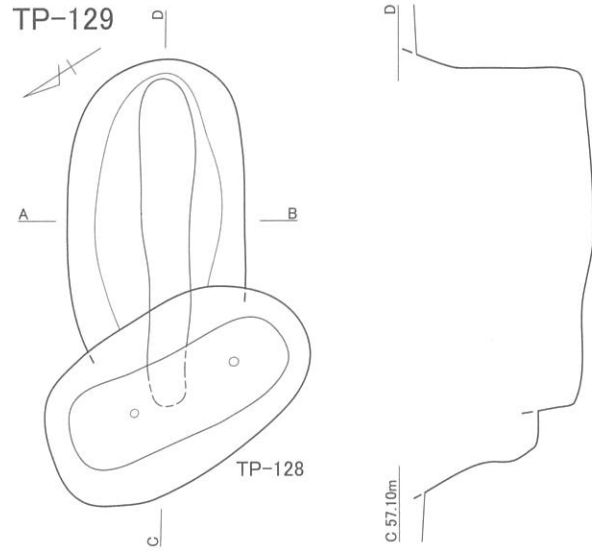
TP-127

1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	洪水砂質シルト	13	10YR3/2	黒褐色	Vb - シルト(均一)
2	2.5Y5/4	黄褐色	洪水シルト	14	2.5Y5/6	黄褐色	= 粘土ブロック(斑状)
3	2.5Y5/2	暗灰黄色	洪水粘質シルト	15	10YR3/2	黒褐色	粘土
4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	洪水シルト やや粘性あり	16	2.5Y5/6	黄褐色	Vb - シルト(均一)
5	10YR2/1	黒色	Vb しまりややあり	17	10YR2/1	黒色	粘土
6	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(均一)	18	2.5Y5/6	黄褐色	Vb = シルト(斑状)
7	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(均一)	19	2.5Y5/6	黄褐色	粘土 = Vb(斑状) 杭痕?
8	10YR3/2	黒褐色	Vb ≡ シルト(均一)	20	10YR3/2	黒褐色	粘土 = シルト(斑状)
9	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(均一)	21	2.5Y4/6	オリーブ褐色	Vb ≡ シルト(斑状)
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = Vb	22			シルト = 粘土(均一)
11	10YR3/1	黒褐色	Vb = シルトブロック(斑状)				
12	2.5Y5/6	黄褐色	粘土				

図 V-39 TP-125 ~ 127



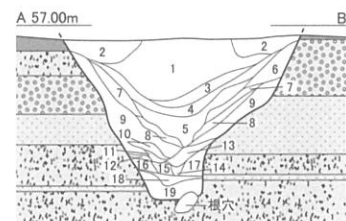
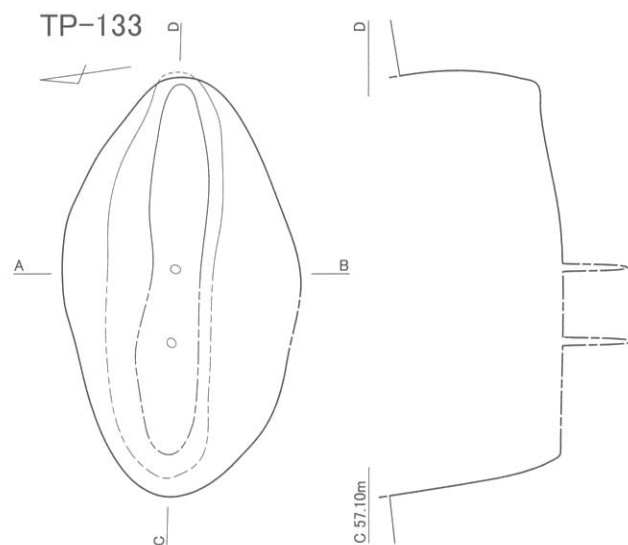
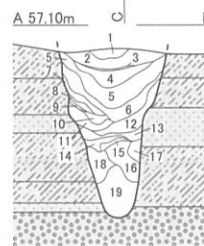
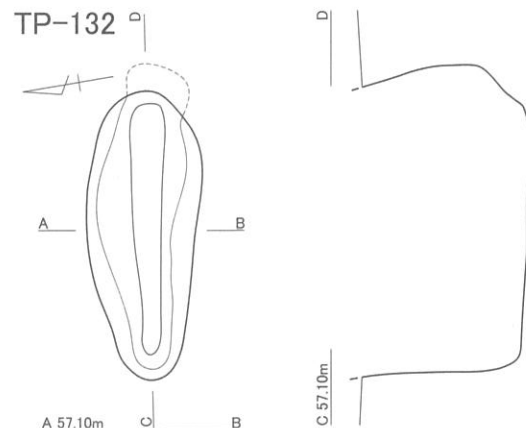
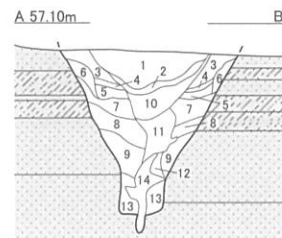
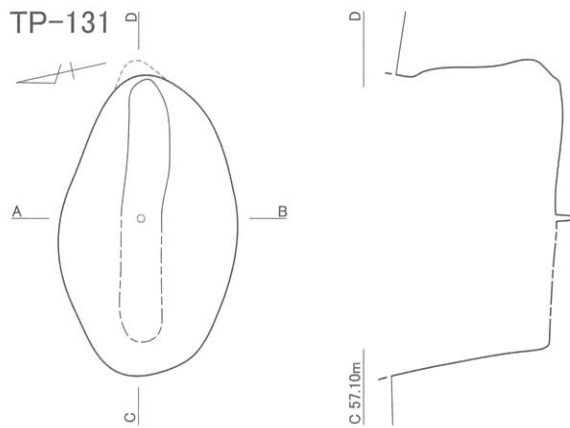
TP-130		
1	2.5Y7/3	浅黄色 シルト
2	2.5Y3/1	黒褐色 Vb ≡ シルト(斑状)
3	2.5Y2/1	黒色 Vb
4	2.5Y5/1	黄灰色 Vb = シルト(斑状)
5	2.5Y4/1	黄灰色 Vb = シルト(斑状)
6	2.5Y7/3	浅黄色 シルト - Vb(斑状)
7	2.5Y4/1	黄灰色 Vb ≡ シルト(斑状)
8	2.5Y7/2	灰黄色 シルト = Vb(斑状)
9	2.5Y7/2	灰黄色 シルト ≡ Vb(斑状)
10	2.5Y7/2	灰黄色 シルト ≡ Vb(斑状)
11	2.5Y7/2	灰黄色 シルト
12	2.5Y7/2	灰黄色 シルト
13	2.5Y6/2	灰黄色 シルト = Vb(斑状)
14	2.5Y5/1	黄灰色 Vb = シルト(斑状)
15	2.5Y7/2	灰黄色 シルト = Vb(斑状)
16	2.5Y7/2	灰黄色 シルト ≡ 砂(斑状)
17	10YR7/3	にぶい黄褐色 シルト
18	10YR6/1	褐灰色 Vb = シルト(斑状)



TP-128		
1	2.5Y4/6	オリーブ褐色 粘土質シルト
2	10YR3/1	黒褐色 Vb ≡ シルト(均一)
3	10YR3/3	暗褐色 Vb + シルト(均一) しまり無
4	2.5Y4/4	オリーブ褐色 シルト - Vb(均一) = 粘土ブロック(斑状)
5	2.5Y4/6	オリーブ褐色 シルト
6	10YR2/2	黒褐色 Vb - シルト(斑状)
7	10YR2/1	黒色 Vb ≡ シルト(斑状)
8	10YR2/1	黒色 Vb ≡ シルトブロック(斑状) TP-129の崩落土
9	2.5Y5/4	黄褐色 粘土
10	2.5Y5/4	黄褐色 粘土 = Vb(斑状)
11	2.5Y5/4	黄褐色 粘土ブロック = Vb(斑状)
12	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色 シルト
13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色 シルト + 粘土
14	2.5Y5/4	黄褐色 粘土
15	2.5Y4/3	オリーブ褐色 シルト
16	10YR2/1	黒色 Vb
17	2.5Y4/6	オリーブ褐色 シルト
18	2.5Y5/4	黄褐色 粘土
19	10YR2/1	黒色 Vb ≡ シルトブロック(斑状)
20	10YR2/1	黒色 Vb = 粘土ブロック(斑状) TP-129の崩落土
21	10YR3/3	暗褐色 Vb = シルト(均一) しまり無

TP-129		
1	2.5Y5/4	黄褐色 砂質シルト
2	10YR3/2	黒褐色 Vb ≡ シルト(均一)
3	10YR2/2	黒褐色 Vb = シルト(均一)
4	2.5Y5/4	黄褐色 Ta-dL - 粘土ブロック(斑状) = Vb(斑状)
5	10YR2/1	黒色 Vb ≡ シルトブロック(斑状)
6	10YR3/2	黒褐色 Vb = シルト(斑状)
7	2.5Y4/4	オリーブ褐色 シルト = Vb(斑状)
8	2.5Y4/4	オリーブ褐色 シルト
9	2.5Y4/4	オリーブ褐色 シルト = Vb(斑状)
10	2.5Y5/4	黄褐色 シルト
11	2.5Y5/4	黄褐色 粘土ブロック = Vb(斑状)
12	10YR2/2	黒褐色 Vb + シルト
13	2.5Y5/6	黄褐色 粘土
14	2.5Y4/6	オリーブ褐色 シルト ≡ Vb(斑状)
15	2.5Y5/6	黄褐色 粘土
16	10YR2/1	黒色 Vb = シルトブロック(斑状)
17	2.5Y4/3	オリーブ褐色 シルト + 粘土
18	2.5Y5/6	黄褐色 粘土
19	2.5Y4/4	オリーブ褐色 シルト
20	10YR2/1	黒色 Vb ≡ シルト(均一)
21	2.5Y4/3	オリーブ褐色 シルト
22	2.5Y5/4	黄褐色 粘土 グライ化
23	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色 砂質シルト
24	2.5Y6/8	明黄褐色 粘土 = シルト(均一) グライ化
25	2.5Y4/3	オリーブ褐色 砂

図V-40 TP-128 ~ 130

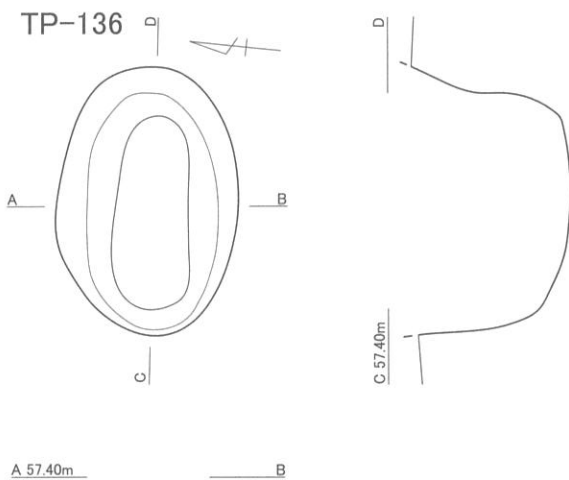
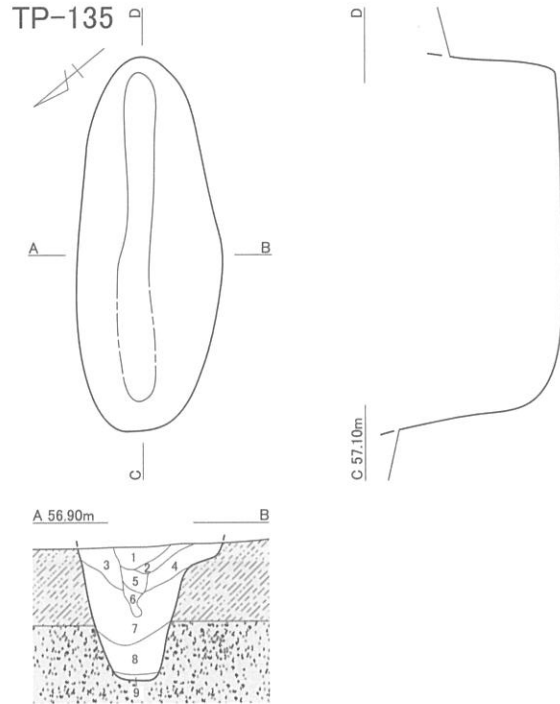
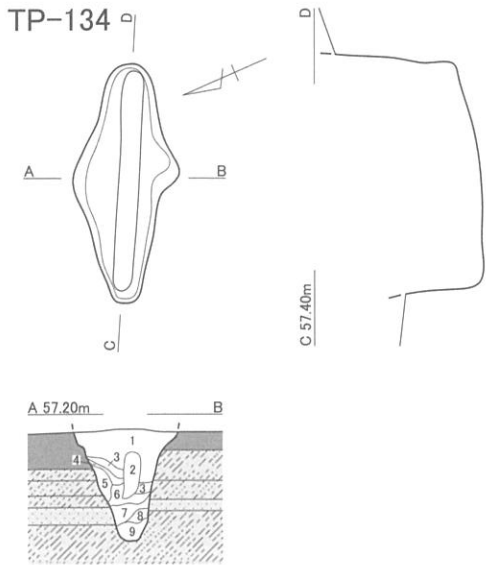


- TP-131**
- | | | | |
|----|-----------|--------|---------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = Ta-d2.p(φ30 ↓) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(均一) しまり無 粘性強 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = シルト(均一) しまり有 粘性中 |
| 4 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト - Vb(均一) しまり有 粘性有 |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = シルト(均一) しまり無 |
| 6 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | 粘土 しまり強 |
| 7 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ色 | シルト しまり無 |
| 8 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト |
| 9 | 2.5Y5/6 | 黄褐色 | Vb = シルト(斑状) |
| 10 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) しまり無し 粘性やや有 |
| 11 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = 粘土ブロック(斑状) ≡ シルト(斑状) |
| 12 | 2.5Y5/6 | 黄褐色 | 粘土ブロック = Vb(斑状) しまり有 |
| 13 | 2.5Y5/6 | 黄褐色 | 粘土 |
| 14 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト = Vb(斑状) ≡ 粘土(均一) 杭痕 |

- TP-132**
- | | | | |
|----|---------|---------|-------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb ≡ シルト(均一) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-d2.p(均一) |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb しまりなし |
| 4 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土ブロック ≡ Vb(斑状) |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-d2.p(φ3 ↓)・粘土ブロック(斑状) |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-d2.p(φ3 ↓)・粘土(斑状) |
| 7 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土ブロック ≡ Vb(斑状) |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb ≡ シルト(斑状) |
| 9 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土 |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 11 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト |
| 12 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト = Vb(均一)・粘土ブロック(斑状) |
| 13 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) |
| 14 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト |
| 15 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 16 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト |
| 17 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト |
| 18 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト |
| 19 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト |

- TP-133**
- | | | | |
|----|-----------|--------|-------------------------|
| 1 | 2.5Y6/4 | にぶい黄色 | 水成シルト |
| 2 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = 水成シルト(斑状) |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | Vb ≡ 水成シルト(斑状) しまり強 |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb しまり強 粘性強 |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ Vb(斑状) |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = 粘土ブロック(斑状) |
| 8 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土 = Vb(斑状) |
| 9 | 10YR2/3 | 黒褐色 | VI ≡ 粘土ブロック(斑状) |
| 10 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb ≡ 粘土ブロック(斑状) |
| 11 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土 = Vb(斑状) |
| 12 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb ≡ 粘土ブロック(斑状) |
| 13 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | Vb + 粘土ブロック |
| 14 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 粘土 ≡ Vb(斑状) |
| 15 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土ブロック |
| 16 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘土ブロック = 砂(均一) |
| 17 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 粘土ブロック = 砂(均一) ≡ Vb(斑状) |
| 18 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土ブロック = Vb(斑状) |
| 19 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 粘土ブロック = 砂(均一) ≡ Vb(斑状) |

図 V-41 TP-131 ~ 133

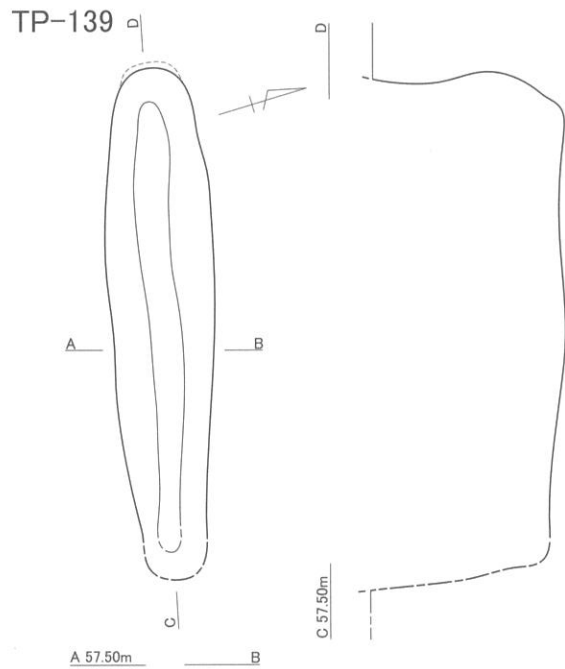
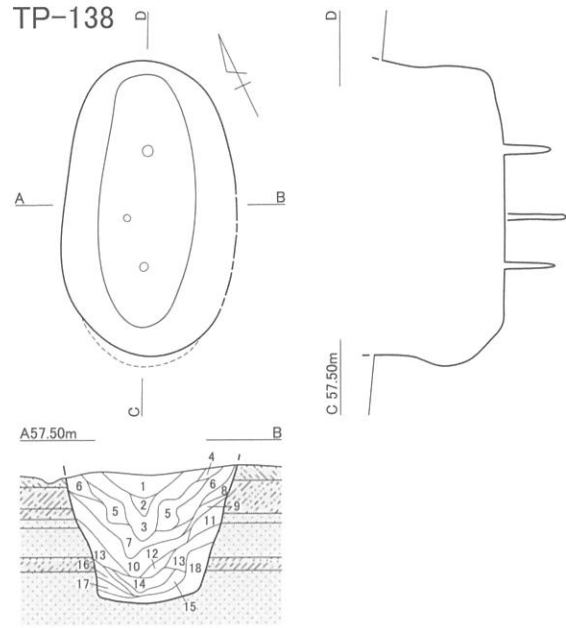
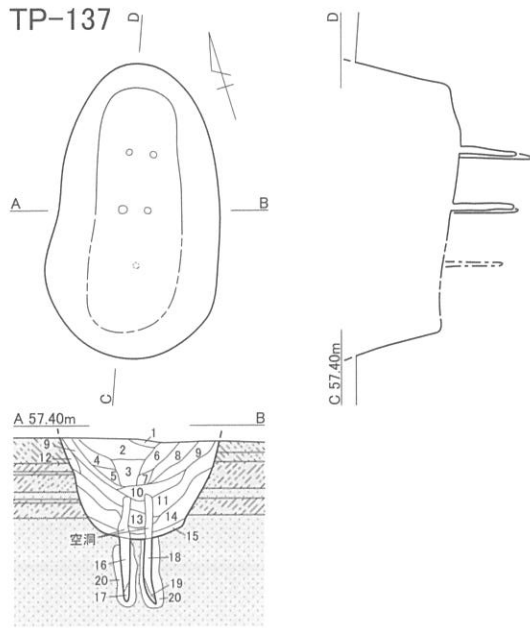


- TP-134**
- | | | | |
|---|---------|--------|-----------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(均一)・Ta-d2.p(φ30↓) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(均一) しまり無 |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色 | Ta-d1 = Vb(斑状) |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 5 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | シルト = Vb(斑状) |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ5↓) |
| 7 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) |
| 8 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | Vb + シルトブロック ≡ Ta-d2.p(φ5↓) |
| 9 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) |

- TP-135**
- | | | | |
|---|---------|--------|--------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 2 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | シルト = Vb(斑状) |
| 3 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | シルト = Vb(斑状) |
| 4 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | シルト = Vb(斑状) |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(斑状) |
| 6 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | シルト = Vb(斑状) |
| 7 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色 | シルト = Vb(斑状) |
| 8 | 10YR4/1 | 褐灰色 | シルト = Vb(斑状) |
| 9 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb - シルト(斑状) |

- TP-136**
- | | | | |
|----|---------|---------|-------------------------|
| 1 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 洪水シルト = Ta-d2.p(φ20↓) |
| 2 | 7.5Y6/2 | 灰オリーブ褐色 | 洪水シルト = 砂(斑状) |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = 粘土(斑状) |
| 7 | 10YR3/3 | 暗灰黄色 | Vb = 粘土(斑状) |
| 8 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - 粘土(斑状) |
| 9 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土 = Vb(斑状)・砂(斑状) |
| 10 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 砂 = Vb(均一) ≡ Vbブロック(斑状) |
| 11 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 = 粘土(斑状) |
| 12 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土 = Vb(均一) ≡ 粘土(斑状) |
| 13 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 砂 = 粘土(斑状) ≡ Vbブロック(斑状) |
| 14 | 2.5Y6/4 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック |
| 15 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | Vb = 粘土(斑状) |
| 16 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂 |
| 17 | 2.5Y6/4 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック |
| 18 | 2.5Y6/4 | にぶい黄褐色 | 砂 |
| 19 | 2.5Y6/4 | 暗灰黄色 | 粘土ブロック |
| 20 | 2.5Y6/4 | にぶい黄褐色 | 砂 |
| 21 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 粘土 = 砂(斑状) |
| 22 | 2.5Y5/2 | 暗黄褐色 | 粘土 = 砂(斑状) ≡ Vb(斑状) |
| 23 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土 = Vb(斑状) |

図 V-42 TP-134 ~ 136



TP-137

1	10YR4/4	オリブ褐色	洪水砂質シルト
2	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト - Vb(均一) = 粘土(斑状)
3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト = Vb(均一) しまり有
4	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルトブロック(斑状)
5	2.5Y4/4	オリブ褐色	シルトブロック = Vb(斑状)
6	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト - Vb(均一) = シルト(斑状) しまり無
7	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト + Vb しまり無
8	2.6Y4/4	オリブ褐色	シルト ≡ Vb(斑状) しまり有
9	10YR2/1	黒色	Vb ≡ 粘土(斑状) しまり有
10	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト - Vb(均一)
11	10YR3/2	黒褐色	Vb - シルト(均一) = 粘土ブロック(斑状)
12	2.5Y4/4	オリブ褐色	粘土質シルト
13	10YR3/2	黒褐色	Vb + シルト = 粘土ブロック(斑状)
14	2.5Y9/6	オリブ褐色	シルト ≡ 粘土(斑状)・Ta-dL(斑状)
15	10YR3/2	黒褐色	Vb ≡ シルト(均一)
16	2.5Y4/1	褐灰色	Vb しまり無
17	2.5Y4/2	暗灰黄色	Vb しまり中
18	2.5Y4/1	褐灰色	Vb しまり無
19	2.5Y4/2	暗灰黄色	Vb しまり中
20	10BG7/1	明青灰色	シルト グライ化 しまり中

TP-138

1	2.5Y4/4	オリブ褐色	洪水砂質シルト 粘性有
2	10YR2/1	黒色	Vb しまり有
3	10YR3/3	暗褐色	Vb + シルト ≡ 粘土ブロック(斑状)
4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト
5	2.5Y4/4	オリブ褐色	粘土ブロック = Vb(斑状)
6	10YR2/1	黒色	Vb ≡ 粘土ブロック(斑状)
7	10YR2/2	黒褐色	Vb - シルト(均一) ≡ 粘土(斑状) しまり無
8	10YR2/2	黒褐色	Vb - シルト(斑状)
9	10YR2/1	黒色	Vb = 粘土ブロック(斑状)
10	10YR4/6	褐色	粘土 = シルト(斑状) ≡ Vb(斑状) しまり無
11	10YR5/6	黄褐色	粘土 - シルト(ブロック状)
12	10YR3/2	黒褐色	Vb = 粘土(斑状) しまり無
13	10YR5/6	黄褐色	シルト = 粘土(ブロック状)
14	10YR4/4	オリブ褐色	シルト ≡ Vb(斑状) しまり無
15	10YR2/2	黒褐色	Vb - シルト(均一)
16	2.5Y4/4	オリブ褐色	シルト
17	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト 粘性有
18	10YR5/6	黄褐色	粘土 + シルト

TP-139

1	10YR2/2	黒褐色	Vb しまり強
2	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルトブロック(斑状)
3	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルトブロック(斑状)
4	2.5Y3/2	黒褐色	Vb = シルト(均一)・粘土質シルトブロック(斑状)
5	2.5Y2/3	暗オリブ褐色	シルト = Vb(均一) 粘性やや有
6	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト しまり無
7	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト しまり無
8	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト - 粘土(斑状)
9	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
10	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト しまり無
11	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	砂質シルト しまり無
12	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト = 粘土ブロック(斑状)
13	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	砂 + 砂利
14	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	砂 しまり無
15	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	砂 + 砂利
16	10YR2/1	黒色	Vb しまり無 粘性有

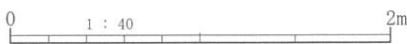
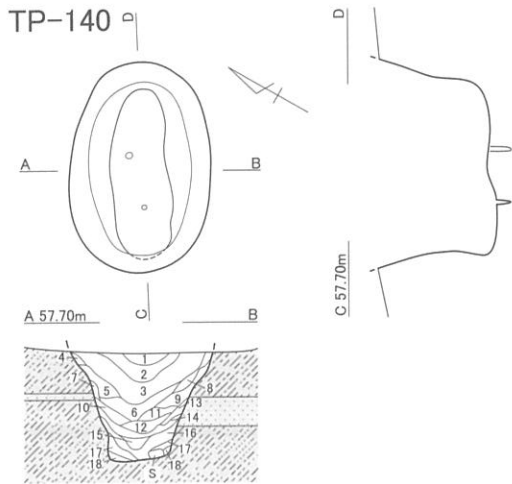


図 V-43 TP-137 ~ 139

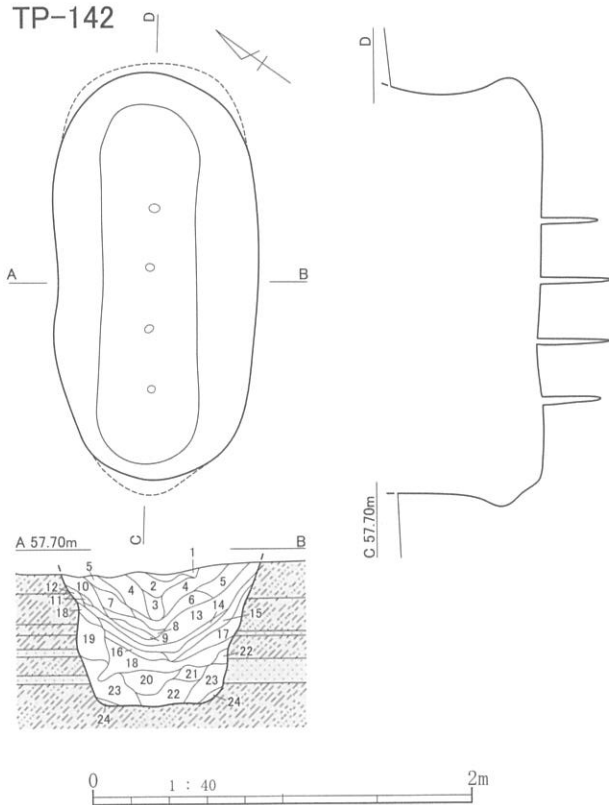
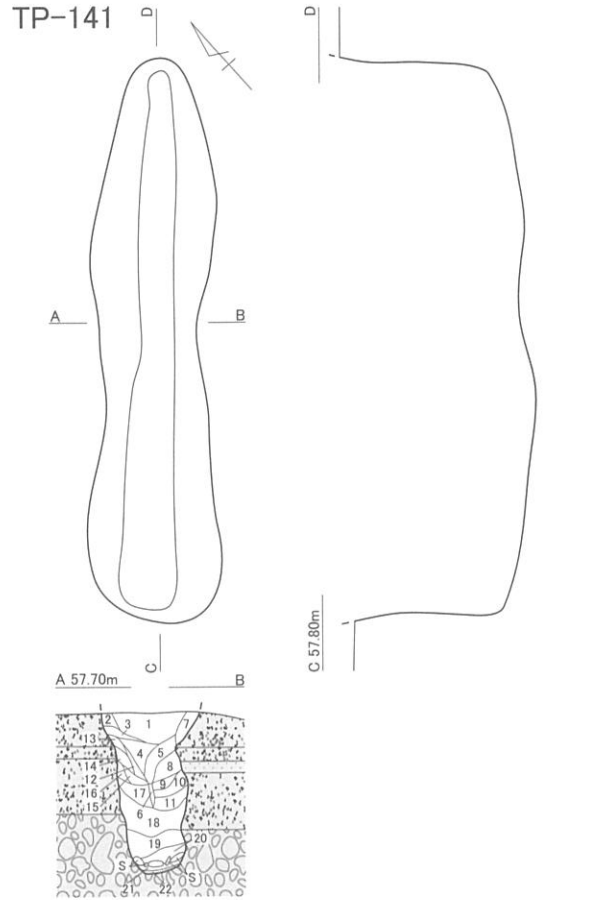


- TP-140**
- | | | | |
|----|---------|--------|------------------------------|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色 | 砂質シルト = Ta-d2.p(φ20↓) |
| 2 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | 粘土質シルト |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルトブロック(斑状) |
| 4 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb ≡ シルト粒(斑状) |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト粒(斑状) |
| 7 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト |
| 8 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト |
| 9 | 10YR4/6 | 褐色 | Ta-d2.p(φ20↓) + シルト |
| 10 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土 = Vb(斑状) |
| 11 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-d2.p(φ20↓) = シルト(斑状) |
| 12 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルト(斑状) |
| 13 | 2.5Y5/6 | 黄褐色 | 粘土 |
| 14 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb + シルト(斑状) |
| 15 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト ≡ Vb(均一) |
| 16 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト ≡ Vb(均一) = ローム |
| 17 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土 = シルト |
| 18 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(均一) |

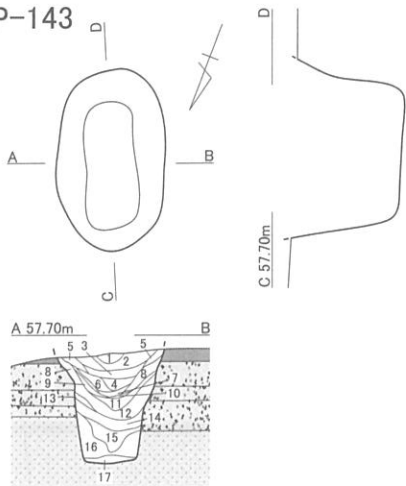
- TP-141**
- | | | | |
|----|-----------|--------|-----------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb = 砂(斑状) |
| 4 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂 + 粘土 ≡ Vb(斑状) |
| 5 | 10YR2/1 | 黒褐色 | Vb |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | Vb = 粘土(斑状) しまり無 |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂 = Vc(斑状) = VI(斑状) |
| 8 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 砂 = Vb(斑状) |
| 9 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 ≡ 粘土(均一) |
| 10 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 |
| 11 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 砂 ≡ 粘土(均一) |
| 12 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ 粘土(均一) |
| 13 | 2.5Y6/4 | にぶい黄褐色 | 粘土 |
| 14 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ Ta-d2.p(φ20↓) |
| 15 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 砂 - Ta-d2.p(φ20↓) |
| 16 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ Vb(斑状) |
| 17 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 |
| 18 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土 ≡ 砂(斑状) |
| 19 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 粘土 = 砂(斑状) |
| 20 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 = 礫(φ10↓) |
| 21 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 粘土 + 砂 + 礫(φ10↓) |
| 22 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土 - 礫(φ10↓) = Vb(均一) |

- TP-142**
- | | | | |
|----|---------|---------|---------------------------|
| 1 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色 | 砂質シルト + Ta-d2.p(φ5↓) |
| 2 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト = Vb(斑状) |
| 3 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | Vb + シルト しまりなし |
| 4 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | Vb + シルト |
| 5 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土 = Vb(斑状) |
| 6 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | Vb + シルト |
| 7 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト = Vb(均一) = 粘土ブロック(斑状) |
| 8 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト - Vb(均一) |
| 9 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土ブロック + Vbシルト |
| 10 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = シルトブロック(斑状) |
| 11 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト + Vb |
| 12 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土 = シルト(均一) |
| 13 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(斑状) |
| 14 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト(均一) |
| 15 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト = Vb(均一) |
| 16 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト ≡ Vb(均一) |
| 17 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト = 粘土(斑状) |
| 18 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト + Vb(均一) |
| 19 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト |
| 20 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト - Vb(均一) |
| 21 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト + Vb(均一) |
| 22 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト = Vb(均一) ≡ 粘土ブロック(斑状) |
| 23 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土 |
| 24 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | シルト |

図 V-44 TP-140 ~ 142



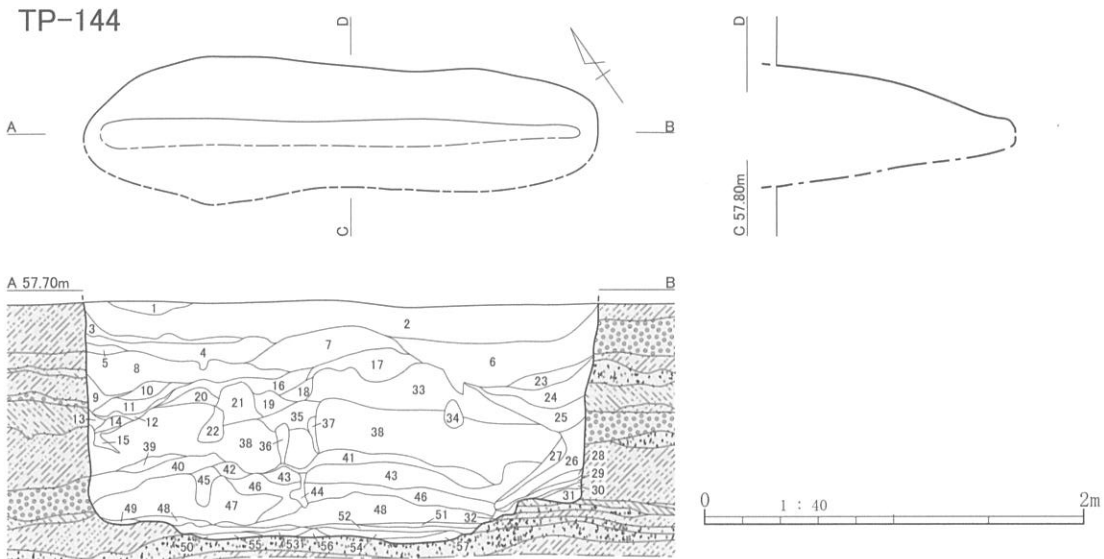
TP-143



TP-143

1	10YR3/3	暗褐色	洪水シルト ≡ Vb(均一)・En-a.p(φ2↓)
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	洪水シルト ≡ Vb(斑状)・Ta-d2.p(φ5↓)
3	2.5Y3/2	黒褐色	洪水シルト + Vb(均一) ≡ En-a.p(φ2↓)
4	2.5Y5/3	黄褐色	洪水シルト ≡ En-a.p
5	10YR2/1	黒色	Vb
6	2.5Y4/2	暗灰黄色	洪水シルト ≡ Vb(斑状)
7	2.5Y3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状)
8	2.5Y3/1	黒褐色	Vb = 洪水シルト(斑状)
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	洪水シルト
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	洪水シルト - Vb(斑状)
11	10YR2/2	黒褐色	Vb
12	2.5Y4/1	黄灰色	砂 ≡ Vb(均一)
13	2.5Y6/3	にぶい黄褐色	粘土
14	10YR2/1	黒色	Vb
15	2.5Y3/1	黒褐色	Vb ≡ 粘土(斑状)
16	2.5Y3/2	黒褐色	粘土 = Vb(均一)・砂(斑状)
17	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂

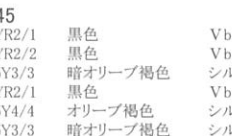
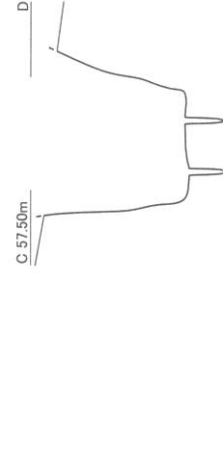
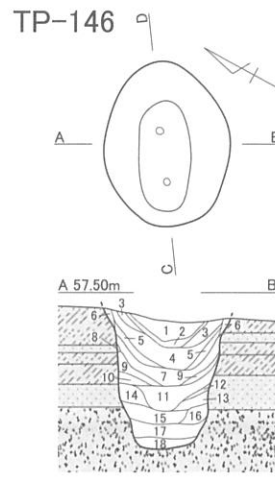
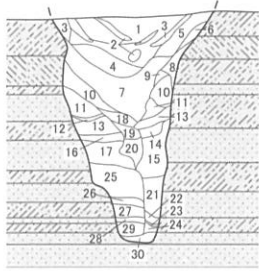
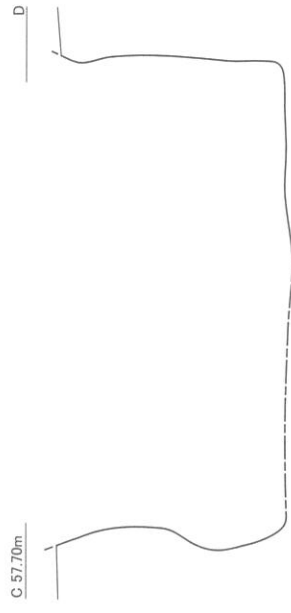
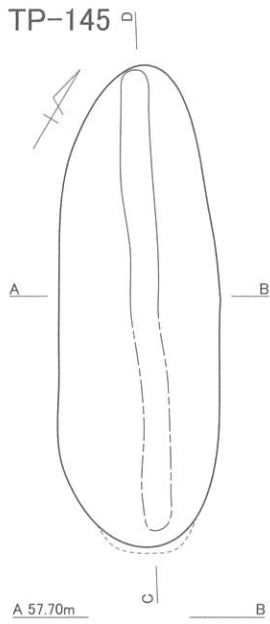
TP-144



TP-144

1	2.5Y3/1	黒褐色	Vb = シルト(斑状)	30	2.5Y2/1	黒色	Vb
2	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)	31	2.5Y7/2	灰黄色	シルト
3	10YR6/3	にぶい黄褐色	シルト ≡ Vb(斑状)	32	2.5Y6/2	灰黄色	シルト = Vb(斑状)
4	10YR4/1	褐灰色	Vb = シルト(斑状)	33	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト
5	10YR6/2	灰黄褐色	シルト - Vb(斑状)	34	2.5Y7/2	灰黄色	粘土質シルト = 砂質シルト(斑状)
6	10YR4/1	褐灰色	Vb = シルト(斑状)	35	2.5Y7/2	灰黄色	シルト
7	10YR5/2	灰黄褐色	シルト - Vb(斑状)	36	2.5Y6/1	黄灰色	シルト ≡ Vb(均一)
8	2.5Y6/2	灰黄褐色	シルト ≡ Vb(斑状)	37	2.5Y6/1	黄灰色	シルト ≡ Vb(均一)
9	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト - Vb(斑状)	38	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト
10	10YR7/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	39	10YR7/4	にぶい黄褐色	砂質シルト
11	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	40	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト
12	2.5Y5/1	黄灰色	シルト - Vb(均一)	41	2.5Y6/1	黄灰色	シルト ≡ Vb(均一)
13	2.5Y3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状)	42	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
14	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	43	10YR6/2	灰黄色	砂質シルト
15	2.5Y3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状)	44	2.5Y6/2	灰黄色	シルト
16	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト = Vb(斑状)	45	2.5Y6/2	灰黄色	シルト ≡ Vb(斑状)
17	2.5Y5/1	黄灰色	シルト - Vb(均一)	46	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト
18	2.5Y4/1	黄灰色	Vb - シルト(斑状)	47	2.5Y7/2	灰黄色	シルト ≡ 砂質シルト(斑状)
19	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト ≡ Vb(斑状)	48	2.5Y7/2	灰黄色	シルト ≡ Vb(斑状)
20	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	49	2.5Y7/2	灰黄色	シルト
21	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	50	2.5Y7/2	灰黄色	シルト = Vb(斑状)
22	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	51	10YR7/4	にぶい黄褐色	シルト
23	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト ≡ Vb(斑状)	52	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト
24	2.5Y6/2	灰黄色	シルト = Vb(斑状)	53	2.5Y2/1	黒色	Vb = シルト(斑状)
25	2.5Y4/1	黄灰色	Vb = シルト(斑状)	54	2.5Y2/1	黒色	Vb = シルト(斑状)
26	2.5Y5/1	黄灰色	Vb - シルト(均一)	55	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト
27	2.5Y7/2	灰黄色	シルト ≡ Vb(斑状)	56	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト
28	2.5Y2/1	黒色	Vb	57	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト
29	2.5Y7/2	灰黄色	シルト				

図 V-45 TP-143・144

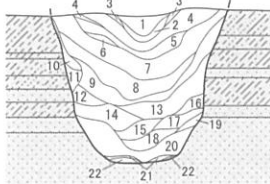
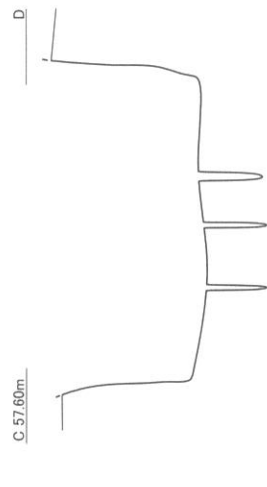
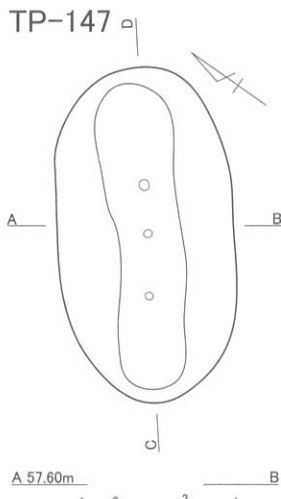


TP-145

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
2	10YR2/2	黒色	Vb - シルト(斑状)
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)
4	10YR2/1	黒色	Vb
5	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(斑状)
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト + Vb
8	10YR4/4	褐色	Ta-d1 = シルト(斑状)
9	10YR2/3	黒褐色	Vb = シルト(斑状)
10	10YR4/6	褐色	Ta-d1 + シルト(均一)
11	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト
12	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト = Vb(斑状)
13	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト
14	10YR4/4	褐色	シルト ≡ Vb(斑状)
15	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
16	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
17	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト
18	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
19	10YR2/1	黒色	Vb + シルトブロック しまり無
20	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルトブロック = Vb(斑状)
21	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vb
22	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト = Vb(均一)
23	10YR2/1	黒色	Vb しまり無
24	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)
25	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
26	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
27	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
28	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
29	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
30	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト + Vb

TP-146

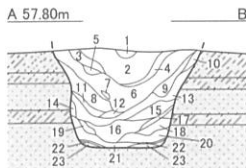
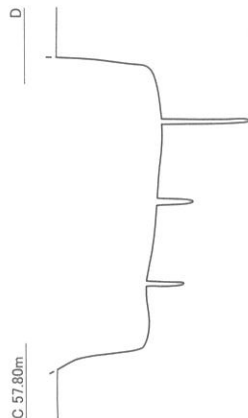
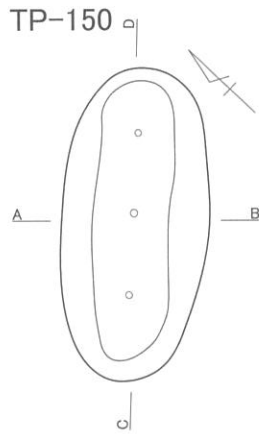
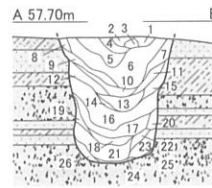
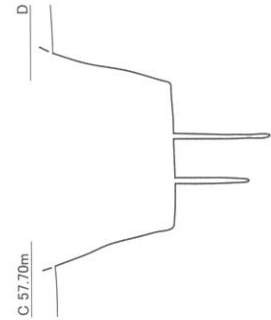
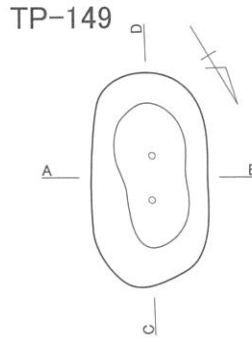
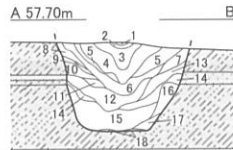
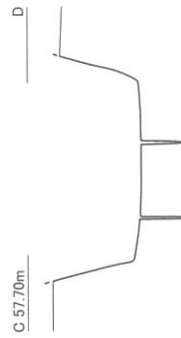
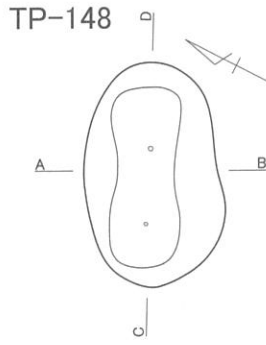
1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Ta-d2.p(φ5↓)
2	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト しまり無
3	10YR2/1	黒色	Vb しまりやや無
4	10YR2/1	黒色	Vb = シルトブロック(斑状)
5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト - Vb(均一)
7	10YR2/1	黒色	Vb - シルトブロック(斑状)
8	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(均一)
11	10YR3/2	黒褐色	Vb + シルト(均一) ≡ シルトブロック(斑状)
12	10YR3/2	黒褐色	Vb - シルト(均一)
13	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
14	2.5Y4/3	褐色	シルト = Vb(均一)
15	2.5Y5/4	黄褐色	シルト
16	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
17	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(均一)
18	2.5Y2/1	黒色	Vb = 粘土(斑状)



TP-147

1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	13	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Ta-d2.p(φ5↓)
2	10YR2/1	黒色	Vb	14	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
3	10YR3/3	暗褐色	Vb - シルト(均一)	15	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = 粘土(均一)
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	16	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vbブロック(斑状)
5	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)				・粘土ブロック(斑状)
6	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)	17	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Ta-d2.p(φ3↓)
			≡ シルトブロック(斑状)	18	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Ta-d2.p(φ3↓)
			≡ Vb(均一)				≡ Vb(斑状)
7	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(均一)	19	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
8	10YR2/2	黒褐色	Vb = シルト(レンズ状)	20	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト
9	10YR2/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状)	21	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(斑状)	22	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(均一)
11	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト = Ta-d2.p(φ5↓)				
12	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト				

図V-46 TP-145 ~ 147



TP-150

1	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(均一)
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト + Vb(均一) = シルト(斑状)
3	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(斑状)
4	2.5Y5/4	黄褐色	Vb + 粘土 + シルト
5	2.5Y5/4	黄褐色	Vb + 粘土 + シルト
6	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(斑状) ≡ 粘土(層状)
7	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
8	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Ta-d2.p(φ 30 ↓)
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vb(均一) ≡ 粘土(斑状)
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
11	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(斑状)
12	10YR3/2	黒褐色	Vb + シルト
13	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト - Ta-d2.p(φ 30 ↓)
14	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
15	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(斑状)
16	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	Vb + シルト
17	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)
18	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)・Ta-d1・粘土(斑状)
19	10YR5/6	黄褐色	Ta-d2.p(φ 30 ↓) ≡ シルト(均一)
20	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト
21	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
22	10YR2/1	黒色	Vb
23	10YR5/6	黄褐色	Ta-d2.p(φ 30 ↓) = シルト(均一)

TP-148

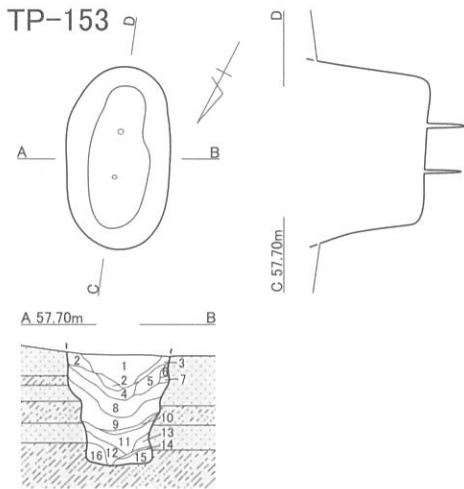
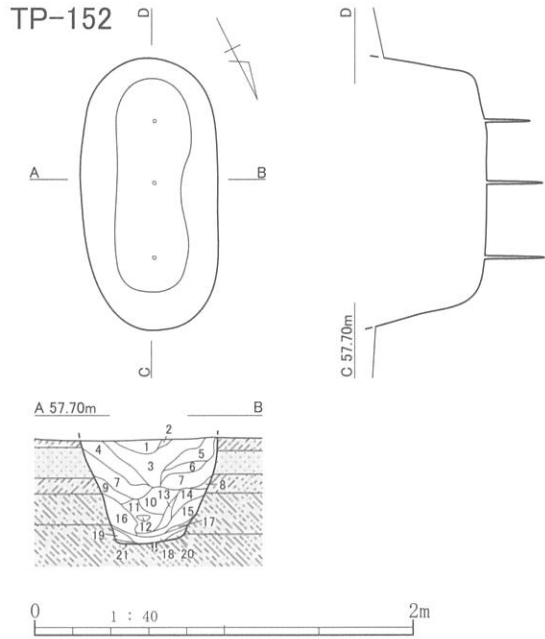
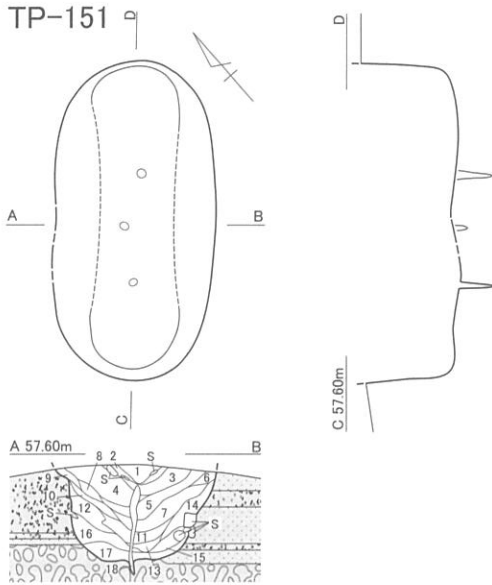
1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト = Vb(斑状)
2	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(均一)
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト - Vb(均一)
4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘土質シルト = Vb(均一) ≡ 粘土(レンズ状)
5	10YR2/1	黒色	Vb = シルトブロック
6	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(均一)
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)
9	10YR2/1	黒色	Vb
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
11	10YR2/1	黒色	Vb
12	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
13	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb ≡ Ta-d2.p
14	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト - Ta-d2.p(φ 30 ↓)
15	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Ta-d2.p(φ 30 ↓)
16	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト = 粘土
17	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
18	10YR3/2	黒褐色	Vb ≡ シルト

TP-149

1	10YR2/3	黒褐色	Vb = シルト(均一) ≡ シルト(斑状)
2	2.5Y5/6	黄褐色	洪水シルト
3	2.5Y5/6	黄褐色	シルトブロック
4	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(斑状)
5	10YR2/3	黒褐色	Vb = シルト(均一) ≡ シルト(斑状)
6	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(層状)
7	10YR2/1	黒色	Vb - シルト(層状)
8	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト + Vb
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
10	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルトブロック(斑状)
11	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)
12	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = 粘土ブロック(斑状)
13	10YR3/3	暗褐色	シルト = Vb(均一)
14	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルトブロック(斑状)
15	10YR4/4	褐色	シルト + Ta-d2.p
16	2.5Y3/4	暗オリーブ褐色	シルト = Vb(均一) ≡ Ta-d2.p(φ 3 ↓)
17	2.5Y5/4	黄褐色	粘土 しまり強
18	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(均一)
19	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂
20	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
21	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)・粘土(斑状)
22	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
23	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘土質シルト = 砂(均一)
24	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
25	10YR2/1	黒色	Vb
26	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂



図 V-47 TP-148 ~ 150



TP-151

1	2.5Y6/4	にぶい黄色	洪水シルト
2	2.5Y6/2	灰黄色	洪水シルト - 礫(φ50↓)
3	10YR3/2	黒褐色	Vb ≡ シルトブロック(斑状)
4	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(層状)
5	10YR2/2	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状)
6	2.5Y3/2	黒褐色	砂 = Vb(斑状)
7	2.5Y2/1	黒色	Vb - 砂(層状)
8	2.5Y2/1	黒色	Vb = 砂(斑状)
9	2.5Y3/2	黒褐色	砂
10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂 ≡ Vb(斑状)・Ta-d1(均一)
11	2.5Y3/1	黒褐色	Vb + 砂
12	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土 = 砂(層状)
13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂 = Vb(斑状)
14	2.5Y3/2	黒褐色	砂
15	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土 - Vb・Ta-d1(斑状)
16	2.5Y5/3	黄褐色	粘土 ≡ Vb(斑状)・砂礫(φ20↓)
17	2.5Y3/2	黒褐色	Vb = 砂礫(φ10↓)
18	2.5Y3/2	黒褐色	Vb + 砂

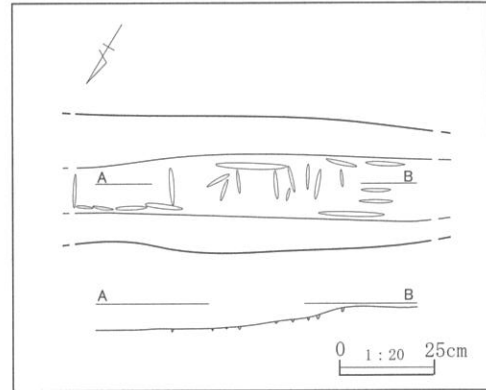
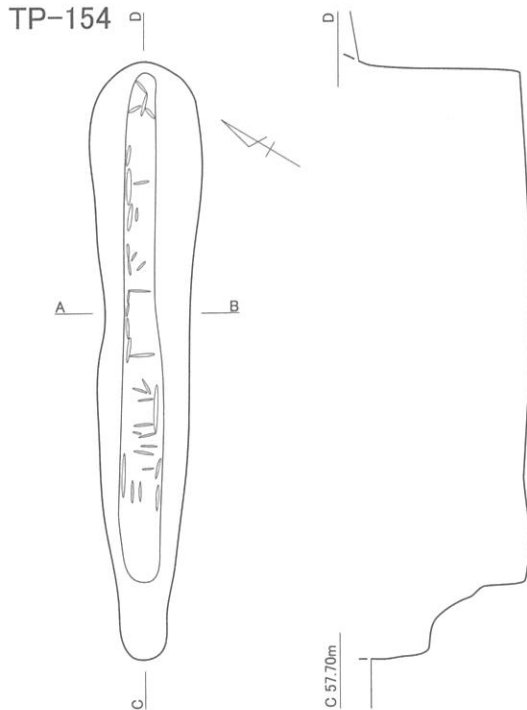
TP-153

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
2	10YR3/4	暗褐色	シルト = Ta-d2.p(φ5↓)
3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vb(均一)
4	10YR3/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
5	10YR2/1	黒色	Vb = シルト・Ta-d2.p(φ20↓)
6	10YR3/3	暗褐色	Ta-d2.p(φ20↓) = シルト(斑状)
7	10YR2/1	黒色	Vb + シルト
8	10YR4/4	褐色	シルト = Ta-d2.p(φ20↓)
9	2.5Y5/4	黄褐色	粘土 = シルト(均一)
10	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
11	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = Ta-d2.p(φ5↓) ≡ Vb(均一)
12	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
13	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
14	10YR2/1	黒色	Vb = 砂質シルト(斑状)
15	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト
16	2.5Y5/6	黄褐色	粘土 = シルト(斑状)

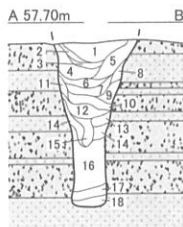
TP-152

1	10YR3/3	暗褐色	Vb - シルト(均一)
2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト
3	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(均一)
4	10YR3/4	暗褐色	シルト - Vb(均一)
5	10YR3/4	暗褐色	シルト + Vb(均一)
6	10YR2/1	黒色	シルト(均一)
7	7.5YR5/8	明褐色	Ta-d2.p(φ20↓) + シルト
8	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ 粘土(均一)
10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vb(斑状) ≡ 粘土ブロック(斑状)
11	7.5YR5/8	明褐色	Ta-d2.p(φ20↓) + シルト
12	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト
13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト = Vb(斑状)・Ta-d2.p(φ10↓)
14	2.5Y5/4	黄褐色	粘土 ≡ シルト(斑状)
15	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト
16	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
17	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト グライ化
18	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(均一)
19	2.5Y7/4	黄褐色	粘土
20	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト = Vb(斑状) グライ化
21	10YR2/1	黒色	Vb しまり無

図 V-48 TP-151 ~ 153



TP-154 坑底面工具痕平面図



TP-154

1	10YR1.7/1	黒色	Vb
2	10YR3/2	黒褐色	砂 = Vb(均一)
3	10YR2/1	黒色	Vb = 砂(斑状)
4	10YR3/3	暗褐色	砂 = Vb(斑状)
5	10YR2/2	黒褐色	Vb + 砂
6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土 + 砂 ≡ Ta-d1(斑状)
7	2.5Y3/2	黒褐色	砂 = Vb(斑状) ≡ 粘土(斑状)
8	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土 = 砂(斑状) ≡ 粘土(斑状)
9	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土 = 砂(斑状)
10	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂 = 粘土(斑状) ≡ Vb(斑状)
11	2.5Y6/4	にぶい黄褐色	粘土 = 砂(斑状)
12	2.5Y3/1	黒褐色	砂 + 粘土(斑状) = Vb(斑状)
13	2.5Y5/3	黄褐色	粘土 = 砂(斑状)
14	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂 = 粘土(均一)
15	2.5Y3/2	黒褐色	粘土 = 砂(均一) ≡ 粘土(斑状)
16	2.5Y5/4	黄褐色	粘土 = 砂(斑状)
17	2.5Y2/1	黒色	Vb
18	2.5Y3/2	黒褐色	Vb ≡ 粘土(均一)

TP-155

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(均一)
2	10YR3/2	黒褐色	Vb + シルト = Ta-d2.p(φ5↓)
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
4	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト ≡ シルト(斑状)
5	10YR3/2	黒褐色	Vb ≡ シルト(均一)
6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト
7	10YR2/3	黒褐色	Vb + シルト
8	10YR4/4	褐色	Ta-d2.p(φ5↓) + シルト
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(均一)
10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト ≡ Vb(均一)・粘土(斑状)
11	2.5Y5/4	黄褐色	粘土
12	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト = 粘土(斑状)

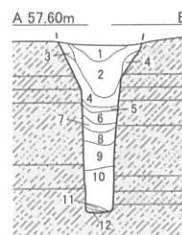
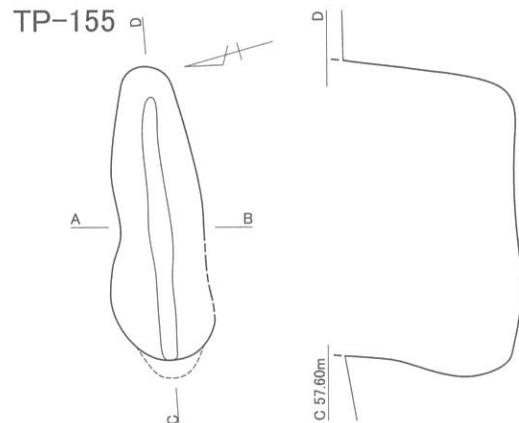
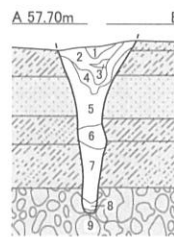
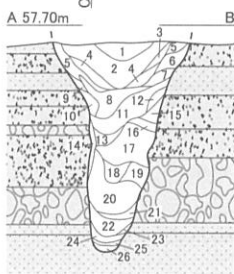
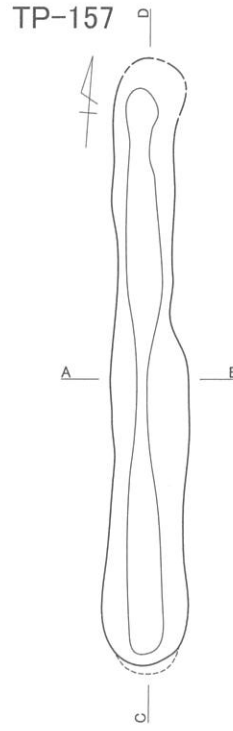
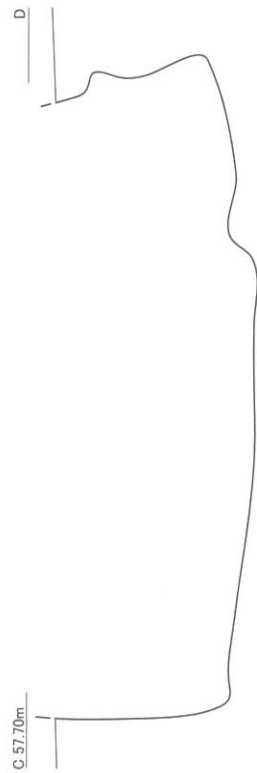
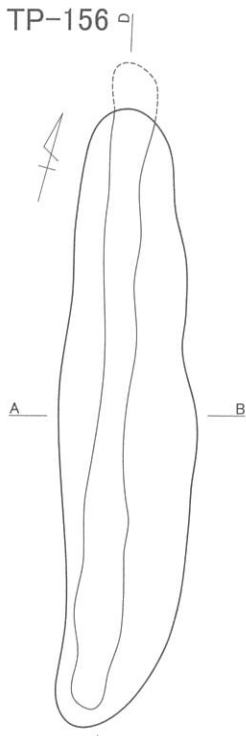


図 V-49 TP-154・155



TP-156

- | | | | |
|----|-----------|--------|-------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 2 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb ≡ 粘土(均一) |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 粘土(粒状) |
| 5 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | シルト + Vb |
| 6 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | シルト ≡ Vb(斑状) |
| 7 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | Vb = Vb・シルト・粘土(斑状) |
| 8 | 2.5Y2/1 | 黒色 | Vb ≡ 粘土(斑状) |
| 9 | 2.5Y6/4 | にぶい黄色 | 粘土ブロック |
| 10 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ シルト(斑状) |
| 11 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ Vb(均一)・シルト(斑状) |
| 12 | 2.5Y6/4 | にぶい黄色 | 粘土ブロック |
| 13 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 粘土 ≡ Vb・砂(斑状) |
| 14 | 2.5Y2/1 | 黒色 | Vb + 砂 |
| 15 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ 粘土(均一) |
| 16 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘土 ≡ 砂(均一) |
| 17 | 2.5Y6/4 | にぶい黄色 | 粘土 |
| 18 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 粘土 = 砂(均一) |
| 19 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 砂 ≡ 粘土(均一) |
| 20 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ 粘土(均一) |
| 21 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 砂 - シルト(斑状) ≡ 礫(φ 50 ↓) |
| 22 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 粘土 = Vb(層状) |
| 23 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | 粘土 = 砂(均一) ≡ Vb(均一) |
| 24 | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 粘土 |
| 25 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 粘土 = 礫(φ 30 ↓) |
| 26 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 粘土 = Vb(層状) ≡ 礫(φ 30 ↓) |

TP-157

- | | | | |
|---|---------|---------|-------------------------|
| 1 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(均一) |
| 3 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト = Vb(均一) |
| 4 | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト = Vb(斑状) |
| 5 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | シルト = Vb(均一) |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = 粘土ブロック(斑状) |
| 7 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = 礫(φ 30 ↓) |
| 8 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - 砂利・粘土 |
| 9 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb + 礫 - 粘土(斑状) = 砂(均一) |

TP-158

- | | | | |
|----|---------|------|----------------|
| 1 | 2.5Y7/3 | 浅黄色 | シルト |
| 2 | 2.5Y2/1 | 黒色 | Vb |
| 3 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | Vb - シルト(均一) |
| 4 | 2.5Y2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト(斑状) |
| 5 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | シルト - Vb(斑状) |
| 6 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | シルト ≡ Vb・砂(斑状) |
| 7 | 2.5Y6/2 | 灰黄色 | 砂 = シルト(斑状) |
| 8 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 粘土 = Vb(斑状) |
| 9 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 粘土 |
| 10 | 2.5Y4/1 | 黄灰色 | Vb = シルト(斑状) |
| 11 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 ≡ Vb・シルト(斑状) |
| 12 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 + 礫 + 粘土(斑状) |
| 13 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 砂 + 礫 = 粘土(斑状) |

TP-158

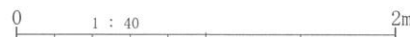
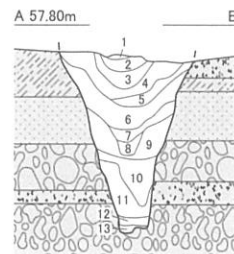
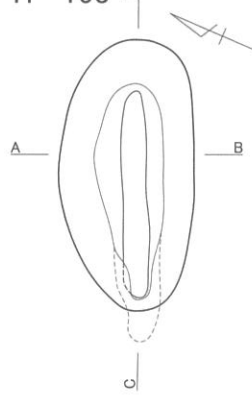


図 V-50 TP-156 ~ 158

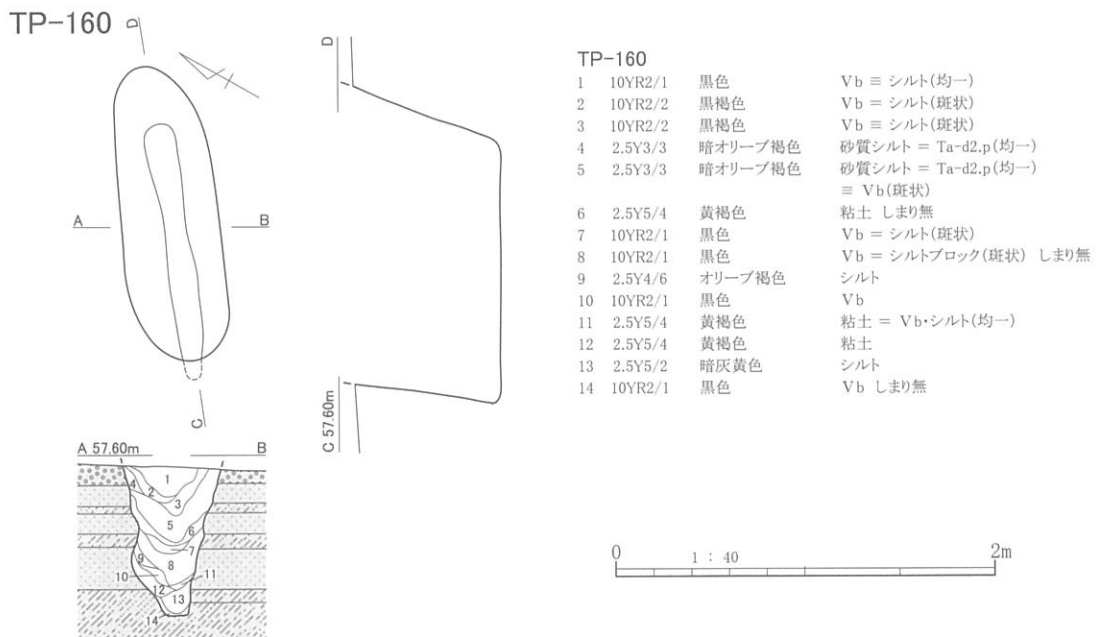
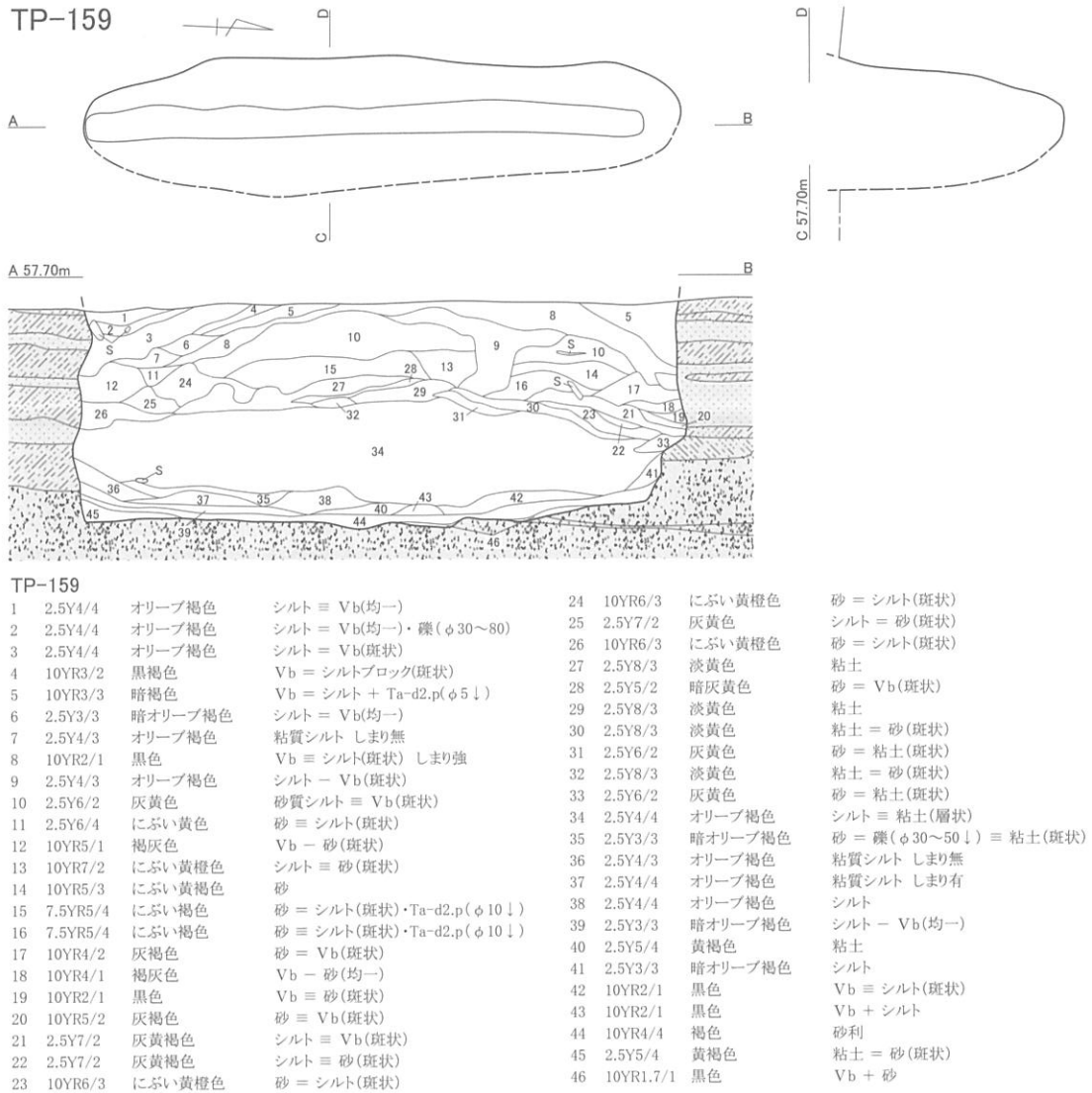
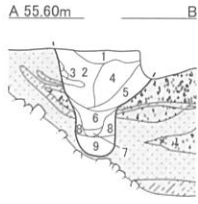
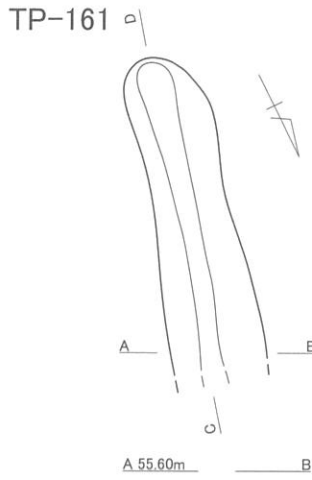
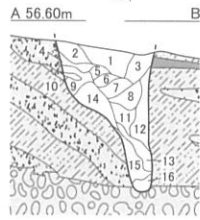
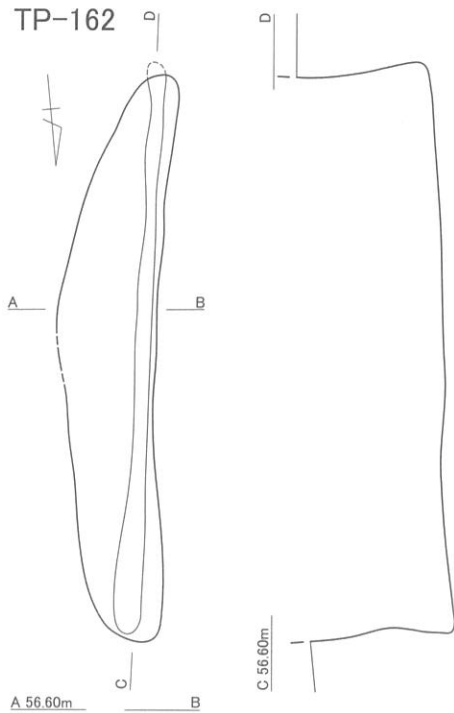


図 V-51 TP-159・160



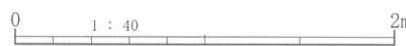
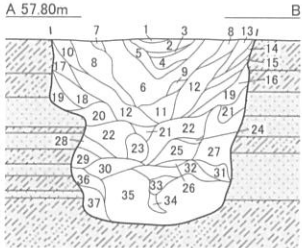
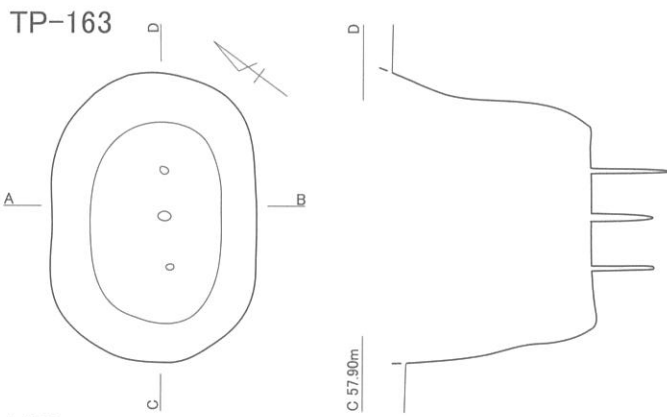
TP-161

1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト
2	2.5Y2/1	黒褐色	Vb
3	2.5Y7/2	灰黄色	シルト
4	2.5Y2/1	黒褐色	Vb = シルト(均一)
5	2.5Y4/1	黄灰色	砂 ≡ シルト(斑状)
6	2.5Y7/2	灰黄色	シルト - Vb(斑状)
7	2.5Y4/1	黄灰色	Vb - 砂(斑状)
8	2.5Y4/1	黄灰色	砂 = シルト(斑状) しまり弱
9	2.5Y4/1	黄灰色	砂 = Vb(斑状)



TP-162

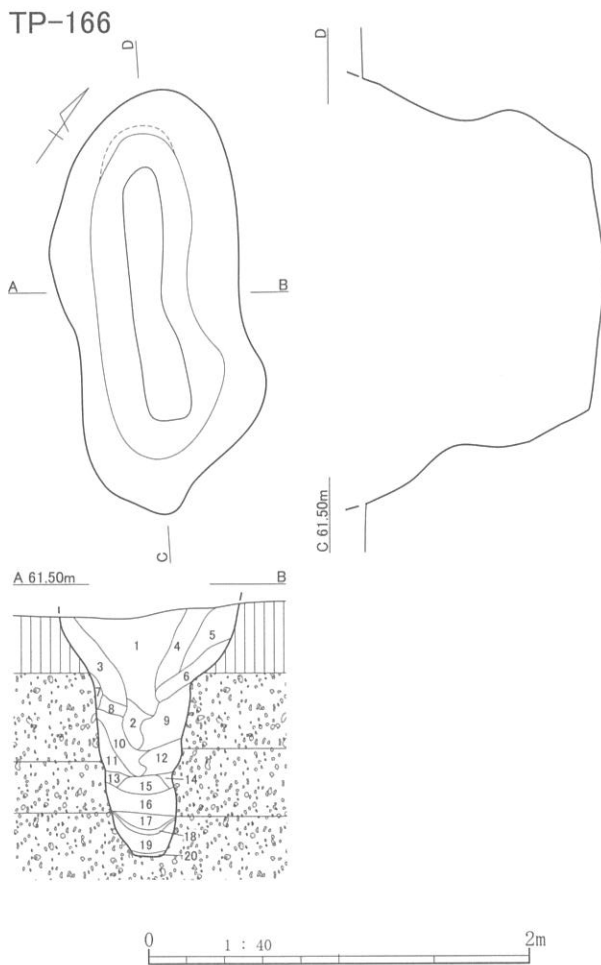
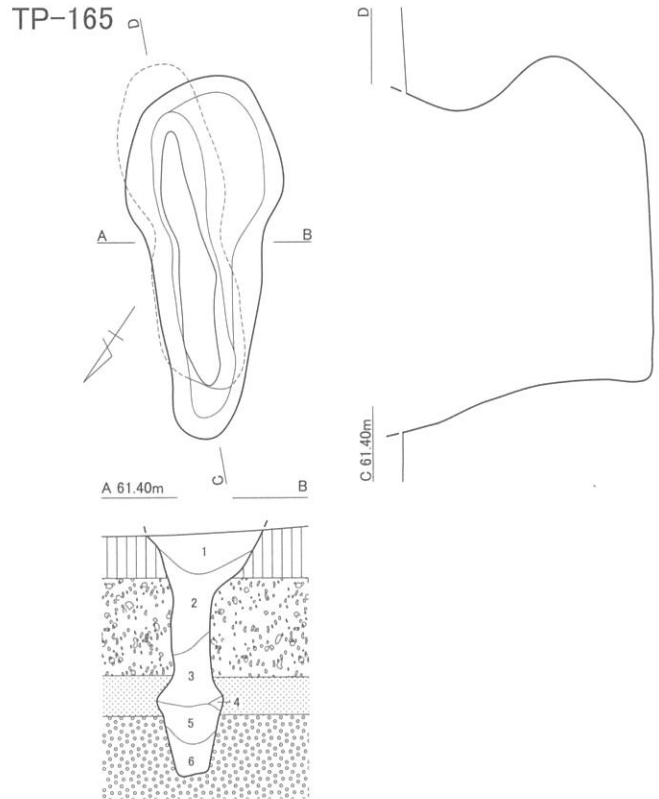
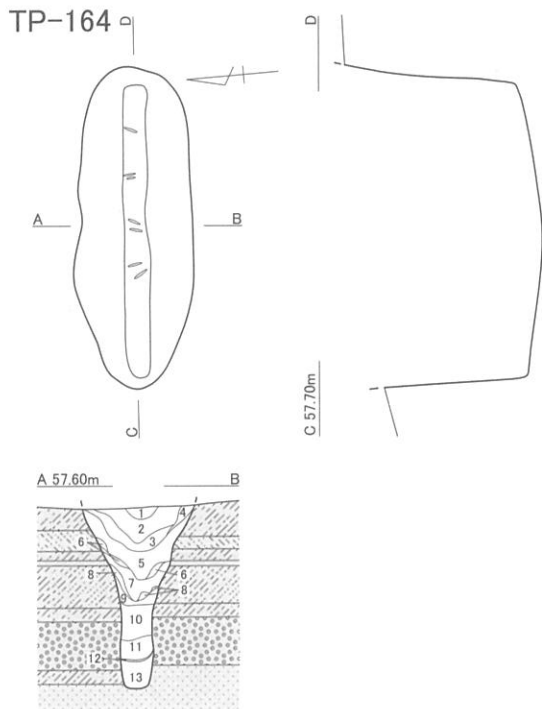
1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
2	10YR5/1	褐灰色	Vb = シルト(斑状)
3	10YR5/1	褐灰色	Vb - シルト(斑状) しまり弱
4	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト ≡ Vb(斑状)
5	10YR4/1	褐灰色	Vb
6	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト = Vb(斑状)
7	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト ≡ Vb(斑状)
8	10YR4/1	褐灰色	Vb
9	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)
10	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト
11	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト ≡ Vb(斑状)
12	10YR5/1	褐灰色	Vb = シルト
13	10YR2/1	黒色	Vb = シルト
14	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト = 砂(均一)
15	10YR7/3	にぶい黄橙色	シルト ≡ Vb(斑状)
16	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ シルト(斑状)



TP-163

1	10YR4/6	褐色	洪水砂質シルト	20	10YR2/1	黒色	Vb + シルト + 粘土
2	10YR4/6	褐色	洪水砂質シルト + Ta-d2.p(φ20↓)	21	10YR3/2	黒褐色	Vb - シルト(均一)
3	10YR4/6	褐色	洪水砂質シルト ≡ Ta-d2.p(φ20↓)	22	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト = Vbブロック・粘土ブロック(斑状)
4	10YR4/6	褐色	洪水砂質シルト + Ta-d2.p(φ10↓)	23	10YR2/1	黒色	Vb しまり無
5	10YR4/6	褐色	洪水砂質シルト = Ta-d2.p(φ20↓)	24	10YR2/1	黒色	Vb
6	10YR4/2	灰黄褐色	Vb + シルト	25	2.5Y5/4	黄褐色	粘土 + シルト = Vb(斑状)
7	10YR4/2	灰黄褐色	Vb + シルト = シルト(層状)	26	10YR2/1	黒色	Vb
8	10YR3/2	黒褐色	Vb - シルト(均一) = シルト(層状)	27	2.5Y5/6	黄褐色	粘土 しまり有
9	10YR3/2	黒褐色	Vb - シルト(斑状)	28	2.5Y5/4	黄褐色	粘土 = シルト(均一)
10	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(斑状)	29	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト
11	10YR3/2	黒褐色	Vb ≡ シルトブロック(斑状)	30	2.5Y5/6	黄褐色	粘土 = シルト(層状)
12	10YR2/1	黒色	Vb + シルト(斑状)	31	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト
13	10YR2/1	黒色	Vb	32	2.5Y5/6	黄褐色	粘土 = シルト(斑状)
14	10YR3/2	黒褐色	Vb + シルト	33	10YR2/2	黒褐色	Vb + 粘土(斑状)
15	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(層状)	34	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト ≡ Vbブロック(斑状) しまり無
16	10YR2/1	黒色	Vb = シルト(斑状)	35	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト + 粘土ブロック(斑状) しまり弱
17	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルトブロック	36	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘土
18	10YR4/6	褐色	シルト + Ta-d2.p(均一) = Vb(斑状)	37	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト
19	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト + Ta-d2.p(均一)				

図 V-52 TP-161 ~ 163



TP-164

- 1 10YR3/2 黒褐色
- 2 10YR2/1 黒色
- 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色
- 4 10YR3/2 黒褐色
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色
- 6 2.5Y5/4 黄褐色
- 7 2.5Y4/4 オリーブ褐色
- 8 2.5Y5/4 黄褐色
- 9 2.5Y4/6 オリーブ褐色
- 10 2.5Y4/3 オリーブ褐色
- 11 2.5Y4/3 オリーブ褐色
- 12 10YR2/1 黒色
- 13 10YR2/2 黒褐色

- Vb = シルトブロック(斑状)
- Vb
- シルト ≡ Vb(均一)
- Vb = シルト・粘土(斑状)
- シルト ≡ Vb(均一)
- 粘土
- シルト = Vb(均一)
- 粘土
- シルト
- シルト = Vb(斑状)
- シルト = 粘土(均一)
- Vb しまり無
- Vb + シルト + 粘土(均一)

TP-165

- 1 10YR2/1 黒色
- 2 10YR3/1 黒褐色
- 3 10YR3/1 黒褐色
- 4 10YR5/1 褐灰色
- 5 10YR4/2 灰黄褐色
- 6 10BG5/1 青灰色

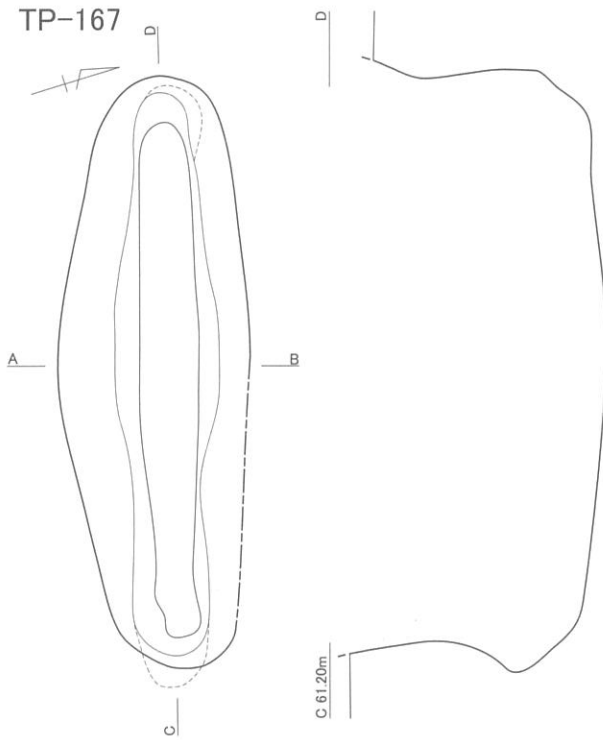
- Vb ≡ シルト岩(φ10↓)
- Vb ≡ Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ10↓)
- Vb = Ta-dL(斑状)
- Ta-dL - Ta-dl(斑状) = Vb(斑状)
- Ta-dL - Ta-dl(均一) ≡ Vb(斑状)
- Ta-dl = Ta-d風化L(斑状) ≡ Vb(斑状)

TP-166

- 1 10YR2/1 黒色
- 2 10YR3/1 黒褐色
- 3 10YR4/2 灰黄褐色
- 4 10YR3/2 黒褐色
- 5 10YR5/3 にぶい黄褐色
- 6 10YR4/2 灰黄褐色
- 7 5YR5/6 明赤褐色
- 8 10YR6/4 にぶい黄橙色
- 9 10YR5/1 褐灰色
- 10 10YR5/2 灰黄褐色
- 11 2.5Y7/3 浅黄色
- 12 7.5YR7/2 明褐灰色
- 13 10BG6/1 青灰色
- 14 10BG6/1 青灰色
- 15 10YR7/4 にぶい黄橙色
- 16 10YR6/1 褐灰色
- 17 10YR3/2 黒褐色
- 18 10YR2/1 黒色
- 19 10YR6/1 褐灰色
- 20 10YR2/1 黒色

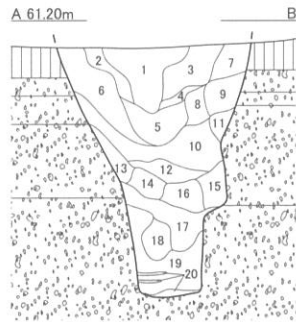
- Vb = シルト岩(φ10↓)
- Vb = Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ10↓)
- Vc = Ta-dL(均一)
- Vc = Ta-dL(斑状)
- Ta-dL ≡ Vb(斑状)・シルト岩(φ50↓)
- 段丘堆積砂 - Vb(斑状)
- Ta-dL ≡ Vb(斑状)
- Ta-dL = Vb(斑状)
- Ta-dL - 段丘堆積砂(均一)
- Ta-dL = 段丘堆積砂(均一) ≡ Vb(斑状)
- Ta-dL
- Ta-dL
- 段丘堆積砂 = Vb・Ta-dL(斑状)
- 段丘堆積砂 = Vb・Ta-dL(斑状)
- Ta-dL = Vb(斑状)
- 段丘堆積砂 - Ta-dL(均一) = Vc(斑状)
- Vc = Ta-dL(均一)
- Vb = Ta-dL(斑状)
- 段丘堆積砂 = Ta-dL(斑状)
- Vb = Ta-dL(斑状)

図 V-53 TP-164 ~ 166

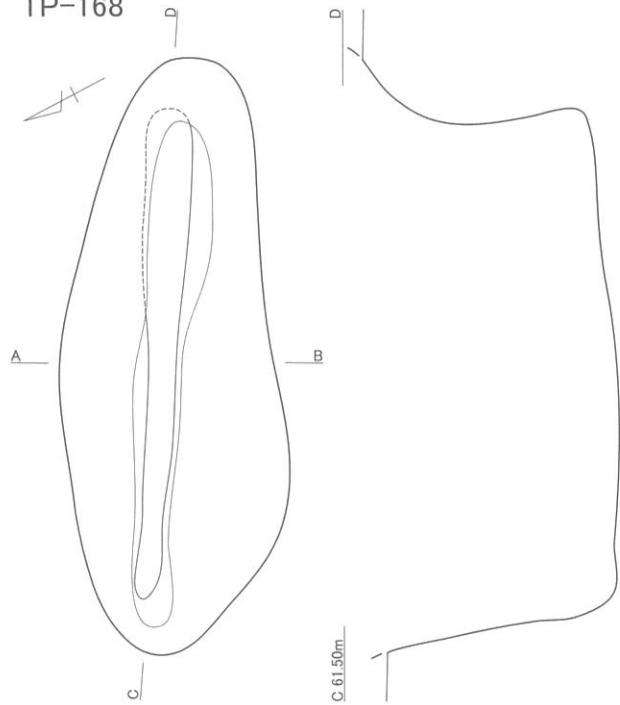


TP-167

- | | | | |
|----|----------|--------|----------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-dL(斑状)・Ta-d2.p(φ5↓) |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vc - Ta-dL(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ5↓) |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vc - Ta-dL(斑状) ≡ Ta-d2.p(φ5↓) |
| 4 | 7.5YR6/6 | 橙色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ10↓) ≡ Vb(斑状) |
| 5 | 7.5YR5/1 | 褐灰色 | Vc = Ta-dL(均一)・Ta-d2.p(φ10↓) |
| 6 | 7.5YR6/6 | 橙色 | Ta-dL = Ta-d2.p(φ10↓) ≡ Vb(斑状) |
| 7 | 7.5YR6/6 | 橙色 | Ta-dL = Vb(斑状)・Ta-d2.p(φ10↓) |
| 8 | 7.5YR6/6 | 橙色 | Ta-dL ≡ Ta-d2.p(φ10↓)・Vb(斑状) |
| 9 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | Ta-d風化L |
| 10 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ta-d風化L = Ta-d2.p(φ10↓) ≡ Vb(斑状) |
| 11 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | Ta-d風化L - 段丘堆積砂(斑状) |
| 12 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ta-dL = Vb(均一)・Ta-d2.p(φ10↓) |
| 13 | 10BG6/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 ≡ Ta-dL(斑状) |
| 14 | 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状) |
| 15 | 10BG6/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 = Ta-dL(斑状) |
| 16 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | Ta-d風化L |
| 17 | 10BG6/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 |
| 18 | 10BG5/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 = Ta-dL(斑状) |
| 19 | 10YR8/3 | 浅黄橙色 | Ta-d風化P ≡ 段丘堆積砂(斑状) |
| 20 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-dL(斑状) |



TP-168



TP-168

- | | | | |
|----|----------|--------|--------------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ10↓)
≡ Ta-d2.p(φ20↓) |
| 2 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | Ta-dL = Vc(斑状) |
| 3 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 4 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | 段丘堆積砂 ≡ Vb(斑状) |
| 5 | 10YR6/1 | にぶい黄橙色 | 段丘堆積砂 = Vb(斑状) |
| 6 | 7.5YR6/6 | 橙色 | Ta-dL |
| 7 | 7.5YR6/6 | 橙色 | Ta-dL |
| 8 | 7.5YR7/3 | にぶい黄色 | Ta-d風化L = Ta-d2.p(φ10↓) |
| 9 | 7.5YR7/3 | にぶい黄色 | Ta-d風化L = Ta-d2.p(φ10↓) |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 11 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - Ta-dL(斑状) |
| 12 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | Ta-dL = Vb(斑状) |
| 13 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | Ta-d風化L |
| 14 | 10BG5/1 | 青灰色 | Ta-d1 |
| 15 | 10BG5/1 | 青灰色 | Ta-d1 - Ta-d2.p(φ10↓)
= Ta-dL(斑状) |
| 16 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb = Ta-d1(斑状)
・Ta-d2.p(φ10↓) |

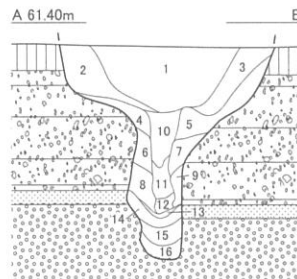
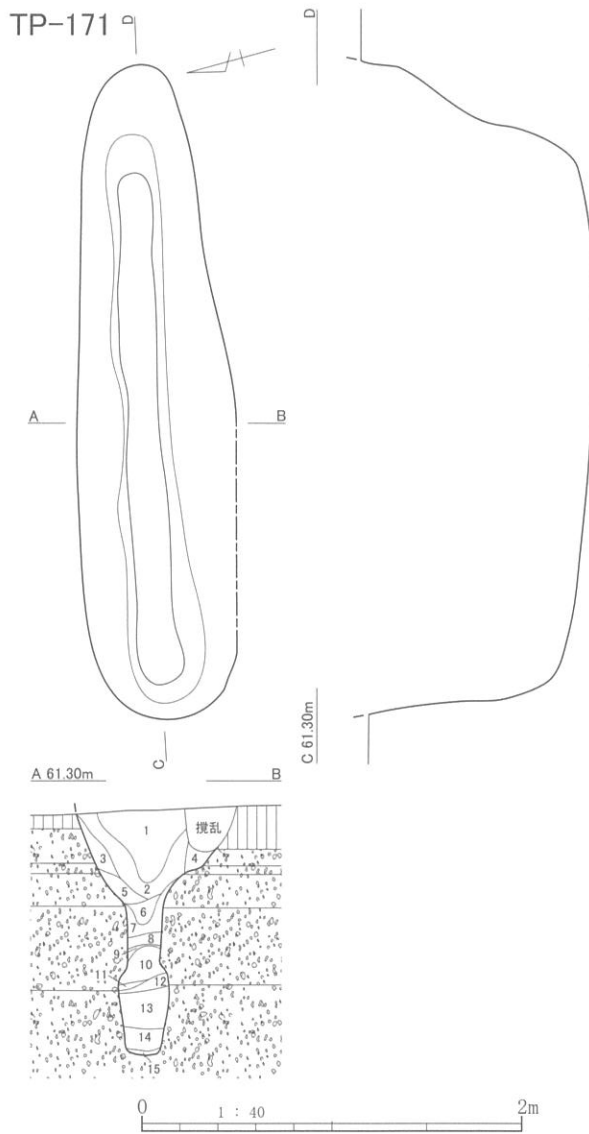
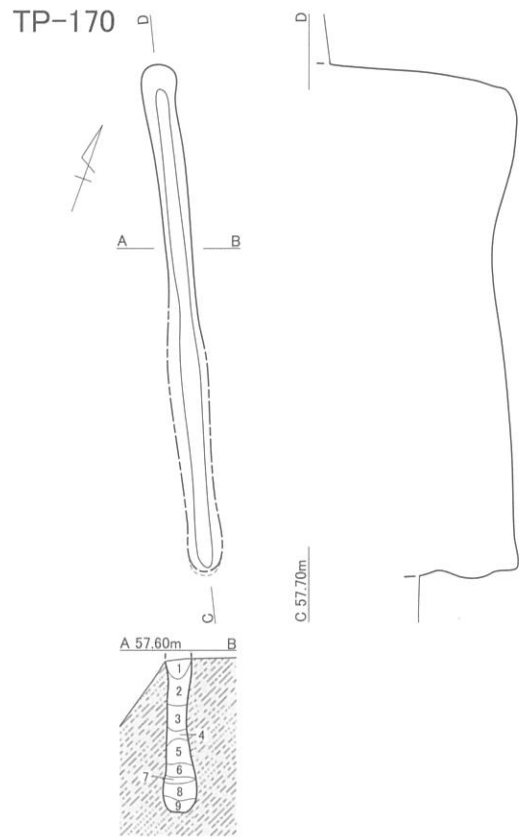
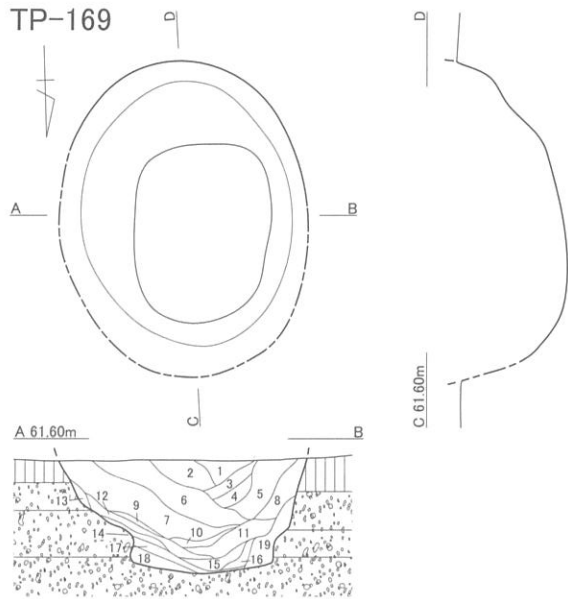


図 V-54 TP-167・168



TP-169

1	10YR4/2	灰黄褐色	Vc = Ta-dL(斑状)
2	10YR6/6	明黄褐色	Ta-dL ≡ Vc(斑状)
3	10YR3/1	黒褐色	Vb ≡ Ta-dL(斑状)
4	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-dL - Vb(斑状)
5	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-dL(斑状)
6	10YR3/2	黒褐色	Vb = Ta-dL(均一)・シルト岩(φ20↓)
7	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩(φ20↓) ≡ Ta-dL(斑状)
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-dL ≡ Vc(斑状)・シルト岩(φ10↓)
9	10BG5/1	青灰色	段丘堆積砂
10	10YR3/2	黒褐色	段丘堆積砂 - Vb(斑状)
11	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-dL = Vb(斑状)
12	10YR3/1	黒褐色	Vb = Ta-dL(斑状)
13	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂(均一) ≡ Vc(斑状)
14	10YR5/2	灰黄褐色	段丘堆積砂
15	10YR5/2	灰黄褐色	段丘堆積砂
16	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状) ≡ Vb(斑状)
17	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-dL(斑状)
18	10YR3/2	黒褐色	Vb - Ta-dL(斑状)
19	10YR5/3	にぶい黄褐色	段丘堆積砂 ≡ Vb(斑状)

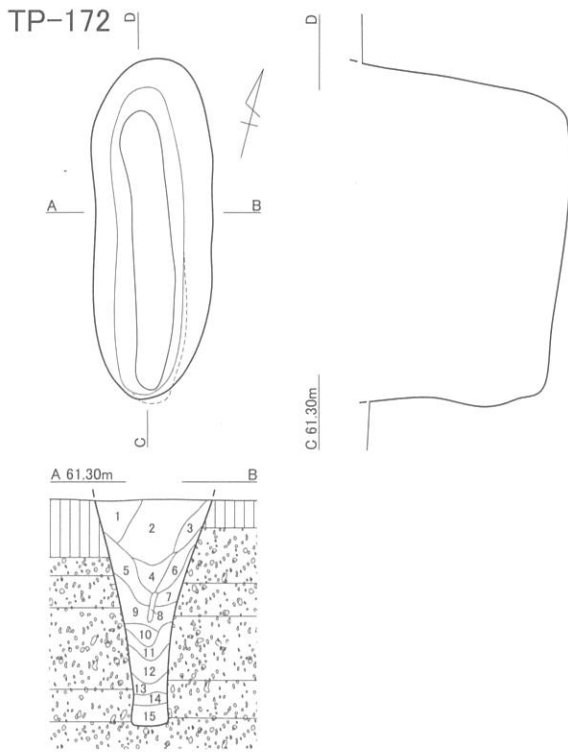
TP-170

1	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状)
2	10YR2/1	黒色	Vb = シルトブロック(斑状)
3	10YR2/1	黒色	Vb
4	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト(斑状)
5	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ta-d2.p(φ10↓) - シルト(均一)
6	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト(φ5↓)
7	10YR3/2	黒褐色	Vb + シルト(均一)
8	10YR2/3	黒色	Vb
9	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂利 - 粘土(均一)

TP-171

1	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-dL(斑状)
2	10YR3/2	黒褐色	Vb - Ta-dL(斑状)
3	7.5YR5/6	明褐色	Ta-dL ≡ Vb(斑状)
4	7.5YR5/6	明褐色	Ta-dL = シルト岩(φ20↓)
5	10YR6/4	にぶい黄褐色	Ta-dL - 段丘堆積砂(均一) ≡ Vb(斑状)
6	10YR4/4	にぶい黄褐色	Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状)
7	10YR6/3	にぶい黄褐色	Ta-dL
8	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ta-dL ≡ Vc(均一)
9	10YR3/2	黒褐色	Vb
10	10GY7/1	明緑灰色	段丘堆積砂
11	10YR5/2	灰黄褐色	段丘堆積砂 = Ta-dL(斑状)
12	10YR2/1	黒色	Vb
13	10YR5/1	褐灰色	段丘堆積砂 = Ta-dL(均一)
14	10BG6/1	青灰色	段丘堆積砂 - Ta-d風化L(斑状)
15	10YR2/1	黒色	Vb

図 V-55 TP-169 ~ 171



TP-172

- | | | | |
|----|---------|--------|---------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb ≡ Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = Ta-dL(斑状)・シルト岩(φ10↓) |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-dL(均一)・シルト岩(φ10↓) |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 5 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-dL - Vb(斑状) |
| 6 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-dL - Vb(斑状) |
| 7 | 5YR5/4 | にぶい赤褐色 | Ta-dL ≡ Vb(斑状) |
| 8 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Vb - Ta-dL(斑状) |
| 9 | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ta-dL ≡ Vb(斑状) |
| 10 | 5YR5/1 | 褐灰色 | Ta-dL - Vb(斑状) |
| 11 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | Ta-d風化L |
| 12 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 13 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ta-d風化L ≡ Vb(斑状) |
| 14 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-d風化L(斑状) |
| 15 | 10BG5/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 = Ta-dL(斑状) |

TP-173

- | | | | |
|----|---------|--------|-----------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = 画円礫(φ20↓) ≡ Ta-dL(斑状) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = Ta-dL(斑状) |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vb = Ta-dL(斑状) ≡ シルト岩(φ10↓) |
| 4 | 10YR3/6 | 黄褐色 | Ta-dL - 段丘堆積砂(均一) |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰色 | Ta-dL = Vc(均一) |
| 6 | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ta-dL ≡ 段丘堆積砂(斑状) |
| 7 | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ta-dL ≡ Vb(斑状) |
| 8 | 10BG6/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 |
| 9 | 10BG6/1 | 青灰色 | 段丘堆積砂 = Ta-dL(斑状) |
| 10 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状) |

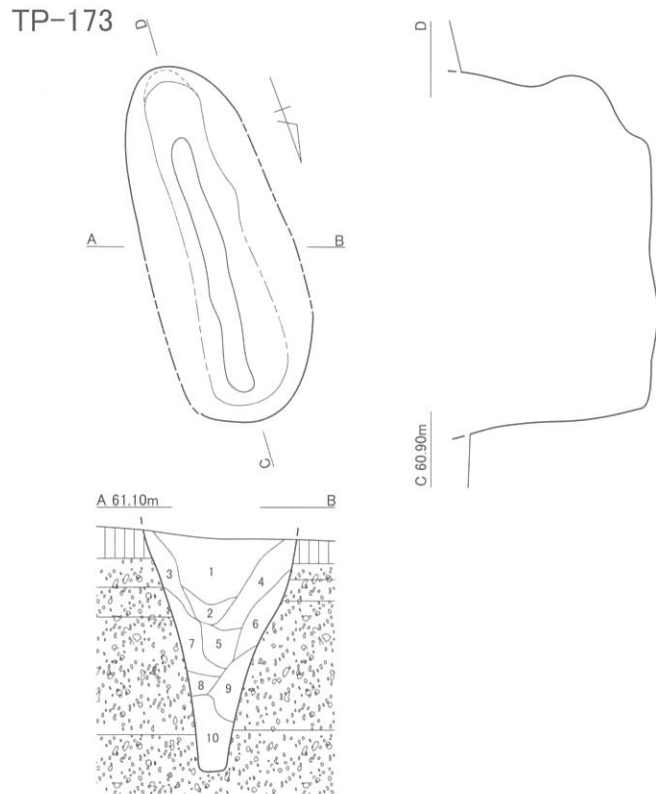
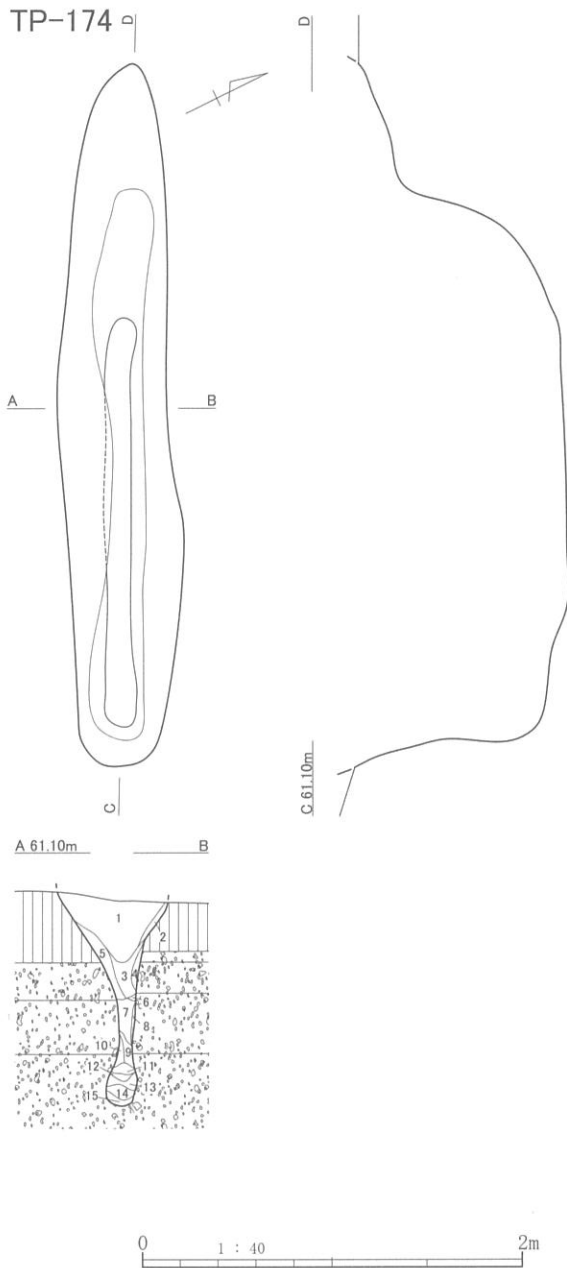


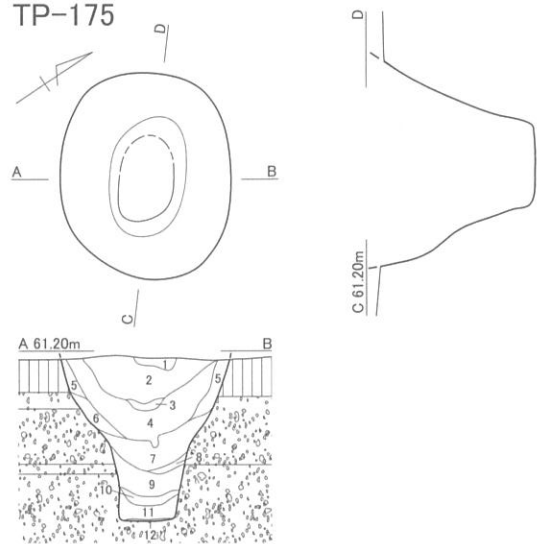
図 V-56 TP-172・173



TP-174

1	10YR2/1	黒色	Vb = シルト岩(φ10↓)
2	10YR3/1	黒褐色	Vb + VI ≡ Ta-d2.p(φ10↓)
3	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-dL(斑状)
4	5YR4/6	赤褐色	Ta-dL = Vb(斑状)
5	5YR4/6	赤褐色	Ta-dL - Vb(斑状)
6	10YR2/1	黒色	Vb ≡ シルト岩(φ10↓)
7	5YR4/6	赤褐色	Ta-dL
8	10BG6/1	青灰色	段丘堆積砂
9	10YR4/1	褐灰色	Ta-dL = 段丘堆積砂(斑状)
10	10YR4/1	褐灰色	Ta-dL ≡ 段丘堆積砂(斑状)
11	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-d2.p(斑状)
12	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-d2.p(斑状)・シルト岩(φ10↓)
13	10YR4/1	褐灰色	Ta-dL = Vb(均一)
14	10BG6/1	青灰色	段丘堆積砂
15	10YR2/1	黒色	Vb

TP-175



TP-175

1	10YR4/4	褐色	Ta-dL + Vb(均一)
2	10YR3/2	黒褐色	Vb = シルト岩(φ30↓)・Ta-d2.p(φ5↓)
3	7.5YR4/3	褐色	Ta-dL = Vb(均一)
4	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-dL(斑状)
5	10YR3/2	黒褐色	Vb + VI
6	10YR4/4	褐色	Ta-d2.p ≡ Vb(均一)
7	10YR4/4	褐色	Ta-d2.p = Vb(均一)
8	10YR2/1	黒色	Vb ≡ Ta-d2.p(φ5↓)
9	10YR4/4	褐色	Ta-d2.p(φ5↓) = Vb(均一)
10	10YR2/1	黒色	Vb = Ta-d2.p(φ5↓)・砂(均一)
11	2.5Y4/6	オリーブ褐色	Ta-dL = 砂(均一) ≡ Vb(斑状)
12	10YR2/1	黒色	Vb

図 V-57 TP-174・175

表V-10 TPピット属性表

挿入番号	図版番号	遺構名	分類	平面形		グリッド	調査面層位	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	杭跡	重複	調査面長短比	坑底面長短比
				調査面/坑底面	調査面/坑底面			長軸	短軸	長軸	短軸						
V-8	59-1	TP-42	A1	溝状/溝状	溝状/溝状	AG-16	VI	300	92	244	30	144	N-21° W	-	-	3.26	8.13
	59-2	TP-43	C2	楕円/長楕円	楕円/長楕円	Y-19	Vc	196	138	124	36	128	N-55° E	3	-	1.42	3.44
V-9	59-3・4	TP-44	A1	溝状/溝状	溝状/溝状	Q・R-45	VI	392	80	380	8	108	N-12° E	-	-	4.90	47.50
	59-6・7	TP-45	A2	溝状/溝状	溝状/溝状	O・P-44	VI	(206)	24	185	12	69	N-78° W	-	-	-	15.42
		TP-46						欠									
		TP-47						欠									
V-10	59-1 60-1	TP-48	A2	溝状/溝状	溝状/溝状	U-21	VI	252	72	188	16	128	N-89° W	-	-	3.50	11.75
	60-2・3	TP-49	A1	溝状/溝状	溝状/溝状	U・V-21・22	VI	264	72	204	16	129	N-66° W	-	-	3.67	12.75
V-11	60-4	TP-50	A2	溝状/溝状	溝状/溝状	W・X-22	VI	252	64	168	20	108	N-21° E	-	-	3.94	8.40
	60-5	TP-51	A1	溝状/溝状	溝状/溝状	Y・Z-22, Y-23	VI	260	80	240	20	116	N-71° W	-	-	3.25	12.00
V-12	60-6・7	TP-52	A2	溝状/溝状	溝状/溝状	Z・AA-23	VI	264	68	192	20	116	N-48° W	-	-	3.88	9.60
	60-8・9	TP-53	A1	溝状/溝状	溝状/溝状	AA・AB-24	VI	280	74	244	24	112	N-51° W	-	-	3.78	10.17
V-13	61-1・2	TP-54	C1	楕円/長楕円	楕円/長楕円	K-41	Vb	152	160	104	32	132	N-28° E	-	-	0.95	3.25
	61-3・4	TP-55	B2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	K-40	Vb	202	106	144	32	96	N-16° W	I	-	1.91	4.50
V-14	61-5・6	TP-56	B1	楕円/溝状	楕円/溝状	L-40	Vb	148	92	90	20	116	N-37° E	-	-	1.61	4.50
	61-7・8	TP-57	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	K-38・39	Vb	212	102	184	16	120	N-59° W	-	-	2.00	11.50
V-15	62-1・2	TP-58	A2	楕円/溝状	楕円/溝状	K-38・39, L-38・39	Vb	172	102	144	16	116	N-80° W	-	-	1.69	9.00
	62-3・4	TP-59	A2	溝状/溝状	溝状/溝状	L-39	VI	136	44	104	12	72	N-56° W	-	-	3.09	8.67
V-16	62-5・6	TP-60	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	L・M-39	Vb	206	90	176	18	148	N-16° E	-	-	2.29	9.78
	62-7・8	TP-61	A2	楕円/溝状	楕円/溝状	M-39	Vb	172	100	134	14	104	N-24° E	-	-	1.72	9.57
V-17	63-1・2	TP-62	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	M・N-39・40	Vb	232	128	142	16	144	N-58° W	-	-	1.81	8.88
	63-3・4	TP-63	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	N-39・40	Vb	156	92	132	14	108	N-50° W	-	-	1.70	9.43
		TP-64						欠									
V-18	63-3・5・7	TP-65	B1	溝状/溝状	溝状/溝状	N・O-40	VI	200	56	130	18	142	N-2° W	-	-	3.57	7.22
	63-4・6・7	TP-66	B1	長楕円/溝状	長楕円/溝状	N・O-40	VI	210	112	152	24	92	N-8° E	-	-	1.88	6.33
V-19	64-1・2	TP-67	B1	長楕円/溝状	長楕円/溝状	O-40	VI	160	72	120	16	88	N-41° E	-	-	2.22	7.50
	64-3・4	TP-68	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	O-40・41	Vb	208	104	170	20	132	N-64° W	-	-	2.00	8.50
V-20	64-5・6	TP-69	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	O-40, O・P-41	Vb	176	76	132	14	120	N-58° W	-	-	2.32	9.43
	64-7・8	TP-70	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	P-41	Vb	192	98	176	16	108	N-52° W	-	-	1.96	11.00
V-21	65-1・2	TP-71	B1	溝状/溝状	溝状/溝状	Q-41	VI	148	48	92	16	62	N-66° W	-	-	3.08	5.75
	65-3・4	TP-72	B1	長楕円/溝状	長楕円/溝状	Q-41	Vb	188	82	124	16	116	N-66° W	-	-	2.29	7.75
V-22	65-5・6	TP-73	B1	長楕円/溝状	長楕円/溝状	Q-41	Vb	202	86	136	18	104	N-42° W	-	-	2.35	7.56
	65-7・8	TP-74	A1	溝状/溝状	溝状/溝状	R-42	Vb	304	86	260	14	112	N-27° W	-	-	3.53	18.57
V-22	66-1・2	TP-75	A2	楕円/溝状	楕円/溝状	R-42	Vb	148	84	136	16	128	N-65° W	-	-	1.76	8.50
	66-3・4	TP-76	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	S-42	Vb	168	86	139	16	96	N-57° W	-	-	1.95	8.69
V-21	66-5・6	TP-78	A1	溝状/溝状	溝状/溝状	R-42, R・S-43	Vb	260	74	226	12	96	N-41° E	-	-	3.51	18.83
	66-7・8	TP-79	B1	長楕円/溝状	長楕円/溝状	S-42	Vb	176	80	146	24	84	N-82° E	-	-	2.20	6.08
V-22	67-1・2	TP-80	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	S・T-42・43	Vb	192	92	136	16	116	N-86° W	-	-	2.09	8.50
	67-3・4	TP-81	A2	長楕円/溝状	長楕円/溝状	U-43	Vb	164	72	128	12	116	N-83° W	-	-	2.28	10.67

表V-10 TPピット属性表(続き)

挿図番号	図版番号	遺構名	分類	平面形		グリッド	調査面層位	調査面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	杭跡	重複	調査面長短比	坑底面長短比
				調査面/坑底面	調査面/坑底面			長軸	短軸						
V-22	67-5・6	TP-82	A2	溝状/溝状	U-42・43	VI	212	34	168	12	N-67° E	-	TP-83	6.24	14.00
	68-7・8・9	TP-83	A2	長楕円/溝状	U-43	VI	144	68	116	12	N-50° E	-	TP-82	2.12	9.67
V-23	68-1・2	TP-84	A2	溝状/溝状	U-43・44	VI	188	52	176	20	N-32° W	-	TP-94	3.62	8.80
	68-3	TP-85	A2	長楕円/溝状	T-43	VI	196	68	158	16	N-29° E	-	-	2.88	9.88
V-24	68-4・5	TP-86	A1	溝状/溝状	S・T-43	VI	314	76	312	18	N-25° E	-	-	4.13	17.33
	68-6	TP-87	A1	溝状/溝状	S-44	VI	286	56	272	16	N-84° E	-	-	5.11	17.00
		TP-88					欠		番						
V-25	68-7・8	TP-89	A2	溝状/溝状	R-43・44	Vb	216	52	184	10	N-17° E	-	-	4.15	18.40
	68-9 69-1	TP-90	A1	溝状/溝状	R-43	VI	436	68	408	24	N-70° E	-	-	6.41	17.00
V-26	69-2・3	TP-91	A1	溝状/溝状	Z-22	VI	244	54	228	12	N-47° W	-	-	4.52	19.00
	69-4	TP-92	A1	溝状/溝状	AE-14	VII	250	60	224	24	N-82° W	-	-	4.17	9.33
V-27	69-5・6	TP-93	A1	溝状/溝状	Y・Z-21	VI	272	72	256	12	N-32° W	-	-	3.78	21.33
	69-7・8	TP-94	B1	溝状/溝状	U-43・44	VI	108	28	100	20	N-73° E	-	TP-84	3.86	5.00
V-28	70-1・2・3	TP-95	C2	楕円/長楕円	X・W-18	VII	164	100	132	40	N-68° W	2	-	1.64	3.30
	70-4・5	TP-96	A1	溝状/溝状	AA-24・25 AB-24・25	VI	268	96	256	24	N-42° W	-	-	2.79	10.67
V-29	70-6	TP-97	B1	溝状/溝状	T-24	VI	196	64	128	20	N-25° W	-	-	3.06	6.40
	70-7・8・10	TP-98	B2	楕円/長楕円	AA-19・20 AB-19・20	VII	172	110	128	32	N-57° W	3	-	1.56	4.00
V-30	70-9	TP-99	B2	楕円/溝状	AC-20・21 AD-20・21	VIII	164	96	140	24	N-58° W	4	-	1.71	5.83
	71-1・2	TP-100	A1	溝状/溝状	V-40・41	VI	280	84	232	10	N-53° E	-	-	3.33	23.20
V-31	71-3・4	TP-101	A1	長楕円/溝状	U-39・40	VI	308	100	264	26	N-70° W	-	-	3.08	10.15
	71-5・6	TP-102	A2	長楕円/溝状	K-38	VI	168	96	146	12	N-74° W	-	-	1.75	12.17
V-32	71-7・8	TP-103	A2	長楕円/溝状	N-39・40	VI	144	82	108	10	N-50° W	-	-	1.76	10.80
	72-1・2	TP-104	A2	溝状/溝状	T-42・43	VI	196	64	170	20	N-80° W	-	-	3.06	8.50
V-33	72-3・4	TP-105	A2	長楕円/溝状	U-40	VI	196	96	150	16	N-38° E	-	-	2.04	9.38
	72-5・6	TP-106	A1	溝状/溝状	Q-44	VI	224	54	200	12	N-50° W	-	-	4.15	16.67
V-34	72-7・8	TP-107	A2	溝状/溝状	P・Q-45	VI	210	52	174	12	N-75° E	-	-	4.04	14.50
	72-9・10	TP-108	A1	溝状/溝状	P-45	VI	288	60	272	16	N-78° E	-	-	4.80	17.00
V-35	73-1・2	TP-109	A1	溝状/溝状	P-45	VI	296	44	284	10	N-58° E	-	-	6.73	28.40
	73-3・4	TP-110	A2	溝状/溝状	O-45	VI	176	44	132	10	N-79° W	-	-	4.00	13.20
V-36	73-5・6	TP-111	A1	溝状/溝状	K-43・44	VI	304	52	282	20	N-52° W	-	-	5.85	14.10
	73-7・8	TP-112	A1	溝状/溝状	S-34・35	VI	292	82	260	28	N-74° W	-	-	3.56	9.29
V-37	73-9 74-1	TP-113	B1	長楕円/溝状	U-25	VIII	192	104	136	24	N-39° W	-	-	1.85	5.67
	74-2・3	TP-114	A1	溝状/溝状	L-42・43	VI	244	80	204	18	N-66° W	-	-	3.05	11.33

表V-10 Tピット属性表(続き)

挿入番号	図版番号	遺構名	分類	平面形		グリッド	調査面層位	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		長さ(cm)	長軸方向	杭跡	重複	調査面長短比	坑底面長短比
				調査面	坑底面			長軸	短軸	長軸	短軸						
V-35	74-4	TP-115	A1	長楕円/溝状		U-34・35	VII	308	114	260	32	156	N-80° W	-	2.70	8.13	
	74-5・7	TP-116	B1	長楕円/溝状		W-27	VI	200	96	124	30	142	N-48° W	-	2.08	4.13	
	74-6・8	TP-117	B1	長楕円/溝状		V-26	VI	208	96	152	24	128	N-67° W	-	2.17	6.33	
V-36	75-1・2	TP-118	A2	溝状/溝状		B-35	VI	192	68	164	20	84	N-62° W	-	2.82	8.20	
	75-3・4	TP-119	B1	溝状/溝状		D-36	VI	188	64	168	26	88	N-48° W	-	2.94	6.46	
	75-5・6	TP-120	C1	楕円/長楕円		C・D-37	VI	112	66	84	28	72	N-10° E	1	1.70	3.00	
V-37	75-8	TP-121	B1	溝状/溝状		E-36	VI	232	72	160	32	80	N-52° W	-	3.22	5.00	
	75-9・10	TP-122	B1	長楕円/溝状		E・F-36	Vb	172	94	152	20	104	N-60° W	-	1.83	7.60	
	76-1・2	TP-123	B1	長楕円/溝状		D-36,F-36・37	Vb	200	98	200	32	124	N-62° W	-	2.04	6.25	
V-38	76-3	TP-124	A2	長楕円/溝状		F-36	VI	156	68	136	14	90	N-52° W	-	2.29	9.71	
	76-4・5	TP-125	A1	溝状/溝状		AB・AC-26	VI	260	60	238	16	128	N-24° W	-	4.33	14.88	
	76-6・7	TP-126	A2	長楕円/溝状		G-37	VI	164	76	138	12	100	N-60° W	-	2.16	11.50	
V-39	76-8・9	TP-127	C2	楕円/長楕円		F・G-37	VI	104	70	76	36	64	N-20° W	2	1.49	2.11	
	77-1・2	TP-128	C2	楕円/長楕円		G-37	VI	152	88	124	44	66	N-5° E	3	1.73	2.82	
	77-3・4	TP-129	B1	長楕円/溝状		G-37	VI	160	92	182	28	92	N-58° W	-	1.74	6.50	
V-40	77-5・6	TP-130	A2	長楕円/溝状		H-37	Vb	184	90	152	18	88	N-72° W	-	2.04	8.44	
	77-7・8	TP-131	B2	長楕円/溝状		H-37	VI	160	94	140	22	88	N-77° W	1	1.70	6.36	
	78-1・2	TP-132	B1	長楕円/溝状		I-37・38	VI	152	60	132	18	92	N-81° W	-	2.53	7.33	
V-41	78-3・4	TP-133	B2	長楕円/溝状		I-37・38	Vb	220	126	196	32	88	N-80° W	2	1.75	6.13	
	78-5・6	TP-134	A2	長楕円/溝状		J-37	Vb	128	54	118	12	76	N-63° W	-	2.37	9.83	
	78-7・8	TP-135	A2	長楕円/溝状		J-38	VI	196	76	172	20	84	N-48° W	-	2.58	8.60	
V-42	79-1・2	TP-136	C1	楕円/楕円		H-38	VI	142	96	102	40	82	N-86° E	-	1.48	2.55	
	79-3・4	TP-137	C2	楕円/長楕円		G-38	VI	156	92	128	46	54	N-22° E	5	1.70	2.78	
	79-5・6	TP-138	C2	楕円/長楕円		G-38・39	VI	156	92	132	52	68	N-27° E	3	1.70	2.54	
V-43	79-7・8	TP-139	A1	溝状/溝状		E-37	VI	270	56	236	18	102	N-74° W	-	4.82	13.11	
	80-1・2	TP-140	C2	楕円/長楕円		C-38	VI	112	76	88	30	62	N-58° E	2	1.47	2.93	
	80-3・4	TP-141	A1	溝状/溝状		B・C-38	VI	300	72	284	30	100	N-44° E	-	4.17	9.47	
V-44	80-5~8	TP-142	C2	楕円/長楕円		C-39・40	VI	214	86	188	54	80	N-57° E	4	2.49	3.48	
	80-9・10	TP-143	C1	楕円/長楕円		D-39	Vb	116	76	68	28	60	N-22° W	-	1.53	2.43	
	81-1・2	TP-144	A1	溝状/溝状		D-39・40	VI	272	72	252	20	126	N-55° W	-	3.78	12.60	
V-45	81-3・4	TP-145	A1	長楕円/溝状		E-40	VI	252	84	244	16	124	N-33° E	-	3.00	15.25	
	81-5・6	TP-146	C2	楕円/長楕円		G-39	VI	88	68	58	28	76	N-61° E	2	1.29	2.07	
	82-1・2	TP-147	C2	楕円/長楕円		G-39・40	VI	178	92	162	40	82	N-50° W	3	1.93	4.05	
V-46	82-3・4	TP-148	C2	楕円/長楕円		F-40,G-40・41	VI	120	72	96	36	48	N-67° W	2	1.67	2.67	
	82-5・6	TP-149	C2	楕円/楕円		E・F-41	VI	112	64	76	38	64	N-28° E	2	1.75	2.00	

表 V-10 TPピット属性表(続き)

挿図番号	図版番号	遺構名	分類	平面形		グリッド	調査面層位	調査面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	杭跡	重複	調査面長短比	坑底面長短比		
				調査面/坑底面	調査面			長軸	短軸								
V-47	82-7・8	TP-150	C2	長楕円/溝状		E-41	VI	164	76	148	40	56	N-53° W	3	—	2.16	3.70
V-48	83-1・2	TP-151	C2	楕円/長楕円		E-41	VI	170	84	160	48	52	N-43° E	3	—	2.02	3.33
	83-3・4	TP-152	C2	楕円/長楕円		E-42	VI	144	52	92	40	60	N-26° E	3	—	2.77	2.30
V-49	83-5・6	TP-153	C2	楕円/楕円		E-42	VI	96	56	74	28	60	N-19° W	2	—	1.71	2.64
	83-7・8・9・1・2	TP-154	A1	溝状/溝状		D-42	VI	316	60	268	24	88	N-61° E	—	—	5.27	11.17
V-50	83-3・4	TP-155	A2	溝状/溝状		E-42・43	VI	156	52	120	12	94	N-78° W	—	—	3.00	10.00
	84-5・6	TP-156	A1	溝状/溝状		G・H-41	VI	328	72	340	26	88	N-12° W	—	—	4.56	13.08
V-51	84-7・8	TP-157	A1	溝状/溝状		H-1・41・42	VI	320	44	300	20	94	N-6° W	—	—	7.27	15.00
	85-1・2	TP-158	B1	長楕円/溝状		I-42	VI	144	72	108	14	100	N-67° E	—	—	2.00	7.71
V-52	85-3~5	TP-159	A1	溝状/溝状		H-1-43	VI	316	52	298	18	120	N-30° W	—	—	6.08	16.56
	85-4 86-1・2	TP-160	A2	長楕円/溝状		H-43	VI	156	52	136	16	76	N-53° E	—	—	3.00	8.50
V-53	—	TP-161	A2	溝状/溝状		F-44,F・C-45	VI	180	52	176	18	48	N-16° E	—	—	3.46	9.78
	86-3・4	TP-162	A1	溝状/溝状		A・B-42	VI	300	52	300	16	84	N-8° E	—	—	5.77	18.75
V-54	86-5・6	TP-163	C1	楕円/楕円		A・B-40	VI	154	108	104	68	108	N-54° E	—	—	1.43	1.53
	86-7・8・9	TP-164	A2	溝状/溝状		B-41・42	VI	172	42	154	12	104	N-87° W	—	—	4.10	12.83
V-55	87-1・2	TP-165	B1	溝状/溝状		Y・Z-29	VI	192	84	136	20	132	N-44° E	—	—	2.29	6.80
	87-3・4	TP-166	B1	長楕円/溝状		Y-28	VI	224	98	132	24	128	N-38° W	—	—	2.29	5.50
V-56	87-5・6	TP-167	A1	溝状/溝状		W-34・35	VI	312	102	272	32	134	N-75° W	—	—	3.06	8.50
	87-7・8	TP-168	A1	溝状/溝状		AB・AC-25	VI	314	120	256	24	134	N-59° W	—	—	2.62	10.67
V-57	88-1・2	TP-169	C1	楕円/楕円		W・X-26・27	VI	168	132	92	72	60	N-2° W	—	—	1.27	1.28
	88-3・4	TP-170	A1	溝状/溝状		G・H-42	VI	268	20	254	8	96	N-26° W	—	—	13.40	31.75
V-58	88-5・6	TP-171	A1	溝状/溝状		Y・Z-35	VI	342	84	268	24	120	N-78° W	—	—	4.07	11.17
	88-7・8	TP-172	B1	溝状/溝状		Z・AA-31	VI	178	64	142	22	88	N-17° W	—	—	2.78	6.45
V-59	89-1	TP-173	A2	溝状/溝状		W・X-38・39	VI	192	80	138	12	104	N-7° E	—	—	2.40	11.50
	89-2・3	TP-174	A1	溝状/溝状		X-34・35	VI	368	64	216	16	112	N-67° W	—	—	5.75	13.50
V-60	89-4・5	TP-175	C1	楕円/楕円		Z-30	VI	108	90	46	28	82	N-48° W	—	—	1.20	1.64

第3節 土坑

平成 18・19 年度の調査で検出した土坑は T_1 で 4 基、 T_2 で 5 基の計 9 基である。以下で個別に記載する。

VP-17 (図 V-58 図版 91-1)

T_1 の 0-41 区で検出した。 T_1 試掘トレンチで VbU 調査中、黒色土中に楕円形の灰白色水成シルト主体土の落込みを確認した。半截したところ、Vb 層を掘り込む土坑と判断したため、VP-17 として設定した。壁面はやや開きながら直線的に立上がり、坑底面は平坦であった。

VP-18 (図 V-58)

T_1 の M-44 区で検出した。 T_1 試掘トレンチ壁面で溝状の落込みを確認した。周囲を精査したところ、水成シルト層中に半楕円形プランを呈する Vb 層落込みを検出した。土坑と判断し、VP-18 として設定した。堆積状態の記録はトレンチ壁面で行い、すぐに完掘した。形態は確認面プランが隅丸方形に近く、壁面はほぼ直線的に立ち上がっている。プランでは確認できなかったが、断面において長さ 8cm 前後の杭跡と考えられる落込みが 2 本観察できた。厚幌 1 遺跡や平成 16・17 年度の調査で検出した杭跡を伴う小判形土坑の可能性が高い。

VP-19 (図 V-58 図版 91-2)

T_2 の AE-13 区で検出した。VI 層中において黒色土の小判形の落込みを確認したため半截したが、壁面の立上がりが不明瞭であったため当初は土坑として考えなかった。黒色土を完掘した際、残り半分の壁面が比較的明瞭に立ち上がり、VI・VII 層を掘り込む状態を把握できたことから、改めて土坑と判断した。形態は浅い溝状を呈する。

VP-20 (図 V-58)

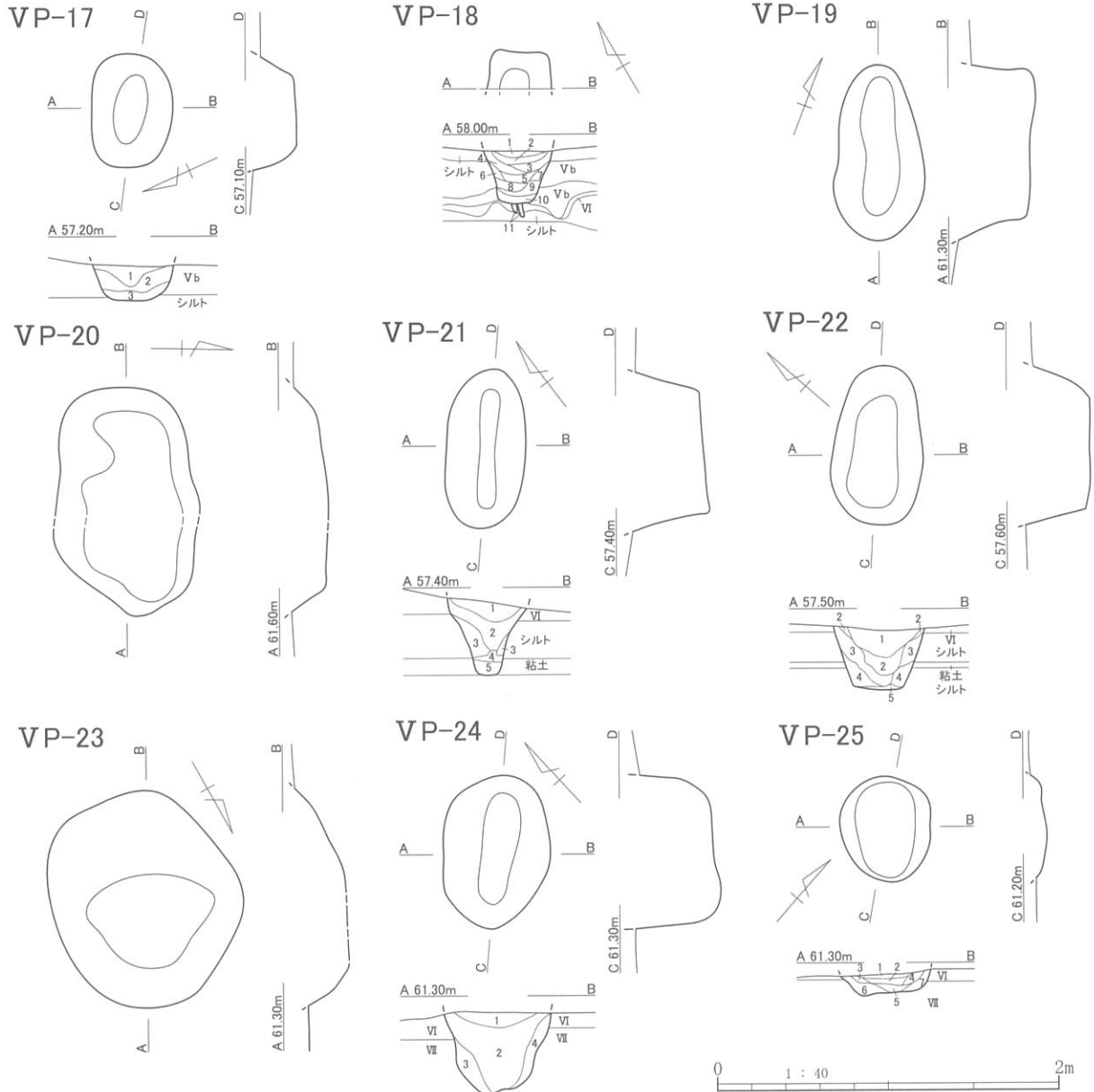
T_2 の T-25 区の VI 層上面において楕円形の黒色土落込みを検出した。半截したが土坑として判断し難かったため、残り半分も掘削したところ、VII 層中に平坦面が形成されていることを確認した。坑底面形態は不整形であったが土坑と判断し、VP-20 とした。

VP-21 (図 V-58 図版 91-3・4)

T_1 の M-40 区で検出した。 T_1 - T_2 段丘崖裾の T ピット群の合間に位置する。平面形は確認面では楕円形だが、坑底面では溝状である。堆積状態の観察から開口部付近で壁面が大きく広がっている状態を観察できたため、T ピットと同様に本来溝状であったものが壁面の崩落により開口部が広がったと考えられる。

VP-22 (図 V-58 図版 91-5)

T_1 の P-45・46 区で検出した。 T_1 A- T_1 B 段丘崖に近い T_1 A 縁辺部に位置する。VP-21 よりも坑底面の幅が広いが、同じく溝状の土坑と考えられる。



VP-17

- 1 2.5Y3/1 黒褐色
- 2 2.5Y3/1 黒褐色
- 3 2.5Y2/1 黒色

Vb - 洪水シルト(斑状) ≡ シルトブロック(φ10↓)
 Vb - シルトブロック(φ30↓) = 洪水シルト(均一)
 Vb = 粘土質シルト(φ5↓)

VP-18

- 1 2.5Y3/1 黒褐色
- 2 2.5Y3/1 黒褐色
- 3 2.5Y5/3 黄褐色
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色
- 5 2.5Y3/2 黒褐色
- 6 2.5Y3/1 黒褐色
- 7 2.5Y2/1 黒色
- 8 2.5Y2/2 黒褐色
- 9 2.5Y4/1 黄灰色
- 10 2.5Y3/2 黒褐色
- 11 2.5Y2/1 黒色

Va ≡ 洪水シルト(均一) 粘性やや弱 しまり強
 Va = 洪水シルト(均一) 粘性やや弱 しまり強
 洪水シルト ≡ Vb + シルト(斑状) 粘性弱 しまり強
 洪水シルト = Vb + シルト(均一) 粘性弱 しまり強
 Vb + シルト ≡ 洪水シルト(均一) 粘性やや弱 しまりやや強
 Vb = 洪水シルト(斑状) 粘性やや強 しまり強
 Vb ≡ 洪水シルト(斑状) 粘性強 しまり強
 Vb + シルト = 洪水シルト(均一) 粘性やや強 しまりやや強
 Vb + シルト - 洪水シルト(斑状) ≡ Vbブロック(斑状)
 Vb + シルト = 洪水シルト(斑状)・Vbブロック(斑状)
 Vb + シルト - Vbブロック(斑状) = シルトブロック(斑状)

VP-21

- 1 10YR2/2 黒褐色
- 2 10YR2/1 黒色
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色
- 4 10YR2/1 黒色
- 5 10YR2/2 黒褐色

Vb = シルト岩(φ50↓) ≡ Ta-d2.p(斑状)
 Vb = シルト岩(φ30↓) ≡ Ta-d2.p(斑状)
 粘性強 しまり中
 粘土質シルト = Vb(斑状) 粘性弱 しまり中
 Vb = シルト(斑状) 粘性強 しまり中
 Vb = 粘土(斑状) 粘性中 しまり中

VP-22

- 1 2.5Y3/1 黒褐色
- 2 2.5Y4/1 黄灰色
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色
- 5 2.5Y3/1 黒褐色

Vb = シルト(均一)
 Vb + シルト
 粘土質シルト + 砂
 砂
 Vb = シルト(斑状)

VP-24

- 1 10YR2/2 黒褐色
- 2 10YR1.7/1 黒色
- 3 10YR3/2 黒褐色
- 4 10YR3/3 暗褐色

V ≡ シルト岩(φ30↓)
 V ≡ シルト岩(φ30↓)・Ta-dL(斑状)
 V = Ta-dL(斑状) ≡ シルト岩(φ30↓)
 V = Ta-dL(均一) ≡ シルト岩(φ30↓)

VP-25

- 1 10YR2/1 黒色
- 2 10YR3/1 黒褐色
- 3 10YR2/1 黒色
- 4 10YR2/1 黒色
- 5 10YR4/2 黒褐色
- 6 10YR2/1 黒色
- 7 10YR5/2 灰黄褐色

Vb
 Vb = Ta-dL(均一) ≡ Ta-d2.p(φ3↓)
 Vb ≡ シルト岩(φ20↓)
 Vb = シルト岩(φ10↓) ≡ Ta-d2.p(φ5↓)
 Vc = Ta-dL(斑状)・Ta-d2.p(φ10↓)
 Vb = Ta-d2.p(φ10↓) ≡ Ta-dL(斑状)
 Vc - Ta-dL(均一) = Ta-d2.p(φ10↓)

図 V-58 縄文時代土坑

表V-11 縄文時代土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
					調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
V-58	91-1	VP-17	O-41	VI	楕円形/ 楕円形	68	48	42	20	26	N-53°W	1.42	2.10	—	
V-58	—	VP-18	M-44	VI	隅丸方形?/ 楕円形	(24)	38	(12)	16	30	N-29°E	—	—	—	
V-58	91-2	VP-19	AE-13	VI	長楕円形/ 長楕円形	104	54	82	20	38	N-18°E	1.93	4.10	—	
V-58	91-5	VP-20	T-25	VI	長楕円形/ 不整形	134	84	114	58	20	N-79°E	1.60	1.97	—	
V-58	91- 3・4	VP-21	M-40	VI	長楕円形/ 長楕円形	94	48	70	12	46	N-39°E	1.96	5.83	—	
V-58	91-5	VP-22	P-45・46	VI	楕円形/ 長楕円形	92	54	66	30	36	N-56°E	1.70	2.20	—	
V-58	91-6	VP-23	U-31	VI	不整形/ 不整形	128	112	76	56	32	N-67°W	1.14	1.36	—	
V-58	91-7	VP-24	W-32	VI	楕円形/ 長楕円形	92	64	66	22	50	N-48°E	1.44	3.00	—	
V-58	91-8	VP-25	V-31	VI	楕円形/ 楕円形	64	52	56	36	10	N-40°W	1.23	1.56	—	

VP-23 (図V-58 図版91-6)

T₂のU-31区で検出した。不整形プランで、壁面の立ち上がりは不明瞭であったが、VII層中に平坦な坑底面が形成されていることを確認したため土坑と判断し、VP-23として設定した。

VP-24 (図V-58 図版91-7)

T₂のW-32区で検出した。VI層上面で長楕円形の黒色土落込みを検出したため半截したところ、坑底面は凹凸だが、VI・VII層を明瞭に掘り込むことを確認したため土坑と判断し、VP-24とした。

VP-25 (図V-58 図版91-8)

T₂のV-31区で検出した。VI層上面において楕円形の黒色土落込みを検出したため半截したところ、浅いがVII層中に平坦面が形成されていたことから土坑と判断し、VP-25とした。

第4節 焼土

平成 18・19 年度の調査で検出した焼土は計 16 基で、すべて T₂に位置する。検出層位をみると大半が VbU~VbL に形成されている。以下で個別に記載していく。

VF-08 (図 V-59 図版 92-1)

AB-24 区の Vc 層で検出した。長さ 54cm を測り、プランは不整形だが、厚さ 6cm の良好な被熱層が形成されている。上面及び周囲に被熱礫が多数出土していた。

VF-10 (図 V-59 図版 92-2)

U-28 区の VaL で検出した。火山灰除去時に一部削平している。上面で炭化物が少量認められた。検出層位から縄文晩期の焼土と考えられる。

VF-11 (図 V-59 図版 92-3・4)

U-40 区の VbL で検出した。長さ 34cm の不整形プランで、被熱層の厚さは 6cm を測る、焼土中に根による攪乱が認められた。

VF-12 (図 V-60 図版 92-5・6)

T-27 区で検出した石組を伴う焼土である。焼土の規模は長さ 32cm、幅 29cm、厚さ 5cm を測る。色調は VI 層がやや赤味を帯びた程度である。石組は 72×55cm の規模を測り、板状礫を「コ」の字形に配置している。礫は不整形な小ピットを掘削した中に設置し、土を埋め戻して固定している。配置した礫の内側の面は被熱による焼けはじけが確認できた。焼土上位からはフレイク・チップが多く出土した。検出は VI 層においてであるが、平成 16・17 年度の事例を考慮すると中期末~後期初頭に位置づけられる可能性が高い。

VF-13 (図 V-59)

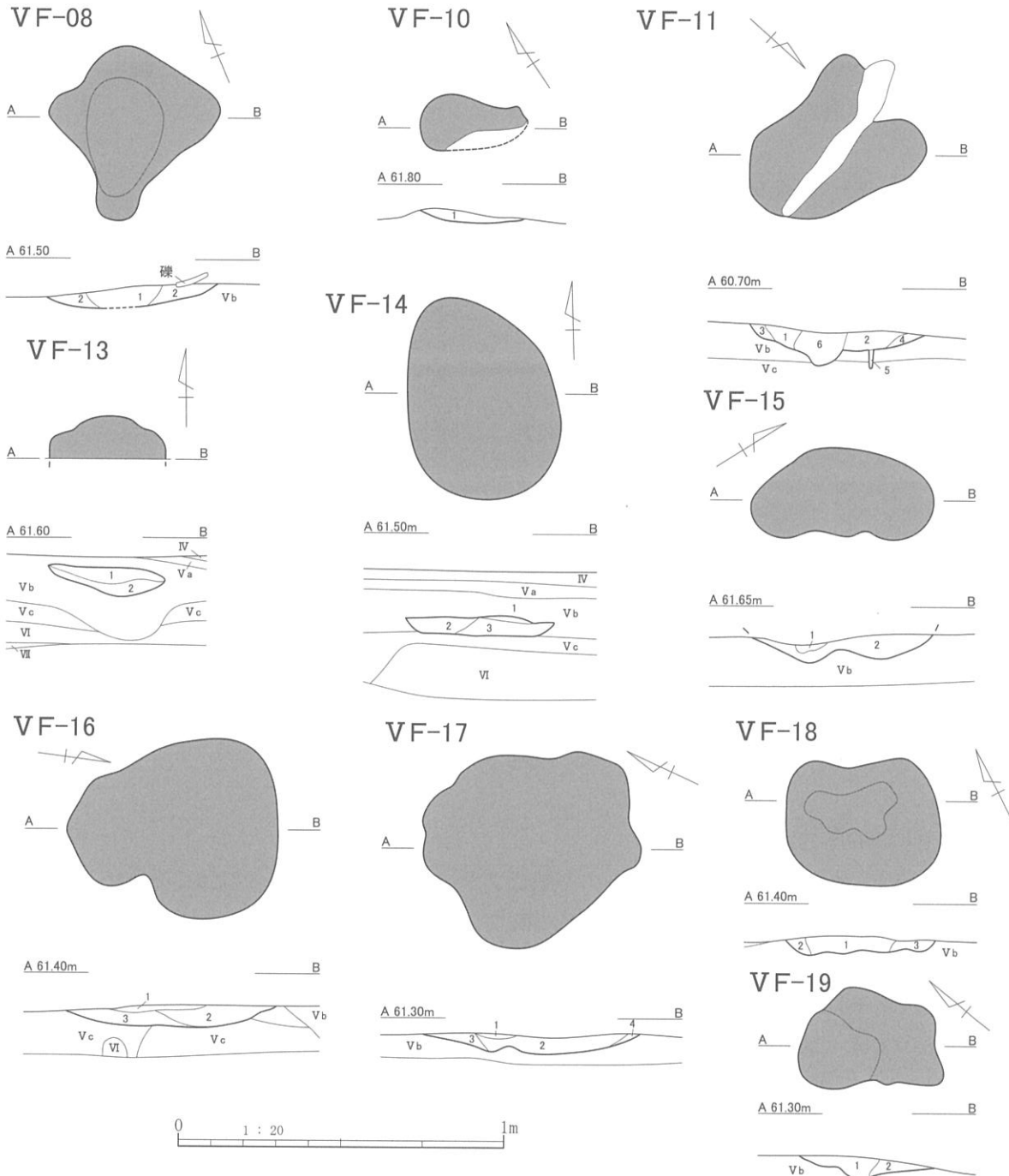
V 層 25% 調査中、T・U-32 区で検出した。確認が遅れ、U-32 区内の平面形を削平してしまったが、隣接する T-32 区壁面で確認した。VbU の形成で、残存する半分から推定される規模は長さ 36cm 程で、被熱層の厚さは 5cm であった。

VF-14 (図 V-59 図版 92-7)

T・U-36 区の VbU で検出した。25% 調査時に T・U-36 区にまたがる位置で検出した。長さ 64cm の楕円形で、被熱層の厚さは 6cm を測る。

VF-15 (図 V-59)

X-29 区の VbU で検出した。長さ 56cm の楕円形で、被熱層は厚さ 8cm を測るが、赤化は弱く、下縁が不整形に波打つ。上面で炭化物が少量認められた。



- VF-08**
 1 10YR3/4 暗褐色 焼土(弱いVb地山被熱層)
 粘性中 しまり強
 2 10YR2/2 黒褐色 焼土(極弱いVb地山被熱層)
 粘性中 しまり強
- VF-10**
 1 5YR5/6 明赤褐色 焼土(Vb地山被熱層)
- VF-11**
 1 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土(強いVb地山被熱層)
 2 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土(強いVb地山被熱層)
 3 5YR4/2 灰褐色 焼土(弱いVb地山被熱層)
 4 5YR3/1 黒褐色 焼土(極弱いVb地山被熱層)
 5 5YR5/4 にぶい赤褐色 根による焼土落込み
 6 7.5YR3/1 黒褐色 根による攪乱
- VF-13**
 1 5YR4/2 灰褐色 Vb - 焼土(斑状) ≡ 炭化物(上面)
 2 5YR5/6 明赤褐色 焼土(強いVb地山被熱層)

- VF-14**
 1 7.5YR3/3 暗褐色 Vb = 焼土(斑状)
 2 7.5YR3/3 暗褐色 Vb = 焼土(均一) ≡ 炭化物
 3 5YR4/6 赤褐色 焼土(Vb地山被熱層)
- VF-15**
 1 5YR3/2 暗赤褐色 焼土(弱いVa地山被熱層)
 = 炭化物(上面)
 2 5YR2/3 極暗赤褐色 焼土(極弱いVa地山被熱層)
 = 炭化物(上面)
- VF-16**
 1 7.5YR3/2 黒褐色 Vb = 焼土粒(斑状) ≡ 炭化物
 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土(強いVc地山被熱層)
 3 7.5YR3/3 暗褐色 Vc ≡ 焼土(斑状)

- VF-17**
 1 7.5YR4/4 褐色 焼土(Vb地山被熱層)
 = Vb(斑状) ≡ 炭化物
 2 7.5YR5/8 明褐色 焼土(強いVb地山被熱層)
 ≡ 炭化物
 3 10YR2/2 黒褐色 V層 = 焼土・炭化物
 4 10YR2/1 黒色 V層 ≡ 焼土(均一)
- VF-18**
 1 5YR5/8 明赤褐色 焼土(Vb地山被熱層)
 2 10YR3/3 暗褐色 Vb + 焼土
 3 10YR3/3 暗褐色 Vb + 焼土ブロック
- VF-19**
 1 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土(弱いVb地山被熱層)
 2 5YR2/2 黒褐色 焼土(極弱いVb地山被熱層)

図V-59 縄文時代焼土 (1)

VF-16 (図V-59 図版 92-8)

V-34 区のVbLで検出した。南西側縁辺が根による攪乱を受け平面形が乱れているが、長さ 65cm を測る。被熱層は良好に形成され、厚さ 7cm を測る。

VF-17 (図V-59 図版 93-1)

V・W-38・39 区のVbUで検出した。長さ 64cm の不整形プランを呈し、厚さ 6cm の被熱層が形成されている。上面に炭化物が少量認められた。

VF-18 (図V-59 図版 93-2)

V-35 区のVbLで検出した。長さ 47cm の不整形プランを呈し、被熱層の厚さは 6cm である。焼土中央付近は明瞭に赤色化しているが、縁辺部は斑状の焼土が確認できる程度であった。

VF-19 (図V-59 図版 93-3)

Z・AA-30 区のVbLで検出した。長さ 44cm の不整形プランを呈し、被熱層は赤色化に乏しいが 7cm の厚さで形成されていた。

VF-20 (図V-60 図版 93-4)

Y-30 区のVbLで検出した。長さ 47cm の不整形プランを呈し、厚さ 10cm の良好な被熱層が形成されている。根の攪乱により焼土中央が大きく攪乱されていた。

VF-21 (図V-60 図版 93-5)

X-36 区のVbLで検出した。長さ 56cm の不整形プランを呈し、厚さ 4cm の強く赤色化した被熱層が形成されていた。焼土中央が根により攪乱されている。

VF-22 (図V-60 図版 93-6)

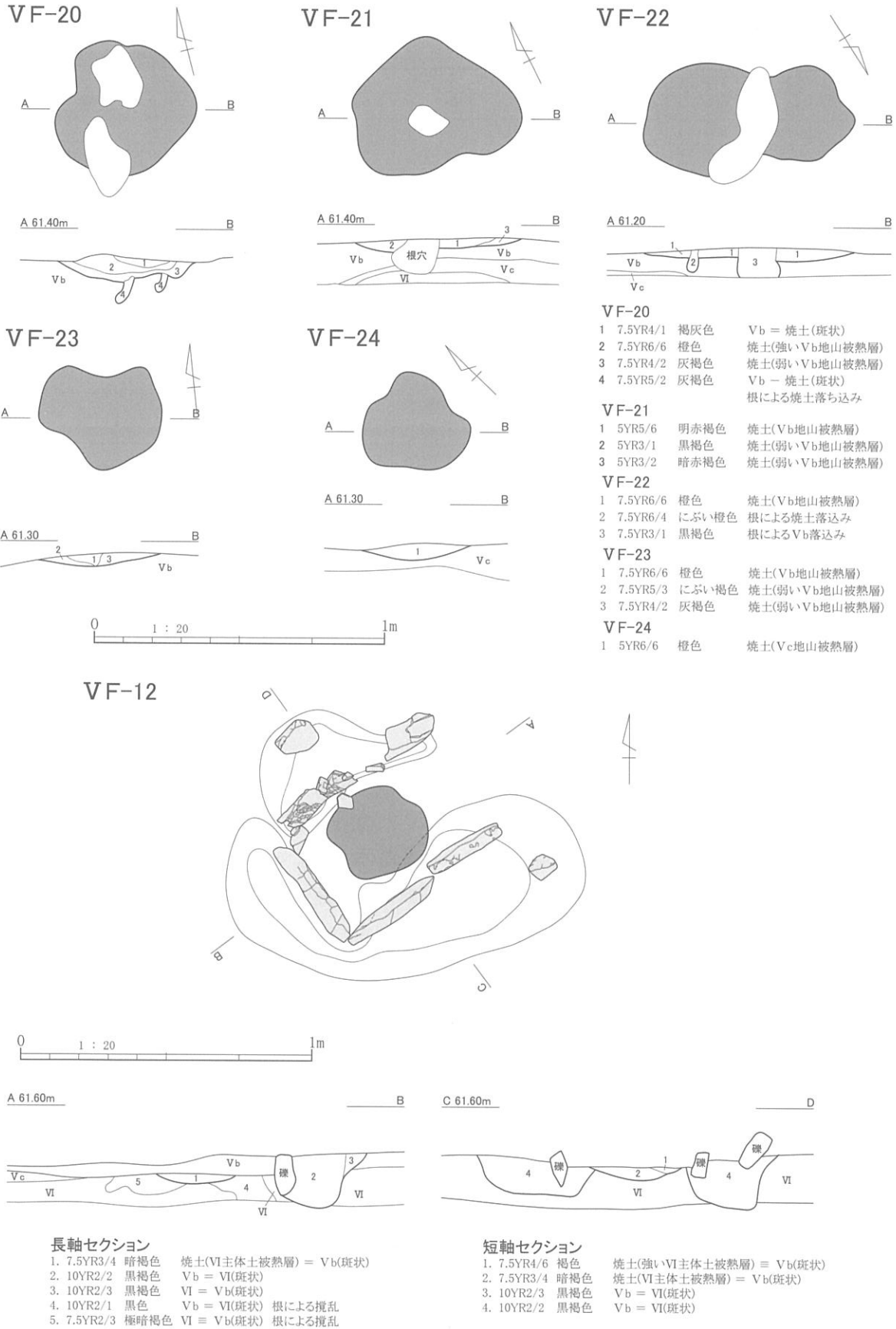
AA-31 区のVbLで検出した。長さ 72cm の不整形プランを呈し、厚さ 5cm の強く赤色化した被熱層が形成されている。根により大きく攪乱されている。

VF-23 (図V-60 図版 93-7)

X-34 区のVbLで検出した。長さ 42cm の不整形プランを呈し、厚さ 4cm の被熱層は中央付近で特に強く赤色化していた。

VF-24 (図V-60 図版 93-8)

X-34・35 区のVbLで検出した。長さ 37cm の不整形プランを呈し、厚さ 6cm の良好な被熱層が形成されていた。



図V-60 縄文時代焼土(2)

表 V-12 縄文時代焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	確認層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
V-59	92-1	VF-08	AB-24	Vc	不整形	54	52	6	—	
V-59	92-2	VF-10	U-28	VaL	楕円形	34	18	4	—	晩期
V-59	92-3・4	VF-11	U-40	VbL	不整形	54	43	13	—	
V-60	92-5・6	VF-12	T-27	VbL?	楕円形	32	29	5	—	石組炉
V-59	—	VF-13	T・U-32	VbU	楕円形?	36	13	9	—	
V-59	92-7	VF-14	T・U-36	VbU	楕円形	64	46	6	—	
V-59	—	VF-15	X-29	VbU	楕円形	56	26	8	—	
V-59	92-8	VF-16	V-34	VbL	不整形	65	55	7	—	
V-59	93-1	VF-17	V・W-38・39	VbU	不整形	64	56	6	—	
V-59	93-2	VF-18	V-35	VbL	楕円形	47	38	6	—	
V-59	93-3	VF-19	Z・AA-30	VbL	不整形	44	32	7	—	
V-60	93-4	VF-20	Y-30	VbL	楕円形	47	46	10	—	
V-60	93-5	VF-21	X-36	VbL	不整形	56	46	4	—	
V-60	93-6	VF-22	AA-31	VbL	不整形	72	39	5	—	
V-60	93-7	VF-23	X-34	VbL	不整形	42	38	4	—	
V-60	93-8	VF-24	X-34・35	VbL	不整形	37	32	6	—	

第5節 集中遺物

土器集中

土器集中は9カ所が検出されており、内訳はV～VI層から8カ所、III層から1カ所である。I群B3類は2カ所 (VPB-06・07)、IV群A1類a種は4カ所 (VPB-05・10～12)、IV群A2類は1カ所 (VPB-09)、V群B1類は1カ所 (VPB-08)、V群C1類は1カ所 (III PB-49) である。この割合は包含層出土土器の各分類の出土点数の割合と概ね一致している。

VPB-05 (図V-61～63・65、図版94-1～3)

位置：S-22～24、T-23区 層位：Vb層上位～VI層

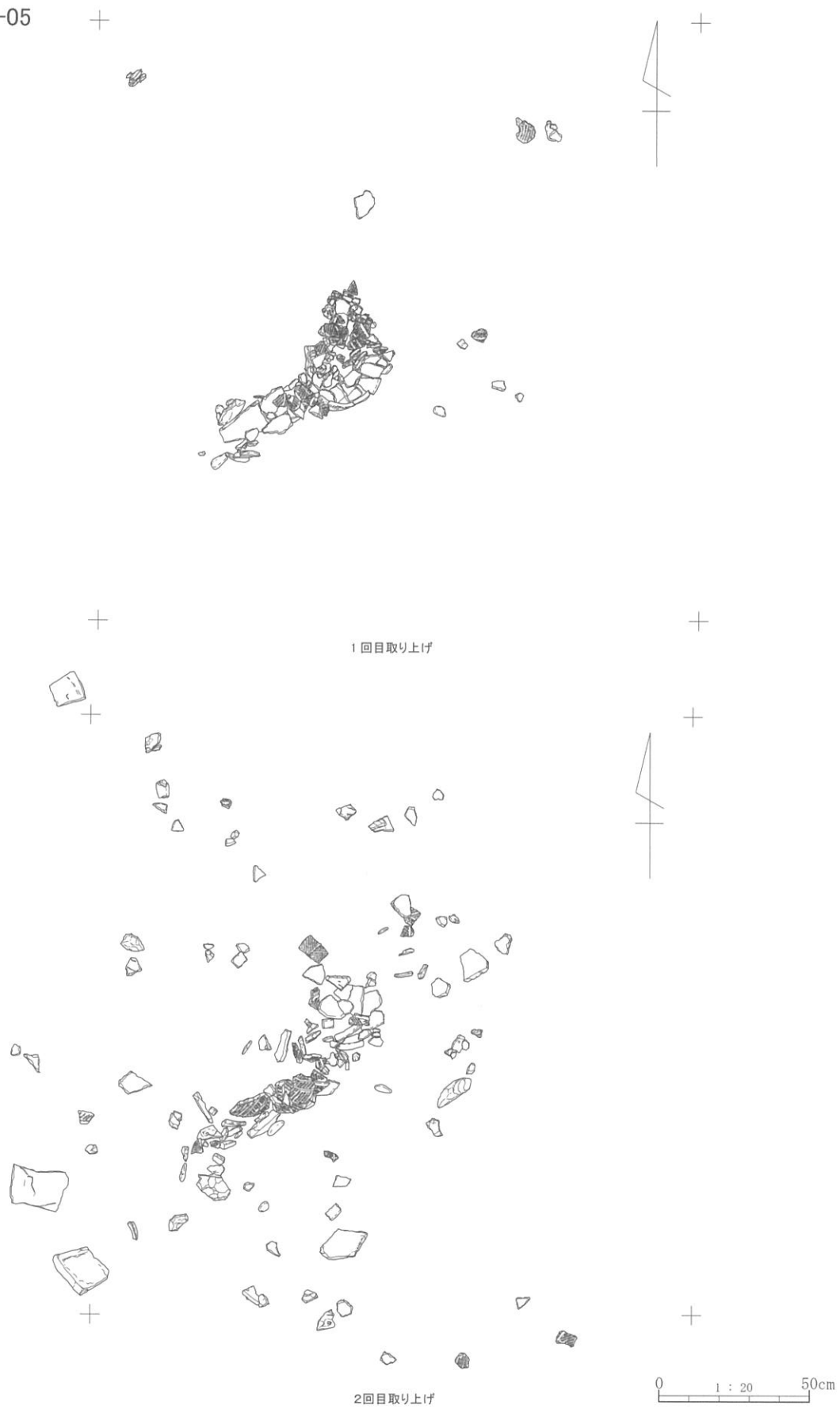
平面形：円形 規模：610×590 cm 出土点数：1,171点 (内土器776点)

確認・調査：Vb層上位調査中に広範囲に広がる土器のまとまりを確認したことから、住居跡等遺構の可能性を考え、中央にベルトを設定し、土層断面を確認しながら、明瞭に落込みを確認できるVI層上面まで掘り下げていった。出土遺物は比較的大きい土器片や礫を残し、それ以外はトータルステーションで出土位置等を記録し取り上げた。全体的にVI層上面まで掘り下げたところ、不整形なVb層の落込みと、その中央に土器数個体が重なった状態で出土した。土層断面を実測してからベルトを取り外し、平面の出土状況を図化した。また、図化した遺物を取り上げた後に下位の遺物出土状況も図化している。最後に、不整形なVb層の落込みにトレンチを設け、土層断面の観察から風倒木痕であると判断して、調査を終了した。これらの調査状況から、風倒木痕の窪みに土器を廃棄したと想定される。

出土遺物：復元個体は4個体得られた。この他に、口縁部片2個体、底部片1個体を図示している。土器接合作業時に行った個体識別では、この他に8個体ほど確認したが、復元には至らなかった。また、ここで図示していないが、石斧・砥石・台石各1点とたたき石2点が出土している。

図V-62・63で1～4・7の接合状況を図示している。ここで図示されていない復元個体の破片は、図化されたブロックよりも上位で、VPB-05の中で広範囲に広がっていたものがほとんどである。2は横に倒れた状態、3は口縁から胴部上半のみがやや正立した状態、4は横に倒れた状態で出土して

VPB-05



図V-61 土器集中平面図(1)



図V-62 土器集中平面図 (2)



図V-63 土器集中平面図 (3)

いることがわかる。土器の重なっている順番で上のものから順に図示しているが、これらは出土状態から一括資料として捉えている。

全てIV群 A1 類 a 種である。1・2・4 は深鉢形土器で、口縁部付近はやや直立しており、胴部上半から下半付近で底部に向かってすぼまる器形である。貼付帯は口縁から底部付近まで施す。口縁部から胴部上半の直立している辺りの、貼付帯の間隔の幅は狭くなっている。3 は口縁部から底部に向かって直線的にすぼまっている。口唇はいずれも平坦にナデ調整を行っているが、精粗がある。文様には、無節、単節の羽状縄文、撚りの異なる原体を重ねて施文する重複縄文、無文帯などが見られ、これらを組み合わせている。1・2・4 は口唇直下の貼付帯に重複縄文を施している。1 は口唇直下の貼付帯のしたに無文帯を設けている。3 は胴部貼付帯の上に施している縄文が、器表面まで大きくはみ出しており、粗雑な作りである。5 は口縁部片で、口唇は平坦にナデ調整されており、角状でやや外側に傾いている。6 は口縁部片で、口唇直下の貼付帯は階段状に 2 段施され、1~5 とは異なる。口唇の平坦面は非常に平滑である。7 は底部片である。平底で、直線的に外側に開きながら立ち上がる。貼付帯はやや摩耗している。

VPB-06 (図 V-66 図版 94-4)

位置：V-21・22、W-21 区 層位：Vb 層下位～VI層

平面形：不整形 規模：240×120 cm 出土点数：78 点 (内土器 64 点)

確認・調査：Vb 層下位調査中に土器がややまとまって確認された。さらに掘り下げると Vc 層でさらにまとまって出土した。ほぼ同一個体片で構成されている。VI層をやや掘り下げたところで土器が途切れたため、その時点で撮影を行い、遺物を取り上げた。

出土遺物：8・9 は I 群 B3 類の同一個体片である。過年度報告の図 II-27-2 (乾・小野・奈良 2006) と同一個体片であり、接合はしなかったが、約 25m 離れている。8・9 は共に器表面の風化による摩耗が著しく、微隆起線は磨滅し痕跡を僅かに残すのみである。深鉢形土器で、口縁はやや内湾している。胴部は直線的にすぼまっている。胎土に ϕ 1 mm 以上の石英を多く含むことから、「仮称富良野盆地系土器」と思われる。

VPB-07 (図 V-66 図版 94-5)

位置：AD-22・23 区 層位：Vb 層下位～VI層

平面形：不整形 規模：270×200 cm 出土点数：151 点 (内土器 151 点)

確認・調査：Vb 層下位調査中に、細片化した土器のまとまりを確認した。土器を残しながら、全体を掘り下げたところ、VI層をやや掘り下げたところで土器が途切れた。その時点で撮影を行い、遺物を取り上げた。

出土遺物：長軸 20mm に満たない破片が大半で、接合できたものは殆どない。すべて I 群 B3 類の同一個体片と思われることから、口縁部片 10 と比較的大きい胴部片 11 を図示した。10 は幅 10mm 程と狭い間隔で微隆起線文が施されている。微隆起線文間には、風化による摩耗で不明瞭であるが短縄文が施されている。11 は微隆起線文間に RL の斜行縄文を施す。

VPB-08 (図 V-63・66)

位置：X-28 区 層位：Va 層

平面形：長円形 規模：135×35 cm 出土点数：47 点 (内土器 47 点)

確認・調査：Ta-c 除去後、Va 層 (層厚 3 cm 程) 調査中に、2 ヶ所の土器の集中を検出した。同

一個体であり、近接していることから、VPB-08 と一つの集中名とした。図V-63 の接合状況から、南側のブロックが廃棄された場所で、北側のブロックは大形の破片が移動し、細かく割れたようである。北側のブロックの土器片は風化による器面の摩耗が著しい。この周辺では同一面で他の遺物は出土していない。

出土遺物:12 と13 は同一個体である。12 の器形は図上で復元したV群B1 類の浅鉢形土器である。また、網かけ部は器面の摩耗が著しく、縄文等が観察できなかつた部分である。幅の広い山形突起が1 つある。突起部口唇は肥厚し断面形は角状で、縄端で縦に刻みを施し、平坦面にも縄端で刺突を施す。突起部以外の口唇断面形も角状で、口唇直下5 mm程はナデ調整で光沢があり、無文である。胴部は直線的に外側に開いており、LR が縦走気味に施されている。底部は丸底で、13 ではLR の縄文が確認できる。胎土は ϕ 1 mm以上の石英が少量含まれており、「仮称富良野盆地系土器」の可能性はある。13 の胴部中央に補修孔が1 対ある。

VPB-09 (図V-66)

位置：V-34 区 層位：Vb 層下位
 平面形：楕円形 規模：160×70 cm 出土点数：144 点 (内土器 144 点)

確認・調査：Vb 層下位調査中に、土器細片の広がりを確認した。土器を残しながら10 cm程掘り下げたところ、土器のまとまりが途切れたことから、この時点で写真撮影を行ったが、碎片のため図化はせずに、トータルステーションで位置を記録し取り上げた。

出土遺物：14 はIV群A2 類土器の口縁部片である。同一個体の破片は多量に出土しているが、比較的大きい破片も器面が剥落しており復元することはできなかつた。平縁で、口唇の断面形は角状である。口唇にLR の縄文を施す。器表面の口唇直下に沿って幅15mm程の剥落面が廻っており、貼付帯が施されていたものと思われる。その直下に縄端の刺突文が施されている。内面にもLR の斜行縄文が施されている。粘土帯接合面で破損している。胎土に砂粒と ϕ 1~3 mmの黄橙色の軽石を含んでいる。この軽石は他の鉦物に比べ粗粒で、繊維状の構造が確認できる。静川37 遺跡でのタプコブ式土器の胎土分析の結果、「他種土器にはみられない軽石粒やスコリア粒を含有していることが判明した。」(赤石・工藤他 1992) とある。本遺跡ではこの個体のみである。

VPB-10 (図V-64、66 図版94-7・8)

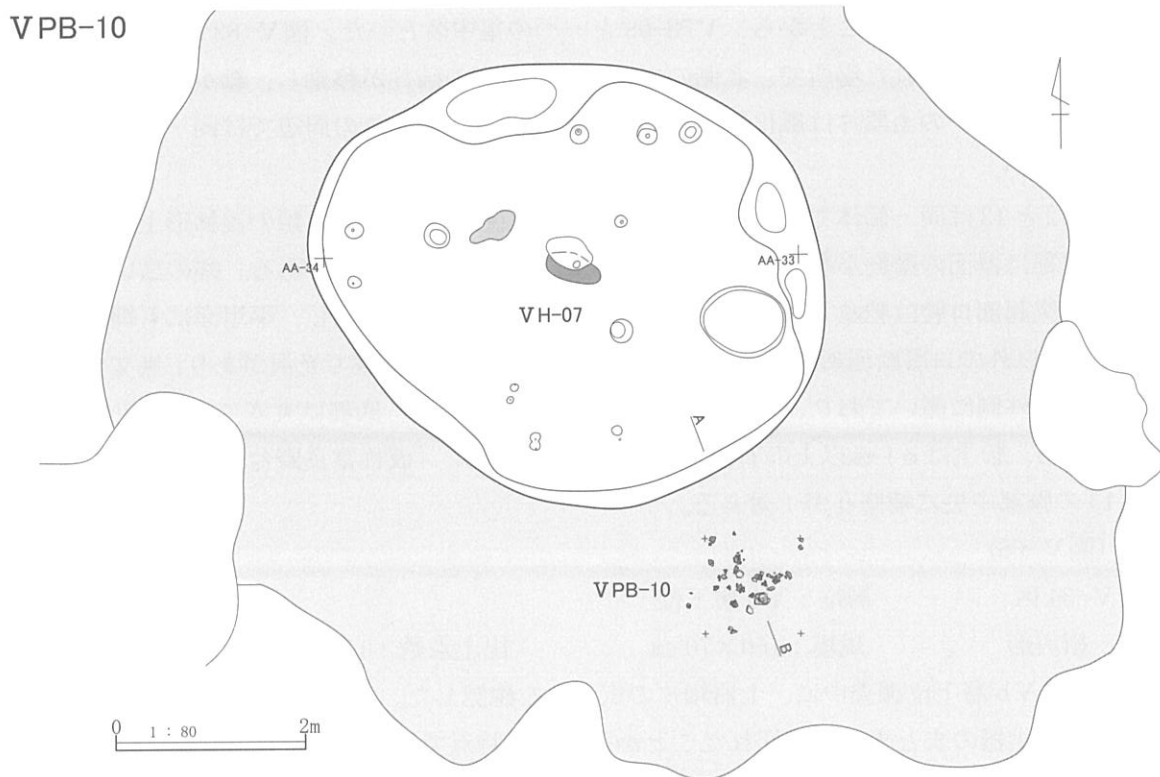
位置：AA-32・33 区 層位：Vb 層上位
 平面形：楕円形 規模：210×110 cm 出土点数：97 点 (内土器 81 点)

確認・調査：VH-07 掘り上げ土 (Ta-d1 混入のVb 層) 調査中、土器のまとまりを確認したことから、掘り上げ土と土器の関係を確認できるように、住居跡と直交するベルトを設けて調査を進めた。その結果、土器のまとまりは掘り上げ土を被覆していることが確認された。周囲の同一面から大型の礫なども出土している。

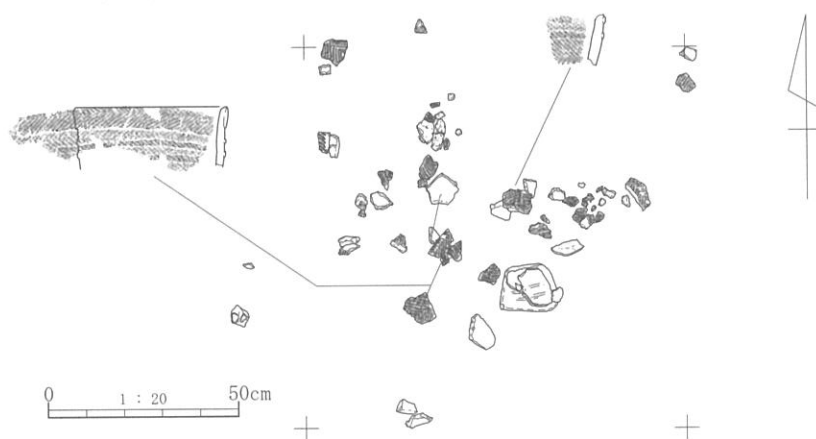
出土遺物：15~17 はIV群A1 類a 種の同一個体片である。口縁部は平縁で、ほぼ直立している。口唇断面形は角状で内側に傾く。口唇直下の貼付帯上にRL、LR の羽状縄文となっている。16・17 は胴部下半の資料で、外側に直線的に開く。

VPB-11 (図V-66)

位置：X-33 区 層位：Vb 層下位~Vc 層
 平面形：隅丸方形 規模：210×120 cm 出土点数：126 点 (内土器 116 点)



VPB-10 出土状態



VPB-10とVH-07 掘り上げ土堆積状態

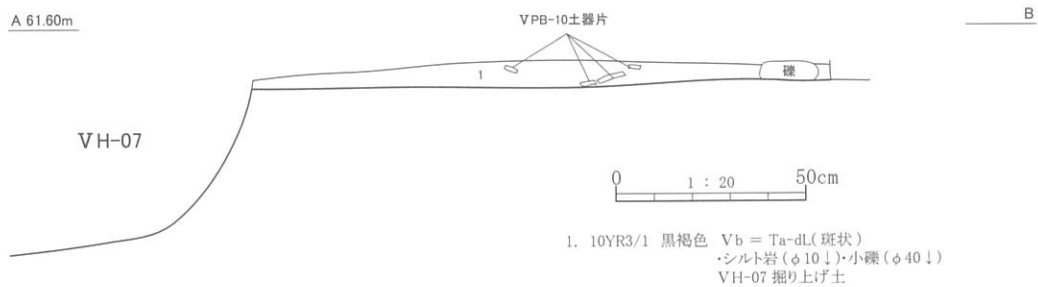
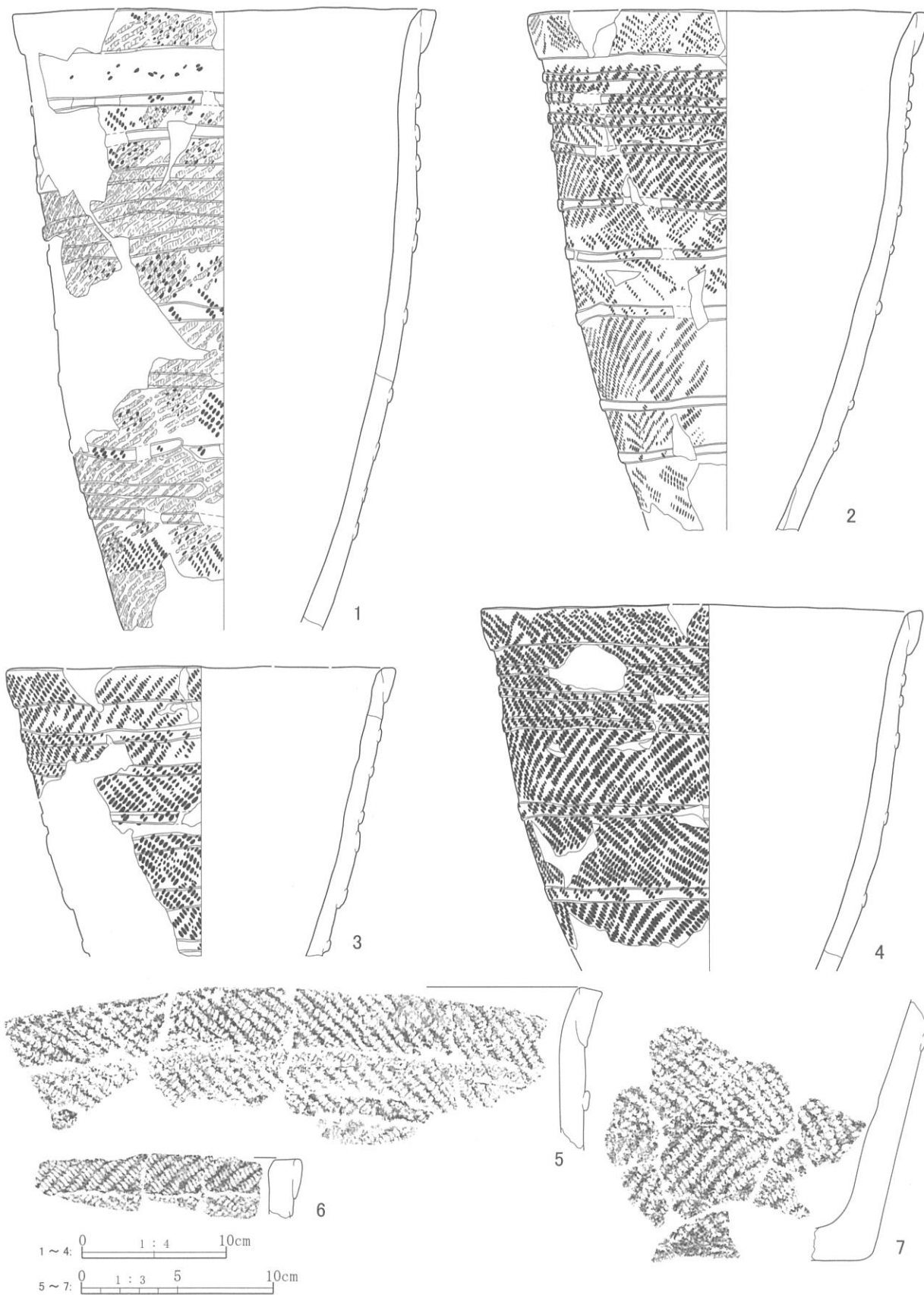


図 V-64 土器集中平面図(4)



図V-65 土器集中出土遺物(1)



図V-66 土器集中出土遺物(2)



図V-67 土器集中出土遺物(3)

確認・調査：Vb層下位調査中、土器細片が面的に広がって検出された。同一個体片と思われたことから、土器集中とし調査を行った。当初、土器細片を残しつつ、まとまりが途切れるところまで掘り下げる予定であったが、一部深くなることが確認されたため、一度遺物を取り上げ面の精査を行った。長軸400cm程の落込みを確認したため、住居跡の可能性を考え、十字にベルトを設定し落込みの調査を行ったが、平面形が不整形であり、土層断面でも明瞭な掘り込みが確認できなかったため、住居跡等ではないと判断し、遺物を取り上げた。また、土器細片は一部一括して取り上げた。出土点数は集計していないが、重量は55gである。

出土遺物：18～20は胎土に角閃石を多量に含むことと、出土状態から同一個体として捉えた。18は口縁部片で、口唇直下の貼付帯上にLRの斜行縄文を施し、その上に縄線文を廻らしている。この貼付帯直下の円形刺突文の下部は破損している。19・20は器面の摩耗が著しいが、LR斜行縄文が施されている。

VPB-12 (図V-66)

位置：Z-17・18、AA-17区 層位：Vb層下位～Vc層

平面形：不整形 規模：330×230 cm 出土点数：92点 (内92土器点)

確認・調査：Vb層下位調査中、レベルはばらつきながらも、平面的に土器のまとまりを確認した。同一個体と思われたことから、土器集中とした。土器のまとまり全体を検出したところで、撮影を行い位置を記録し取り上げた。なお図化は行っていない。

出土遺物：21・22は同一個体である。21は胴部中央付近、22は胴部下半の破片と思われる。RLの斜行縄文と0段多条のLRの斜行縄文で羽状となる。胴部下半に貼付帯は施されていない。胎土に砂粒とφ5～10mmの礫を含む。

III PB-49 (図V-67)

位置：R-43区 層位：IIIc層下位

平面形：楕円形 規模：60×20 cm 出土点数：37点 (内土器37点)

確認・調査：IIIc層を柱穴等の遺構確認のためジョレンで調査中、土器が出土したことから、移植ゴテによる調査に切り替え、周辺を調査した。土器のまとまりが確認されたことから、土器集中とした。撮影を行い、位置を記録し取り上げた。なお図化は行っていない。

出土遺物：V群C1類の胴部下半の資料で、内面では底部への屈曲部がわずかに確認できる。横走気味のLR縄文が施されている。胎土は緻密で、硬く締まっており砂粒等はあまり含まれていない。

表V-13 土器集中出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等 口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点-底面	文様		胎土	備考
							口縁-内面/胴部-内面/底側面-内面	口唇-内面		
V-65-1	142-3-7	JP0483A	VIA1a	84016他28点/VPB-05/VbU・85706他17点/VPB-05/VbL・86789他5点/VPB-05/Vc・85321/S-27/VbU・36910/Q-30/VbU・36093/Q-30/VbL	口縁~胴部下半	平縁・直立-角状/直立(上半)・外傾(下半)	貼付帯1A+重複縄文・無文帯/貼付帯2・RL,L羽状縄文・重複縄文	砂粒多量混入	口唇ナデ調整で平滑	
V-65-2	142-3-8	JP0482A	VIA1a	85599他11点/VPB-05/VbU・85708他25点/VPB-05/VbL・64830他5点/S-23/VbU・85363/S-27/VbU・88026/T-23/VbU・89224他2点/T-24/VbU・88979/T-27/VbL・83925/W-24/VbU	口縁~胴部下半	平縁・直立-角状/直立(上半)・外傾(下半)	貼付帯1A+重複縄文・無文帯/貼付帯2・重複縄文・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入	外面胴部下半風化著	
V-65-3	143-1-9	JP0486A	VIA1a	88330他28点/VPB-05/VbL	口縁~胴部	平縁・やや外傾-内削切出外/外傾	貼付帯1A+LR斜行縄文・2段異原体羽状縄文	砂粒混入	口唇ナデ調整痕有	
V-65-4	143-1-10	JP0485A	VIA1a	84238他9点/VPB-05/VbU・85712他23点/VPB-05/VbL・88312他1点/VPB-05/Vc・84114他5点/S-23/VbU・83929/S-24/VbL・88978/T-27/VbL・85162他1点/S-23/VbL・84781/X-23/VbL	口縁~胴部下半	平縁・直立-内削切出外/直立(上半)・外傾(下半)	貼付帯1A+重複縄文/貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入		
V-65-5	143-1-11	JP0480A	IVA1a	86857/VPB-05/VbU・85798他1点/VPB-05/VbL・86815/VPB-05/Vc・84172/S-23/VbU	口縁部	平縁・直立-角状/やや外傾	貼付帯1A+RL斜行縄文/貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入	口唇ナデ調整痕有	
V-65-6	143-1-12	JP0479A	IVA1a	85648/VPB-05/VbU・85704,85711/VPB-05/VbL	口縁部	平縁・直立-角状	貼付帯1A+LR斜行縄文/RL斜行縄文	砂粒多量混入	口唇へラナデ調整痕有	
V-65-7	143-1-13	JP0478A	IVA1a	88336他5点/VPB-05/VbL	胴部下半~底部	外傾/外傾-隅丸角状-平底?	貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入		
V-66-8	143-1-14	JP0031C	I B3	87557/VPB-06/Vc・84413/W-22/Vc	口縁部	平縁・内湾-尖状	微隆起線文(水平構成)・短縄文	砂粒・石英多量混入	乾・小野・奈良2006。図II-27-2掲載土器と同一個体	
V-66-9	143-1-15	JP0031B	I B3	87538他8点/VPB-06/Vc・87571他1点/VPB-06/Vc・86471/V-21/VbL・86468他1点/V-22/VbL・84410/W-22/Vc	口縁~胴部下半	平縁・内湾-尖状/直立(上半)・外傾(下半)	微隆起線文(水平構成+縦位連結)・短縄文・RL斜行縄文	砂粒・石英多量混入	乾・小野・奈良2006。図II-27-2掲載土器と同一個体	
V-66-10	143-1-16	JP0481B	I B3	87472/VPB-07/VbL	口縁部	平縁・直立-尖状	RL斜行縄文・微隆起線文(水平構成)・短縄文	砂粒少量混入		
V-66-11	143-1-17	JP0481A	I B3	87420/VPB-07/VbL	胴部	直立	RL斜行縄文・微隆起線文	砂粒少量混入		
V-66-12	143-1-18	JP488A	VB1	119727他11点/VPB-08/Va・116905/Y-29/Va	口縁~底部	山形突起・直立-隅丸角状/外傾-隅丸角状-丸底	縄による刺突文・刻み/LR縦走縄文	砂粒・石英少量混入	外面・底部外面風化著	

表V-13 土器集中出土土器属性表(続き)

插图 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等 口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点-底面 山形突起・直立-隅丸角 状/外傾-隅丸角状-丸 底	文様		胎土	備考
							口唇-口縁-内面 /胴部-内面/底側面-底面-内面	縄による刺突文・刻み/LR縦走縄文 /LR縄文		
V-66-13	143-1-19	JP488B	VB1	119739他14点/VPB-08/Va・117230 他1点/Y-29/Va	口縁 ~底部	平縁・直立-隅丸角 状/外傾-隅丸角状-丸 底	口唇-口縁-内面 /胴部-内面/底側面-底面-内面	砂粒・石英少 量混入	外面・底部外面風化 著	
V-66-14	143-1-20	JP0473A	VIA2	122288,122314/VPB-09/VbL	口縁部	平縁・直立-内削切出し	LR斜行縄文-貼付帯IB?・OI繩端刺 突文・RL斜行縄文-RL斜行縄文	砂粒・軽石混 入	縄文施文後ナテ調整	
V-66-15	144-1-21	JP0477 A	VIA1a	123036他4点/VPB-10/VbU・ 123140他1点/AA-33/VbL	口縁~ 胴部上半	平縁・直立-内削切出し/ 直立	貼付帯1A+2段異原体羽状縄文/貼付 帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入		
V-66-16	144-1-22	JP0477C	VIA1a	123069/VPB-10/VbU	胴部下半	外傾	貼付帯2・重複縄文・RL斜行縄文	砂粒多量混入		
V-66-17	144-1-23	JP0477B	VIA1a	117248/AA-33/VbU	胴部下半	外傾	貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入		
V-66-18	144-1-24	JP0468A	VIA1a	123254/VPB-11/VbL	口縁部	平縁・直立-内削切出し	貼付帯1A+LR斜行縄文+RL繩線文 +OI円形刺突文	砂粒多量混入		
V-66-19	144-1-25	JP0468B	IVA1a	123351/VPB-11/Vc	胴部	外傾	貼付帯2・LR斜行縄文	砂粒多量混入		
V-66-20	144-1-26	JP0468C	IVA1a	123402/VPB-11/VbL	胴部下半	外傾	LR斜行縄文	砂粒多量混入		
V-66-21	144-1-27	JP0474 B	VIA1a	124294他3点/VPB-12/VbL・ 124357/VPB-12/Vc	胴部	直立	貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂礫多量混入		
V-66-22	144-1-28	JP0474	VIA1a	124300他5点/VPB-12/VbL	胴部下半	外傾	2段異原体羽状縄文	砂礫多量混入		
V-67-23	144-1-29	JP0301	VC1	76946他19点/III PB-49/IIIcL	胴部下半	外傾	LR横走縄文	砂粒微量混入	外面ミガキ顕著	

フレイク・チップ集中

フレイク・チップ集中は8カ所で検出された。帰属時期が想定されたものは5カ所あり、早期後半にVFCB-04・07、後期初頭にVFCB-03・05・08である。後期初頭のものはいずれも黒曜石のチップを主体としている。また、出土状態の垂直分布は皿状に窪んでおり、窪地にフレイク・チップを廃棄した可能性がある。特徴的なものとしてはVFCB-03で石斧製作に関連する遺物が出土していることが挙げられる。調査方法は基本的にすべて同じである。フレイク・チップのまとまりを検出した時点で、遺構名をつけ、遺物を残しながら全体を掘り下げて行き、まとまりが途切れた時点で、撮影を行った。遺物が密集して調査が困難な場合は随時トータルステーションで記録しながら取り上げた。一部、出土点数が多いものはフレイク・チップの広がりを記録した上で、土壌ごと一括して取り上げを行い、調査が円滑に進むように簡略化をはかった。各集中の出土位置・範囲等は表V-15に示し、以下の記載ではこれらを省略する。

VFCB-02 (図V-68)

T₂-T₁段丘崖に広がっている。これより上位の平坦面F-33区付近でフレイク・チップ集中を確認しており(乾・小野・奈良2006)、それが流れ込んだものと思われる。出土層位はVb層上位とまとまっている。出土したフレイク・チップは全て黒曜石で、中でも流紋岩小球顆を多く含むものが大半である。剥片石器もこの範囲中から7点出土しており、いずれもフレイク・チップ同様に流紋岩小球顆を多く含むことから、伴うものと思われる。剥片石器は図示した1を除きRF・UFに分類された。1はコンケーブ・スクレーパーで急角度な刃部をもつ。時期は不明である。

VFCB-03 (図V-68、図版95-3)

検出層位はVb層上位から下位にかけて最も多い、出土状態の垂直分布は図示していないが皿状になっている。フレイク・チップの他に礫が多量に出土しているが、この大半は緑色泥岩の破片であり、石斧製作の際の残片と思われる。フレイク・チップは大半が黒曜石のチップである。この範囲から、破損した石斧の未製品が3点出土しており、出土状況よりこの遺構に伴うものと思われる。このうち3の1点を図示した。出土状況から、石斧製作を行った場所か、石斧製作の残片を廃棄した場所と考えられる。出土状況より、後者の可能性が高いように思われる。3は緑色泥岩製の欠損した石斧である。擦り切り痕を両面に残している。折り取り面、擦り切り痕の稜、原石面にペッキングを施しているが、研磨はされていない。調整が粗いことから、未製品が折れたものと思われる。時期はこの周辺からは、中茶路式(IB3)と余市式(IVA1a)が僅かに出土しているのみで、検出層位からすると余市式で後期初頭頃のものと思われる。

VFCB-04 (図V-68、図版95-4)

検出層位はVb層上位から下位にかけて最も多い。フレイク・チップはすべて黒曜石で157点出土しており、そのうちの47点は被熱による発泡状態を確認できる。剥片石器は11点出土しているが、その内9点が被熱している。被熱しているものがまとまっているなどの傾向は特に見られない。礫も被熱しているものがある。また、たたき石もこの範囲から出土しており、これについては図V-77-19に掲載した。周辺には焼土等はなく、最も近いもので30m離れた場所でVc層検出のVF-08がある。剥片石器は石鏃、石錐、スクレーパー、RF・UFが出土しておりそのうちの3点を図示した。4~6は欠損後に被熱している。4・5は石鏃で欠損品であるが、細身で薄いことからポイント類A1に分類される。6は石錐で、機能部は断面三角形である。時期は4・5の石鏃の形態より早期と思わ

れる。

VFCB-05 (図版 95-5)

Vb 層下位で非常によくまとまって検出されている。出土状態の垂直分布は図示していないがきれいな皿状になっている。この中から土器も 49 点と多く出土しており、すべてIV群 A1 類 a 種の余市式である。資料の大半は黒曜石のチップである。帰属時期は検出層位、土器の出土状態から後期初頭と思われる。

VFCB-06

Vb 層下位で多く出土しているが、やや散漫な状態である。資料の大半は近接する VFCB-05 と同様黒曜石のチップである。帰属時期は VFCB-05 と異なり出土層位にバラツキが見られることから不明である。

VFCB-07

Vc 層で平坦に広がって出土しており、レベル差はほとんどない。このような検出状況のものはこれだけである。フレイク・チップはすべて黒曜石で、大半はチップである。また、8mほど離れた場所で同じく Vc 層検出の VF-08 がある。帰属時期は検出層位より中期後半と思われる。

VFCB-08 (図版 95-6)

Va~Vb 層下位で検出された。出土状態の垂直分布は図示していないが、一部遺物が乱れて浮き上がったような箇所が見られる。基本的には Vb 層下位でまとまっている。フレイク・チップはすべて黒曜石で、大半はチップである。帰属時期は土器の分布と検出層位より後期初頭と思われる。

VFCB-09

Vb 層下位~Vc 層で多く出土しているが、やや散漫な状態である。フレイク・チップはすべて黒曜石である。帰属時期は出土層位にバラツキが見られることから不明である。

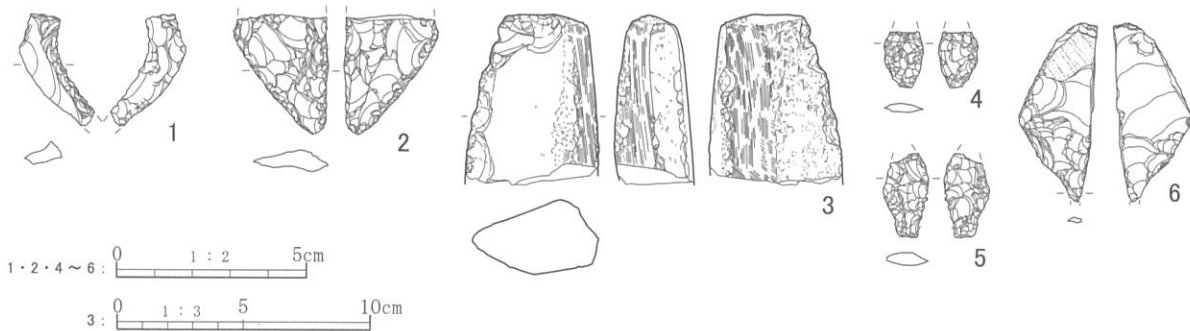


図 V-68 フレイク・チップ集中出土遺物

表V-14 フレイク・チップ集中出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
V-68-1	144-2-30		125006	ナイフ・スレイパ ^o -類	C2b	V	VFCB-02		29.7	10.0	5.1	2.1	Obs.	
V-68-2	144-2-31		71964	ナイフ・スレイパ ^o -類	C1a	VbU	VFCB-03		(33.3)	24.5	7.1	4.2	Obs.	
V-68-3	144-2-32		72437	石斧	C	VbU	VFCB-03		68.0	53.0	30.0	161.0	Gr-Mud.	
V-68-4	144-2-33		73142	ポイント類	C	Vc	VFCB-04		(14.7)	10.4	2.5	0.4	Obs.	被熱
V-68-5	144-2-34		73256	ポイント類	C	VbU	VFCB-04		(21.7)	12.2	3.3	0.8	Obs.	被熱
V-68-6	144-2-35		73214	石錐		VbL	VFCB-04		47.1	20.7	7.5	7.5	Obs.	被熱

表V-15 フレイク・チップ集中層位別出土点数一覧表

遺構名	グリッド	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	層位	FC	FT	S	ST	P	合計
VFCB-02	E-34・35、 F-34・35	長楕円形	368	172	V層	151	6	0	0	1	271
					Vb層上位	112	1	0	0	0	
					計	263	7	0	0	1	
VFCB-03	AD-15・ 16、AE-15・ 16	楕円形	352	300	V層	1,664	1	513	0	0	2,732
					Va層	13	0	0	0	0	
					Vb層上位	228	5	77	2	1	
					Vb層下位	168	0	23	1	0	
					Vc層	22	1	9	2	1	
					VI層	0	0	0	0	1	
計	2,095	7	622	5	3						
VFCB-04	AE-18・19、 AF-18・19	不整形	360	316	Vb層上位	69	3	5	0	0	177
					Vb層下位	56	4	1	1	0	
					Vc層	24	3	3	0	0	
					VI層	7	1	0	0	0	
					計	156	11	9	1	0	
VFCB-05	U-26、 V-25・26	円形	472	464	Vb層下位	562	3	19	2	49	635
					計	562	3	19	2	49	
VFCB-06	V-27・28	長楕円形	436	256	V層	26	0	0	0	0	276
					Vb層下位	176	4	4	0	14	
					Vc層	40	0	1	0	0	
					VI層	11	0	0	0	0	
					計	253	4	5	0	14	
VFCB-07	Z-26、 AA-26・27	楕円形	376	356	Vc層	157	1	7	0	1	166
					計	157	1	7	0	1	
VFCB-08	Z-13・14、 AA-13・14	円形	376	348	V層	55	1	0	0	0	274
					Va層	47	0	0	0	0	
					Vb層上位	67	0	0	0	0	
					Vb層下位	103	1	0	0	0	
					計	272	2	0	0	0	
VFCB-09	S-29	不整形	324	304	Vb層上位	5	0	0	0	0	334
					Vb層下位	156	0	5	0	2	
					Vc層	109	1	0	0	2	
					VI層	54	0	0	0	0	
					計	324	1	5	0	4	

※FT(剥片石器)、S(礫)、ST(礫石器)、P(土器)はフレイク・チップ集中の範囲内から出土したものの点数であり、これらが各集中に伴うかを示すものではない。

※V層としているものは、トータルステーションによって位置を記録したのではなく、一括して取り上げたものか、フローテーション作業で回収したものである

第6節 包含層出土の遺物

土器

土器は遺構出土のものも含めて6,212点が出土している。時期は縄文時代早期、中期～晩期のものが出土している。IV群A1類a種が最も多く、5,082点(81.8%)である。次にI群B3類が553点(8.9%)で、以下IV群A2類240点(3.9%)、V群B1類152点(2.4%)、III群B2類71点(1.1%)、V群C1類46点(0.7%)、I群B4類33点(0.5%)、IV群A1類c種19点(0.3%)、III群B1類10点(0.2%)、V群B2類1点(0.1%)の順である。分類不明は6点(0.1%)である。

各分類の記載は概略に留め、掲載土器の個別の詳細は表V-17を参照されたい。また、分布状況は図V-80～83、出土層位毎の出土点数は表V-16に示し、各分類の記載で補足を行っている。また、同一個体については、挿図番号の後ろに同一のアルファベットを付している。

包含層出土土器(図V-69～73、図版145～148)

I群B3類土器(3～20)

早期後半の中茶路式土器に相当するものである。分布状況は調査区全域に疎らに広がっている。出土層位はVb層下位～Vc層で最も多い。VI層での出土割合が他の分類に比べて極端に高くなっている。出土点数が多いことから、属性ごとに記載する。

器種：すべて深鉢形土器の破片と思われる。

器形：復元個体は得られなかったため、部位毎の特徴を示す。口縁は平縁のもの(3・5・14・17)と緩やかな波状のもの(13)が見られる。口縁部の傾きは直線的に外側に開くものが多い。13は内反しており、屈曲部の器厚が厚くなっている。口唇部形状はすべて尖状である。胴部は小破片であるが、多くは直線的に外側に開くものと思われる。16は胴部上半が直立気味で、底部に向かって急にすぼまる器形の変換部の破片と思われる。底部は平底で、角は丸味をもち、外側に直線的に開く器形である。

文様：多段に施される微隆起線文と、その間に文様を施すことを特徴としている。微隆起線文は幅が2～3mm程のものが多いが、幅が1mmに満たないもの(13・15)、幅は2～3mmあるが、低くやや不明瞭なもの(14)もある。微隆起線文間に施される文様は、縄文(3・4)、縄文と短縄文(5・6)、短縄文(7～13・14・16)、絡条体回転文・圧痕文(15)、第1種結束羽状縄文(17)、結節回転文(18)、自縄自巻の縄文(19)、無文(20)がある。4は微隆起線文の直下に沿って、深くて鋭角な爪形状の圧痕が施されている。19は底部内面にも器外面同様の自縄自巻の縄文が施されている。

胎土他：細粒砂を少量含み、堅く緻密なものが主体である。16は細粒砂とφ1mm以上の石英粒を多く含むもので、「仮称富良野盆地系土器」(乾・小野・奈良2006)と思われる。

I群B4類土器(21～25)

早期末葉の東釧路IV式土器に相当するものである。出土点数は少なく分布傾向等は不明瞭である。21は口唇断面形が丸状で、撚りの異なる原体を2本1組として撚糸圧痕文を4条施している。22は2本並列の撚糸文が羽状構成で施されている。23～25は同一個体片である。胴部片の23・24の外表面の色調は橙色で、底部近くの25はにぶい黄褐色を呈する。胎土は堅く緻密である。器表面は非常に平滑である。25はRLとLRの斜行縄文が縦位に羽状であることから、菱形構成を呈するものと思われる。胎土に繊維を含むものは出土していない。

Ⅲ群 B1 類土器 (26)

中期後半の天神山式に相当するものである。出土点数は10点と非常に少なく、分布の主体となるのは $T_4 \cdot T_3$ 面・ T_2 - T_3 段丘崖(乾・小野・奈良 2006)と思われる。26は棒状突起部片で、半截竹管で刺突文が施されている。破断面に空隙が見られることから、繊維が混入されていたと思われる。

Ⅲ群 B2 類土器 (27~30)

中期後半の柏木川式に相当するものである。Ⅲ群 B1 類同様分布の主体となるのは $T_4 \cdot T_3$ 面・ T_2 - T_3 段丘崖・段丘崖裾部(乾・小野・奈良 2006)で、 T_2 - T_3 段丘崖裾部と本報告の分布は連続するようである。27は口唇に半截竹管で刺突文が施され、器外面は絡条体回転文が施された後に、フレイクのような非常に細く鋭い工具で横位・縦位に沈線文を施している。28は(乾・小野・奈良 2006 図Ⅱ-37-88)と同一個体であるが、口唇に刺突文が施されていることが判る資料のため掲載した。30も(乾・小野・奈良 2006 図Ⅱ-37-89~91)と同一個体である。胎土はいずれも破断面で空隙が見られることから、繊維が混入されていたと思われる。

Ⅳ群 A1 類 a 種土器 (1・31~67)

後期初頭の余市式に相当するものである。分布は調査区東端と西端で薄く、中央部もブロック状に濃淡が見られる。出土層位はVb層上位~下位が最も多く出土している。「仮称富良野盆地系土器」(乾・小野・奈良 2006)がまとまった点数で出土しており、同一分類であるが分けて記載する。また、出土点数が多いことから、属性ごとに記載する。

器種：すべて深鉢形土器の破片である。

器形：復元個体は得られなかったため、部位毎の特徴を示す。口縁はすべて平縁で、口唇は平坦にナゲ調整が行われているものが多いが、口唇直下の貼付帯の接合面で段になっているもの(31・35・45)がある。口縁部の傾きは直立するもの(32・34・36~38・43・45・46)が主体で、やや外側に直線的に開くもの(31・35・39・40)があり、内湾するもの(42)が1点確認された。胴部は上半部が直線的に立ち上がり、下半部は直線的に外側に開くもの(1・47)が主体と思われ、小さな破片資料も同様の器形と思われる。底部は平底で、外反して立ち上がるもの(50)と直線的に外側に開いて立ち上がるもの(59)がある。

文様：貼付帯が口縁部から胴下半部まで多段に施され、貼付帯上とその間に斜行縄文を羽状に施すことを特徴としている。31~33はO I 円形刺突文を無文帯に施すものである。31は口唇直下の貼付帯が階段状になっており、1段目の貼付帯に重複縄文を施文後に2段目の貼付帯を貼り付けている。34~39・41・42は口唇直下に幅20~40mmを超える貼付帯が施されているもので、その下位に無文帯をもつもの(34~37)がある。41は31と同様に1段目の貼付帯に縄文施文後に2段目を貼り付けている。42は胴部に貼付帯は施されていない。43・45・46は口唇直下に幅20mm未満の貼付帯が施されているもので、その下位は43・45が無文帯で、46は鋸歯状に縄線文が施されている。47~59は胴部・底部の破片で、貼付帯が施されているものが主体である。51は一部に赤色の顔料が厚く付着し、縄の粒を埋めている。56は破片のため判然としないが、器面が段状となるものかもしれない。出土位置はⅣ群 A2 類タブコプ式の手と重なる。RL・LRの斜行縄文を施すものが主体で、無文のもの(55)、RLR・LRLの斜行縄文を施すもの(58)がある。59の底面は平滑で光沢があり磨き調整が行われたと思われる。

「仮称富良野盆地系土器」(60～67)

器種：すべて深鉢形土器の破片である。

器形：口唇は60・64が隅丸角状で上記のIV群A1類a種に見られなかった特徴である。61・62は角状である。口縁の傾きは直立か直線的に外側に開くものである。胴部は直立か、直線的に外側に開くものがある。底部は平底で角は張り出し、外反して立ち上がるもの(66)がある。

文様：口縁部はすべてO Iの円形刺突文が施されており、上記のIV群A1類a種と異なる。また、ナデ調整で無文帯を設ける特徴が見られる。60は口唇直下の貼付帯はなく、口縁のRL斜行縄文の直上・下は縄文施文後にナデ調整を行い無文帯となっている。直下の無文帯部に円形刺突文は施されている。61は口唇直下に幅の広い貼付帯を施すもので、胴部の貼付帯は多段となるが、RL斜行縄文のみ施されている。62は口唇直下の貼付帯上にRLの斜行縄文を施し、その上部をナデ調整によって無文帯としている。また、胴部貼付帯の直上を、篋状の工具で深くナデつけている。64は口唇直下に貼付帯はなく、20mm程下に貼付帯が施されている。その上下は無文帯となっている。また、口唇に地文同様のRL斜行縄文が施されている。胴部下半・底部片に貼付帯の施されているものは見られない。羽状縄文のものは67だけである。

胎土他：砂粒の他に $\phi 1$ mm以上の石英を多量に含む。色調は器内外面共に、明赤褐色か黒褐色に近い色調を呈する。

IV群A1類c種土器(68～71)

後期初頭の道南地方の天祐寺式に相当するものである。出土した19点は、すべて同一個体片と思われる。点数分布図(図V-82)から、広範囲に破片が散らばった様子が伺える。68～71はいずれも器壁が薄い。68は口縁部片で、貼付帯の幅は狭く、薄い。貼付帯上にはLRの斜行縄文が施されている。69・70の胴部破片はLRの原体を縦回転で施している。71は径が小さいことから底部付近の破片と思われるが、69・70と異なりLRの原体を横回転で施している。胎土に海綿骨針を含むことから搬入品と思われる。

IV群A2類土器(2・72～73)

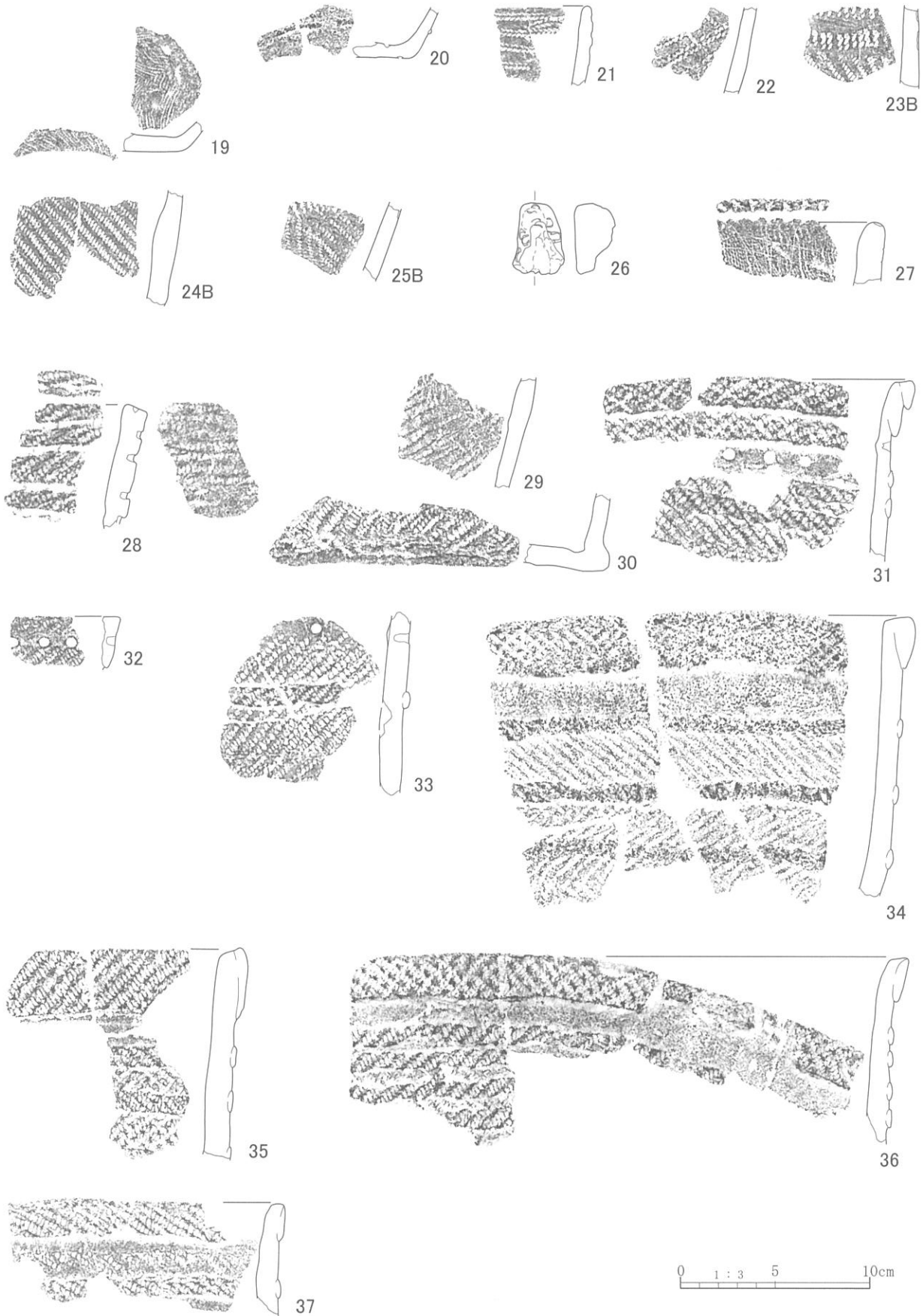
タブコブ式の古手に相当するものである。調査区西側の2ヵ所のブロックから出土しており、個体識別の際VPB-09を含めて4～6個体程確認している。出土資料の大半は径20mm程の小破片で、器内外面が剥落しているものも多く、まとまって出土しているが復元できたのは2の1個体のみである。2は口縁～胴部下半の破片と底部片を図上復元した深鉢形の土器である。器形は口縁部がやや内湾し、その直下の胴部から直線的にすぼまる。底径は口径の1/3程と小さい。器壁は胴部から口縁に向かって薄くなる。文様は口唇部・器外面・内面・底面に縄文が施されており、口唇部・器外面(口縁～胴下半部)・内面はRLの斜行縄文、器外面(底部側面)・底面はLRの斜行縄文が施されている。器外面は縄文施文後にナデ調整が行われている。胎土には砂礫が多量に含まれる。72は胴部片で、LRLの斜行縄文が施されている。73は底部片で、LRの斜行縄文が施されている。72・73も71同様に縄文施文後にナデ調整が行われている。

V群B1類土器(74)

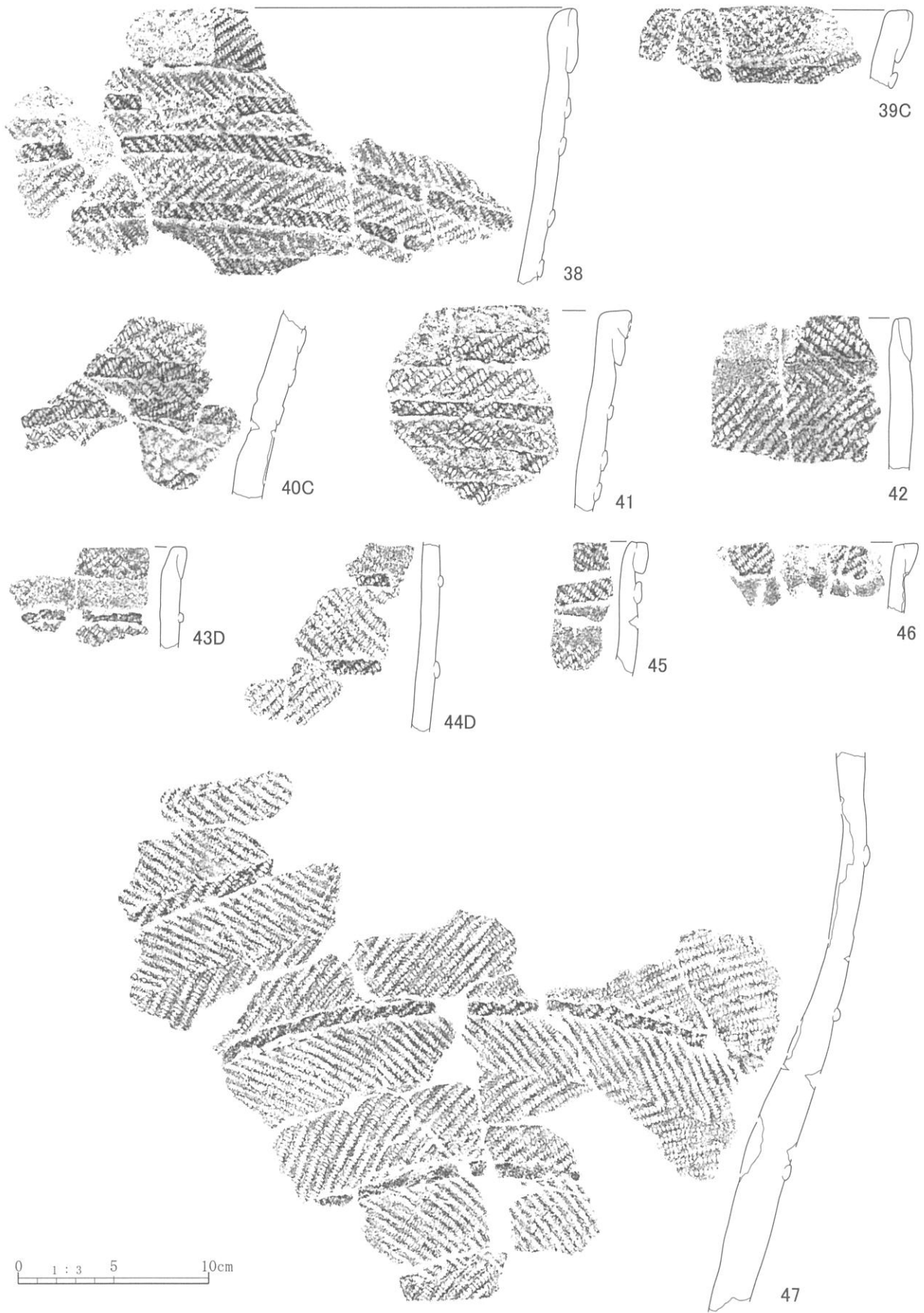
美々3式に相当するもの。74は深鉢形土器の破片で、口唇には棒状工具による斜位の刻みが施されている。口縁には縄線文が3条廻る。地文は縄線文と同一原体RLの斜行縄文が施されている。



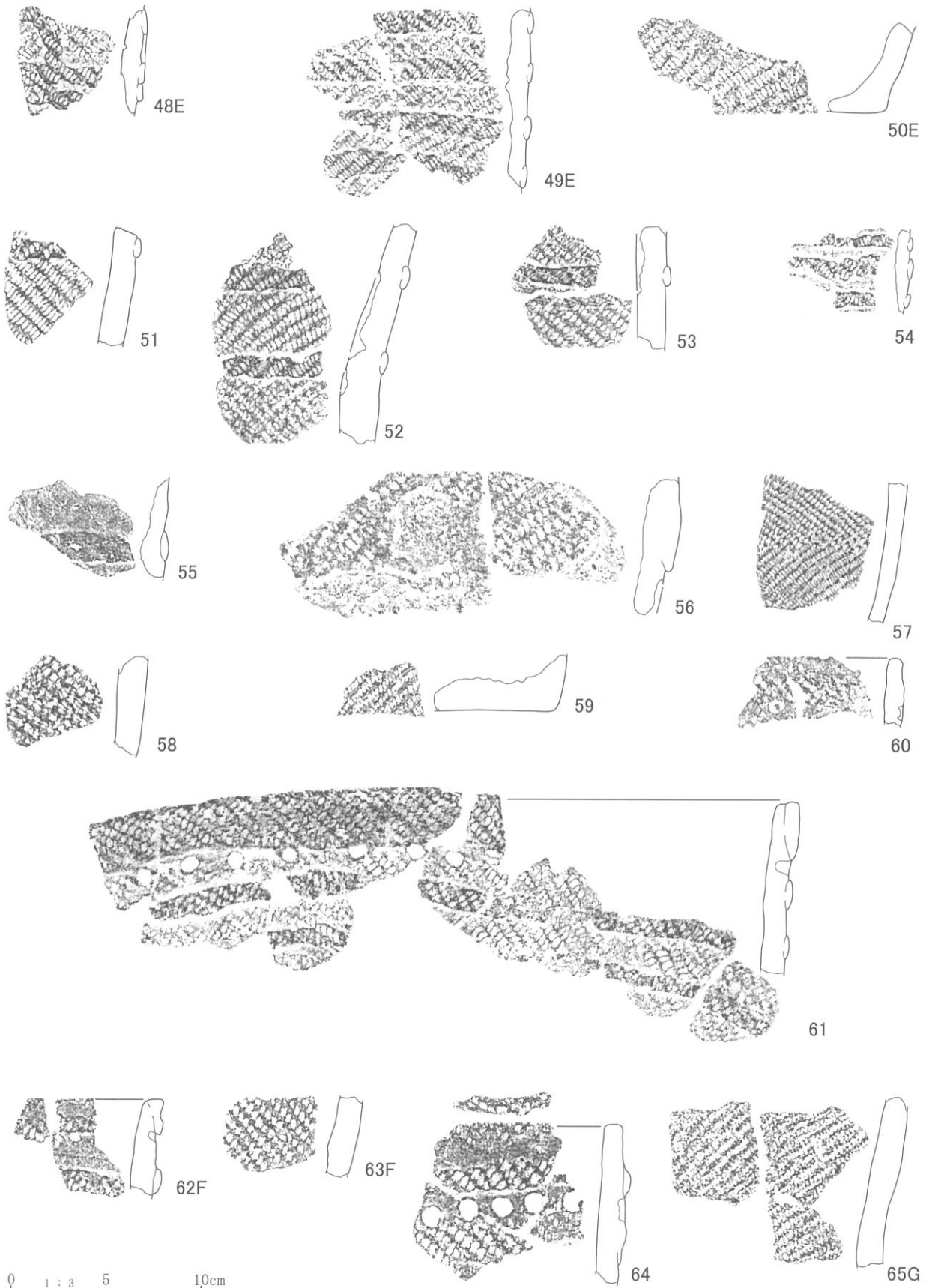
図V-69 縄文時代包含層出土土器 (1)



図V-70 縄文時代包含層出土土器(2)



図V-71 縄文時代包含層出土土器(3)



図V-72 縄文時代包含層出土土器(4)



図V-73 縄文時代包含層出土土器(5)

表V-16 縄文土器層位・分類別出土点数一覧表

分類	III				V				VI	遺構覆土・攪乱等	計
	b下位	c	c中位	c下位	a	b上位	b下位	c			
I B3					3	36	249	195	55	15	553
I B4						1	12	10	1	9	33
III B1							9	1			10
III B2	1					52	15	2		1	71
IVA1a	20	4		1	37	2,121	2,125	645	11	118	5,082
IVA1c					1	10	7	1			19
IVA2					1	54	177	8			240
VB1					138	7	6	1			152
VC1	2		4	40							46
不明					6						6
合計										6,212	

V群 C1 類土器 (75・76)

ママチⅢ・Ⅳ・Ⅴ群に相当するもの。共に、Ta-c層直上のⅢc層から出土している。75は口唇の形状は切り出し状で、棒状工具で縦に刻みが施され、口唇の平坦面に原体Lの圧痕文が2条施されている。76は破片資料のため文様構成等判然としないが、横に摘み出した突起下の両脇に、左右対称の縦長の突起を付し、その突起の中央に縦位の刻みを施すものと思われる。

V群 C2 類土器 (77)

大洞A・A'式に相当するもの。V群C1類同様Ⅲc層から出土している。1点のみの出土である。壺形土器の頸～肩部片と思われる。器表面は黒色で光沢がある。

V章出土土器 属性一覧表 注記

属性表記載において、下記の認識のもと行っているが、「部位」・「器形」・「胎土」の記載については、相対比較によるもので観察者の主観による。

[個体名称] 同一個体にアラビア数字、破片資料にアルファベットを付番した。

[分類] 「第I章 第6節 1. 土器」に記載している。

[器形等・文様] 各部位毎の形態を示した。「口縁」は口縁部器表面、「底部側面」は底部器表面、「変換点」は底側面と底面との状態を記載した。

[文様] 記載順序：部位の口縁～胴部は口縁部→胴部への記載順、部位の胴～底部は胴部→底部の記載順となっている。

記号：+は文様要素の重複施文 ・ 文様要素の複合ないしは充填構成等

文様要素

斜位短刻線：中茶路式の微隆起線文に付随する棒状工具等による圧痕。

2段異原体羽状縄文：擦りの異なる2段の原体 (RL・LR) による羽状縄文。

突引文：器面に対し施工工具が斜め方向に突き刺され、水平方向に連続して動く。文様の観察としては、圧痕が深く施文が連続している。

押引文：器面に対し施工工具が垂直方向に押しあてられ、水平方向に連続して動く。文様の観察としては、圧痕が浅く施文が連続している。

縄線文：器表面に対し、2段以上の縄原体の圧痕。

貼付帯 1A：口唇直下の幅広の貼付帯

貼付帯 1B：口唇直下の幅の狭い貼付帯

貼付帯 1C：口唇直下の貼付帯が階段状に2段重なっているもの

貼付帯 2：貼付帯 1 以外の胴部に往環する貼付帯

重複縄文：擦りの異なる原体を新旧重複して施文する。文様の観察としては、条が交差状に見られる。

表 V-17 縄文時代包層出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等		文 様		胎土	備 考
						口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点-底面	口縁-口唇-内面 /胴部-内面/底側面-内面				
V-69-1	145-1	JP0484A	VIA1a	87183/W-21/VbU・71851,71852/X-19/Va・87206他2点/X-19/Vbl・87260/X-19/Vc 71836他2点/Y-19/Va・71828他7点/Y-19/VbU・71830他17点/Y-19/VbL・73399他6点/Y-19/Vc・71841/Y-19/VI	胴部上半 ～ 下半	直立(上半)・外傾(下半)	貼付帯2・2段異原体羽状縄文		砂粒混入		
V-69-2	145-2	JP0489A	IVA2	122313/VPB-09/Vbl・91230,91235,91237,91240,91243/U-34/VbU・91533,91537,91547,91555/U-34/VbM・91573/U-34/VbL・他2点	口縁～ 底部	平縁・やや外傾-隅丸角 状/外傾/外反-隅丸角 状-平底	RL斜行縄文-RL斜行縄文-RL斜行縄文/RL斜行縄文-LR斜行縄文		砂粒多量混入		

表V-17 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等		文様		胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口縁-口唇-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面				
V-69-3	145-3	JP0491A	I B3	120511/AA-29/VbU・120948/AA-29/Vc	口縁部	平縁・やや外傾-尖状	微隆起線文・LR斜行縄文・RL斜行縄文	砂粒少量混入	内面横ナデ調整痕有		
V-69-4	145-4	JP0413A	I B3	71459/AC-16/VbU・71864/AC-16/VbL	胴部	やや外傾	微隆起線文(水平構成)+斜位短刻線文・LR斜行縄文	砂粒少量混入	内面斜めナデ調整痕有		
V-69-5	145-5	JP0420A	I B3	90700/VFCB-04/VbL	口縁部	平縁・直立-尖状	微隆起線文(水平構成+斜位連結)・RL斜行縄文・短縄文	砂粒混入・細粒石英微量混入	内面斜めナデ調整痕有		
V-69-6	145-6	JP0409A	I B3	62997/Z-18/Vc	胴部	やや外傾	微隆起線文(水平・波状?構成)・短縄文・LR斜行縄文	砂粒多量混入	内面横へラナデ調整痕有		
V-69-7	145-7	JP0411A	I B3	72069/Y-18/Vc	胴部下半	外傾	微隆起線文(水平構成)・短縄文	砂粒混入	内面横へラナデ調整痕有		
V-69-8	145-8	JP0431A	I B3	91023/TP-101/2・90725/U-40/VbL	口縁部	平縁・やや外傾-尖状	微隆起線文(水平・弧状構成+縦位連結)・短縄文	砂粒少量混入	内面横へラナデ調整痕有		
V-69-9	145-9	JP0431G	I B3	90256,90265/U-40/Vc	口縁部	波状縁?・やや外傾-尖状	微隆起線文(水平・弧状構成・斜位連結)・短縄文	砂粒少量混入	内面横へラナデ調整痕有		
V-69-10	145-10	JP0431B	I B3	90266/U-40/Vc・90719/U-40/VI	胴部下半	やや外傾	微隆起線文(水平・弧状構成)・短縄文	砂粒少量混入	内面横へラナデ調整痕有		
V-69-11	145-11	JP0431Q	I B3	90379/TP-101/1・90705/U-40/VbL	胴部下半	外傾	微隆起線文(水平構成)・短縄文	砂粒少量混入	内面横・斜めナデ調整痕有		
V-69-12	145-12	JP0406A	I B3	91298/VF-14/VbL・91287,91289,91290/U-38	胴部	外傾	微隆起線文(水平構成)・短縄文	砂粒少量混入	内面横ナデ調整痕有		
V-69-13	145-13	JP0405A	I B3	122040/Z-28/VbL	口縁部	波状縁・内湾-尖状	微隆起線文(波状・弧状?構成・縦位連結)・短縄文	砂粒少量混入			
V-69-14	145-14	JP0404A	I B3	89342/AB-23/VI・123222/X-39/Vc	口縁~胴上半部	平縁・直立-尖状/直立	微隆起線文(水平構成)・絡条体正痕文/微隆起線文(水平波状構成)・絡条体正痕文	砂粒少量混入	内面上部斜めへラナデ調整痕顯著		
V-69-15	145-15	JP0407A	I B3	122070/V-37/Vc	胴部	外傾	微隆起線文・絡条体回転文・絡条体正痕文	砂粒少量混入	内面横ナデ調整痕有		
V-69-16	145-16	JP0423A	I B3	88797/T-39/Vc	胴部下半	外傾	微隆起線文(水平構成+縦位連結)・短縄文	砂粒多量混入・石英(φ1mm以上)多量混入	仮称富良野盆地系		
V-69-17	145-17	JP0402A	I B3	87521他2点/S-21/VI・87094/S-22/VbL	口縁部	平縁・内湾-尖状	微隆起線文(水平構成)第1種結束羽状縄文	砂粒少量混入	内面横ナデ調整痕有		
V-69-18	145-18	JP0424A	I B3	64820/T-22/VbU	胴部下半	外傾	1段R斜行縄文+結節回転文	砂粒混入	内面横ナデ調整痕有		
V-70-19	145-19	JP0412A	I B3	73455/AE-18/Vc	底部	外傾-丸-平底	RL斜行縄文(自縄自巻)-RL斜行縄文(自縄自巻)	砂粒混入・白色透明鉱物混入			

表V-17 縄文時代包層出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等		文様	胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口縁-口唇-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面			
V-70-20	145-20	JP0403A	I B3	123374, 123375/AA-31/Vc	底部	外傾-丸-平底	微隆起線文(水平構成)無文	砂粒混入	底面平滑	
V-70-21	145-21	JP0414A	I B4	91434/U-35/Vc	口縁部	平縁・やや外傾-丸状	捺糸圧痕文2条1対(R・L原体)	砂粒少量混入	内・外面ナデ調整で平滑	
V-70-22	145-22	JP0417C	I B4	123177・123305/Z-33/Vc	胴部	やや外傾	捺糸2本並列(羽状構成)	砂粒多量混入		
V-70-23	145-23	JP0401B	I B4	122017/X-30/VbL	胴部上半	ほぼ直立	縄端圧痕文・RL斜行縄文	砂粒・繊維微量混入	内・外面ナデ調整で平滑	
V-70-24	145-24	JP0401A	I B4	123113/Z-33/VbU・120978/Z-30/VbL	胴部	やや外傾	RL斜行縄文	砂粒・繊維微量混入	内・外面ナデ調整で平滑	
V-70-25	146-25	JP0401C	I B4	120969/AB-30/VI	胴部下半	外傾	縄端圧痕文・RL斜行縄文・LR斜行縄文(菱形構成?)	砂粒・繊維微量混入	内・外面ナデ調整で平滑	
V-70-26	146-26	JP0438A	III B1	84422/W-22/VbL	口縁部	山形突起・直立	半截竹管刺突	砂粒・繊維少量混入		
V-70-27	146-27	JP0436A	III B2	90117/V-40/VbL	口縁部	平縁・直立-丸状	半截竹管刺突・沈線文・絡糸体回転文	砂粒・繊維微量混入	内面ナデ調整痕有	
V-70-28	146-28	JP0080U	III B2	87856/T-24/VbL	口縁部	波状縁・外傾-外削切出し	LR斜行縄文・刺突-LR斜行縄文・突引文-LR横走縄文	砂粒多量・繊維少量混入	乾・小野・奈良2006. 図II-37-88 掲載土器と同一個	
V-70-29	146-29	JP0437A	III B2	60468/Z-18/VbU	胴部下半	外傾	L斜行縄文	砂粒・繊維少量混入		
V-70-30	146-30	JP0074A	III B2	84517/V-21/VbU	底部	張り出し-角状-上げ底	LR斜行縄文	砂粒多量・繊維少量混入	乾・小野・奈良2006. 図II-37-89 ～91掲載土器と同	
V-70-31	146-31	JP0444A	IV A1a	84721他1点/X-23/VbU・84797/X-23/Vc・86448/X-23/VbL	口縁部	平縁・やや外傾-内削切出し	貼付帯1C+重複縄文・口縁部無文帯・OI円形刺突文/貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量・石英粒微量混入		
V-70-32	146-32	JP0443A	VI A1a	118257/V-27/VbL	口縁部	平縁・直立-角状?	貼付帯1A+RL斜行縄文+無文帯+OI円形刺突文	砂粒混入	口唇ナデ調整で平滑	
V-70-33	146-33	JP0453A	VI A1a	86298・86322/S-21/VbU・86293/S-21/VbL	胴部上半	直立	無文帯+OI円形刺突文・貼付帯2・LR斜行縄文	砂粒多量混入		
V-70-34	146-34	JP0440A	IV A1a	72998/Q-45/VbU	口縁部	平縁・直立-内削切出し/やや外傾	貼付帯1A+重複縄文・無文帯/貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入	外面風化著	
V-70-35	146-35	JP0445A	VI A1a	83915/S-24/VbU・88215/T-24/VbL・118623/W-28/VbL	胴部上半	平縁・やや外傾-内削切出し	貼付帯1A+LR斜行縄文・無文帯/貼付帯2・重複縄文	砂粒多量混入	口唇ナデ調整痕有	
V-70-36	146-36	JP0441A	VI A1a	117384他3点/W-29/VbL・11769/W-29/Vc・118494/W-35/Vc	胴部上半	平縁・直立-やや内傾の角状/直立	貼付帯1A+重複縄文・無文帯/貼付帯2+縦位連結・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入	口唇ナデ調整で平滑	
V-70-37	146-37	JP0442A	VI A1a	117224/Y-29/VbU・121672他1点/Y-29/Vc	口縁部	平縁・直立-角状	貼付帯1A+RL斜行縄文・無文帯・貼付帯2・RL斜行縄文	砂粒多量・石英微量混入	口唇ナデ調整で平滑	
V-71-38	146-38	JP0472A	VI A1a	89029/T-23/VbL・90349/U-31/VbL・90402/U-31/Vc・90142他1点/U-32/VbU・91213/U-33/Vc	口縁部	平縁・直立-内削切出し/やや外傾	貼付帯1A+LR斜行縄文/貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入		

表V-17 縄文時代包舎層出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等		文様		胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口縁-口唇-内面/胴部-内面/底側面-内面				
V-71-39	146-39	JP0222A	VIA1a	83931/S-24/VbU・47275,47276/R-24/VbL	口縁部	平縁・やや外傾・角状	貼付帯1A+重複縄文・貼付帯2・LR斜行縄文	砂粒多量混入	乾・小野・奈良2006。図II-39-144掲載土器と接合		
V-71-40	146-40	JP0222B	VIA1a	88236,89245,89250/T-24/VbL	胴部下半	外傾	貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入	口唇ナデ調整で平滑		
V-71-41	146-41	JP0470A	VIA1a	89937/S-29/VbU・88623/S-30/VbU・88672/S-36/VbL	口縁～胴部上半	平縁・やや外傾-角状/やや外傾	貼付帯1C+LR斜行縄文/貼付帯2・2段異原体羽状縄文				
V-71-42	146-42	JP0471A	VIA1a	118363/Z-27/VbU・120580他1点/Z-27/VbL	口縁～胴部上半	平縁・やや内傾-角状/直立	貼付帯1A+RL斜行縄文・無文帯/LR斜行縄文				
V-71-43	146-43	JP0446B	IVA1a	91056/U-29/IIIbL・122644/X-33/VbU	口縁部～胴部上半	平縁・直立-角状/直立	貼付帯1B+重複縄文・無文帯/貼付帯2・RL斜行縄文	砂粒多量混入	口唇ナデ調整で平滑		
V-71-44	146-44	JP0446A	IVA1a	90725/U-40/VbL・120791他1点/X-29/VbL・122965/X-34/Vc	胴部上半	直立(上半)・やや外傾(下半)	貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入			
V-71-45	146-45	JP0454A	VIA1a	72031/Y-20/VbL・88555/Y-21/Vc	口縁～胴部上半	平縁・直立-角状でやや外傾/直立	貼付帯1B+RL斜行縄文・無文帯/貼付帯2・LR斜行縄文	砂粒多量混入	口唇ナデ調整		
V-71-46	146-46	JP0469A	VIA1a	87148/S-22/Vc・72061/Y-18/VbU・71849/Y-19/VbU	口縁部	平縁・直立-角状でやや内傾	貼付帯1B+LR斜行縄文・無文帯+RL縄文(鋸歯状構成)	砂粒多量混入	口唇ナデ調整で平滑		
V-71-47	147-47	JP0447A	IVA1a	83212/S-28/VbU・89766他1点/T-29/VbU・89775/T-29/VbL・91004/TP-101/1・90300/U-27/VbL・90388/U-29/VbL・90391/U-29/Vc・91040/U-29/VbU・91051他2点/U-29/VbU・91051他2点/U-29/Vc	胴部上半～下半	直立(上半)・外傾(下半)	貼付帯2・2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入	内面剥落ち顕著、胎土分析資料MA19-5と同一個体片		
V-72-48	147-48	JP0458B	VIA1a	121211/AA-25/Vc	胴部	直立	貼付帯2+縦位連結・重複縄文	砂粒多量混入	内面全面剥落		
V-72-49	147-49	JP0458C	VIA1a	121232他4点/Z-25/VbL	胴部	直立	貼付帯2・重複縄文・LR斜行縄文	砂粒多量混入	内面全面剥落		
V-72-50	147-50	JP0458A	VIA1a	118005,118008/AA-25/VbU	底部	外傾 隅丸角状-平底	LR斜行縄文	砂粒多量混入	内面全面剥落		
V-72-51	147-51	JP0452A	VIA1a	122018/X-30/VbL	胴部下半	外傾	貼付帯2+2段異原体羽状縄文	砂粒混入	赤色顔料付着		
V-72-52	147-52	JP0450A	VIA1a	117077/V-28/VbU・118306/V-28/Vc	胴部下半	外傾	貼付帯2・2段異原体羽状縄文・重複	砂粒多量混入	内面剥落顕著		
V-72-53	147-53	JP0467A	VIA1a	68817/Y-33/VbL・123184/Y-33/Vc	胴部	直立	貼付帯2・付加糸縄文(RLにLを右・左巻き)・RL斜行縄文	砂粒多量混入	内面剥落顕著		
V-72-54	147-54	JP0475A	VIA1a	122630,122631/Z-33/VbU	胴部上半	直立	貼付帯2・無文帯・RL斜行縄文	砂粒多量混入	内面剥落		
V-72-55	147-55	JP0466A	VIA1a	122677/X-36/VbL	胴部	やや外傾	貼付帯2・無文				
V-72-56	147-56	JP0464A	IVA1a	119032/X-35/VbU・123013/X-35/Vc	胴部	やや外傾	段状積み上げ?・LR斜行縄文	砂粒多量混入	内・外面剥落		
V-72-57	147-57	JP0455A	VIA1a	87200/X-19/VbL	胴部	直立	2段異原体羽状縄文	砂粒多量混入			
V-72-58	147-58	JP0459A	VIA1a	85133/S-24/VbL	胴部	直立	3段異原体羽状縄文	砂粒多量混入			
V-72-59	147-59	JP0457A	VIA1a	62998/X-23/VbL	底部	やや外反 隅丸角状-平底	LR斜行縄文	砂粒多量混入	底面ミガキ調整(光沢有り)		

表V-17 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等		文様		胎土	備考
						口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口縁-口唇-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面				
V-72-60	147-60	JP0426A	VIA1a	84596/U-21/VbL・85115/U-22/VbL	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	無文帯・RL斜行縄文・O円形刺突文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面	砂粒少量・石英多量混入	仮称富良野盆地系	
V-72-61	147-61	JP0430H	IVA1a	88643/S-32/VbU・89708他2点/T-35/VbL・91242他1点/U-34/VbU・91427他1点/U-35/VbU・88691/U-35/VbL・91462他1点/U-35/VbL	口縁部 口縁部上半	平縁・直立-内削切出し	貼付帯1A+RL斜行縄文・O円形刺突文/貼付帯2・RL斜行縄文	貼付帯1A+RL斜行縄文・O円形刺突文/貼付帯2・RL斜行縄文	砂粒少量・石英多量混入	仮称富良野盆地系、胎土分析資料MA19-7と同一個体片	
V-72-62	147-62	JP0425A	VIA1a	87713/V-23/VbU・88111/V-23/VbL・84356/W-24/VbL	口縁部	平縁・やや外傾-角状	貼付帯1A+無文帯+RL斜行縄文・無文帯+O円形刺突文・貼付帯2・RL斜行縄文	貼付帯1A+無文帯+RL斜行縄文・無文帯+O円形刺突文・貼付帯2・RL斜行縄文	砂粒少量・石英多量混入	仮称富良野盆地系	
V-72-63	147-63	JP0425B	VIA1a	87379/V-23/VbU	胴部	外傾	RL斜行縄文	RL斜行縄文	砂粒少量・石英多量混入	仮称富良野盆地系	
V-72-64	147-64	JP0429A	VIA1a	118482/V-35/VbU・121897/V-35/Vc・121389/V-36/VbL・	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	RL斜行縄文・無文帯・貼付帯2+RL斜行縄文・無文帯+O円形刺突文・RL斜行縄文	RL斜行縄文・無文帯・貼付帯2+RL斜行縄文・無文帯+O円形刺突文・RL斜行縄文	砂粒少量・石英多量混入	仮称富良野盆地系	
V-72-65	147-65	JP0428A	IVA1a	112346/Y-29/Vc・119943/Y-30/VbU・120549/Z-29/VbU	胴部下半	外傾	外傾	LR斜行縄文	砂粒少量・石英多量混入	仮称富良野盆地系	
V-73-66	147-66	JP0428B	IVA1a	120919/Y-29/VbL	底部	外反-隅丸角状-平底	LR斜行縄文	LR斜行縄文	砂粒少量・石英多量混入	仮称富良野盆地系	
V-73-67	148-67	JP0460A	VIA1a	121326/W-36/VbL	胴部	やや外傾	2段異原体羽状縄文	2段異原体羽状縄文	砂粒少量・石英多量混入	仮称富良野盆地系	
V-73-68	148-68	JP0433C	IVA1c	89712/T-35/VbL	口縁部	平縁・直立-内削切出し	LR斜行縄文-貼付帯1B+LR斜行縄文(横位回転)/無文帯・貼付帯2+LR斜行縄文(横位回転)	LR斜行縄文-貼付帯1B+LR斜行縄文(横位回転)/無文帯・貼付帯2+LR斜行縄文(横位回転)	砂粒多量・海綿骨針少量混入		
V-73-69	148-69	JP0433A	IVA1c	119903/X-32/VbU	胴部	やや外傾	LR斜行縄文	LR斜行縄文(縦位回転)	砂粒多量・海綿骨針少量混入		
V-73-70	148-70	JP0433B	IVA1c	91562/U-34/VbM・120980/Z-30/Vc	胴部	やや外傾	やや外傾	LR斜行縄文(縦位回転)	砂粒多量・海綿骨針少量混入		
V-73-71	148-71	JP0433G	IVA1c	91478/T-34/VbL	胴部下半?	やや外傾	やや外傾	LR斜行縄文(横位回転)	砂粒多量・海綿骨針少量混入		
V-73-72	148-72	JP0463A	IVA2	120735/V-33/VbL・122399/V-33/Vc	胴部	やや外傾	やや外傾	LR斜行縄文・施文後ナゾ調整	砂粒多量混入		
V-73-73	148-73	JP0461A	VIA2	88796/T-39/VbL	底部	外反-隅丸角状-平底?	LR斜行縄文・施文後ナゾ調整	LR斜行縄文・施文後ナゾ調整	砂粒多量混入		
V-73-74	148-74	JP0432A	VB1	89791他11点/S-29/VbU・91105/S-29/VbU・90366,90368,90373/S-29/VbL	口縁部 胴部上半	小波状縁・直立-角状/やや外傾	斜位刻み-RL縄線文/RL斜行縄文	斜位刻み-RL縄線文/RL斜行縄文	砂粒少量混入	内面横ナゾ調整痕有	
V-73-75	148-75	JP0303A	VC1	60647/Y-22/IIIcM・60282/AC-27/IIIcM	口縁部	平縁・直立-角状やや外傾	捺糸圧痕文+縦位刻み-RL斜行縄文	捺糸圧痕文+縦位刻み-RL斜行縄文	砂粒微量混入	内面横ナゾ調整痕有	
V-73-76	148-76	JP0302A	VC1	64311/V-31/IIIbL	胴部	外傾	突起・刻み	突起・刻み	砂粒少量混入		
V-73-77	148-77	JP0305A	VC2	64384/U-31/IIIbL	肩部	内反	無文(ミガキ調整)	無文(ミガキ調整)	砂粒極微量混入		

剥片石器(図 V-74~76、図版 149~151)

ここで扱うものは、IV層 (Ta-c) より下位から出土したものである。上位のⅢ層から縄文晩期後葉の土器が僅かながら出土しており、縄文時代の剥片石器が出土している可能性はある。しかし、Ⅲ層の主体は続縄文時代であり、層位等でこれを分けることは困難であることから、Ⅲ層出土のものは一括して続縄文時代の項で扱っている。

包含層、遺構出土のものを含めて 638 点が出土している。このうち半数以上は RF・UF である。包含層出土のもの 53 点を図示したが、RF・UF は図化していない。

ポイント類

石鏃 (1~12)

包含層から 73 点が出土している。細分の内訳は A1 類 7 点、A2 類 20 点、A3 類 36 点、A4 類 10 点である。1・2 は A1 類細身で薄手のもので、1 は基部を僅かに欠損しているが、五角形を呈するものと思われる。2 は平基無茎である。3~6 は A2 類無茎のもので、基部が直線的な平基のもの (3・6) と、基部が内湾する凹基のもの (4・5) がある。3 は側縁も直線的であり、三角形を呈する。7~9 は A3 類で明瞭な茎部をもつものである。10~12 は A4 不明瞭な茎部をもつものに相当する。12 は身部に比べて茎部は幅が広く厚い。また身部の調整は茎部に比べ極端に粗くなっており、先端部を欠損した石槍を再加工したものではないかと思われる。石材は図示した頁岩製の 4 を除き、72 点が黒曜石製である。

石槍 (13~29)

包含層から 48 点が出土している。内 2 点が接合し、47 点である。石槍で先端部を欠損しているものは殆どないことが特徴の 1 つとして挙げられる。細分の内訳は B1 類 30 点、B2 類 17 点である。13~24 は B1 類明瞭な茎部をもつものである。14~17 は Y-34 区の Vc 層で一括して出土したもので、VFTB-01 として取り上げた。いずれも調整加工は粗い。18・19・22 は身部に比べて茎部の幅が広く、また厚くなっており、身部の両側縁は内湾している。18・19・22 の類は先端部が欠損したものを再加工したものかもしれない。前述のように先端部を欠損した資料がほとんど見られないことから、可能性は高いと思われる。24 は基部側縁に僅かに角礫面を残す。25~28 は B2 類である。菱形のもの (25・26) と木葉形のもの (27・28) がある。29 は両面に一次剥離面を大きく残し、先端は丸くなり右側面は平坦で打面となっいることから、未製品である。石材は図示した頁岩製の 20 を除き、すべて黒曜石製である。13 は灰色の球顆が散在し、剥離によって球顆は割れることなく、面から突出する特徴をもつもので、豊泉産のものと思われる。豊泉産のものは肉眼鑑定でも十分な成果が得られる (西田・立川他 1994) と言われている。また、近隣では苫小牧市柏原 17 遺跡で、豊泉産のものを素材とした剥片石器が確認されている。(赤石 2002)

欠損品

ポイント類の内、破片のため石鏃・石槍に分類できなかつたものが包含層から 35 点出土している。図化したものはない。大半は先端部か基部の破片で小形のものである。石材はすべて黒曜石である。13 のような石質のものが 1 点あり、これも豊泉産のものと思われる。

石錐 (30・31)

包含層から 10 点出土している。細分による内訳は A 類とした剥片の一部に機能部を作出したもの 1 点、B 類とした柄と機能部の区別が明瞭なもの 8 点、E 類とした他石器からの転用品と思われるも

の1点である。30はA類で被熱後の剥片を素材としている。31はB類で機能部の磨滅は著しい。E類は図化していないが石槍を転用したもので機能部が磨滅している。石材はすべて黒曜石である。

ナイフ・スクレーパー類

つまみ付きナイフ (32~35)

包含層から9点出土している。内訳はA1類8点、A2類1点である。32・33・35はA1類である。32・35は縦形で、33は横形である。35は縦長剥片につまみの加工はあるが、刃部は殆ど作出されていない。34はA2類で片面を全面に加工を施すもので、右側縁は急角度になっている。石材はすべて黒曜石である。

スクレーパー類 (36~49)

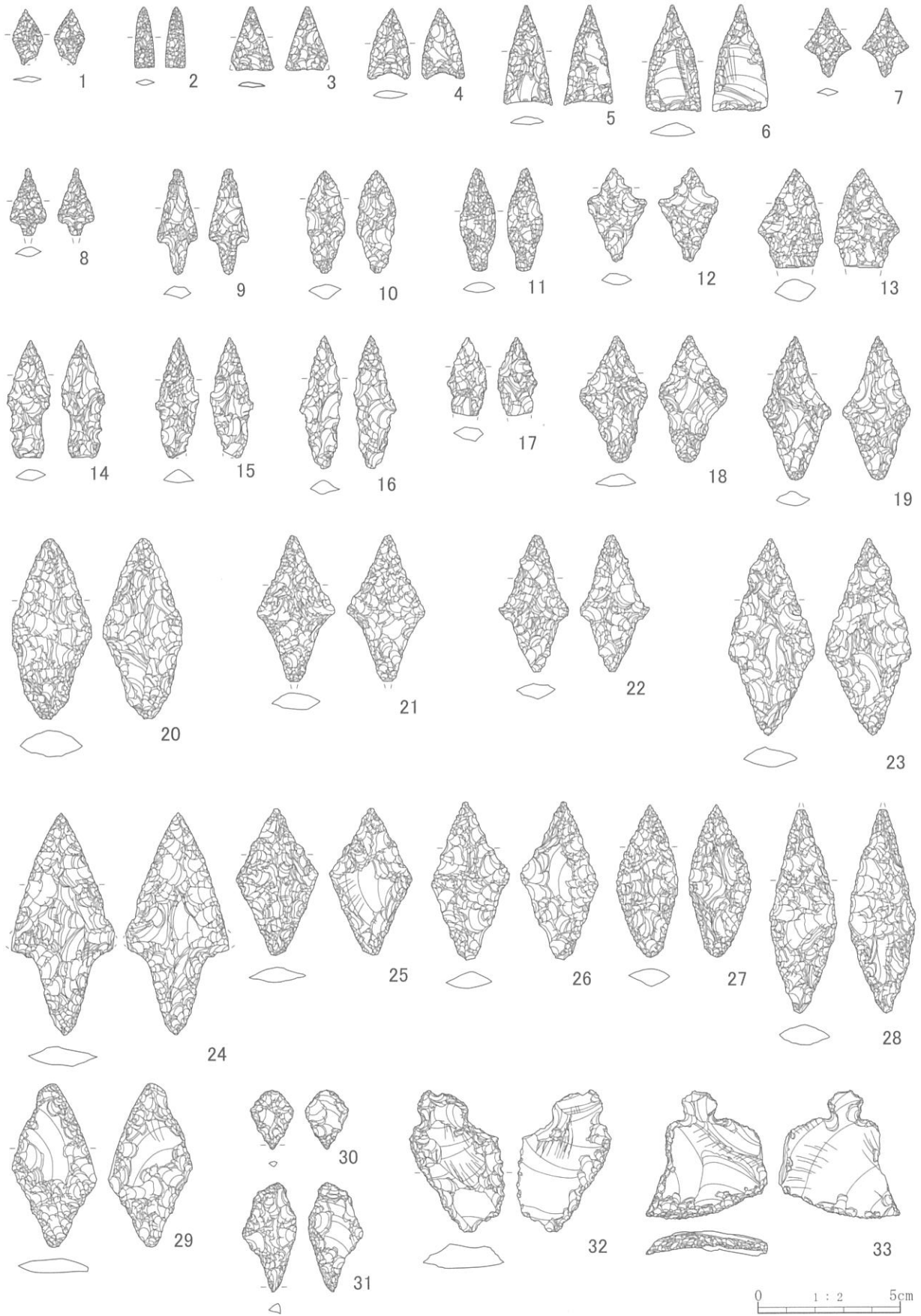
包含層から78点出土している。内訳はB2類エンド・スクレーパー3点、C1類サイドスクレーパー49点、C2類コンケープ・スクレーパー12点、C3類抉入石器3点である。36はB2類である。下端部に急角度の刃部が作られている。37~44はC1類である。37は石刃様の縦長剥片の両側縁に簡単な調整を行い刃部としている。38の両側縁は急角度な刃部が作られている。42は形態が石槍に似るが、尖端部が作られおらず、調整加工が粗いことからここに含めた。両側縁の下側に連続した刃部調整が見られる。43は横長の剥片を素材とし、一側縁に調整を施す。44は転礫面を大きく残すもので、大きく湾曲している。45~47はC2類である。45は左側縁が緩く内湾しており、刃部は急角度である。46は両側縁、47は右側縁が内湾しており、共に転礫面を大きく残す。48・49はC3類である。両側縁の対向する位置に抉りを設ける特徴的な形態のものである。共に原石面を残し、抉り以外にも、周縁の一部を調整している。この他にもう1点出土しており、出土層位はVb層下位、Vc層、VI層からそれぞれ出土している。近郊では苫小牧市ニナルカ遺跡等(大泉他 1997)、やや離れて深川市納内6丁目付近遺跡(越田・葛西他 1989)で同様のものが異形石器として報告されており、ニナルカ遺跡では縄文時代早期中葉~後葉の土器に伴うとされている。出土層位から見ても早期のものと思われる。I群B3類中茶路式かI群B4類東釧路IV式土器に伴うものと思われる。石材は図示した43がメノウで、その他にもう1点メノウがあり、その他はすべて黒曜石である。

ピエス・エスキーユ (50・51)

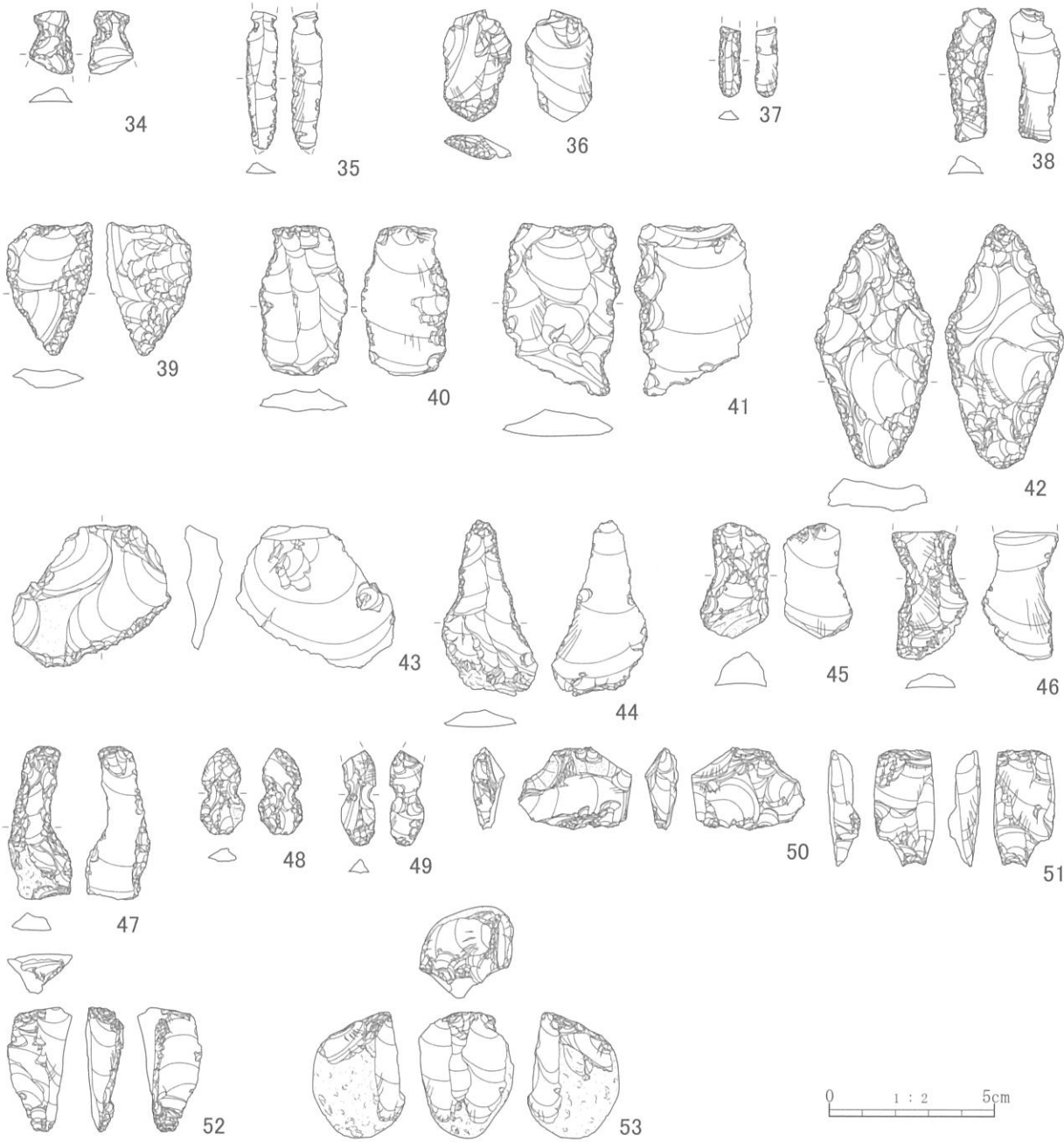
包含層から5点出土している。50は両端に階段状の剥離が顕著である。51は両側縁に槓状剥離面を残し、上端に階段状の剥離が見られる。縦断面形は紡錘状である。石材はすべて黒曜石である。

石核 (52・53)

包含層から16点出土している。52は残核で、上下で打面転移が行われている。53は転礫面を大きく残している。打面は2カ所設けられている。平坦な打面を作出し連続的に剥片剥離しており、その際若干の打面調整を行っている。石材はすべて黒曜石である。



図V-74 縄文時代包含層出土剥片石器(1)



図V-75 縄文時代包含層出土剥片石器(2)

表V-18 縄文時代包含層出土剥片石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
V-74-1	149-1	—	86190	ポイント類	A1	Vc	—	V-22	19.2	10.3	1.8	0.5	Obs.	
V-74-2	149-2	—	62996	ポイント類	A1	Vc	—	X-18	21.4	6.9	1.9	0.3	Obs.	
V-74-3	149-3	—	123160	ポイント類	A2	Vc	—	AB-32	22.4	(15.4)	2.4	0.6	Obs.	
V-74-4	149-4	—	78269	ポイント類	A2	VbL	—	AC-22	25.0	15.1	2.8	0.9	Sh.	
V-74-5	149-5	—	120508	ポイント類	A2	VbU	—	AA-29	35.2	17.2	3.3	1.5	Obs.	
V-74-6	149-6	—	86371	ポイント類	A2	VbL	—	S-21	37.2	19.1	4.0	2.5	Obs.	
V-74-7	149-7	—	86185	ポイント類	A3	VbL	—	V-21	24.3	15.9	3.7	0.8	Obs.	
V-74-8	149-8	—	71539	ポイント類	A3	VbL	—	AC-14	(23.6)	12.7	3.5	0.7	Obs.	
V-74-9	149-9	—	90220	ポイント類	A3	VbL	—	S-29	37.0	14.1	5.9	1.8	Obs.	
V-74-10	149-10	—	88726	ポイント類	A4	VbU	—	T-33	36.0	13.5	5.8	2.3	Obs.	
V-74-11	149-11	—	72694	ポイント類	A4	VbL	—	Y-19	36.0	12.1	4.5	1.6	Obs.	
V-74-12	149-12	—	116934	ポイント類	A	VbU	—	Z-25	32.6	20.4	5.7	2.4	Obs.	
V-74-13	149-13	—	120380	ポイント類	B1	Vc	—	V-31	(34.7)	22.5	8.7	5.3	Obs.	
V-74-14	149-14	—	123191	ポイント類	B1	Vc	VFTB-01	—	41.4	15.1	5.5	2.8	Obs.	
V-74-15	149-15	—	123190	ポイント類	B1	Vc	VFTB-01	—	42.1	15.0	5.3	2.4	Obs.	
V-74-16	149-16	—	123193	ポイント類	B1	Vc	VFTB-01	—	46.8	14.9	6.7	3.0	Obs.	
V-74-17	149-17	—	123192	ポイント類	C	Vc	VFTB-01	—	27.5	14.1	5.3	1.5	Obs.	
V-74-18	149-18	—	116885	ポイント類	B1a	VbU	—	V-26	44.3	23.7	5.7	4.1	Obs.	
V-74-19	149-19	—	88169	ポイント類	B1a	VbL	—	T-23	50.3	23.9	6.6	4.9	Obs.	
V-74-20	149-20	—	117513	ポイント類	B1a	VbU	—	Z-31	63.7	27.8	8.7	15.5	Sh.	
V-74-21	149-21	—	89560	ポイント類	B1	VbL	—	Y-21	(57.0)	27.2	7.9	6.1	Obs.	
V-74-22	149-22	—	87023	ポイント類	B1b	VbU	—	T-22	47.6	24.1	6.7	4.3	Obs.	
V-74-23	149-23	—	120793	ポイント類	B1b	VbL	—	X-29	69.0	29.8	8.1	10.4	Obs.	
V-74-24	150-24	—	79911	ポイント類	B1b	VbM	—	O-41	78.2	(36.3)	8.2	13.5	Obs.	
V-74-25	150-25	—	71605	ポイント類	B2	VbU	—	W-31	51.1	29.1	6.3	5.9	Obs.	
V-74-26	150-27	—	120909	ポイント類	B2	VbL	—	Y-28	54.5	26.7	7.7	6.8	Obs.	
V-74-27	150-26	—	84693	ポイント類	B2	VbL	—	X-23	53.1	21.4	8.0	6.8	Obs.	
V-74-28	150-28	—	117236	ポイント類	B2	VbU	—	Y-29	(71.5)	23.7	7.5	10.0	Obs.	
V-74-29	150-29	—	117976	ポイント類	C	VbU	—	X-34	57.1	29.5	6.3	7.8	Obs.	
V-74-30	150-30	—	78198	石錐	A	VbL	—	Y-24	20.7	1.5	3.4	0.8	Obs.	
V-74-31	150-31	—	88002	石錐	B	VbL	—	AE-21	38.3	19.1	6.0	3.8	Obs.	
V-74-32	150-32	—	123320	ナイフ・スクレイパー類	A1	Vc	—	X-35	50.5	29.3	10.0	12.3	Obs.	
V-74-33	150-33	—	122435	ナイフ・スクレイパー類	A1	VbU	—	Z-32	25.5	42.7	5.3	10.3	Obs.	
V-75-34	150-34	—	72083	ナイフ・スクレイパー類	A2	Vc	—	Y-18	(18.4)	13.4	4.5	1.1	Obs.	
V-75-35	150-35	—	117616	ナイフ・スクレイパー類	A5	VbU	—	Z-31	41.7	9.2	3.9	1.3	Obs.	
V-75-36	150-36	—	91049	ナイフ・スクレイパー類	B2	VbU	—	U-29	33.2	20.6	5.5	3.6	Obs.	
V-75-37	150-37	—	90542	ナイフ・スクレイパー類	C1a	Vc	—	T-27	(21.4)	6.5	3.1	0.5	Obs.	
V-75-38	150-38	—	91212	ナイフ・スクレイパー類	C1a	VbU	—	U-33	41.1	14.6	5.4	3.0	Obs.	
V-75-39	150-39	—	122058	ナイフ・スクレイパー類	C1a	Vc	—	X-27	39.6	25.4	8.1	6.9	Obs.	
V-75-40	151-40	—	122945	ナイフ・スクレイパー類	C1a	VbL	—	Y-37	44.6	26.7	11.5	10.1	Obs.	
V-75-41	151-41	—	60483	ナイフ・スクレイパー類	C1a	VbU	—	AA-18	51.8	35.0	8.2	16.2	Obs.	
V-75-42	151-42	—	118180	ナイフ・スクレイパー類	C1a	VbL	—	W-27	74.0	36.4	1.2	24.3	Obs.	
V-75-43	151-43	—	120542	ナイフ・スクレイパー類	C1a	VbU	—	Z-30	44.8	38.6	10.8	16.8	Aga.	
V-75-44	151-44	—	119886	ナイフ・スクレイパー類	C1b	VbU	—	AB-27	54.6	23.6	6.9	7.8	Obs.	
V-75-45	151-45	—	90069	ナイフ・スクレイパー類	C2	Vc	—	T-28	34.6	19.2	10.5	6.5	Obs.	
V-75-46	151-46	—	122013	ナイフ・スクレイパー類	C2	VbL	—	X-31	(38.5)	19.0	5.0	4.2	Obs.	
V-75-47	151-47	—	119858	ナイフ・スクレイパー類	C2	VbU	—	AB-29	45.8	17.5	6.7	4.9	Obs.	
V-75-48	151-48	—	91529	ナイフ・スクレイパー類	C3	Vc	—	S-25	26.2	12.7	4.8	1.4	Obs.	
V-75-49	151-49	—	87882	ナイフ・スクレイパー類	C3	VbL	—	S-25	(28.8)	10.4	3.9	1.1	Obs.	
V-75-50	151-50	—	124427	ピース・エスキュー		Va	—	Y-15	33.50	24.00	8.4	6.7	Obs.	
V-75-51	151-51	—	122052	ピース・エスキュー		Vc	—	X-28	35.2	29.9	24.1	5.6	Obs.	

表V-18 縄文時代包含層出土剥片石器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
V-75-52	151-52	—	121340	石核	—	VbL	—	W-36	37.0	20.7	11.2	5.0	Obs.	
V-75-53	151-53	—	72500	石核	—	VbL	—	Y-19	35.2	18.0	7.5	28.5	Obs.	

礫石器(図V-76~79、図版 152~154)

剥片石器同様、IV層(Ta-c)より下位から出土したものをここで扱う。包含層、遺構出土のものを含めて327点が出土している。

石斧(1~8)

包含層から44点出土している。このうち8点が接合しており40点である。また15点は未製品である。1は刃部と側面に研磨整形を施しているもので、原石面を大きく残している。粗割りによる剥離や、敲打による整形の痕跡は見られない。非常に小形のもので、石材は砂岩であり、これに類するものは他に出土していない。2・3はやや小形のものである。刃部の平面形は直線的で、片刃である。粗割りによる剥離を側縁にそって残すが、ほぼ全面を研磨している。2は青色片岩製、3は角閃岩製である。4はVb層下位とVc層で出土した2点が接合したものである。この2点は直線距離で58m離れていたものである。平面形は楕円形に近く、横断面形は扁平である。刃部は両刃である。周縁付近には細かい単位で研磨整形時の稜を残している。被熱後に破損している。石材は蛇紋岩である。形態・石材等特徴的なものであり、これに類する資料は深川市納内6丁目付近で集中区8としている中から、中茶路式土器にもなって出土している。(越田・葛西他 1989) また、資料の実見はしていないが静川5遺跡2号土坑墓で注口のある中茶路式土器と共に、類するものが2点出土している。(大泉他 1997) 5は擦り切り痕を残すもので、刃部の平面形はやや丸くなっており、片刃である。6は粗割りの剥離と、敲打整形痕を残している。5・6は緑色泥岩製である。7・8は未製品である。7は両側縁から剥離による整形が行われており、一部研磨が行われている。8は周縁に剥離整形を行った後で、側縁に敲打整形を施している。8も7同様に下端部付近の面に研磨痕を残す。7・8は緑色泥岩製である。石斧石材の鑑定は斜里町知床博物館学芸員合地信生氏に御指導頂いた。石材は図示したものを含め緑色泥岩27点、角閃岩5点、青色片岩3点、泥岩3点、蛇紋岩1点、砂岩1点である。石材ごとの形態・出土層位の傾向は、緑色泥岩のものは未製品・完形品の点数がともに多く、大半はVb層上位~下位にかけて出土している。角閃岩、青色片岩は小形のものも多く、未製品は出土していない。大半はVb層上位からの出土である。

たたき石(9~23)

包含層から145点出土している。所謂くぼみ石を含め、素材礫の形状と敲打痕の位置で細分を行っているが、82点は破損品で細分は行えなかった。IA1類に9・10があり、共に敲打面は深く窪んでいる。11・12はIA2類、13~15はIA3類である。16はIB1類で、4面に窪む敲打痕がある。17・18はIB2類で、19・20はIB3類である。19は面に鼠歯状痕が見られ、ストーン・リタッチャーと思われる。これはVFCB-04で出土している。21はIIA2類、22はIIB2類である。23はIIIB類である。石材は図示した10・19が泥岩で他に2点、緑色泥岩は12の図示した1点、蛇紋岩は23の図示した1点で、それ以外は砂岩である。

擦石 (24~27)

包含層から 20 点出土している。24~26 は A 類とした断面三角形のもので、他に 14 点出土している。25 は 3 ヲ所の稜にすり面がある。すり面の幅は 22 mm と 10 mm である。27 は B 類とした断面形が楕円のもので、他に 2 点が出土している。石材は 1 点が閃緑岩であるほかは、すべて砂岩である。

砥石 (28~35)

包含層から 57 点が出土している。所謂四面砥石は出土していない。28 は小形のもので、正面と、両側面、下端面に研磨面を有する。研磨は各面の長軸方向になされている。29 は正面と側面に見られる。側面は 5~6 つの単位に分かれており、断面形が幅の広い U 字形を呈しており、石鋸として利用された可能性が高い。T₃ 面 (乾・小野・奈良 2006) からも同様のものが出土している。30 は 3 面に研磨面を有する。31~35 は片面か、両面に研磨面を有する。35 は幅の広い研磨面の中に、幅 2 mm に満たない、溝状の研磨面を数条持つ。断面は U 字状である。石材はすべて砂岩製である。

台石・石皿 (36~38)

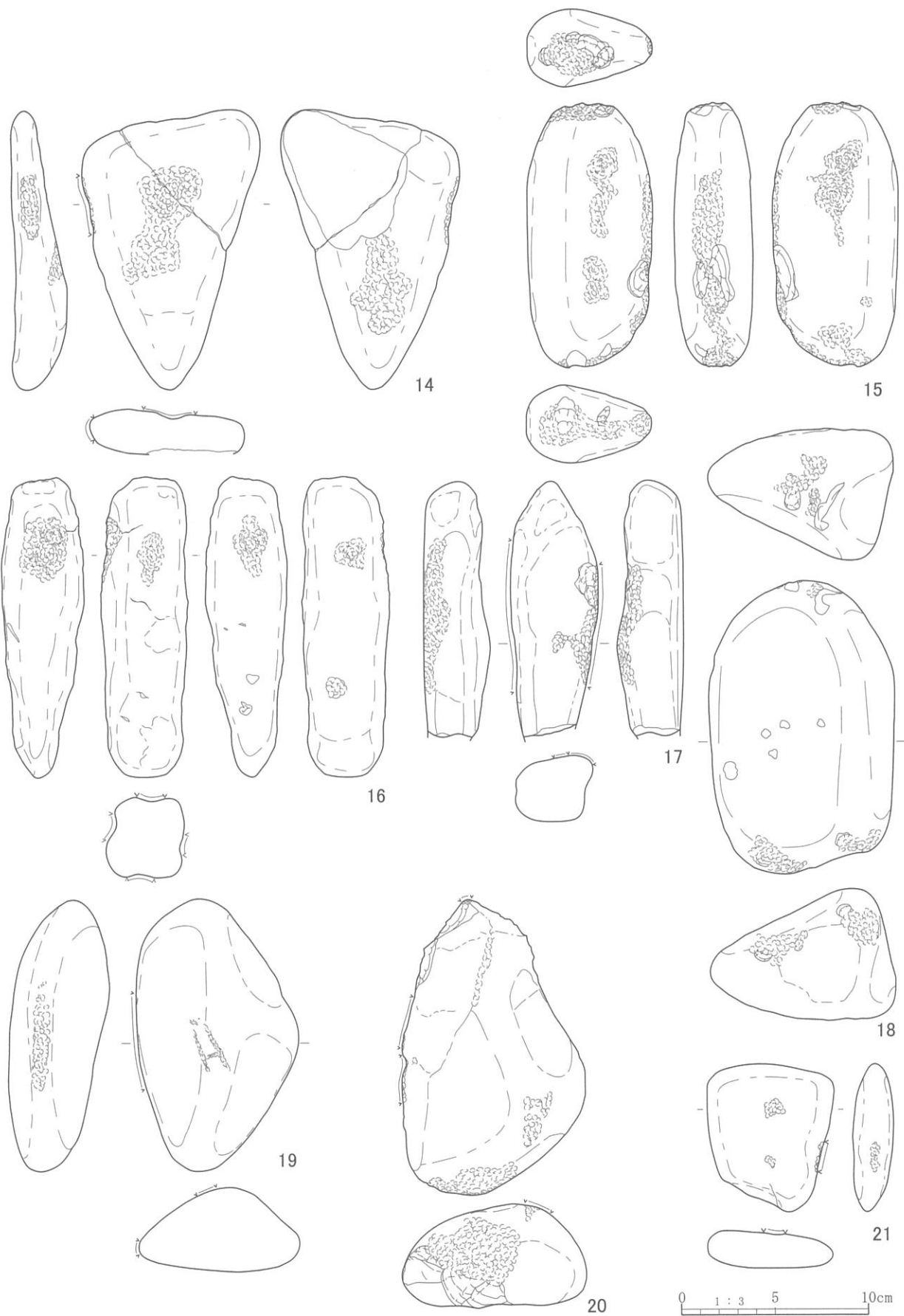
包含層から 26 点出土している。36 は平坦な面に敲打痕を持つ。37 は表面の緩やかな稜の部分に敲打痕をもち、裏面の平坦な面に擦痕を残す。38 は非常に大型のもので、重量は 19 kg を超す。表面の平坦面に擦痕を残す。石材はすべて砂岩製である。

石製品 (図 V-79、図版 154)

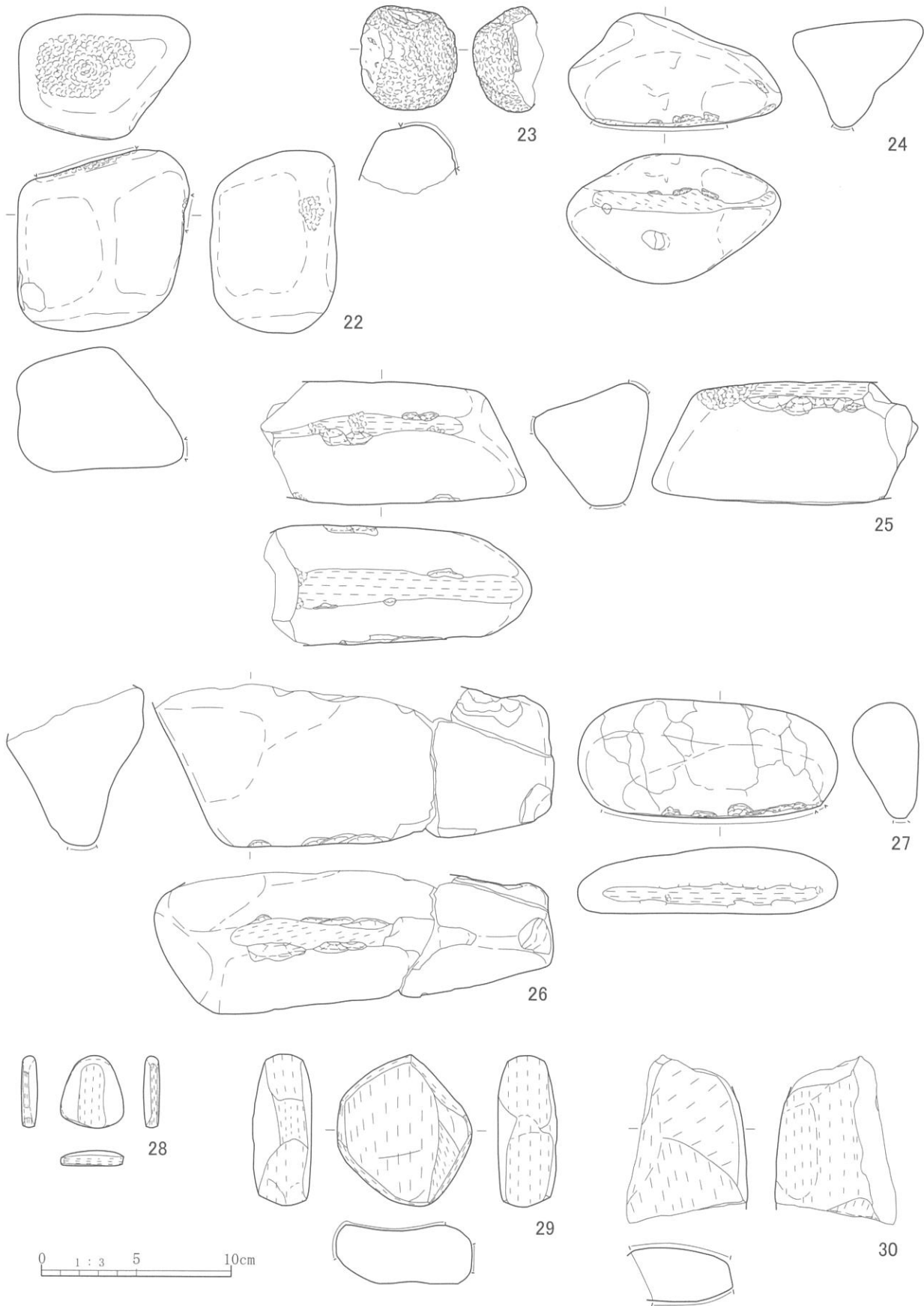
包含層から 2 点出土している。出土層位は共に III c 層から出土である。39・40 は垂飾である。出土層位からは縄文時代晩期後葉、続縄文時代の可能性があるが、どちらの土器の分布ともややずれていることから、出土状況からの判別は困難である。39 は上端が欠損しており、全体の形状は不明である。両面から穿孔されており、表面は丁寧に磨かれているが、下端面は擦痕を明瞭に残す。石材は蛇紋岩と思われる。色調は緑色系である。40 も上端が欠損している。両面から穿孔されており、全面光沢を持ち、擦痕が観察できないほど丁寧に磨かれている。



図V-76 縄文時代包含層出土礫石器(1)



図V-77 縄文時代包含層出土礫石器(2)



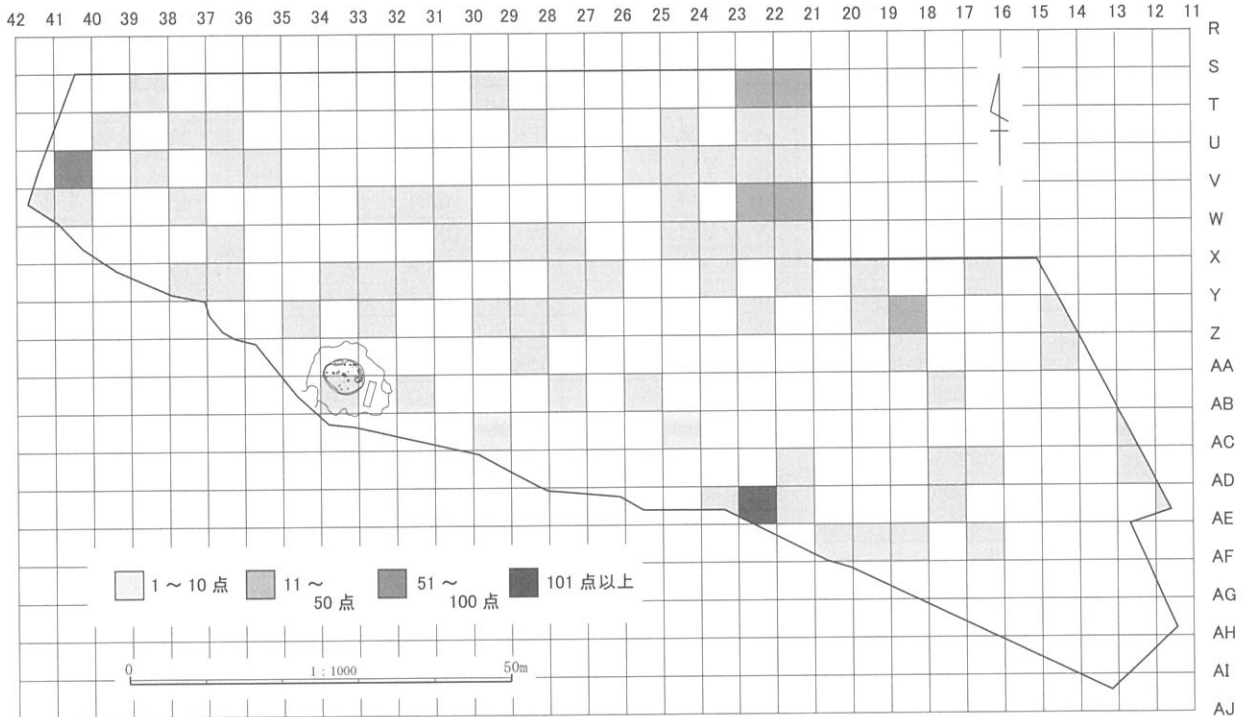
図V-78 縄文時代包含層出土礫石器(3)



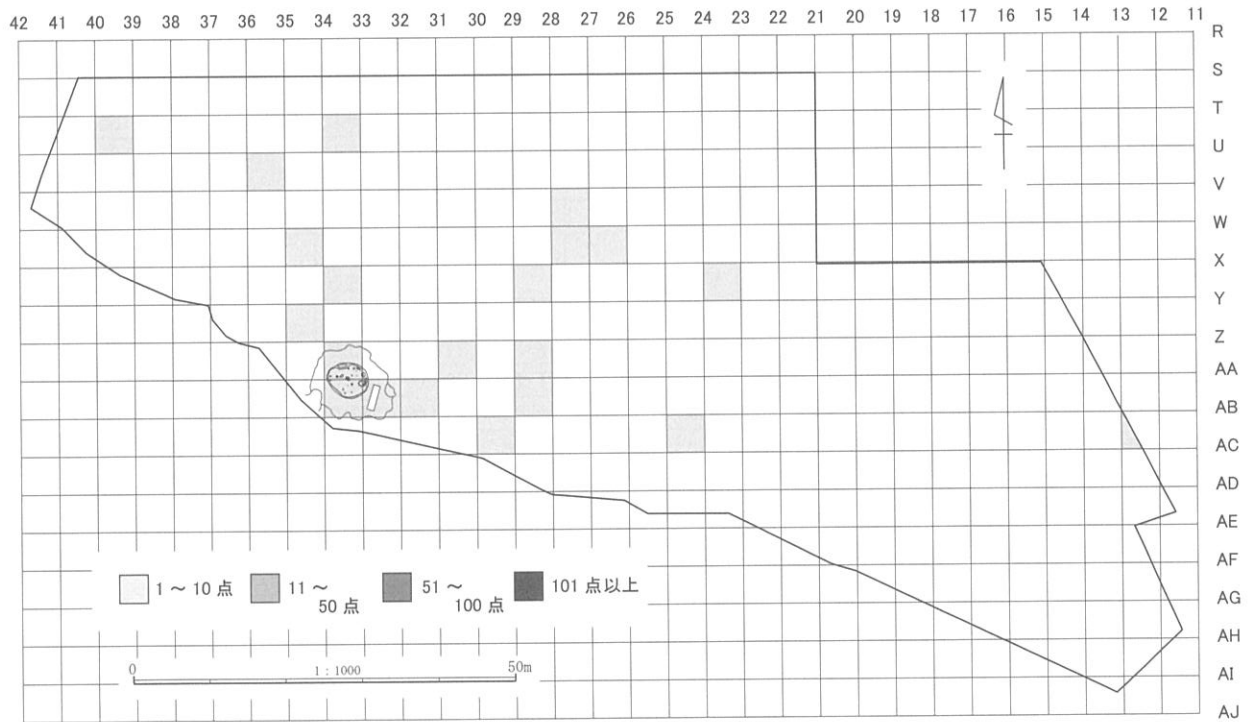
図V-79 縄文時代包含層出土礫石器(4)

表V-19 縄文時代包含層出土礫石器・石製品属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
V-76-1	152-1	—	60485	石斧	A	VbU	—	AA-18	51.0	32.7	1.1	24.4	Sa.	
V-76-2	152-2	—	88749	石斧	A	VbU	—	T-33	61.3	28.3	8.6	25.8	Bl-Sch.	
V-76-3	152-3	—	67511	石斧	A	VbU	—	T-33	73.5	28.6	10.7	37.3	Amp.	
V-76-4	152-4	—	121869	石斧	A	VbL	—	V-39	103.4	58.0	14.3	146.4	Ser.	
V-76-5	152-5	—	71736	石斧	A	VbL	—	W-30	(100.0)	39.1	15.7	99.3	Gr-Mud.	
V-76-6	152-6	—	123189	石斧	A	Vc	—	Y-34	138.6	42.1	21.1	215.0	Gr-Mud.	
V-76-7	152-7	—	123353	石斧	B	Vc	—	Y-34	103.7	42.4	16.8	119.1	Gr-Mud.	
V-76-8	153-8	—	90314	石斧	B	VbU	—	U-27	155.0	54.4	27.3	300.0	Gr-Mud.	
V-76-9	153-9	—	85110	たたき石	I A1	VbL	—	U-22	122.0	57.0	32.0	310.0	Sa.	
V-76-10	153-10	—	121920	たたき石	I A1	Vc	—	V-35	164.0	62.0	23.0	490.0	Mud.	
V-76-11	153-11	—	118166	砥石	I A2	VbU	—	AB-26	159.0	110.0	33.0	760.0	Sa.	
V-76-12	153-12	—	87223	たたき石	I A2	VbU	—	X-19	132.0	50.0	27.0	230.0	Gr-Mud.	
V-76-13	153-13	—	117296	たたき石	I A3	VbU	—	Y-31	130.0	59.0	28.0	245.0	Sa.	
V-77-14	153-14	—	73336	たたき石	I A3	VbL	—	AE-18	149.0	96.0	27.0	390.0	Sa.	
V-77-15	153-15	—	85090	たたき石	I A3	VbU	—	U-22	141.0	68.0	42.0	565.0	Sa.	
V-77-16	153-16	—	122994	たたき石	IB1	Vc	—	X-34	160.0	47.0	44.0	440.0	Sa.	
V-77-17	153-17	—	123992	たたき石	I B2	VbL	—	Y-16	136.0	47.0	35.0	290.0	Sa.	
V-77-18	153-18	—	120921	砥石	III B2	VbL	—	Y-29	157.0	99.0	70.0	1330.0	Sa.	
V-77-19	153-19	—	73273	たたき石	I B3	VbL	VFCB-04		146.0	87.0	50.0	845.0	Mud.	
V-77-20	153-20	—	83182	たたき石	II B3	VbU	—	S-28	160.0	97.0	54.0	1020.0	Sa.	
V-77-21	153-21	—	89186	たたき石	II A1	VbU	—	T-24	80.0	68.0	21.0	150.0	Sa.	
V-78-22	153-22	—	117244	たたき石	II A1	VbU	—	AA-33	96.0	90.0	64.0	770.0	Sa.	
V-78-23	153-23	—	71389	砥石	III B1	III bL	—	S-28	55.0	51.0	37.0	155.0	Ser.	
V-78-24	154-24	—	124446	擦石	A	VI	—	AA-13	113.0	61.0	68.0	370.0	Sa.	
V-78-25	154-25	—	122034	擦石	A	Vc	—	AA-29	120.0	65.0	63.0	635.0	Sa.	
V-78-26	154-26	—	90393	擦石	A	Vc	—	U-29	211.0	86.0	73.0	925.0	Sa.	
V-78-27	154-27	—	89312	擦石	B	Vc	—	AD-21	66.0	138.0	36.0	360.0	Sa.	
V-78-28	154-28	—	90108	擦石	C	VbU	—	V-40	38.0	33.0	8.0	15.0	Sa.	
V-78-29	154-29	—	90332	砥石	—	VbL	—	U-27	79.0	71.0	31.0	220.0	Sa.	石鋸?
V-78-30	154-30	—	86228	砥石	—	VbL	—	W-23	64.0	89.0	28.0	180.0	Sa.	
V-79-31	154-31	—	84674	砥石	—	Va	—	X-24	107.0	156.0	28.0	560.0	Sa.	
V-79-32	154-32	—	88048	砥石	—	VbL	VPB-05		120.0	75.0	27.0	285.0	Sa.	
V-79-33	154-33	—	87054	砥石	—	VbU	—	W-23	135.0	102.0	25.0	400.0	Sa.	
V-79-34	154-34	—	88769	砥石	—	Vc	—	S-38	219.0	149.0	45.0	1800.0	Sa.	
V-79-35	154-35	—	88753	砥石	—	VbL	—	T-33	228.0	163.0	49.0	2900.0	Sa.	
V-79-36	154-36	—	71567	台石・石皿	—	VbU	—	W-29	200.0	127.0	66.0	3000.0	Sa.	
V-79-37	154-37	—	83256	台石・石皿	—	VbU	—	S-28	262.0	158.0	108.0	5500.0	Sa.	
V-79-38	154-38	—	124246	台石・石皿	—	Vc	—	AC-12	455.0	330.0	86.0	19100.0	Sa.	
V-79-39	154-39	—	71394	垂飾	—	IIIcU	—	AE-18	(29.6)	19.2	8.2	6.7	Ser.	
V-79-40	154-40	—	57142	垂飾	—	IIIbL	—	AG-13	(99.2)	87.6	5.0	5.3	Ser.	

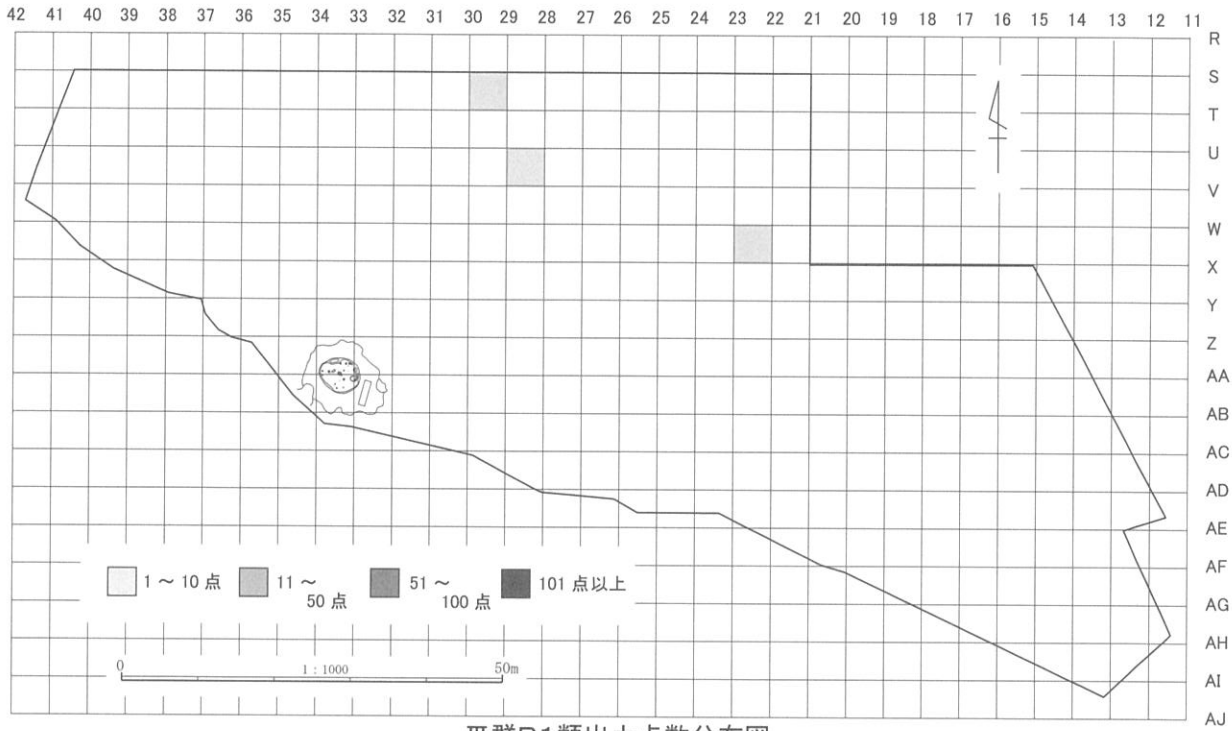


I 群B3類出土点数分布図

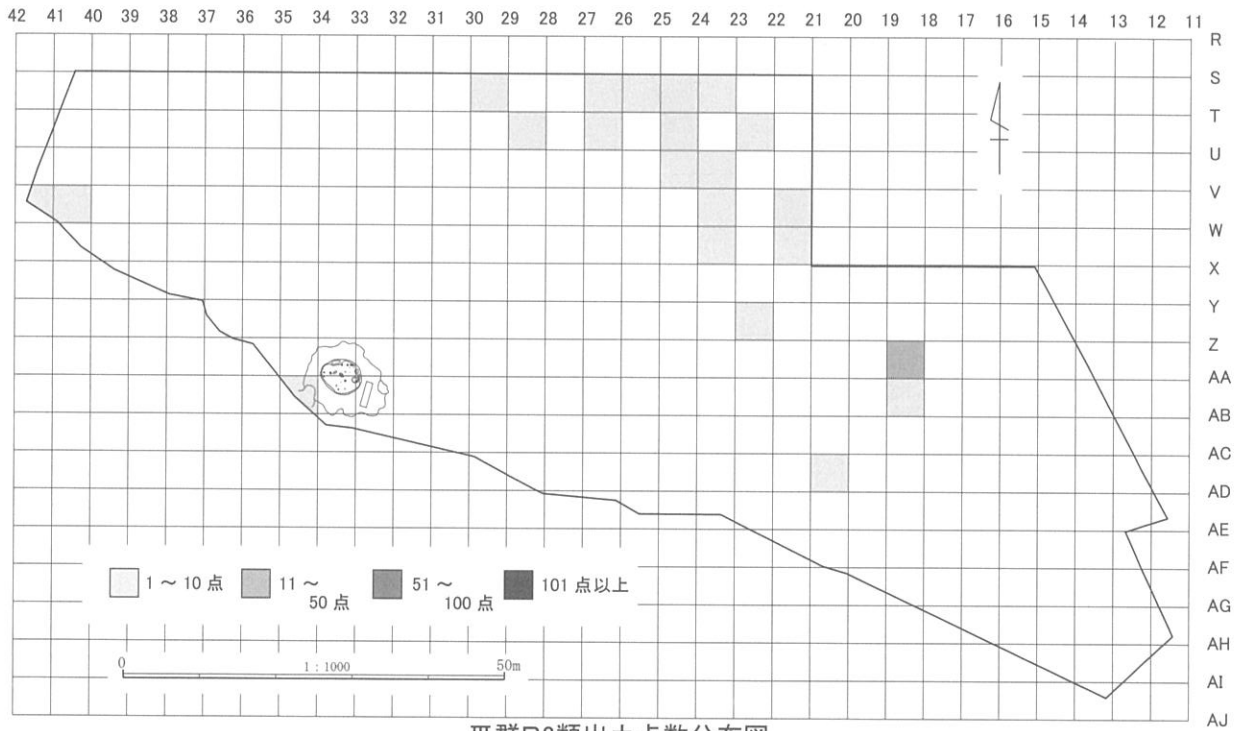


I 群B4類出土点数分布図

図V-80 縄文土器数量分布図(1)

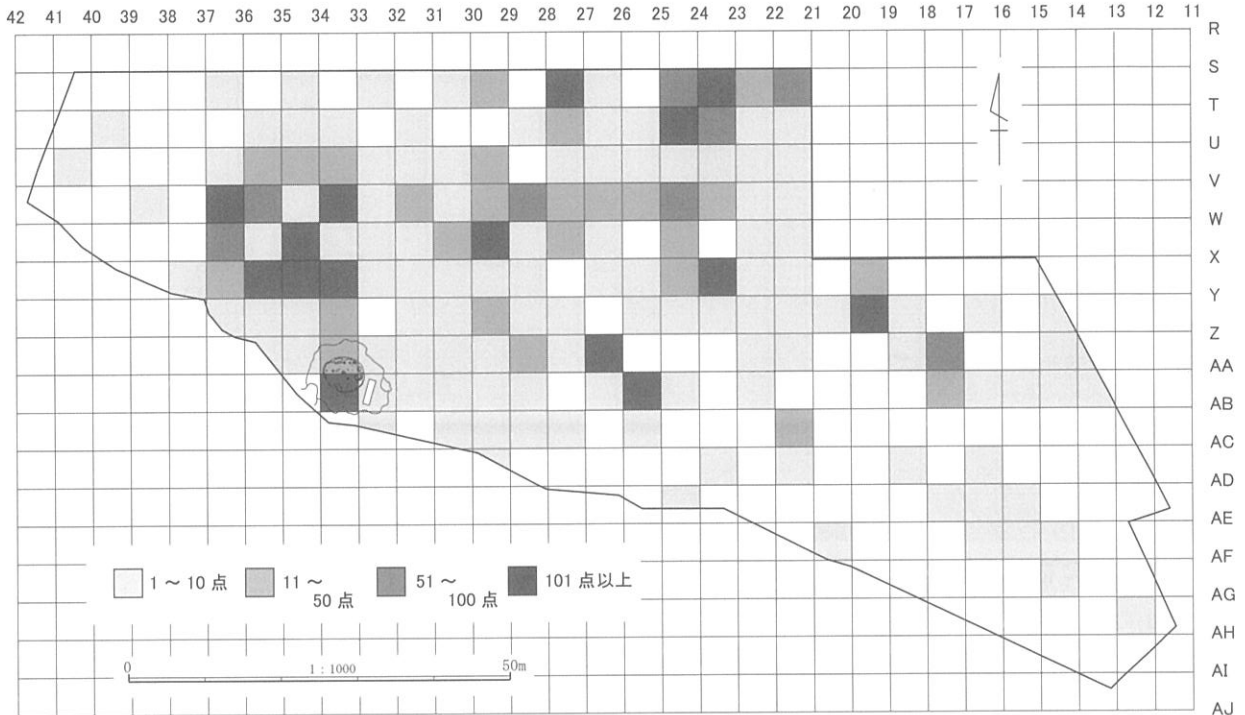


Ⅲ群B1類出土点数分布図

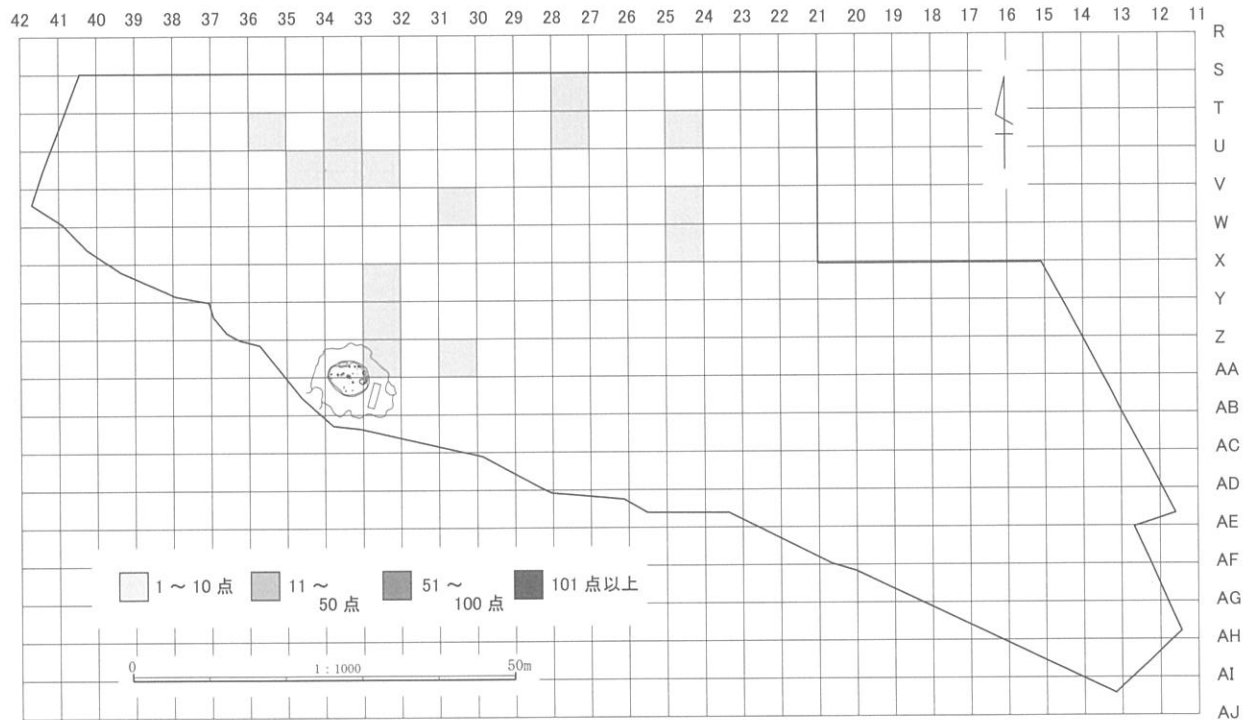


Ⅲ群B2類出土点数分布図

図V-81 縄文土器数量分布図(2)

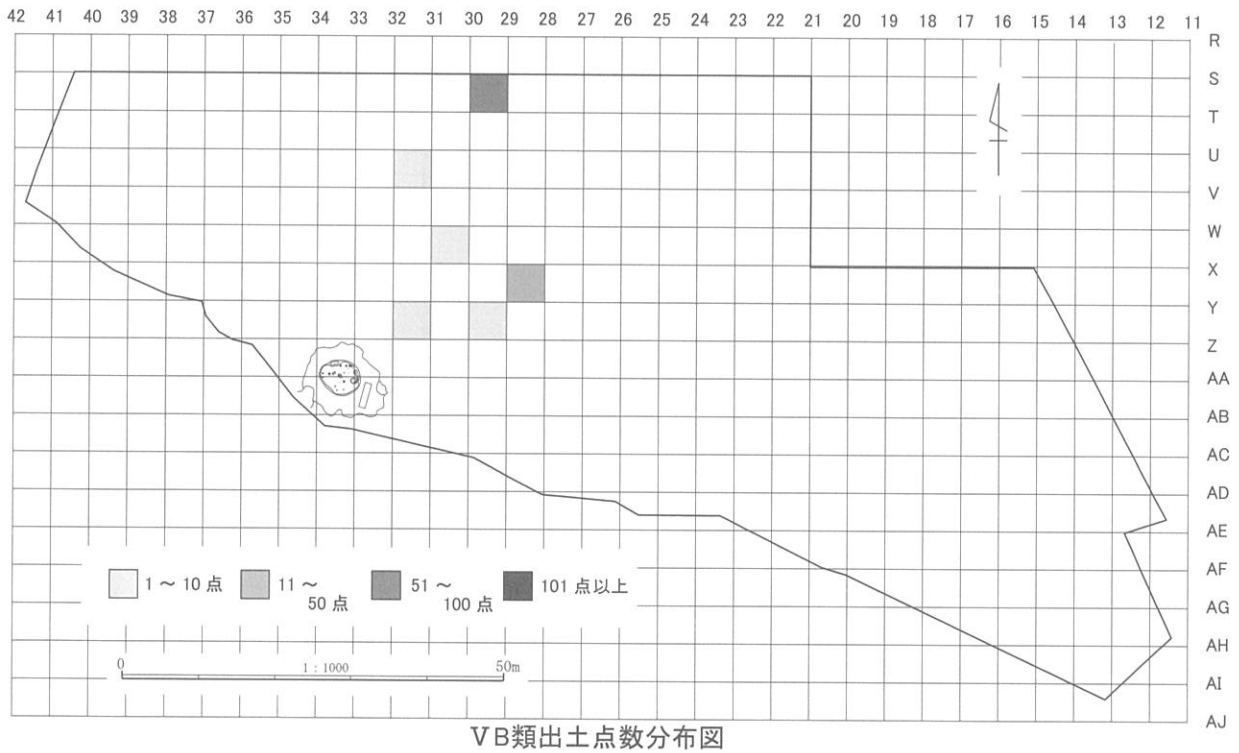
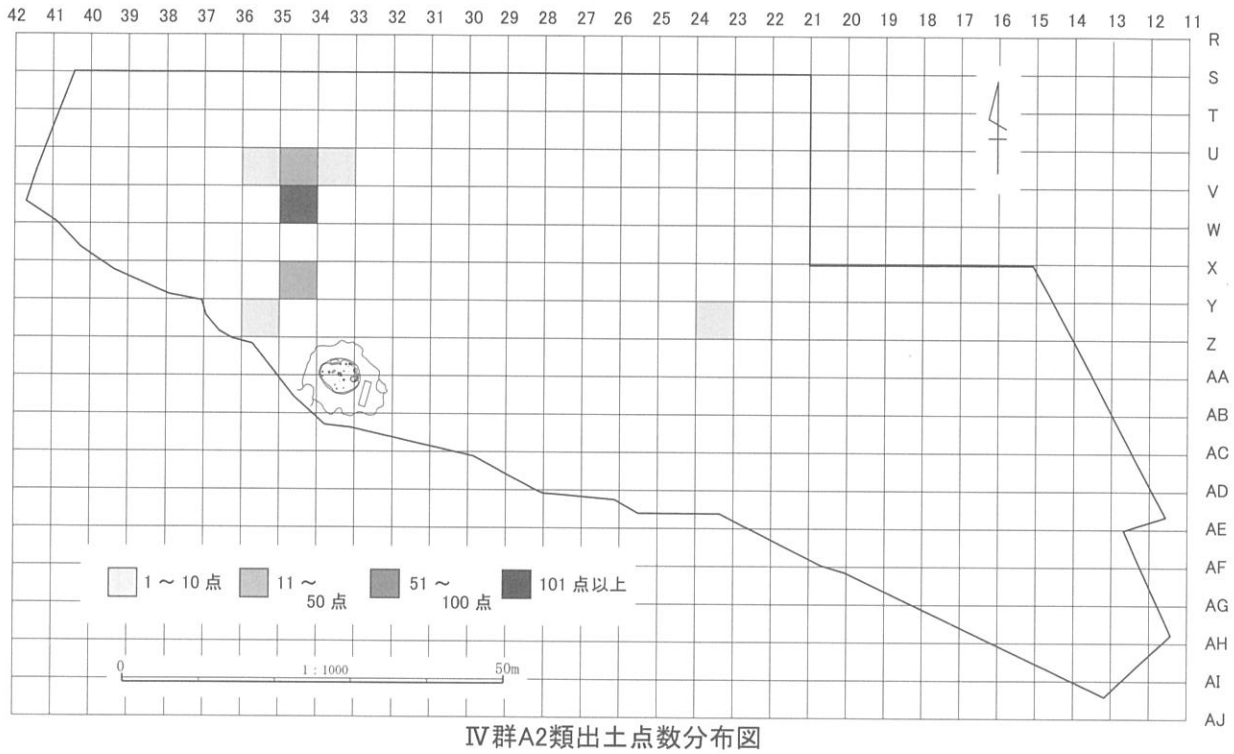


IV群A1類a種出土点数分布図

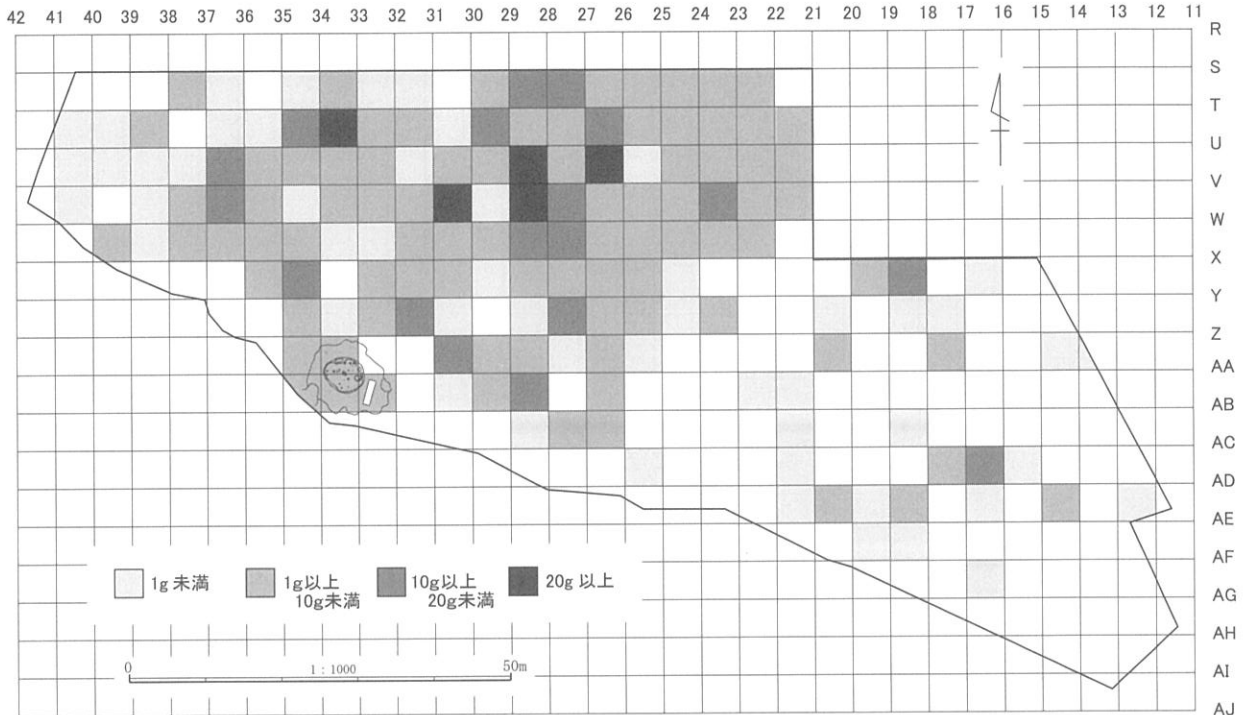


IV群A1類c種出土点数分布図

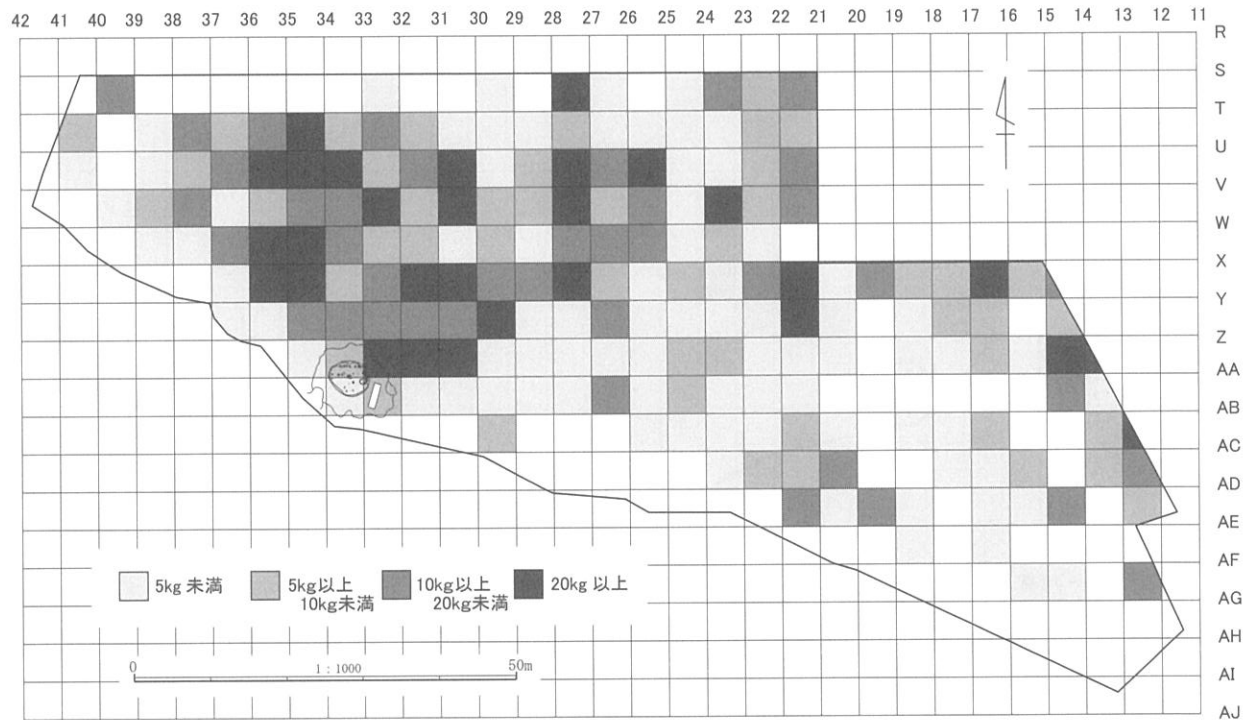
図V-82 縄文土器数量分布図(3)



図V-83 縄文土器数量分布図(4)



フレイク・チップ重量分布図



礫重量分布図

図 V-84 フレイク・チップ、礫重量分布図

第VI章 フローテーション回収遺物

上幌内モイ遺跡の調査では擦文文化期、アイヌ文化期を中心に多数の焼土を検出した。これらは単独で検出されるのではなく、アイヌ文化期の平地式住居址や「集中区」として設定し得る遺構・遺物群として検出され、本遺跡検出遺構の主体を成している。遺跡の性格を理解する上で多くの情報を焼土から得られることが予想されたため、基本的にすべての焼土及びその他必要と思われる遺構から土壌サンプルを採取し、フローテーション法による微細遺物の回収に努めた。本章ではその結果について記載する。

第1節 作業の流れ

サンプルを採取した遺構の大半を占めるⅢ層の焼土を中心に、作業の流れについて記載する。本遺跡の焼土は検出時、焼骨片と斑状の焼土粒の分布として確認できる。本報告ではこの面を燃焼面と呼称している。この燃焼面からさらに掘削すると下位から赤色化した焼土層の上面が確認できる。この面を焼土面と呼称している。焼土面を検出した段階で、赤色化した範囲の外縁に基本土層よりも赤黒く変色した土が帯状に廻っている。この部分を付帯黒色層と呼称している。土壌サンプルは、燃焼面と焼土面との間に堆積した土壌で、付帯黒色層上面までの範囲を対象に採取した。現場での肉眼観察の限りでは、焼土面上位に焼骨片が、付帯黒色層上位に炭化物が多く認められた。回収した土壌は厚手のビニール袋に入れた上で、遺構名、層位等の情報を記載し保管場所へと運ばれる。その後1つ1つの袋に対しサンプル番号を付番し、台帳に登録する。登録が終了したサンプルは、ザルに開けて乾燥させる。大量のサンプルを処理するために、この乾燥作業は発掘現場内に設置したビニールハウスを用いて行った。ビニールハウス内に開けられたサンプルは夏場であれば1日で乾燥するため、効率よく作業を進めることができた。乾燥後、サンプル土量を計量し、水洗を行った。水洗は発掘現場においてフローテーションマシンを用いて行い、メッシュは浮遊資料回収に0.425 mmと2 mmを、沈殿資料回収に1 mmのものを使用した。水洗によって回収した資料もビニールハウスで乾燥させ、回収したメッシュのサイズ毎に収納した。回収した資料からの微細遺物抽出は、主に整理作業期間に行った。

第2節 回収微細遺物

回収した微細遺物は焼骨片、炭化種子が主体である。その他の資料については、表VI-1に回収した重量をまとめた。種類はフレイク・チップ、火打石片と思われるチャート片、骨角器の他、微細鉄片や剥片状鉄滓が得られたサンプルもあった。剥片状鉄滓が得られた遺構の中には周囲で他の鉄器生産関連遺物が出土していない例もあったため、このフローテーション作業によって鉄器生産の存在を把握し得た貴重な情報といえる。特筆すべき資料については個々の遺構の記載中に報告しているのでそちらを参照されたい。これらの微細遺物の内、焼骨片、炭化種子についてはその種類について同定を委託し、第VII章第4節、第5節で詳細な報告が行われている。また回収資料中に炭化材も含まれているが、この炭化材を対象にAMSによる年代測定を委託し、個々の遺構の理化学的年代についても把握することができた(第VII章第1節)。以上のように本遺跡でのフローテーション作業では、通常の人力掘削で得た情報と同等量の貴重な情報を得ることができた。

表VI-1 フローテーション回収微細遺物属性表

関連遺構名	遺構名/ グリッド	FLTNo.	遺物番号	遺物名/重量(g)				漆塗 椀片	ガラス 玉 (点数)	骨角 器 (点数)	材質	備考
				鉄片	剥片状 鉄滓	FC	火打 石					
ⅢH-08	ⅢF-144	3130,3015	98586,98587	0.16							Irn.	
	ⅢF-144	3099,3118	98602~98616,101339		0.2						Sl.	
ⅢH-08周辺 灰集中	ⅢF-147	3075	98589	0.22							Irn.	
	ⅢF-147	3090	96713,96714			0.01					Obs.	
ⅢH-09	ⅢBB-56	4648,4666	99110			0.43					Obs.	
ⅢH-10	ⅢF-161	3242,3127	96716~96719			0.03					Obs.	
集中区20	ⅢF-158	3034	96715			0.01					Obs.	
	ⅢSB-25	3126	95217			0.01					Obs.	
集中区21	ⅢCB-87	3223,3260,3266	95255~95260			0.08					Obs.	
	ⅢF-145	3110	98558	0.03							Irn.	
集中区24	ⅢAS-09	3119	98399,98400			1.72					Qu.	
	ⅢAS-09	3119	98599~98601	0.64							Irn.	
	ⅢCB-81	3080	95254			0.01					Obs.	
集中区25	ⅢSB-36	3153,3149	95218,95219			0.05					Obs.	
	ⅢSB-36	3163	97005			0.05					Cha.	
集中区26	ⅢF-162	3046	97006~97007			0.48					Cha.	
	ⅢF-193	3423	96865			0.04					Obs.	
集中区30	ⅢSB-41	3375	95220			0.03					Obs.	
	ⅢSB-42	3334	95221~95226			0.04					Obs.	
	ⅢF-189	3221,3227,3235,3257他	99453~99456,96836			0.62					Obs.	
集中区31	ⅢF-189	3227,3301,3226,3255	97134~97138,97140			0.67					Cha.	
	ⅢF-189	3226,3227,3273,3206,3255	98621~98633		0.52						Sl.	
	ⅢF-186	3230,3244	96833~96835			0.22					Obs.	
集中区32	ⅢF-190	3228,3351,3338,3373	96859~96862			0.2					Obs.	
集中区33	ⅢCB-88	3398	95261,95262			0.14					Obs.	
	ⅢF-185	3256	98594	0.22							Irn.	
集中区34	ⅢBB-25	3258	96220			0.03					Obs.	
	ⅢF-216	4379,4382,4544,4589	96956~96961,9948			0.2					Obs.	
集中区35	ⅢF-218	4371	96965			0.08					Obs.	
	ⅢF-192	3212,3298	96263~96864			0.02					Obs.	
	ⅢP-41	4587	95270			0.03					Obs.	
	ⅢBB-37	4319	96644			0.01					Obs.	
	ⅢBB-37	4399	なし	0.01							Irn.	
	ⅢBB-41	4636	98893			0.04					Obs.	
	ⅢF-214	4539,4517,4500,4318他	99460~99497			30.62					Obs.	
集中区36	ⅢF-214	4322				0.17					Sch. 6片	
	ⅢF-214	4330	96989~96990			0.02					Sh.	
	ⅢF-214	4539	101073~101074			0.02					Bl-Sch.	
	ⅢP-35	4594	99449,99450			0.22					Obs.	
	ⅢP-36	4557,4658,4583	95269,99445,99446			0.4					Obs.	
集中区37	ⅢF-217	4599,4613,4398,4412他	99499~99503, 96962~96964			1.09					Obs.	
	ⅢF-217	4370,4372	98634~98637		0.05						Sl.	
	ⅢP-34	4540,4600,4606	99443,99444,99447,99448, 101352~101353			0.15					Obs.	
	ⅢP-34	4601	98584,98585	0.07							Irn.	
	ⅢSB-51	4363,4318	95227~95251			1					Obs.	
	ⅢSB-51	4348	101078~101104			3.31					Bl-Sch.	
集中区38	ⅢF-210	4397	99458			0.03					Obs.	
	ⅢF-212	4360	96945			0.04					Obs.	
	ⅢF-227	4529,4653	96980~96982,98394			1.52					Obs.	
	ⅢP-37	4629,4649,4551	99451,99452, 101354,101355			0.13					Obs.	
	ⅢF-209	4640	99457			0.18					Obs.	
集中区39	ⅢF-211	4480	99459			0.06					Obs.	
	ⅢF-220	4481,4423	99504~99507, 96966~96975,101292			0.91					Obs.	
	ⅢF-222	4576	96976~96979			0.04					Obs.	
集中区40	ⅢF-168	3142,3093	98591~98593	0.92							Irn.	
	ⅢF-168	3158	97008~97009			0.26					Cha.	

表VI-1 フローテーション回収微細遺物属性表(続き)

関連遺構名	遺構名/ グリッド	FLTNo.	遺物番号	遺物名/重量(g)				漆塗 椀片	ガラス玉 (点数)	骨角器 (点数)	材質	備考	
				鉄	銅	FC	火打石						
集中区41	ⅢF-183	3307,3314,3321,3315,3184他	96722~96737,96761~ 96832			9.63					Obs.		
	ⅢF-183	3184	98429			0.05					Aga.		
	ⅢF-183	3451,3316,3321,3294他	97010~97015,97079~ 97125,97127~97132				8.56				Cha.		
	ⅢF-183	3184	98617~98620	0.12							Irn.		
擦文焼土	ⅢF-198	3447	96866			0.02					Obs.		
	ⅢF-163	3313	96378~96760			1.9					Obs.		
	ⅢF-187	3290,3341	96857,96858			0.59					Obs.		
	ⅢF-187	3332	94804			0.05					Sh.		
擦文獣骨 集中	ⅢF-199	3367	96983			0.1					Qu.		
	ⅢBB-48	4574	99107,99108			0.03					Obs.		
集中区45	ⅢBB-27	3250,3359~3361他	96221~96287,101338			2.83					Obs.		
	ⅢBB-28	3331~3337,3381他	96308~96315, 96288~96307			0.92					Obs.		
	ⅢBB-29	3369,3418	96316~96323			0.17					Obs.		
	ⅢBB-30	3417	96324~96331			0.45					Obs.		
	ⅢBB-32	3453,3471,3472,3473他	96377~96574			10.89					Obs.		
	ⅢBB-32	3472	96997,96998			0.26					Aga.		
	ⅢBB-32	3472	94859			0.06					Sh.		
	ⅢFCB-06	3353,3357,3374,340他	94925~95161			13.78					Obs.		
	ⅢFCB-06	3433,3435	94806,94807			0.14					Sh.		
	ⅢFCB-06	3403,3457	96999~97004			0.2					Aga.		
集中区46	ⅢFCB-06	3357	101129~101291			9.76					Bl-Sch.		
	ⅢBB-38	4394,4546,4547,4549他	99105,99106,98937~ 99104,96645~96654			6.79 0.08					Obs.		
	ⅢBB-38	4342	94860			0.1					Sh.		
	ⅢBB-43	4645	98899~98920,101337			1.09						Obs.	
		4645,4597	98425			0.02						Aga.	
ⅢBB-44	4665,4537	98921~98936			0.69					Obs.			
集中区47	ⅢFCB-05	3349~3411,3412他	99218~99220, 94861~94924			2.87					Obs.		
	ⅢFCB-07	3415,3416	95162~95192			1.82					Obs.		
集中区48	ⅢF-203	3479,3487,3488他	96867~96900			1.29					Obs.		
	ⅢF-203	3479,3488	101065~101072			0.18					Bl-Sch.		
	ⅢF-204	3480,3496	96901~96944,101345			1.76					Obs.		
	ⅢF-229	4577	99809,99810			0.04					Obs.		
	ⅢBB-24	3419~3421,3427,3439他	96669~96712, 95297~95457, 95458~96046			46.84						Obs.	
		3215,3239,3432,3466	96991~96996,98418			0.16						Aga.	
	ⅢBB-24	3225,3215,3239,3280他	96984~96988,94809~ 94815,94817~94858			2.23					Sh.		
	ⅢBB-24	3458~3462,不明	101107~101123			0.73					Bl.		
	ⅢBB-24	3390	98675						1		B.		
	ⅢBB-31	3428,3441,3442,4332,4390	96332~96376,98676			2.74					Obs.		
	ⅢFCB-08	3494	95193			0.04					Obs.		
	ⅢFCB-08	3494	94808			0.16					Sh.		
	ⅢFCB-17	4611,4520	99874~99878			0.21					Obs.		
ⅢFCB-18	4621	99879~99943,101351			3.5					Obs.			
集中区49	ⅢF-230	4651	99813~99817			0.22					Obs.		
	ⅢF-230	4651	98430,98431			0.08					Aga.		
	ⅢBB-42	4548,4616,4612	98894~98898			0.41					Obs.		
	ⅢSB-48	4574	101077			0.03					Bl-Sch.		
	ⅢFCB-10	4635	99111~99141, 100967~100003			26.46					Obs.		
	ⅢFCB-10	4615,4635,4647,4650	98433,98434,98426,98427			0.38					Aga.		
ⅢFCB-10	4615,4635	98345~98349			0.17					Sh.			

表VI-1 フローテーション回収微細遺物属性表(続き)

関連遺構名	遺構名/ グリッド	FLTNo.	遺物番号	遺物名/重量(g)				漆塗 椀片	ガラス 玉 (点数)	骨角 器 (点数)	材質	備考
				鉄	銅	FC	火打 石					
集中区50	ⅢF-225	4513	99806			0.06					Obs.	
	ⅢF-226	4507	99807,99808			0.16					Obs.	
	ⅢF-226	4507	101005			0.04					Sh.	
	ⅢFCB-15	4494	99844~99868, 101297~101330			2.17					Obs.	
	ⅢFCB-15	不明	101013~101063			1.81					Bi-Sch.	
	ⅢFCB-16	4572,4652	99869~99873			0.36					Obs.	
	ⅢBB-36	4389,4502,4664,4545	98880~98886			0.63					Obs.	
	ⅢBB-36	4545	98402			2.42					Qu.	
ⅢCB-91	4561	99442			0.04					Obs.		
集中区51	ⅢF-221	4610,4484,4510他	99508~99624, 101346			7.4					Obs.	
	ⅢF-221	4610	101075			0.01					Bi-Sch.	
	ⅢF-223	4509,4498,4474,4495他	99625~99805, 101347,101348, 101293~101295, 101372,101373			10.3					Obs.	
	ⅢF-223	4509,4503,4498	98367~98379			0.61					Sh.	
	ⅢF-223	4623,4474	101076~101064			0.07					Bi-Sch.	
	ⅢFCB-09	4660, 4477	99821~99829, 101296,99168~99441			18.29					Obs.	
	ⅢFCB-09	4477	98341~98344			0.07					Sh.	
	ⅢFCB-09	4477	98432,98428			0.02					Aga.	
	ⅢFCB-11	4488,4482,4516,4478他	100079~100096			55.2					Obs.	
	ⅢFCB-12	5014	99830~99841			1.04					Obs.	
	ⅢFCB-12	4501	98350~98366			0.85					Sh.	
	ⅢBB-33	4364,4367,4377,4384,4385他	96575~96642, 98380, 98676~98873, 101004,96575~96642			31.08					Obs.	
	ⅢBB-33	4384	98419			0.01					Aga.	
	ⅢBB-33	4489,4384,4390,4486	98335~98340			0.37					Sh.	
	ⅢBB-33	4385	101126~101128			0.04					Bi-Sch.	
	ⅢBB-39	4361,4378	96655,96656			0.01					Obs.	
	ⅢBB-39	4361	101124~101125			0.08					Bl.	
	ⅢBB-39	4361	98401			3.76					Qu.	
ⅢCB-90	4393	95263~95268			0.05					Obs.		
ⅢBB-35	4366	96643			0.2					Obs.		
集中区52	ⅢSB-56	4365	95252~95253			0.18				Obs.		
集中区53	ⅢF-178	3205	94805			0.02					Sh.	
	ⅢBB-22	3179	95271~95273			0.29					Obs.	
集中区54	ⅢFCB-13	4408,4422	99842~99843, 95194~95214, 101350,101333			0.7					Obs.	
続縄焼土 グリッド	ⅢF-177	3144	96720~96721			0.15					Obs.	
	T-21	3137	98669			0.01					Obs.	

引用・参考文献

- 赤石 慎三 1999 「苫小牧地方の円筒上層式について」『苫小牧市埋蔵文化財センター所報』1 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 赤石 慎三 2002 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅷ 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 赤石慎三・工藤肇他 1992 『静川 37 遺跡』 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 厚真村 1956 『厚真村史』厚真町
- 厚真村郷土研究会 1956 『厚真村古代史』厚真村郷土研究会
- 厚真町 1986 『厚真町史』厚真町
- 石附喜三男・加藤邦雄他 1973 『伊茶仁遺跡-B 地点発掘報告書-』標津町教育委員会
- 出穂雅美 2006 「第Ⅲ章第2節 ジオアーケオロジー」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会
- 乾 哲也 2008 『鯉沼 3 遺跡(3)』厚真町教育委員会
- 乾 哲也・小野哲也 2004 『厚幌 1 遺跡』厚真町教育委員会
- 乾 哲也・小野哲也・奈良智法 2006 『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会
- 乾 哲也・小野哲也・奈良智法 2007 『上幌内モイ遺跡(2)』厚真町教育委員会
- 遠藤昭浩・田村俊之 1995 『ウサクマイ N・蘭越 7 遺跡における考古学的調査』千歳市教育委員会
- 大泉博嗣 1987 「第2章 第2節 遺構の分類 落し穴」『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅱ 苫小牧埋蔵文化財調査センター
- 大泉博嗣他 1998 「ニナルカの調査」『柏原 27 遺跡・ニナルカ・静川 5・6 遺跡』苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 大鳥居 仁 2007 『史跡ユクエピラチャシ跡』陸別町教育委員会
- 扇谷昌康 2003 「穂別のアイヌ語地名」『穂別アイヌ民族文化史』2 穂別町アイヌ民族文化保存会
- 小崎 尚・小野有五他 2003 『日本の地形 2 北海道』東京大学出版会
- 鎌田 望・新家水奈 2006 『占冠原野 1 遺跡』北埋調報 239 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 鎌田 望・中山文雄他 2003 『厚真町浜厚真 3 遺跡』北埋調報 186 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 亀井喜久太郎 1956 「厚真出土の土偶」『先史時代』3 先史学同好会
- 北構 保男 1992 「標津町三本木オホーツク遺跡試掘調査概報」
『標津町ポー川史跡自然公園紀要 しべつ自然 歴史 文化』第1号 標津町ポー川史跡自然公園
- 越田賢一郎・葛西友義他 1989 『深川市 納内 6 丁目付近遺跡Ⅱ』北埋調報 63 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 西連寺 健・田村俊之 1979 『ウサクマイ遺跡群における考古学的調査』千歳市教育委員会
- 佐藤一夫・宮夫靖夫他 1986 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅰ 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 佐藤一夫・宮夫靖夫他 1987 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅱ 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 佐藤一夫・宮夫靖夫他 1990 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅲ 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 佐藤一夫・宮夫靖夫他 1992 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅳ 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 佐藤一夫・赤石慎三他 1995 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』Ⅴ 苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 佐原 真・梶田光明 1978 『標津の堅穴』標津町教育委員会
- 早田 勉 2006 「上幌内モイ遺跡後期更新統の層序とテフラ」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会
- 田才雅彦・長橋政徳 2002 『豊川 1 遺跡』厚真町教育委員会
- 田近 淳・大津 直・八幡正弘 2004 「厚幌 1 遺跡の地すべり堆積物」『厚幌 1 遺跡』厚真町教育委員会
- 田村俊之・乾 哲也 2002 『梅川 4 遺跡における考古学的調査』千歳市教育委員会
- 鶴丸 俊明 1989 『イルエカシ遺跡』平取町遺跡調査会
- 豊田宏良・松田敦子 2002 『ユカンボシ C2 遺跡・オサツ 2 遺跡における考古学的調査』千歳市教育委員会

- 中村友文・櫻井有一他 2000 『野木遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書 281 青森県埋蔵文化財センター
- 奈良智法・乾哲也・熊谷誠 2008 『ニタツプナイ遺跡(1)』厚真町教育委員会
- 西田茂・立川トマス他 1994 『豊浦町 高岡 1 遺跡』北埋調報 88 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 西脇対名夫・長橋政徳 2002 『鯉沼 2 遺跡』厚真町教育委員会
- 野澤 謙庵 1692 「蝦夷記」『續々群書類従』第九 國書図書刊行会
- 藤原秀樹・奈良智法 2005 『鯉沼 3 遺跡』厚真町教育委員会
- 藤原秀樹・乾 哲也 2006 『鯉沼 3 遺跡(2)』厚真町教育委員会
- 益富 壽之助 1987 『原色岩石図鑑』(全改訂新版) 保育社
- 松浦武四郎(吉田常吉編) 1962 『蝦夷日誌 上 東蝦夷日誌』時事通信社
- 松浦武四郎(高倉信一郎校訂) 1985 『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中 北海道出版企画センター
- 松田浩介 2007 「粗製石鏃小考-続縄文期における石器の仮器化-」『北海道考古学』43 北海道考古学会
- 松野久也・石田正夫 1960 『1:50,000 地質図幅説明書 早来』北海道開発庁
- 三浦正人 2001 「北海道で出土する「コイル状鉄製品」について」『日本考古学の基礎研究』
茨城大学考古学研究室 20 周年記念論文集
- 三浦正人・田中哲郎他 1986 『ユオイチャシ跡・ポロモイチャシ跡・二風谷遺跡』北埋調報 26 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 三浦正人・阿部明義他 2005 『オルイカ 2 遺跡(2)』北埋調報 221 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 養島栄紀 2005 「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高 I)』苫小牧駒澤大学環太平洋・アイヌ文化研究所
- 森岡健治 1996 『亜別遺跡』平取町教育委員会

報告書抄録

ふりがな	かみほろないもいせいせき さん だいいちぶんさつ
書名	上幌内モイ遺跡(3)〔第1分冊〕
副書名	厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査報告書
巻次	3
シリーズ名	厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ番号	3
編著者名	小野哲也・天方博章・乾 哲也
編集機関	厚真町教育委員会
所在地	〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町165番地の1
発行機関	厚真町教育委員会
発行年月日	2009年2月28日
ふりがな	かみほろないもいせいせき
収録遺跡	上幌内モイ遺跡
所在地	北海道勇払郡厚真町字幌内395-1
市町村コード	01581
遺跡番号	J-13-79
北緯	42° 46' 15"
東経	141° 59' 56"
調査期間	2006年度:5月9日～11月10日 2007年度:5月8日～10月31日
調査面積	2006年度:8,000㎡ 2007年度:5,565㎡
調査原因	厚幌ダム建設
種別	集落跡・墳墓
主な時代	縄文時代・続縄文時代・擦文文化期・アイヌ文化期
主な遺構	縄文時代: 竪穴住居跡・Tピット 続縄文時代: 焼土・フレイクチップ集中・片岩製石器製作址 擦文文化期: 墓壇・焼土・鉄器生産関連遺構 アイヌ文化期: 平地式住居址・灰送り場・シカ送り場・墓壇
主な遺物	縄文時代: 余市式土器 続縄文時代: 後北B～C1式土器、片岩製フレイク・チップ 擦文文化期: 擦文土器(中～後期)、鉄器生産関連遺物、刀子・コイル状製品等鉄製品多数 アイヌ文化期: 鉄斧・鎌等の鉄製品多数、北宋銭、骨鏃
要 約	
<p>上幌内モイ遺跡の平成18・19年度調査分の報告書である。特記事項として、縄文時代では余市式土器複数個体がまとまって出土した土器集中の他、段丘崖裾に密集して並ぶTピット群を確認した。続縄文時代では後北B～C1式を中心とする土器が出土した他、片岩製石鏃の製作址と思われる線状の敲打痕が残るたたき石、台石を伴うフレイク・チップ集中が出土している。擦文文化期では人骨と多くの副葬品を伴う土壇墓や、コイル状鉄製品、及び鉄器生産に関連する羽口、鉄滓等の遺物を多数検出している。アイヌ文化期では中世～近世段階にかけての平地式住居址3軒のほか、狩猟先での送り場と考えられるシカ送り遺構を検出した。全時期を通じ、遺跡近郊では入手できない遺物が多数含まれ、特に擦文文化期では道東の様相を示す遺物、本州系遺物も出土している。山奥のキャンプサイトの性格ではなく、山越えルートによる交通の拠点として形成された遺跡である可能性が高い。</p>	

厚真町 上幌内モイ遺跡（3）

—厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 3—

〔第1分冊〕

発行日 平成21年2月28日

編集・発行 厚真町教育委員会

〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町165番地の1

電話 (0145)－27－2321(代)

印刷 ひまわり印刷株式会社

北海道苫小牧市永福町2丁目1－2